

三 酒税の執行

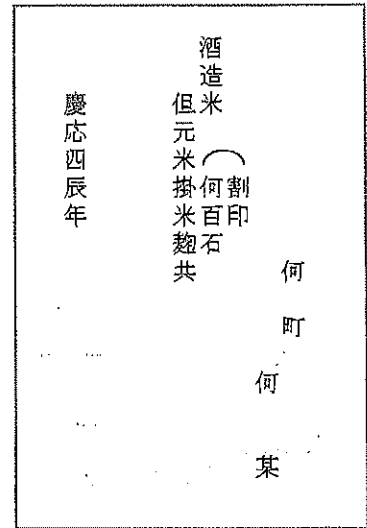
57 慶応4年5月 醸酒免許鑑札の改正

第四百二十一 五月二十七日〔会計官〕〔慶応四年〕

定

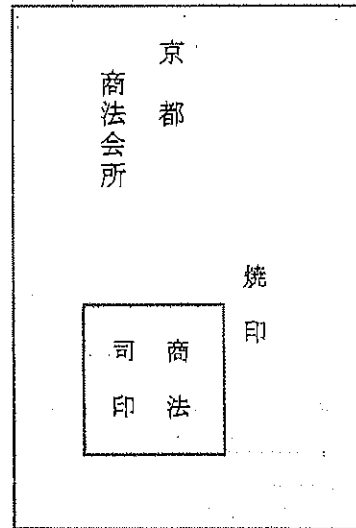
- 一 酒造之儀ハ古来ヨリ定法モ有之処、今般御一新ニ付鑑札御改被 仰出候間、早々差出可申事
- 一 規定之外増造之儀ハ堅被禁候条、於其ノ筋可遂吟味事
- 一 但シ増造之儀其ノ筋ヲ以願出候得ハ御札之上、其ノ品ニヨリ可及沙汰事
- 一 凶年ニハ分割ヲ以テ減造可致事
- 一 造酒百石ニ付金二十両宛上納被 仰付候事
- 一 前年心得違ニテ規定之外増造致シ鑑札取揚ニ相成候者共、悔悟之上願出候ハノ百石ニ付金五十両上納被差免候事

表



豎曲尺五寸、横三寸五分
厚サ仕上五分

裏



右雛形ニ準シ夫々其ノ支配所ニテ割印燒印共取極々鑑札相渡、百石ニ付金二十兩宛取立之上、上納可有之事
但シ其ノ支配所ニテ酒造米高井ニ名前書共委細帳面ニ認、鑑札料相添上納之事
右之通被 仰出候間心得違無之様厳重可相守事

〔法令全書〕

58 慶応4年7月 酒造係より酒運上につき会計局へ伺

酒造係ヨリ会計局へ伺 〔明治〕元年七月日關

関東八箇国酒造・醤油造・濁酒造、其ノ外農商諸株都テ諸運上ノ儀ハ御取箇小物成ノ内ニテ、往古ヨリ少々宛ノ運上
冥加永年季亦ハ無年季無冥加等ニテ、敢テ其ノ高下ニモ不拘不相当ニモ相聞、御取締モ不宜、諸国御料所一般取調可
相伺処、御談ノ品モ有之且其ノ品多端、殊ニ米々人心モ握合如何ト可存折柄ニ付、末々農商ノ惑ヒモ無之時節ニ及ヒ、
其ノ模様ニ寄前書ノ件々小口ヨリ追々取調可相伺候へ共、右ノ内酒造渡世人ノ儀ハ去ル天保十三寅年諸国一般改革ノ
砌、一人別鑑札相渡置候モノ共ノ内、別テ関内ノ儀ハ一昨年以來熾意ノ所置ニテ恐怖休造ノモノ多ク、其ノ上朝政御
一新ノ際鑑札等ノ御指揮如何ト自然造方相惑ヒ、渡世向相統方ニモ拘リ可申哉、加之霖雨・冷氣・水損等ニテ違作ノ
程モ難計、旁夫食ニ拘リ候酒造・濁酒造・醤油造共関東八箇国ノ分、此ノ度御取調ノ禮

一 酒造ノ儀去ル寅年旧幕府ヨリ相渡候鑑札ノ儀ハ不殘御廢止ニ付御取上ケ相成、右古株・貸株・新規願ノ分トモ銘々
分置造桶数并ニ石入目寸法、造蔵梁間・桁行・坪数共、案書雛形ヲ以有体為書出候積

但シ此ノ度一時冥加金ノ儀ハ無冥加ニテ、鑑札御渡方有之候ハ、一際難有可奉存候へ共、御入用筋モ相掛、且

旧幕府取調ノ節造高百石三付金十五兩ヨリ四十五兩迄ノ村々申立ニ有之、年々可相納真加金ノ儀モ同断ニ付、被仰付次第亦ハ三十兩宛トノ申立ニ候ヘ共、此ノ度ノ儀ハ御手始ノ際格別ノ御宥免ヲ以、古株ノ分一時ノ方造高百石ニ付金八兩、貸株新規共断ニ付金十兩ツ、年々真加ノ儀ハ其ノ年々造高二成シ、古新ノ無差別高百石ニ付金三兩宛ノ積

一 濁酒造ノ儀ハ古ヨリ堅ク差止有之候ヘ共、近年於在々造候モノ多ク、自然凶歲減造御救目当且本酒御定則ニモ拘リ、其ノ上村々一般ノ儀難制止、因テ此ノ度御差許鑑札御渡ノ積

但シ一時并二年々真加金共都テ酒造新規願ノモノヘ引付為相納候積

一 醬油造ノ儀ハ是迄往古ヨリ鑑札相渡候儀一切無之、少々宛真加永納、年季無年季亦ハ願意モ不仕醬油造罷在候モノモ有之、御取縮不宜候間、酒造同様造蔵坪數、造桶數、石入目寸法等、雖形ヲ以有体為差出取調候積

但シ真加金ノ儀仕込月數モ相掛候モノニ付、酒造ヨリ一等引下ケ、是迄願濟真加永差出候分ハ造高百石ニ付一時真加金五兩ツ、願立無之分并ニ新規ノ分共同断ニ付金八兩ツ、年々真加ノ儀ハ其ノ年仕込高二成シ高百石ニ付都テ金三兩宛ノ積

右三品共以來民政御役所酒造定掛ニ被仰付、關八州組合村内組合規則相立、右總代共人物相擬取締申付、右三種渡世人ノ内ニモ年番相立、此ノモノ共ヨリ事實為取調、真加金直同御役所ヘ上納為仕候積

一 一万石以上領分ノ者トモ、真加金ノ儀ハ假令固持ニテモ不殘當御役所ヘ為相納、其ノ領主々々年々取業候分、民政御役所ニオイテ御渡方有之候積

一 右手続ノ儀ハ右造家渡世人ハ勿論、一組合内右大總代二人ツ、為差添出府申付、民政御役所ニ於テ取調候積

右ノ趣可然思召候ハ、巨細御書付ヲ以、御料ハ御代官、私領ハ領主々々家来トモ民政御役所ヘ呼出被仰渡可然奉存候

弥村々呼出掛ニテ取調ノ上鑑札仕立方、焼印文字、其ノ外鑑札渡方、真加上納方等ノ取計手続ノ儀ハ其ノ節取調相同候様可仕候、依之御触案相添此ノ段相同申候

〔法規分類大全〕租稅門(雜稅一)

59 慶応4年8月 酒造醬油造一時真加金を減する件

第六百四十五 八月二十日(會計官) [慶応四年]

此ノ度 朝政御一新ニ付テハ酒造等之儀高百石ニ付金二十兩ツトノ於京都被 仰出ニ付、關東筋國々之儀モ同様触示候處、当年柄水災凶作之聞モ有之、或ハ軍事等之課役疲勞モ不少、出格之御仁恤ヲ以一時真加金酒造之分高百石ニ付金十兩、濁酒之分同断十二兩、醬油造之分ハ同断七兩ツ、ニ減少被 仰付候條、其ノ旨一同難有可心得候、尤年々真加金之分ハ追テ可及沙汰候、右之趣格別思召ヲ以被 仰出候條、組々總代共急便ヲ以其ノ組合願人共一同ヘ不洩様可申達候

〔法令全書〕

60 明治元年10月 麦酒營業願

覚

一百石 麦酒造高

此御運上金

十五兩

右私儀麦酒製造仕宛捌申度奉存候間、御聞届被成下候様奉願上候、尤御聞届之上は御運上金并三千歩二御役錢上納可仕、尚更御縮方之儀被仰渡之通急度相守可申候間、何卒願之通御聞届被成下候様奉願上候、此ノ段宜敷被仰上可被下候、以上

明治元年十月

礪波郡庄下組新明村百姓

九郎右衛門 印

權正寺村

喜左衛門殿

右私共在所九郎右衛門儀、麦酒造稼願書付上申通相違無御座、尤村方指構之筋無之都合宜敷儀ニ御座候間、格別之趣を以願之通御聞届被下候様奉願上候、依而與書仕上之申候、以上

新明村肝煎

庄兵衛 印

組合頭

喜三郎 印

同

七郎左衛門 印

同

竹五郎 印

右書付指出申二付尚更詮議仕候処、書付之通相違無御座候間、願之通御聞届被下候様仕度、與書仕御違申上候、以上

權正寺村

喜左衛門 印 花押

御郡所

(昭45 金沢 16-1)

61 明治元年10月 麦酒製造營業願

覚

一二百石 麦酒造高

此御運上金

三十兩

右私醸麥酒製造仕禿捌申度奉存候間、御開届被成下候様奉願上候、尤御開届之上ハ御運上金并二百歩^二御役錢上納可仕、尚更御縮方之儀被仰渡之通急度相守可申候間、何卒願之通御開届被成下候様奉願上候、此ノ段宜敷被仰上可被下候、以上

明治元年十月

礪波郡庄下組開発村

宇七郎 ㊦

権正寺村

喜左衛門殿

右私共在所宇七郎義麥酒造稼願書付上申通相違無御座、尤村方指櫛之筋無之都合宜敷義ニ御届候間、格別之趣を以願之通御開届被下候様奉願上候、依而與書仕上之申候、以上

開発村肝煎

清一郎 ㊦

組合頭

要蔵 ㊦

同

三右衛門 ㊦

同

豊左衛門 ㊦

右書付指出申ニ付尚更詮議仕候處、書付之通相違無御座ニ付、願之通御開届被下候様仕度、與書仕御達申上候、以上

権正寺村

喜左衛門 圓 花押

(昭45 金沢 16-2)

御郡所

62 明治元年11月 酒造並に濁酒醬油造本鑑札を下付し冥加金を上納させる件

第 千

十一月二十七日(會計官)

(明治元年)

關東諸県

酒造並に濁酒醬油造共仮鑑札相渡置候分本鑑札相渡候間、右三造人組合大総代外西三人一同ノ印形持參、會計官へ罷出候様可被申渡候、尤年々冥加金ノ儀酒造濁酒造ハ百石ニ付五兩宛、醬油造ハ同斷金三兩宛、当辰年分此ノ節上納申付候ニ付右金子持參、武藏國ハ十二月二日ヨリ出府可致、其ノ外國々ハ迄テ出府日限可相違旨可被申渡候、但シ酒造ハ三步一造ニ付冥加金ノ儀右割合ノ事

右ノ通御料並ニ万石以上以下共向寄々各方ヨリ急速通達可有之候

外國々モ同文、日割ノミ殊異ニ付略ス

(法令全書)

63 明治元年12月 酒造濁酒造醬油造真加金を會計官に納致させる件

第一千二十三 十二月三日(會計官) (明治二年)

酒造・濁酒造・醬油造共願ノ通夫々御差免相成候ニ付テハ、酒造濁酒造ハ当辰年ヨリ年々真加百石ニ付金五兩ツ、醬油造ハ同断ニ付金三兩ツ、上納ノ積、來巳年ヨリ年々十月限り大総代ヨリ取纏メ、当官へ上納可致者也
但シ酒造ハ三分一造被仰出候ニ付、右ノ歩合ヲ以真加金上納可致事

〔法令全書〕

64 明治2年7月 關東並に伊豆國に清酒・濁酒・醬油釀造免許鑑札を交付する件

第六百九十三 七月(大蔵省) (明治二年)

今般關八州並ニ伊豆國御料・私領・社寺領共、酒造・濁酒造・醬油造免許鑑札相渡候間、最寄知事ニテ進退ノ管ニ付取締差図可請事

但シ種尺員數相改其ノ所役人並ニ村役人組合大小總代立合、焼印摺可申事

一年々真加金取集上納並ニ造方ノ儀ニ付都テ願筋等為相任候、總代大總代ハ是迄ノ通、寄場村々組合親村ニテ触元相心得、右寄場村々内ニテ酒造濁酒兩造ニテ一ト組合、醬油造一ト組合ト相定、造人共ニテ人撰イタシ、組合限リ一同ノ連印ヲ以總代名前取極可申出候事

但シ大小組ニ寄、人別ニ志シ、總代人數取調可申立、代リ合候節モ前同様其ノ組合限リ造人連印ニテ名前申立、

藩県添翰ヲ以可差出候、尤大小總代共權威ケ間敷儀、且願筋等ニテ出府其ノ外組合ヨリ過分失脚料為出候儀於相聞ハ、急度答可申付事

一 過造、隱造、清酒ニ紛數濁酒造致候モノ組合村々限り遂穿鑿、疑數モノ於有之ハ早々最寄知事ニ可申出候、若シ隱シ置他ノ組合ヨリ名差於相頭ハ当人ハ勿論、其ノ組合一同ノ落度ニ候間、村役人ニ至迄嚴重ノ答可申付事
右三ヶ条ノ趣並ニ御一新ニテ被 仰出候御触ノ趣堅可相守モノ也
右ノ趣並ニ鑑札株高、樋造蔵間敷、三造亮前直段共、家内見安キ所工張出紙致置可申事

〔法令全書〕

65 明治2年12月 清酒・濁酒・醬油造者に鑑札を交付し税金を徴収する件

第一千百十六 十二月三日(民政部) (明治二年)

府藩県

御国内酒造並ニ濁酒造醬油造共株鑑札渡方並ニ真加上納等東京西京区々ノ規則ニ有之而巳ナラス、藩々ニ依リ候テハ無鑑札ニテ自造イタシ候向モ有之哉ニ相聞、御体裁ニモ拘リ候儀ニ付、今般御国内一途ノ法則左ノ通御確定相成候ニ付、自今無鑑札ニテ製造一切停止被 仰付候間、府藩県ニ於テ其ノ管轄所造高並ニ造人名前共早々取調、通商司へ來午六月限り可申立、尚又真加上納ノ義ハ例年十一月限り同司へ相納可申事

但シ別紙固割ノ通可相心得事

一 酒造株鑑札真加高百石ニ付金十兩ツ、上納ノ事

一 同断年々真加高百石ニ付金十兩ツ、上納ノ事

- 一 濁酒造株鑑札冥加高百石ニ付金十兩ツ、上納ノ事
- 一 同断年々冥加高百石ニ付金七兩ツ、上納ノ事
- 一 醬油造株鑑札冥加高百石ニ付金五兩ツ、上納ノ事
- 一 同断年々冥加高百石ニ付金三兩ツ、上納ノ事

右之趣小前末々迄無遺漏可触示候事

- 畿内
- 山城 大和 河内 和泉 摂津
 - 南海道 紀伊 淡路 阿波 讃岐 伊予 土佐
 - 山陰道 丹波 丹後 但馬 因幡 伯耆 出雲 石見 隠岐
 - 山陽道 播磨 美作 備前 備中 備後 安芸 周防 長門
 - 西海道 筑前 筑後 豊前 豊後 肥前 肥後 日向 大隅 薩摩 杵岐 対馬
- 右三十八ヶ国ハ大阪出張通商司へ可申立事
- 東海道
- 伊賀 伊勢 志摩 尾張 三河 遠江 駿河 甲斐 伊豆 相模 武蔵 安房 上総

- 下総 常陸
 - 東山道 近江 美濃 飛騨 信濃 上野 下野 磐城 岩代 陸前 陸中 陸奥 羽前 羽後
 - 北陸道 若狭 越前 加賀 能登 越中 越後 佐渡
- 右三十五ヶ国ハ東京通商司へ可申立事

〔法令全書〕

66 明治3年11月 酒造鑑札改め

定

- 一 酒造之儀従古來定法も有之候間、今般御一新ニ付鑑札御改被 仰付候条嚴重取締可致事
- 一 免許高之外醸成之儀堅く被禁候条、万一心得違之もの有之、過造致し候節は嚴重之所置可致候間、組村肝煎役共ニおゐて可遂吟味事
- 一 凶年ニは分割減造可申付事
- 一 但シ廻村之上減石高ニ応し入用器械等除ク之外可致封印事
- 一 廻村之上酒造高ニ応し六尺桶何本、五尺桶何本、其ノ外器械何程と相定、改濟之上県庁焼印可致事
- 一 株譲渡之儀譲人譲請人は勿論、双方村役人共連印之願書其ノ組肝煎役江差出、同人共事実取札し之上奥書いたし

可願出事

但シ開済之上貸渡人より鑑札県庁江取揚、改而年限中借受人江下ケ渡置可申事

一 新酒出来之上其ノ組肝煎役江売出度旨申出、同人ともより書面ヲ以可届出事

右之条々堅く可相守もの也

明治三庚午年十月

(昭44 仙台 7)

67 明治4年10月 酒造鑑札の検査

過日以御規則相違候所、時日相迫り候間、清濁酒并醬油造高鑑札相渡候ニ付てハ、戸長ニ而各区取揃過造等無之様検査之上致與印、早々指出可申候、此段申違候也

但シ是迄当人ヨリ指出置候分も猶又取調、一同ニ取揃指出可申也

辛未十月五日

山形県庁

第十六区 ㊦

第十七区 ㊧

第十八区

右戸長心得

68 明治4年11月 当未酒醬油造高税金上納の件

当未酒醬油造高税金上納ニ付廻状

当未年清濁醬油造高免許鑑札相渡候条、去年年中直段平均を以当未酒醬油造高税金上納為致、右税金ニ引替鑑札下渡し候間、於其ノ区内酒醬油造人共申合行司相立、去年年正月ヨリ十二月迄直段平均、生酒生醬油一石ニ当り代金取調、当未造高ニ応じ銘々税金上納、鑑札相請取可申もの也

右ニ付来ル二十九日酒醬油造人共一同印形持參罷出受取可申事

但シ十七区十八区行司は別組ニ而相立、酒造醬油造共代金も別々に取調可申事

辛未十月二十九日

山形県庁

第十八区

戸長 副戸長 心得

右之通被仰出候間、去年正月ヨリ十二月迄月々酒直段取調、早々御差出被成候

一行司之儀は賈見村副長ヨリも談示有之、十八区更二十九区酒造行司方笹嶋忠左衛門相定候間、右之段申進候也

未十一月十五日

(昭55 仙台 1848)

副戸長心得

副戸長心得

松田助太郎兼

入間昇

沼山村

吉川村

右村々

役人中

酒造人中

(昭55 仙台 738—1)

69 明治4年11月 酒造減租願

乍恐書付を以奉願上候

当国酒造屋共御嘆奉申上候、今般清酒醸造御差免御布告に御座候、然処右様相成候而は私共義難波之義に相成申候に付、乍恐左に御嘆奉申上候

一 当国之義孤島之小国に而、前々ヨリ酒造株百五十軒余有之、手廻り兼候節ハ贖替へいたし、銘々渡世相當罷在候得共、外国々大前之酒造家とは違ひ、元来身元小柄のもの共一ヶ年造高至而小分、三十石、五十石、又は百石以上造入候ものは纒に而、他国へ聞へ候而も恥入候位之義、其ノ外越後酒等年中不絶到来、猶又上方筋諸国之酒等

入津の船共積来り売込罷在候故、右様進入候当国之酒其ノ時々売捌不抄取年越に相成、米并金錢高利に借受、元仕入致候而、自然と利合に迷ひ仕當に相成兼候もの共も多く、然処自今酒造家新規之者共出来候而は、是迄大體少分の進入売捌不抄取義、他国売捌に而も不致候、半^{ウツ}而は当国中にては売捌方に差支、樂々商売には相成不申、且又他国売捌と申候義も、元来外国々の酒を大國長流之河水、又ハ国々高山ヨリ之水如何にも水性宜敷義故、醸し候に、別段之義も無御座候得共、自然と酒の勢分強く、外々へ運送致候得は猶又味ひ宜敷相成、当国之義は長流等も無御座、纒之河水井水等にて造入いたし候義にて、元々水勢弱之酒に致候ても勢分薄く、長途の運送に相掛候而は無心元義にて、多分造入候而も実^{ウツ}は売捌に差困り候義に相成可申、自国のみにて互市に致候而は、彼是自然の損分銘々難立行、難波に奉存候

一 是迄之酒造屋共、年中国中江酒売出候而も、当国ハ元来金錢不廻之場所にて、其ノ度々現金売等も少く、多分掛ケ下りにいたし、年末に至り勘定有之候処、是又掛下多く、翌年に相廻り候分も不少、年々次第に掛方のみ相當、貸方多々相成、元仕入いたし候利合に引足り不申様罷成、自然と手元不融通困窮罷成、終には株等も外々へ相讓候様成行候処、当時商売致来候もの共迎も素々株代金高価之義故、右之内には持伝へ、田畑等も質入酒造株にいたし相當罷在候処、当時外々へ贖替致候而ハ四、五百兩位迄には相成可申、万一難立行筋は株代等を以而身代取潰し不致様にも仕居候処、同商売勝手に相成候而は借財等致し、一盃に相當居候もの共ハ未成、身代取潰しにも相成、是又難波至極に奉存候

一 百五十軒余之もの共商売致来候而、其ノ所最寄々々に五軒、七軒程宛立入年中稼方いたし、從來渡世相當候もの有之候処、此末同商売之もの數多出来候ては酒売揚差支候故、是迄少分之造入高も猶更相減し候様成行候に隨ひ、右之もの共義も自然と手明に相成、渡世差詰り候は眼前に有之、少分の義とは乍申、百五十軒余にては是又多分

の難決人出来、嘆は数義に奉存候

右は酒造屋之もの共打寄り色々談判いたし、種々見込をも付見候得共、偏狭之圍柄、殊に酒高嵩多々造入候ても前条之取合にて捌方差支、互ひに商売に相成不申、是迄捌方之ものへ催促仕候得共、新規の者ヨリ買入捌方取立不申、難波至極に奉存候間、誠に以て恐多き義に御座候得共御嘆奉申上候、私共百五十軒余之もの共より御買加として金三千両上納仕度奉存候間、当国の風土外国々ヨリも違ひ候訳柄を以、別段に御被思召に上、何卒出格之御寛典を以新規商売之もの共御差止に相成候様、幾重にも御憐愍之程御嘆奉申上候、以上

明治四年十月

貝塚村(外七一か町村計一三九人は省略)

佐渡県御役所

下札

本文御願書申上候処、諸国一般之義御取用ひ不相成、御理解被仰間、御下けに相成、御尤之義に奉存候、然処私共色々相談仕見候処、第一毎年八月生酒売立高御税銀差上方御布告に御座候処、右八国々大家之酒造万石以上も造入候族ハ諸国へ差出し問屋之売場にて、都而小分之揃ひ等も無之、右月頃迄には多分売立代銭高敷之極りも相成、随而利潤等も凡勘定相立候義ニ御座候得共、当国之義ハ銘々居宅にて一合二合ヨリ之店売、樽詰にいたし候而も、精々五升位迄請売等致候ものへ売渡、代銭等も其ノ時々取立不申掛売に相成、素々小身之もの共八月頃ハ未だ進商半分通も相残居、売立不抄取、右等之次第故巨細に勘定相立候而ハ損分多く、且本文之通当国酒ハ他国へハ向不申、旁同商売之もの出来候而も、唯国内之売立のみにて多分之物入いたし、諸道具相仕立候而も楽々商売に相成不申、当国之義ハ諸国一般之振合には進も相成不申、引離候小国、前条之訳合差向、私共義ハ年々造入高引残し多、別し而昨年以來他国酒過分

と入込候義故、売場遠未た持困ひ高多分に有之、此ノ未売後れに相成候而ハ甘口にも相成、望人少く、誠に痛、損じ之分出来候様罷成、随分之物入いたし罷在候義、身代立伏にも拘り、難波当惑およひ、猶又追々承り候得ば、他国にて今般御布告、難波之訳を以新規醸造之ものは御差止に相成候義をも及承罷在、当国之義ハ孤島小身之もの共のみ、同商売相殖候而は銘々商売体差統相成不申義被、聞召上、何分にも御憐察之上、本文之赴き御聞届相成候様仕度偏に奉願上候、依之乍恐無拠所下札を以御嘆奉申上候、以上

未十月

再下札

本文并下札を以て奉嘆願候処、東京よりの御布告誠に外国々にて新規之もの御差留相成候共、当御県ハ御達し不相成候得ば、御取用難被遊段被仰書面御下けに相成、又候御嘆筋奉申上候段奉恐入候得共、本文にも奉申上候通り、余国酒造家大分の造入元入等も手厚之ものと違ひ、当国之義ハ元來小国離島之義他国とハ一体之造り、水不立故酒之性合不立、他国江は差向不申、只国内限り売買分見込銘々造入渡世取統罷在候義、其上是迄少し之過造年柄に寄一國之米価にも差響き、誠に隣國越後始他國ヨリ積来候米ハ勿論、諸色迄も自然高値に相当り候故、小前之者共相嘆候次第、乍恐当年之義ハ御年賣米御扱等にも罷成、米融通宣敷一同難有仕合御座候得共、新規酒造人相増候得ば是迄とは造り高も相増候義に付、全くの処ハ夫食之方手薄ニも罷成可申哉、右に不拘私共義ハ何れも大金差出し相求候渡世と申も、自然損分等有之候節ハ又々々々々々相譲候而も、百姓前取統にも基き候目当も存分有之候義にて、既に近來譲替いたし大金差出し罷在候者も有之候処、愈新規之もの出来候而は内衷之處極々難波に及び、猶又以前ヨリ之義とは乍申昨年以來別而他国酒多分に入込売捌方不立故、銘々未だ古酒持困ひ之分等も多分、且前々より之掛方等も嵩多有之候処、是迄と違ひ取立方猶々不立様相成候義ハ見へ渡り罷在候義にて、他国大家之酒造屋と違ひ素々小身之旗のみ身代立行

方に相拘り候義にて、誠に以て難義至極当惑仕候に付不奉願恐をも又々奉嘆願候、何卒私共難波之段被_レ開召上、出格之御儀を以何分にも本文願之通、新規之もの共ハ御差止被_レ仰付被_レ下置候様、幾重にも御仁慈之御賢慮奉仰候、依是不得止事再応下札を以奉嘆願候、以上

未十一月

(昭46 関信 6)

70 明治5年3月 船津にかかる酒税の件

乍恐紙面を以奉歎願候

私共酒造渡世罷在候処、従前出津方百歩八之税錢御取立ニ相成候ニ付、酒造人并ニ船手ニ至迄渡世ニ相成不申、左候得ハ船手積入酒も少々ならて無御座候、弥以酒造商売ニ相成不申候間、右百歩八之税錢百歩一ニ御減少被_レ仰付被_レ下候様奉願上候、尤酒造仕込方税錢莫太ニ相成候得ハ、税錢二重ニ相成候様ニ奉存候間、迷惑仕候義被_レ為在御賢察、幾重ニも願之通被_レ仰付被_レ下候様、私共引請奉願上候、以上

明治五年申三月

七尾町酒造商売当番

多根屋

藤右衛門 印

後藤孫作 印

区长御中

副区长御中

佐原喜作 印

肝煎

鹿間与六 印

(昭46 金沢 5)

71 明治5年7月 酒造営業願

商法願書

一 私儀向後活計之為商法相立度、依之俾源次江酒造為致度奉存候、不苦儀ニ御座候ハ、当壬申年造高百五十石試下シテ醸造申度奉存候、何卒御聞濟被_レ成下候様此段奉懇願候、以上

壬申七月二十九日

第十一大区高市郡第十四小区下子嶋村住

士族 高瀬信英 印

奈良県土佐支庁御中

前書之通相違無之候也

高知質屋取締

問届候事

副戸長 寺田知義

(平1 大阪 868)

72 明治6年2月 密醸不可の件

当県三十四号

諸醸造自用タリトモ密醸不相成管之処、其ノ旨趣未々迄貫徹不致哉、自儘ニ醸造イタシ候者間々有之趣相聞候、以
来聊タリトモ免許無之醸造イタス者ハ急度処分可及条、此ノ段心得違無之様可触知者也

明治六年一月

兵庫県令 神田孝平

尚以是迄心得違無鑑札ニテ醸造イタシ居候者ハ来二月二十八日迄ニ申出、鑑札可受事

右之通管内無洩相達スル者也

明治六年二月

兵庫県令 神田孝平

(平1 大阪 903)

73 明治6年10月 酒造総代取扱章程

酒造総代 藤田

酒造ノ者年々上納物ヲ始メ諸届ニ至ルマテ在来各自ニ取扱来候処、右ハ往復多少ノ時日ヲ費スノミナラス、費用モ又
随テ相嵩ミ候儀ニ付、今般更ニ区画ヲ限リ仲ケ間ノ内人撰交番ヲ以総代ヲ置キ、向後右総代一名ヲ以都テ代理候様可
致候、仍テ右総代ノ推薦ヲ請候者ハ左ノ章程通期月ヲ不誤様取締可致ス事

明治六年十月

敦賀県権令 藤井勉三

酒造総代取扱章程

第一条

一 今般引換相渡候免許鑑札ハ年々酒造ノ者九月相改候条、仲ケ間内取鑑改可請候、尤其ノ節免許税等取集メ上納可
致事

但シ改ノ節兼テ相違置候雛形ノ通、其ノ年ノ造高免許可願出事

第二条

一 酒造高免許鑑札ハ年々十月中相渡可申候条、仲ケ間ノ者証印取鑑メ為請取出県可致候事

第三条

一 酒造者月々相場表差出候地ハ総代ニテ担任シ、成規通無違滞可差出、年々十月分ヨリ三月迄ハ三枚ツ、可差出、
其ノ余勝山・丸岡・松岳・今庄ノ四ヶ所ハ別ニ相場表下渡候条、雛形ノ通前年十月分ヨリ其ノ年三月分迄月二枚

ツ、詳細記載シ、区戸長連印ノ上、四月中取總可差出候事

第四条

一 酒造は前年ノ醸造税ハ翌年十月中取立可相納、尤相場并ニ納金額八年々々可相違事

第五条

一 醸造高改トシテ時宜見計巡視候条、酒造ノ者ハ別紙案ノ通各自ヨリ為書出、三月中總テ可致上送事

第六条

一 新規稼并ニ廃業休業其ノ他鑑札譲渡共諸願ノ義ハ以來總代連印可致候事

但シ区戸長連署ノ義ハ外願伺同様タルヘキコト

第七条

一 右總代八年々々仲ケ間内公撰ヲ以交換可致、尤モ其ノ節々勸業掛ヘ可届出事

但シ人望ニ因リ数年勤続候共、又二年、三年ヲ以交換候共、仲ケ間内ノ取極次第タルヘキコト

第八条

一 總代給并ニ筆墨料其ノ他御用出果ノ日当等ハ仲ケ間ノ者申合、土地相当ノ定額取極可申候、尤熟議決定ノ後其ノ

段兼テ届出可申事

右之通章程相定候上ハ仲ケ間内取締向ハ勿論、成規ノ期限不誤様堅相守可申事

明治六年十月

勸業掛

別紙案文

願元石何百石

一 醸造高何百何十石

内

何十石

昨年何月何日ヨリ売捌高
本年何月何日ヨリ

何百石

三月何日 改現石

何百石

願高之内未タ醸造不仕分

右之通相違無御座候事

年号月日

何国何郡何村

何之誰 印

(平3 金沢 23)

74 明治8年2月 醸造稼人心得書

一 (原)

醸造稼人心得書

県第四条

酒造取締の儀、去ル辛未年七月中国内齊一の御規則公布相成、其ノ後追々御改正且増補等有之、其ノ時々触示し置

候間、心得違の者ハ無之管の処、近来緩設ニ流れ稍々濫造の弊相生し、既ニ昨年中夫々御所置相成候者も有之、実以不相濟事ニ候、就てハ管内遠隔の村々ニ至り御規則徹底不致より、自然犯則の者出来候てハ憫然の至りニ付、右様の儀無之様、今般別冊の通り辛未年来追々公布の御規則并ニ難決の廉同書御指令面等緊要の条件を摘抄し、望之者江下渡候条、右營業の者共篤と御趣意を体認し、爾後犯則破産の儀無之様厚く相心得可申、依て此ノ旨告知候事

明治八年二月 福島県令安場保和

太政官御布告写

清濁酒澁油醸造株鑑札渡方并ニ税則之儀是迄一定之成規無之、問々無鑑札ニ而自醸為致候向々も有之哉之趣、元來收税ハ其ノ事を修治するの要費ニ供するの儀ニ候処、右様税則及取締方法紛雜いたし候而ハ其ノ弊害不少儀ニ付、今般改而国内齊一之規則別紙之通確定相成候条、自今以後無鑑札ニ而醸造不相成ハ勿論、繪而成規ニ遵ひ犯違無之様各管轄庁ニ於て取締可致候事

辛未七月

太政官

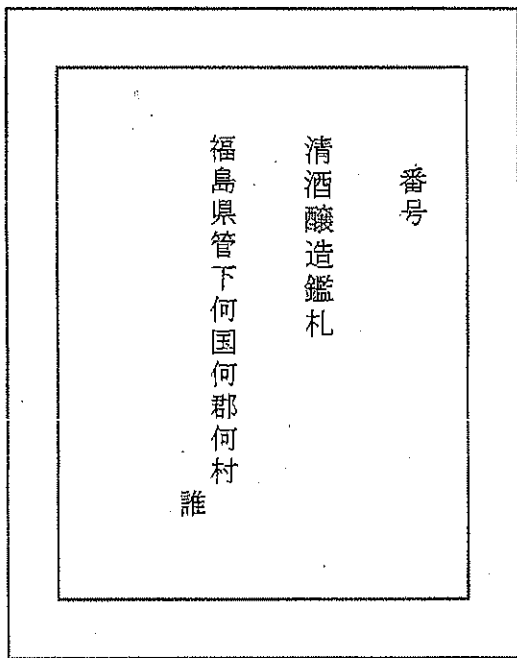
- 一 此ノ心得書ハ辛未年来御発令の酒造規則中緊要を摘ミ、且規則中決し難き条件同書并ニ御指令等を騰写し、御改正等ニて無用ニ属する廉ハ悉く刪去、折衷し、閱見ノ煩ハしきを省く、故ニ官省布告面を全く抄録せしものと見誤る勿れ
- 一 書中説得難き數字ハ里俗の語を以て稀ニ之レを解説す、只僻村の者ニ便とするを要する而已
- 一 自後酒造ニ関する公布ハ勿論、御規則増補追加等アレハ其ノ時々下渡すハし
- 一 右様心得書下渡すと雖も此上解し難き廉あらハ逸々書面を以伺出る歟、亦ハ主任の者へ無遠慮問合して知るハし

御規則摘抄増補

- 一 是迄分ケ株と唱へ一株を二三所或ハ三所江分ケ候者も有之趣、右ハ自今禁止候事
- 一 向後新規稼致度望のものハ県庁へ願出次第免許株鑑札可相渡事

免許株鑑札雛形

縦五寸五分



表面

川中村

裏面

年号月日

福島県庁印

白濁酒焼酎（もろみ酒）醸造醬油共右ニ同シ

只彩色ヲ異ニス

- 一 右免許鑑札所持之者以来石数之定限無之、醸造之手続は其ノ年造込凡積石数銘々之方ニ応じ、造主より八月晦日限り可申立、県庁おめて其ノ年柄勘弁之上醸造石数差定、造高免許鑑札可相渡事
 - 一 造高免許之鑑札年々稼人江下ケ渡方ハ県庁おめて造込石数届候節、左之雛形之通認メ可相渡事
- 造高免許鑑札雛形

第何号

清酒

表面

干支 元石千何百何十何石造

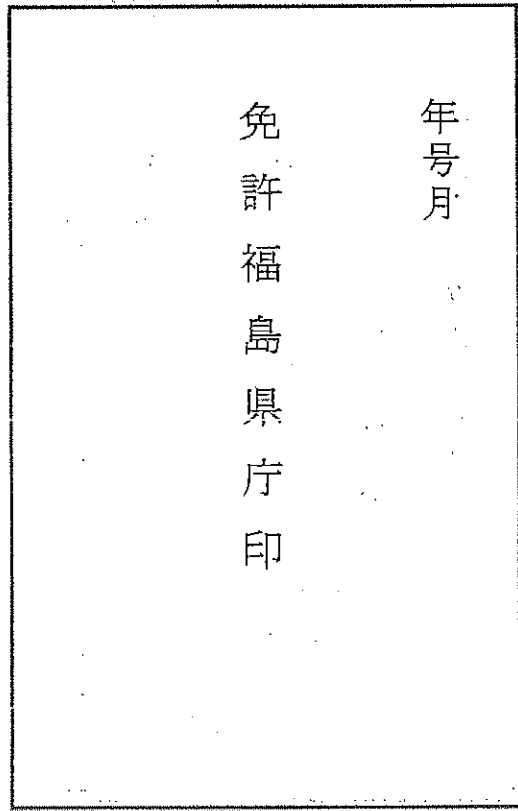
福島県管轄第何区何郡何村

何 某

年号月

裏面

免許福島県庁印



- 一 免許料造高免許税其ノ外都而県庁おみて綿密ニ簿冊ニ記入し、稼人幾個、免許料何程、造込石数何程、造高税何程と各造人種類合計明細ニ認訳候、調書右収税金ニ相添年々十二月限り直ニ大蔵省江相納候事
- 一 管内若シ濫造之者有之候ハ、別紙御規則ニ従ヒ科料申付ヘク事
- 清酒・濁酒・醬油・醬油鑑札 収与并ニ收税方法規則増補折衷

第一則

- 一 新規免許鑑札願受ケ候ものは免許料、清酒は金十円、濁酒醬麴は金五円、醬油ハ金二円二十五銭宛可相納、尤味淋白酒其ノ外銘酒類焼酎は清酒之通たるヘキ事
- 一 免許鑑札は毎年八月区戸長おみて相改可申、万一焼失流失或ハ盗難等ニ而失候者有之候節は事実手續書を以可申立、取札之上更ニ鑑札相下ケ可申事
- 一 但シ焼失等ニ而更ニ鑑札相下ケ候候得は新規願受候節之免許料之半高上納可致候事
- 一 造高之多少ニ不拘清酒は稼人一個ニ付金五円、濁酒は金二円五十銭、醬油は金七十五銭、醬麴は金二円五十銭宛毎年八月鑑札改之節免許料として可相納候事
- 一 但シ味淋白酒其ノ外銘酒類焼酎は清酒之通たるヘキ事
- 一 造方休業いたし候者も毎年八月鑑札之改を受可申、其ノ節御定則之免許税可相納事
- 一 休業いたし候者免許鑑札返納相願候得ハ免許税ニ不及候事

第二則

- 一 免許鑑札売買致度者ハ双方村町役人とも連印順序ヲ經テ県庁江願出可申、不相当無之候ハ、県庁おみて左之雛形之通継紙証文致し、免許可致事

醸造免許鑑札売買之節管轄庁証印ノ雛形

年号月日

福島県庁印

継目印

此醸造免許鑑札何国何郡何村誰御定之通手数ヲ以買受候条相違無之もの也

年号月 福島県庁印

一 右鑑札売買之節証印税として売代金尙百分之二但し五十円未満は五十円相納可申事
第三則

一 毎年八月免許鑑札改之節其ノ年之造高申立、造高免許之鑑札可相願事

但シ前年渡置候造高免許鑑札江当年之造高を左之雛形之通小切ニ認糊付致し可差出事
附昨年之造高免許鑑札焼失等之節ハ別段書面ヲ以可願出事
造高願雛形 造高免許鑑札表面

第何号

清 酒

千支 元石何千何百何十何石造

福島県管轄何国何郡何町村
何 某

継印

当千支年
元石何千何百何十何石造

第何区何郡何町村

右御免許鑑札奉願候何某

但焼酎白濁酒其ノ外總テ之レニ準ス

右之如当年造込願高認添候、昨年之造高免許鑑札は八月限り差出候得は、県庁おゐて其ノ年柄を察し国内之惣造高ニ見比へ詮議之上相定、九月限り紙雛形之通造高免許鑑札可相渡事

但シ雛形ハ第四則ニ見合ヘシ

第四則

清酒は造高改として時宜見計県庁より巡見、造高相改可申事

但シ醤油之儀は五十石以上造よりハ出役之上可相改事

濁酒ハ時々醸造可致ニ付見分不致、尤造込之都度醸造人所轄之区戸長ニおゐて造高免許鑑札之數ニ不過様可致取締事

第五則

清酒并ニ銘酒類焼酎味淋白酒生酒代金ノ五分、但シ金百四ニ、其ノ所前年之酒価平均を以爲醸造税可相納事

濁酒は右同断之三分、但シ金百三ニ、前同様之振合を以可相納事

醬油は前同断之二分五厘、但シ金百二并金、右同様之振合ヲ以可相納事

醬油は前同断之五厘、但シ金百四ニ付、右同様之振合を以可相納事

増補

生酒代金五分之税其ノ所前年之酒価平均と有之候は前年醸造いたし候生酒之税を当年取立候儀ニ有之、即チ当年免許を請願造いたし候五分之税ハ来年前同様之手続にて取立候事

但シ酒価平均之儀ハ前年十月一日より翌年六月三十日迄丸九ヶ月間之平均と可心得、且其ノ最寄相場相立候市

町に於てニヶ所或ハ三ヶ所之相場平均可致儀ニ付、兼て其ノ市町相定置候事
右ニ付管内ニ於てハ相場ヶ所左之通ニ候事

福島町 瀬の上村 上飯坂村

右三ヶ所平均信夫郡江相用

桑折村 梁川村 川俣

右三ヶ所同断伊達郡江相用

二本松町 本宮村 宮守村

右三ヶ所同断安達郡江相用

郡山村 須賀川村 白河町

右三ヶ所同断安積・岩瀬・白河之三郡江相用

醸造歩一税納期限之儀、毎年四月三十日限り前年平均相場之比例を以醸造高之内凡半方県庁江收入取計、残金之儀ハ七月ニ至り前件平均相場確定決算之上、八月限り收入皆済上納可致事
生酒トハ即チ醸成之上全く売出し候升高を以石數何程と取調候儀ニ有之候事

但シ馨ハ米高百石造込候得ハ生酒何程ニ當る哉ハ、県庁より造高改として時宜見計巡見之節巨細相分可申事

從是罰則第六條之見合

第六則

免許鑑札無之自己之利益を計り商売之爲メ密醸いたし候者於相頭は、都而其ノ品取上清酒・銘酒・焼酎は造高百石ニ付金七十五兩、濁酒并ニ醤油は造高百石ニ付金二十五兩、醬油ハ一石ニ付金三十七兩五錢之割を以科料可申付事

一 其ノ年之造高免許鑑札不願請自儘ニ醸造致し候者於相頭は、其ノ醸造品は勿論兼テ相渡置候免許鑑札をも取上、且為科料清酒・銘酒類・焼酎は造高一百石二付金二十五圓、濁酒并ニ醬油は造高一百石二付金十圓、醬麴は一百石二付金十二圓五圓之割を以取上可申事

一 過造致候者ハ其ノ過造之分を取上、清酒・銘酒類・焼酎は一百石二付金五十圓、濁酒并ニ醬油は造高一百石二付金二十五圓、醬麴は一百石二付金二十五圓之割を以科料可申付事
但シ取上候諸品并ニ醸造之分共入札払可申付事

第七則

一 右様取締相立候ニ付而は向後規則ニ背キ候取計有之候者ハ都而定則之科料金可申付、若シ又村町役人等ニ而醸造人之頼ニ寄不正筋取計候歟、又ハ不正筋と乍存見通し候事共有之於相頭は相当之答可申付事

一 稼人共不正筋有之候を見付訴出候者江ハ其ノ品ニ從心相当之賞替可有之事

一 科料金并ニ取上品払代惣高百円迄は五分通、百円以上は三分通、但シ百一円ナレハ百円迄ノ五分ト一圓取扱候者又ハ訴出候者江褒美并ニ手当被下候ニ付、県庁ニおゐて相当ニ配給可致候事

右之通ニ候事

太政官御布告酒造罰則追加 明治七年六月十九日

酒造 紋油 商船 生糸 牛馬

右諸鑑札遺失又ハ誤テ毀損する者ハ科料金七十五錢可申付事

但シ酒類醸し高鑑札并ニ絞油器械鑑札も同断たるべき事

大蔵省御布達之部

第四十二号 抄録 明治六年三月二十四日

一 代替り等ニテ引続相続人相稜度者ハ先代願受候鑑札ハ廃業之者同様鑑札返上致し、跡相続致し候者ハ新規ニ相願可申事

但シ免許料ハ取立候ニ不及候事

第六十七号 明治六年四月二十四日

陸羽辺僻邑ニ於テ防寒の爲め自飲之濁酒五升又ハ一斗位醸造致し候ニハ、酒醫より醸成候てハ容易ニ無之ニ付、醫麴屋と唱へ酒醫のミ醸造營業之者多く有之、右之者ハ清濁酒同様免許鑑札相渡、税金之儀ハ清酒造之半減收税致し、全自飲之濁酒聊醸造候者ハ免稅致し有之、就てハ各府県とも右醫麴營業之者有之候ハ、同様免許鑑札可相渡ニ付可申立、尤甘酒亦ハ麴而已營業之者ハ追テ一般之稅則御確定迄申立ニ不及、此段相違候事

乙第二十七号 明治七年十一月二十八日

酒造規則中免許稅ハ其ノ一期之免許ト相心得、一期内新規ニ免許受ケ直ニ醸造スル者ハ、定額之免許稅上納可致、此ノ旨相違候事

但シ一期分之免許受候後ハ假令他ニ醸渡候トモ、其ノ一期中ハ醸受人ニテ別段免許稅上納不及候事

租稅寮日報抄録 明治六年四月二日

清酒偽造所置振伺 北条泉

濁酒醸造免許候者清酒醸造罷在候節ハ如何之所置仕可然哉、御規則中ニ無之候間、此段相伺候也

御指令

書面酒造醸造之免許ヲ受候者ニテモ清酒ノ免許ヲ不受シテ醸造致シ候ハ則密醸之儀ニ付、規則第六則ニ照準所分可致事

同年同月九日

陸奥租税頭より大蔵大輔江伺書写

酒造其ノ外免許鑑札願請候者共之内、名改又ハ居所替等各府県より伺出候節規則上ニ無之候ニ付、是迄免許鑑札売買規則ニ照準致し、証印税として最初免許料之百分ニ取立候積り御指令相成来候処、今般御改正右鑑札類悉皆引替之積り第四十号を以御布達相成候ケ条之内、代替之分ハ新規鑑札引替相渡、免許料ハ取立ニ不及と有之、依テハ以後名改居所替致し候者、証印税取立候テハ代替りニ見合候テモ不都合ニ付、今後右様之分ハ売買之節同様免許鑑札ハ管轄庁ニテ紙証文致相渡し、別段証印税不取立積り相心得可申哉、此ノ段相伺候也
右は書面之通允可相成候事

当原ヨリ租税寮江伺書写略

酒造分株いたし候者所分伺

- 一 酒造免許鑑札願請之ものヨリ免許鑑札無之もの江分株いたし候もの所分如何取計可申哉
- 一 前条分株を請候ものは密醸之もの規則ニ照準、醸造之分并ニ器械共取上、定則之科料可申付哉
但シ醸造之分売現酒無之分ハ売私代価取調取上可申哉
- 一 酒造規則第七則之内密醸之もの有之訴出候ものハ科料金並ニ取上所私代之総計ニ応シ、歩通を以營管並ニ手当被下方之儀ハ別段御勘定ニ不相立、総計を記載シ、内何程營管並ニ手当と相記シ、殘金何程と相調、司法省江上

納いたし可然哉

御指令

書面初ケ条分株と申は無之事ニ付密造江照準所分可致、ニケ条・三ケ条・但書とも申出之通可相心得事
明治六年五月三十日

醸造御規則難決条件竊

- 一 醸造石高帳ニ有之焼酎造之儀管下六郡ニテハ清酒造絞り粕ヨリ製造致し候ニ付、石高積ノ儀如何相心得可然哉
- 一 第四十二号鑑札引替御布告之内焼酎造ハ是迄鑑札所持無之候ニ付、營業之者更ニ鑑札可相願ハ勿論ニ候得共、免許料並ニ税金売代金分一税等ハ清酒同様と相心得可然哉
- 一 醸造売代金歩一税平均其ノ他月付有之分辛未御布告四月と有之候ハ新曆五月と見做、都テ一ケ月送りと相心得可然哉

御指令

初ケ条清酒絞り粕ヨリ製造焼酎之儀は蒸餾可致見込之焼酎石数為申立、其ノ石数ニ応シ税納可申付事
ニケ条焼酎造營業之者ハ更ニ鑑札相渡免許料免許税共都而規則中銘酒ニ照準収税可致事
三ケ条月送り之儀は難聞届、当年四月酒造其ノ外上納帳内訳帳等雜形改正布達之通、酒其ノ外平均相場差出方之儀は四月限りと可相心得事

明治六年十月十七日

釀造税取立方ニ付伺

昨四月中第六十七号を以御布達相成候醫麴營業之者收稅方之儀、都而清濁酒同様免許鑑札相渡し、酒造半減收稅可致と有之、右ハ株鑑札而已可相渡儀ニ候哉、亦ハ年々醫麴造高鑑札とも相渡、清酒造高免許稅金五円之半數取立候儀ニ有之哉、為念此ノ段相伺候、以上

御指令

書面申出之通、尤釀造稅之儀ハ醫麴釀成壳捌平均代価之二分五厘^{即百分之五厘}收稅候儀と可相心得候事

明治七年二月二十三日

清酒其ノ外休業年數之儀ニ付伺

清酒・濁酒・醬油鑑札収与并ニ收稅方法規則第一則之末條ニ、休業致候者免許鑑札返納相願候得ハ免許稅ニ不及候事と有之、是之儀休業致し候者何ケ年休業候共鑑札ハ不取上して其ノ鑑ニ差置稅納有之、本人より返納願之節初メテ無稅ニ至候儀ニ候哉

又絞油規則中ニハ第七條但書ニ一ケ年休業之向ハ鑑札不及取上、尤休業三ケ年ニ至り候ハ、鑑札可取上と有之、此ノ類トハ殊也候儀ニ可有之、前條詳細御指図有之度相伺申候、以上

御指令

書面之趣は何ケ年休業致し候共本人ヨリ鑑札返納願出候迄ハ定規之通收稅致し、鑑札取場ケ候ニ不及儀と相心得可申、絞油稼休業之準拠ニハ難相成候事

明治七年三月十三日

釀造之儀ニ付伺

一 清濁酒醬油其ノ外共自用之為メ製造致し候分ハ造高之多少を問メ一切免稅ニテ可然哉

一 醫麴ニ於テ密造其ノ他犯罪之向ハ都而酒造規則ニ照準所置致可然哉

一 犯罪之者所置相濟更ニ新規免許願出候得ハ許可致不苦候哉

一 自家營業之清酒製造之為メ醫麴釀造候ハ別段收稅申付候ニ不及哉

御指令

何之趣ハ 第一條自用之為メ釀造候分ハ免稅致し不苦候條、自用之申立を以壳用品等相製候流弊を不生様願入分限

ニ志し、造高適宜制限を設ケ、屹度取締相立差許可申事

第二條清酒料半減之割を以取立可申事

第三條申出之通

第四條清酒製造之為メ醫麴を醸し候ハ清酒元石免許高之内を以製造候儀ニ付收稅ニ不及候事

明治七年七月十八日

(昭43 仙台 8)

75 明治8年5月 酒造御用記

一 明治八年亥五月

酒造御用記

第十三大区中

釀造惣代 齊木佐吉 ㊦

第十三大区

小三区塩沢村

青木佐吉 ㊦

酒造惣代

但十三大区受持

明治八年五月

新潟県庁

清酒其ノ外醸造之義□□^不書之御規則固り遊奉□□^不内元緒可致事

受持区内時々巡回酒造人共へ御規則之趣懇諭致、且ツ酒造見回り器械等検査犯則之者無之様可致注意事

受持区内巡回旅費之義は一日金二十五銭之割ヲ以製造人共へ課シ、其ノ年造高ニ応シ出金可為致、尤も課賦前精

納帳ヲ以県庁之検査可受事

各製造人共ヨリ期限之通り税金取纏、本庁へ罷出上納方可取計事

万一願高ヨリ過造或は無□□^不密造其ノ他犯則之者有之候□□^不其ノ姓名等詳細最寄取縮所江可申立、万一等閑致置

外方ヨリ露頭候時は惣代之可為落度事

前書被 仰渡候趣奉拜承候、依之御請奉差上候、以上

明治八年五月十日

右 青木佐吉

新潟県御庁

定約書之事

一 醸造職業ニ付御規則之趣堅ク相守リ、時々区内巡回、総テ犯則者無之様相談可致之事

一 税金之義ハ一大区取纏期限□□^不通上納可致候事

一 無鑑札御許可ヲ不受竊ニ營業之者有之節は其ノ姓名取調御庁又は最寄御取縮所へ申立可申事

一 区内巡回旅費之義は一泊日当金二十五銭之割ヲ以兼而約定致置、三月九月両度ニ職業一同より可差出事

右第十三大区醸造職業一同協議、惣代職掌相定候事

明治八年六月

第十三大区

醸造惣代

小三区塩沢村

青木佐吉

小一区湯沢村營業人之内代印 樋口伊三治

小一区神立村營業人之内代印 角谷市□^不

小二区大沢村營業人之内代印 梅沢喜平

小二区関村蠶油渡世人之内代印 林利久治

小二区関村酒造營業人之内代印 林 市松

小二区関山村酒造營業人之内代印 八木隆太郎

小二区下一日市村營業人之内代印 岡村政治

小二区獅子村酒造人之内代印 今井廣造

小三区塩沢村酒造渡世人印 井口六郎治

小三区塩沢村蠶油渡世人 鈴木富三郎

小三区塩沢村酒造渡世人 鈴木又太郎

同塩沢村酒造渡世人 徳永三郎

小三区目来田村酒造渡世人 青木利平治

小四区雲洞村酒造渡世人 小林又十郎

小四区小木六村酒造渡世人 小野塚清一郎
 小五区六日町村酒造渡世人 腰越五郎治
 小五区余川村酒造渡世人 大平与平治
 齋麴小五区小栗山村酒造渡世人 山田重次郎
 小五区欠ノ上村醬油渡世人 仲俣久作
 小六区长森村酒造渡世人 南靈兵十郎
 小七区奥村酒造渡世人 中沢小吉
 小七区一村尾村酒造渡世人 小林多十郎
 小八区大崎村酒造渡世人 中嶋俊治
 小九区大浦村酒造渡世人 佐藤利三郎
 小九区茗ヶ沢村濁酒渡世人 戸田音五郎
 小九区赤羽村濁酒渡世人 駒形斧八

御請書之事

願元石何程

此清酒何程

諸味何程

右は本年醸造、實際石高霽面之通り相違無御座候、以上

小四区吉山新田酒造渡世人 片桐嘉平治
 小五区六日町村醬油渡世人 遠藤善造
 小五区余川村醬油渡世人 大平清治
 小五区小栗山村酒造渡世人 牛木 忍
 小五区美佐嶋酒造渡世人 戸田重次郎
 小六区藤原村濁酒渡世人 清水嘉吉
 小七区五日町村酒造渡世人 岡村治郎吉
 小八区浦佐村酒造渡世人 関 新右衛門
 小九区虫野村酒造渡世人 関 喜八郎
 小九区湯谷村濁酒渡世人 上村治郎作
 小九区荒金村濁酒渡世人 佐藤愛吉

明治八年五月

第十三大区何小区

何村何稼人

何某

第十三大区中

酒造惣代

小三区塩沢村

青木佐吉

御果庁 雑税掛御中

明治七年醸造半高税金割

- 一 清酒仮り直段一石二付金四円 但シ半高税金一石二付十銭割
- 一 味淋酒仮り直段一石二付金十円二 半高税金二十五銭割
- 一 醬油仮り直段一石二付 半高税金一錢五厘割
- 一 醬麴仮り直段一石二付 半高税金五錢割
- 一 濁酒仮り直段一石二付 半高税金四錢五厘割

記

- 一 金四百八十六円八銭 清酒税金半高上納
- 一 同十八円四十銭 味淋税金半高上納
- 一 同一円 醬麴税金半高上納
- 一 同四円四十五銭一厘 濁酒税金半高上納
- 一 同二円二十六銭五厘 醬油税金半高上納
- 合 金五百十二円十九銭六厘

右は去戌清酒其ノ外醸造半高税金受持区内取纏奉納候也

明治八年五月十七日

第十三大区小三区

醸造惣代

塩沢村

青木佐吉

御本庁 雑税御線

記

明治七年十月

- 一 醬麴売買なし

同十一月

一 一石二付六円二十五銭 中ナシ 下ナシ

明治七年十二月

一 醬麴一石二付六円二十五銭 中ナシ 下ナシ

八年一月

一 同一石二付六円二十五銭 中ナシ 下ナシ

八年二月

一 同一石二付六円二十五銭 中無シ 下ナシ

平均一石二付六円二十五銭

一 三月より六月迄売買無之候

右は売買相場書面之通りニ御座候 以上

八年六月

第十三大区小三区

塩沢村醬麴稼人

青木佐吉

井口六郎治

新潟県令楠本正隆殿

奥書

戸長 高橋助次郎

用掛 大塚庄平

一 其ノ御区醸造惣代青木佐吉ヨリ金五百十二円十九銭六厘銀行金券相越候ニ付、雜稅御課江上納之所、右は此ノ節納ムヘキ品ニ無之、追而相搦相立次第可相達候間、九月ニ至リ上納可致、今般ハ先ツ返却候様御達ニ付、金券御入手之上本人江御申達有之候也

七月五日

管内会所 勤番戸長

第十三大区小三区 戸長御中

奉願上候

一 金五百十二円十九銭六厘 醸造税金半高納分

右は去ル五月中間達ニヨリ二重納ニ相成候間、前番金員御下ケ渡被成下置度、此ノ段奉願上候也

明治八年八月二十一日

第十三大区小三区塩沢村

青木佐吉

御本県雜稅御課

何酒醸造營業願

一 願元石何程

右は何酒醸造營業仕度候ニ付、御免許鑑札御渡被下置度奉願上候、以上

何大区何小区何郡

何町村之内何町何村何丁目何番地

何某

年月日

殿

奥書

小区長 印

戸長 印

記

精酒稅 第十三大区中

一 金八百二十円五十三銭四厘六毛

味淋稅

一 金二十六円六十六銭三厘

醬麴稅

一 金三円五銭八厘四毛

濁酒稅

一 金十四円六十六銭一厘四毛

醬油稅

一 金四円十九銭三厘五毛

合ノ八百六十五円十一銭九毛

右は去成清酒其ノ外醸造税金受持区内取継入奉納候也

明治八年九月十六日

第十三大区小三区塩沢村

醸造惣代 青木佐吉

御本県雜稅御課

明治八年醸造期九月納稅金御相場

清酒一石代四円九十七銭一厘八毛三糸

右一石垂稅金

五分割 ノ二十四銭八厘五毛九糸一五割

濁酒一石代三円五十二銭四厘

右一石諸味代稅金

三分割 ノ十銭五厘七毛二糸

味淋一石代十四円九十六銭四厘二毛五糸

右一石垂二付稅金

五分割 ノ五十四銭八厘二毛一二五

醬油一石代六円四十一銭五厘五毛三糸

右一石垂二付稅金

五厘割 ノ三銭二厘七糸七六五

醬麴一石代六円七十六銭三厘八毛九糸

右一石諸味二付稅金

二分五厘割 ノ十六銭三厘八毛九糸

十三大区中稅金高ノ八百六十五円十一銭九毛

外二四円三十二銭五厘五毛 五掛一円二付五厘宛手數料

右之内一円七十三銭二毛 納金取扱人手數料

二円五十九銭五厘 国立銀行会所同断

右九月十六日納金取扱人鈴木文太郎殿方へ納ム

記

一 清酒御免許鑑札 四十五枚

一 味淋御免許鑑札 八枚

一 醬麴御免許鑑札 五枚

一 濁酒御免許鑑札 十四枚

一 醬油御免許鑑札 七枚

右第十三大区中醸造御免許鑑札取纏奉返納候也

八年九月二十一日

第十三大区小三区塩沢村

酒造惣代 青木佐吉

御本県雑税御課

第十三大区中醸造惣代

小三区塩沢村 青木佐吉

醸造税上納方及ヒ免許鑑札返上、十月後營業願書酒造桶類調査簿冊等、本月十五日限り可差出旨兼テ相達置候処、干今不差出等閑之至ニ候、右桶類取調帳簿差出次第官員派出検査為等之処甚々差支候条、此ノ達至着次第右四籙之分共取纏至急上納可致、此ノ旨再相達候事

八年九月十八日

本県雑税掛 (平寄)

追テ相達シ候石数計算之為延日ニ相成候様之義ニモ候ハ、寸尺計リ取調差出候而も不苦候ニ付、精々手詰可差出事

第十三大区中酒類惣代

小三区塩沢村 青木佐吉

其ノ持区内酒類醸造人營業税取纏メ来ル十月五日限り無遅々上納可致事

八年九月二十八日

本県雑税掛 (平寄)

第十三大区中酒造惣代

小三区塩沢村 青木佐吉

其ノ持区内酒桶検査として等外二等池田伝吾明二十八日県地出發、第十四大区始、夫ヨリ其ノ大区江巡回為致候条、立会可致候、此ノ旨至急酒造人江通達可及候事

八年九月二十七日

本県雑税掛 (平寄)

尚以其ノ大区酒造桶類調査簿冊自今不差出候条、右出張ニ先至急可差出候、巡回日限之義は出張先ヨリ可相達候事

奉願上候

第十三大区小五区二番組

六日町村鹽渡人 遠藤利太郎

清酒鑑札鹽渡願

同大区同小区六番組

余川村職請人 大平清治

今般酒造御免許鑑札是迄私所持營業罷在候所、方今手不足二付此ノ度同大区同小区六番組余川村大平清治方へ、御規則之通金十兩二而亮渡申度談判相整、依之御鑑札奉差上候間、右大平清治名前二御替替被下度奉願上候、則御手教料金二十錢奉差上候
右願之通御聞濟被下候へ、有難仕合ニ奉存候、以上

遠藤利太郎

明治八年亥九月

大平清治

新潟県参事南部信近殿

味淋酒醸造休業願

今般味淋酒休業仕度、此ノ段御聞届被下度奉願上候、以上

明治八年亥九月

第十三大区小区魚沼郡塩沢村二百七十四番地

青木佐吉

参事殿名宛

前書之通願出候二付奥書印形仕候、以上

小区長 高橋助次郎

戸長 大塚莊平

味淋醸造休業御届

私義味淋醸造級御鑑札所持營業罷在候所、昨明治七年醸造分今亮捌残石も有之、尚此ノ上当該醸造任候而も辺鄙之土地柄捌方無覚束候二付、当亥一ヶ年丈ヶハ味淋醸造休業仕度、此ノ段御届奉申上候也

第十三大区小区魚沼郡舞子村

味淋造休業届人

今井實造

明治八年十月二日

前書願出之趣相違無之候也

小区長 岡村 貢

御用二付他所 青木佐吉代印

味淋休業人 関村 林 市松

同 関山 小野塚九郎治

同 目来田 青木利平次

清酒醸造休業願

第十三大区小二区魚沼郡関山村三百十七番地
酒造人 小沢市十郎

私醸酒造渡世罷在候、当春中ヨリ疾病差起、売捌方營業致兼候三付今般更ニ休業仕度、仍之免許鑑札返上任休業願奉
申上候、此ノ段御採用被成下置度深々奉願上候、以上

明治八年九月

右休業願人 小沢市十郎

参事殿名宛

前書願出候趣相違無之候也

小区長 岡村 貢

戸長 小野塚九郎次

請酒売買營業願

右は請酒売買營業仕度候二付、御免許鑑札御下ケ渡シ被下置度奉願上候、以上

明治八年亥九月

第十三大区小三区塩沢村百八十八番地

高野音松

請酒売買營業願

右は請酒売買營業仕度候二付、御免許鑑札御下ケ渡被下置度奉願上候、以上

明治八年九月

第十三大区小三区魚沼郡塩沢村

井口儀三郎

参事殿名宛

記

清酒營業稅 第十三大区中

一 金四百四十円 四十四名税金

味淋營業稅

一 金三十円 三名税金

請売酒營業稅

一 金十円

清酒醸造鑑札名前書替御手数料

一 金二十銭

願請人

小五区余川村 大平清次

醸渡人

小五区六日町村 遠藤利太郎

惣合計

金四百八十円二十銭

右本年醸造營業稅受持区内取總ノ奉納候也

明治八年十月四日

第十三大区小三区塩沢村

酒造惣代 青木佐吉

御本県雜稅御課

第十三大区中醸造惣代

小三区塩沢村 青木佐吉江

其ノ持区内酒樽検査として等外二等池田伝吉明後九日虫野村始メ巡回為致検査候条、立会可致候条、此ノ旨至急酒造人江通達可及候事

八年十月七日

本県雜稅掛

印

尚以虫野村へ午前第十時ニ出頭可致候事

奉御伺候

追々清酒醸造之季節ニ相至リ御検査前は多少共荒捌不相成旨御達之所、最早古酒手持無之者は心見ニ聊相願シ荒捌致

度旨申出候者も儘有之、一、二名之為御検査ニ御派出奉願上候も恐入候へ共、御届ケ申出候節は御官員御検査御出頭被成下候哉、又は其ノ最寄区長之検査ヲ遂ケ、石數為届出可申候哉、奉御伺候、尤も醸造之季節ニ相至リ候はゞ追々申出候者も可有之と奉存候間、其ノ節は如何仕可申哉、是又奉御伺候、以上

明治八年十月二十四日

第十三大区中

酒造惣代

小三区塩沢村 青木佐吉 印

新潟県参事南部信近殿

記

清酒醸造鑑札 合計四十五枚

味淋醸造鑑札 合計八枚

醬麴醸造鑑札 合計五枚

濁酒醸造鑑札 合計十五枚

醬油醸造鑑札 合計八枚

外二清酒元石鑑札一枚 小一区二居村 神保弥太郎

右第十三大区中醸造御免許鑑札取總ノ奉返納候也

明治八年十月

第十三大区酒造惣代

小三区塩沢村 青木佐吉

新潟県参事南部信近殿

第十三大区小七区八番組今町村第百五十六番地

山田文二郎

一 金五円也 但酒營業稅

右之者先般酒營業御件可奉願上候処、至急納稅可致旨御指令奉拜承候、依テ早速取纏メ奉上納候也

明治八年十月十八日

右小区長 中沢小吉

印

県参事宛名

清酒新規醸造願

一 金十円也 相納 小一区二居村 神保弥太郎

清酒新規營業願

一 金五円也 相納 小七区今町 山田文二郎

清酒新規營業願

一 金十円也	相納	上十日町村	原沢善内
一 金十円也	相納	小六区山谷村	角田定吉

右四軒共願書差出

第十三大区中酒類惣代

小三区塩沢村 青木佐吉

酒類醸造凡半税別紙仕訳之通来ル四月十日限り取纏メ、同月二十三日限り無遅々本県江相納ヘキ候、万一納期日ヲ愆リ候者ハ本年一月第四号公布之通意納金申付候条、心得違之者無之懸篤ク注意可致候、然ル上三毛未納之者有之候ハ、其ノ者姓名書相添全ク取立之税金上納可致、此ノ段相違候事

但シ相違候後増減等願出候分ハ殘金納之節差引候条、仕出之通可相納候、尤休業廢業等ハ此ノ限ニ非ス

明治九年三月十七日

新潟県庁 印

清酒

第十三大区小一区

一 金十三円七十五銭

二居村 神保弥太郎

一 金十二円七十五銭

神立村 角谷市郎平

一 金二十二円九十五銭
 一 金二十八円五銭
 一 金三十円三十銭
 一 金五円八十三銭五厘
 合計三十二円十一銭五厘

湯沢村 高橋藤三郎
 湯沢村 井熊源八郎
 " 樋口伊三次
 味淋酒税

一 金十六円五十銭
 一 金二十七円五十銭
 一 金十九円二十五銭

小二区
 関山村 高野和三郎
 同村 八木隆太郎
 同 小野塚九郎次

一 金三十四円十二銭五厘

二小区
 関村 林 市松

一 金十八円三十七銭五厘

関村 林 伊次
 下一日市村 岡村紋治
 味淋酒税

一 金二十二円

下一日市村 岡村六平次

一 金十九円二十五銭

大沢村 梅沢喜平

一 金十九円二十五銭

一 金二十二円

舞子村 今井實造
 三小区

一 金十七円六十二銭五厘

一 金四十六円二十五銭

一 金五十七円七十五銭

一 金三十四円六十三銭

合計六十一円三十八銭

一 金四十七円二十五銭

一 金三十円也

一 金十六円五十銭

同 青木佐吉
 同 徳永三郎
 上十日町村 原沢善内
 四小区

一 金十五円也

一 金三十六円二十五銭

一 金二十一円也

一 金四十一円二十五銭

大木六村 小野塚清一郎
 大木六村 荒河清二郎
 吉山新田 片桐嘉平次
 雲洞村 小林文重郎
 五小区

一 金十四円九十五銭

一 金十九円八十銭

六日街村 今成無事平
 同 腰越五郎次

金九円也	同	高橋又太郎
金十四円五十七銭五厘	余川村	大平清次
金十三円二十銭	余川村	大平与平次
金十一円也	小栗山	牛木 忍
金九円六十二銭五厘	美佐しま村	戸田量次郎
金三十一円六十二銭五厘	六小区	
金三円七十五銭	一長森村	南雲兵十郎
	山谷村	角田定吉
金十三円七十五銭	七小区	
金四円七十五銭	五日町村	岡田次郎吉
金二十六円五十銭八厘	一村尾村	小林多重郎
金二十六円五十銭八厘	奥村	中沢小吉
金八円七十五銭	"	広田要一郎
	野田村	中俣曾一郎
金七円七十銭	八小区	
金二十二円九十五銭	浦佐村	関新左衛門
金三十三円也	浦佐村	森沢勝三郎
	同	関与三兵衛

金二十四円二十四銭	同	柳 彦藏
金十二円六十五銭	同	鈴木鎌次
金二十七円五十銭	大崎村	中嶋俊治
金十三円七十五銭	同	林 利八
	九小区	
金十三円七十五銭	中野村	野口源次
金十三円七十五銭	同	関喜八郎
金四円十二銭五厘	大浦村	佐藤利三郎
	四小区	
金四円十二銭五厘	瀧谷村	貝瀬伝久
	二小区	
金五円五十銭	関村	関口庄九郎
合計金千二百四十三銭二厘		
内訳金千十一円七十九銭六厘		
八円五十二銭五厘		
但シ清酒一石代仮直段金五円也		
味淋酒一石代金仮直段金十一円也		
		清酒凡半税
		味淋酒凡半税

本年二月第四号

○官省布告

租税上納方ノ儀ハ自今事故ナクシテ管庁ノ触示シタル收納日限ヲ愆リ上納ヲ怠ル者ハ怠納金トシテ、其ノ怠ル処ノ税米金高ノ二十分ノ一ヲ、右触示シタル收納日限以降實際該庁へ收入済ノ日迄、日割ヲ以て追徴申付、若シ皆納期限後一ヶ月ヲ過ルト雖モ、尚収納延滞スルニ於テハ断然本人身代限ノ処分ニ可及候条、此ノ旨布告ニ候事
但シ租税延納処分ノ義ニ付明治五年第二百八十五号布告ハ廢シ候事

第十三第九中酒類惣代

小三区塩沢村 青木佐吉

酒類醸造凡半税別紙仕訳之通來ル四月十日限り取纏メ、同月二十三日限り無遅々本県江可相納候、万一納期日ヲ愆リ候者ハ本年二月第四号公布之通海納金申付候条、心得違之者無之撥寫ク注意可致候、然ル上ニモ未納ノモノ有之候ハ、其ノ者姓名書相添、全ク取立之税金上納可致、此ノ段相違候事
但シ相違候後増減等願出候分ハ残金納之節差引候条、仕出之通可相納候、尤休業廃業等ハ此ノ限ニ非ス

明治九年三月十七日

新潟県庁

朱印

清酒

第十三大区

小一区

二居村

神保弥太郎

神立村

角谷市郎平

湯沢村

高橋藤三郎

井熊源八郎

樋口伊三次

小二区

関山村

高野和三郎

八木隆太郎

小野塚九郎次

林 市松

林 伊治

同

岡村紋治

下一日市村

岡村六平次

大沢村

梅沢喜平

舞子村

今井貫造

小三区

目来田村

青木利平次

- 金十三円七十五銭
- 金二円七十五銭
- 金二十二円九十五銭
- 金二十八円五銭
- 金三十円三十銭
- 金十六円五十銭
- 金二十七円五十銭
- 金十九円二十五銭
- 金三十四円十二銭五厘
- 金十八円三十七銭五厘
- 金二十二円也
- 金十九円二十五銭
- 金十九円二十五銭
- 金二十二円也
- 金十七円六十二銭五厘

— 金四十六円二十五銭
— 金五十七円七十五銭
— 金四十七円二十五銭
— 金三十円也
— 金十六円五十銭

塩沢村 井口六郎次
鈴木文太郎
塩 青木佐吉
徳永三郎
上十日町村 原沢善内
小四区

— 金十五円也
— 金二十六円二十五銭
— 金二十一円也
— 金四十一円二十五銭

大木六村 小野塚清一郎
同 荒河清二郎
吉山新田 片桐嘉平次
鹽洞村 小林又重郎
小五区

— 金十四円九十五銭
— 金十九円八十銭
— 金九円也
— 金十四円五十七銭五厘
— 金十三円二十銭
— 金十三円也
— 金九円六十二銭五厘

六日街村 今成無事平
腰越五郎次
高橋又太郎
余川村 大平清次
大平与平次
小栗山村 牛木 忍
美佐しま村 戸田墨二郎

— 金三十一円六十二銭五厘
— 金三円七十五銭

小六区
長森村 南雲兵十郎
山谷村 角田定吉
小七区

— 金十三円七十五銭
— 金四円七十五銭
— 金二十六円五十銭八厘
— 金二十六円五十銭八厘
— 金八円七十五銭

五日街村 岡田次郎吉
一村尾村 小林多重郎
奥村 中沢小吉
野田村 広田要一郎
野田村 中俣曾一郎
小八区

— 金七円七十銭
— 金二十二円九十九銭
— 金三十三円也
— 金二十円二十四銭
— 金十二円六十五銭
— 金二十七円五十銭
— 金十三円七十五銭

浦佐村 関新左衛門
森沢勝三郎
関与三兵衛
柳 彦造
大崎村 鈴木謙治
中嶋俊次
林 利八
小九区

清酒

第十三大区

小一区

金四円六十四銭七厘	二居郷	神保弥太郎
金十七円十銭一厘	神立郷	角谷市郎平
金三十二円八十三銭八厘	湯沢郷	高橋藤三郎
金四十一円五十七銭		井熊源八郎
金三十八円十三銭四厘		樋口伊三治

小二区

金十八円八十九銭七厘	関山郷	高野和八郎
金三十四円六十七銭九厘		八木隆太郎
金二十九円四十銭二厘		小の塚九郎治
金四十三円三十四銭	関郷	林 市松
金二十六円九十二銭三厘		林 伊治
金四十七円六十六銭四厘	下一日市村	岡郷紋治
金二十五円四十四銭五厘		岡村六平治

金三十三円三十九銭五厘	大沢郷	梅沢喜平
金三十四円四十七銭八厘	舞子郷	今井貞蔵
金二円七十七銭九厘	関郷	関口荘九郎

小三区

金三十三円九十銭八厘	目来田郷	青木利平治
金七十三円二十三銭九厘	塩沢郷	井口六郎治
金六十三円七十一銭四厘		鈴木文太郎
金四十一円八十一銭九厘		徳永三郎
金二十二円二十七銭	上十日町郷	原沢善内

小四区

金四十四円三十二銭一厘	大木六郷	荒河清治郎
金六十三円五十銭二厘	吉山新田	片桐嘉平治
金十九円七十二銭	小木六郷	小の塚清一郎
金六十二円八十二銭三厘	雲洞郷	小林又重郎
金十二円八十五銭六厘	滝谷郷	貝瀬伝久

小五区

金二十七円五十四銭六厘	六日町郷	今成無事平
金三十三円十五銭		腰越五郎治

金十二円五十五銭九厘	余川郷	高橋又太郎
金二十六円五十五銭五厘	大平清治	
金十八円五十二銭	小くり山郷	大平与平治
金十六円九十三銭八厘	みさしま郷	牛木 忍
金十三円十六銭四厘	小六区	戸田熾治郎
金五十九円二十三銭七厘	長森郷	南雲兵衛郎
金五円八十四銭	山谷郷	角田定吉
金四円九十八銭九厘	小七区	
金五円十五銭七厘	五日町郷	岡田治郎吉
金四十円二十二銭四厘	一村尾郷	小林多重郎
金四十三円二十九銭二厘	奥村	中沢小吉
金二円六十一銭六厘	野田郷	広田要一郎
金五十六円三銭二厘	小八区	中沢曾一郎
金二十七円廿三銭三厘	浦左郷	関新左衛門
金四十一円六十三銭九厘		森沢勝三郎
		関与三兵衛

金二十八円九十銭二厘	柳 彦藏	
金十六円八銭三厘	鈴木鎌治	
金四十七円五十三銭	大崎郷	中嶋俊治
金十五円二十二銭九厘	小九区	林 利八
金十一円六十七銭二厘	虫野郷	関口源治
金二十四円五銭七厘	塩沢郷	関喜八郎
金七十五円五十三銭七厘		青木佐吉
計金千五百十九円十四銭九厘		
此清酒四千六十八石三斗三升		
但シ平均相場一石二付金六円二十一銭一厘一毛		
外		
金千七百六十七銭一厘		大凡半税四月廿八日納済

味淋酒

第十三大区 小一區

金三円三十五銭三厘	湯沢郷	樋口伊三治
金六円五十六銭七厘	下二日市村	岡郷敏治

一 金六円七十銭七厘
一 金八円九十二銭七厘

計金二十五円五十五銭四厘

此味淋二十一石七斗六升

外

金八円五十二銭五厘

大凡半税四月廿八日納済

但シ平均相場一石二付十五円六十六銭一厘四毛五

塩沢郵 鈴木文太郎

青木佐吉

記

第十三大区中

清酒残税

一 金千五百十九円十四銭九厘

四十九戸税金

味淋残金

一 金二十五円五十五銭四厘

四戸税金

合計金千五百四十四円七十銭三厘

右は本年醸造残税別紙御仕訳之通大区内取纏メ奉_レ上納候、以上

明治九年九月二十日

第十三大区小三区塩沢郵

酒類惣代 青木佐吉 印

新潟県令永山盛輝殿

第三百六十五号

第十三大区中酒類惣代

小三区塩沢村 青木佐吉

酒類税則第二則第一条之通免許鑑札検査可致候条、別紙仕訳之通營業税及ヒ本年十月后清酒其ノ外_{醸造}見込之石数雜形ニ倣ヒ、届書等相添ヒ、来ル十月十五日限り、惣代手許へ取纏メ、同月廿三日限り県庁へ可相納候、万_一右税金延納スル者有之節ハ怠納可申付候条、其ノ姓名書可差出事

但シ郡中納金取次所之為替券ヲ以相納候ハ、県庁へノ納期日ヲ不意様納金取次所へ振込方注意可致事

明治九年九月廿一日

新潟県令永山盛輝

正印

記

第十三大区中

清酒營業税

一 金四百六十円

四十六名税金

味淋營業税

一 金三十円

三名税金

銘酒營業稅

一金十円

合計金五百円也

二名税金

右本年醸造營業稅受持区内取纏々奉納候也

明治九年十月十六日

外二 清酒休業

味醂休業

請壳休業

他行

同

小三区 青木利平治

小三区 樋口伊三治

小三区 井口儀三郎

小二区 岡村六平治

小四区 荒川清二郎

第十三大区小三区塩沢村

酒類惣代 青木佐吉

新潟県令永山盛輝殿

第三百五十三号

第十三大区中酒類惣代

小三区塩沢村 青木佐吉

其ノ大区内本年清酒造高之内、早造下唱ヒ寒中前ニ醸造スル分検査出願之者有之候ハ、時宜見計掛官員派出之上檢査致為候条、右願書無洩取纏可差出候条、此ノ旨營業人へ可及通達候事

明治九年十月十七日

新潟県令永山盛輝 印

第九号

第十三大区小二区下一日市村

岡村六平治

清酒造營業稅十月廿三日限り上納可致之処、同月廿五日相納、右意納之儀ニ付尋向筋有之候条、来ル八日午前第九時無違々可罷出事

明治九年十一月一日

本県第三課 印

奉申上候

第十三大区小二区下一日市村酒造人岡村六平次清酒營業稅、去ル十月廿三日限り上納可致之処、同月二十五日ニ相納、右意納金ニ付来ル八日出頭可致様御達ニ相成、右岡村六平次營業稅之義ハ去ル十月十九日酒造惣代手元ヨリ納金取扱人四小区六日町宮内七太郎方へ相納、右証券惣代手元へ受取候、然ル処御具序ヨリ岡村六平次へ意納金御申付ニ相成候儀ハ如何之間違ニ御座候哉、右納日相違無御座候ニ付御調之上、同人意納金之義御免被下置度奉懇願候也

九年十一月四日

御本県第三課

青木佐吉

第百八十七号

第十三代区中酒類惣代

小三区塩沢町 青木佐吉

過日相違候清酒造高之内早造之分有之候ハ、派出之都合モ有之ニ付、別紙雛形ニ倣ヒ願書取繼メ可差出事

明治九年十一月十四日

本県第三課

雛形

清酒早造之分御検査願

第何大区中

一 營業人

何人

内

何人 今般御検査相願候分

何人 早造不仕分

右之者来ル何日頃より御出張之上御検査被下度取繼メ候願書相添、此ノ段奉願上候、以上

第何大区中酒類惣代

印

県令宛

第三百二十八号

第十三大区中酒類惣代

小三区塩沢村 青木佐吉

第十二・十三・十四・十六ノ四ヶ大区へ清酒早造之分検査として等外二等出仕中村龍太、来ル廿五日県地出發、長岡町ヨリ巡回候条、其ノ大区中願書取繼メ次第、右同人出張先へ可差出候、此ノ旨相違候事

明治九年十一月廿三日

本県第三課

奉願上候

先般清酒早作り候御検査願書奉差上置候ニ付、今般御出張ニ相成候处、齧麴手廻り候兼未醸ニ候間、寒醸造仕度候、依而先般差上置候願書御下ケ戻し被下置度奉願上候也

酒造人 印

御出張中村龍太殿

奉伺候

亥十一月中清酒早作り營業之者ヨリ願書取總メ可奉差上之處、同月廿二日付ヲ以第十二・十三・十四・十六之四ヶ大区右早作り之分、為御検査等外二等出仕中村龍太殿同月廿五日出發、右大区中へ御巡回ノ御達云々奉拜承候ニ付、取總願書手許へ差扣罷在候、然ニ当大区中へ未タ御巡回無之ニ付、清酒早作り之分宛捌方ニ差支候旨、受持区内營業之者より追々手元へ申出、右は御派出御延引ニ相成候哉、尚々宛捌方実以差支ニ付、此ノ段奉窺上候也
九年十二月十九日

県令宛

印

右御指令 書面十一月廿五日ハ差支筋有之、本月八日県地出發、第十六大区ヨリ巡視、不日其ノ大区へ出張候旨ニ付、同人巡回先へ可差出事

第十三大区小三区塩沢村

青木佐吉

明治八年分醸造税ニ用ユル清酒平均相場之義註議之次第有之、昨九年八月中相違釀候分取消、更ニ左之通相違候条、營業人江無洩通達可及事

明治十年二月一日

新潟県令永山盛輝 印

清酒一石二付

一 金五円九十錢九厘五毛九糸 (以下未記載)

(昭43 関信 62)

76 明治11年6月 東京府の酒類醸造石高検査心得

東京府達内第二十五号 区務所、伊豆七島ヲ除ク (明治) 十一年六月四日
酒類醸造石高検査ノ儀左ノ通可相心得、此ノ旨相違候事

醸造検査心得

- 一 凡醸造石高ヲ検査スルハ、每一期ノ初メ(毎年)十月各自ヨリ届出ル所ノ凡積石高并ニ元玄米高ヲ現出来石高ニ照シ、別紙醸造法概則ニ因リ之ヲ審査シ、其ノ出来高凡積届高ト自然差異ヲ生スルコトアルモ、實際不都合無之分ハ現出来高ヲ以醸造石高ト定ムヘシ
- 一 若造意額外ノ過醸アル歟、又ハ密造ト認ムルモノハ其ノ実合付込元米帳等取調、其ノ旨速ニ申出ツヘシ

醸造法概則

△印ハ書来

清酒之部

第一例

六尺桶一本醸造ノ略

造元

一 白米二石四升
麴 九斗六升

△四割麴

一 蒸米一石二斗
麴 三斗六升

△三割麴以下同シ

二 蒸米一石六斗
麴 四斗八升

三 蒸米三石二斗
麴 九斗六升

四 蒸米三石八斗
麴 八斗四升

五 蒸米三石二斗
麴 九斗六升

合石数十八石九斗六升

△此ノ元玄米二十一石六升六合六勺但シ二期初
屆高ナリ

△但シ精減一割ヲ見積ル

右合石数二十三ヲ乘シ法ノ十三ハ數
レ三割ノ見積リ

此ノ生酒二十四石六斗四升余ヲ得ル

第二例

五尺桶一本醸造ノ略

造元

一 白米二石五斗
麴 六斗

懸ケ

一 蒸米二石
麴 六斗

△四割麴

二 蒸米三石五斗
麴 七斗五升

△三割同

三 蒸米三石五斗
麴 七斗五升

△同

合石数十二石二斗

△此ノ元玄米十二石四斗四升四合前同

△但シ前二同シ

右合石数二十二ヲ乘シ法前二同シ
二割ノ見積リ

此ノ生酒十三石四斗四升ヲ得ル

濁酒之部

造元

一 白米三斗
麴 一斗五升

△四割麴

懸ケ

一 蒸米二石
麴 六斗

△三割麴

合石数三石二升

△此ノ元玄米三石三斗五升五合前同

△但シ前二同シ

右合石数二十三ヲ乘シ法ノ十三ハ數
レ三割ノ見積リ

此ノ生濁酒三石九斗二升六合ヲ得ル

大蔵省租税局達 甲第二十四号租税局出張所 (明治) 十六年十月三日

客年第六十一号布告ヲ以テ酒造稅則附則更正相成候ニ付テハ、自家用料酒類検査手続概略別紙ノ通相心得、府県官ニ協議シ、地方ニ廻リ便宜斟酌ヲ加ヘ検査行届候様致スヘク、此ノ旨相達候事

但シ監査規程ハ本年当局甲第七号達売藥稅監査規程ニ準拠スヘシ

(別紙)

自家用料酒類検査手続

- 第一条 自家用料酒類ノ検査ハ十五年第六十一号布告酒造稅則附則ニ拠リ之ヲ検査スヘシ
- 第二条 検査ハ有稅酒類検査部面ニヨリ可成的該検査員ノ内之ヲ兼務シ隨時点檢スヘシ
- 第三条 検査員ハ予メ製造者ノ姓名簿ヲ作り酒類ノ種目及見込石數製造方法等ヲ詳記ス之ヲ携帯スヘシ
- 第四条 検査員ハ先ツ製造者ニ自己ノ官職姓名及其ノ事由ヲ告ケ而シテ検査ニ著手スヘシ、其ノ手続左ノ如シ
 - 第一項 検査上ノ尋問応答ハ製造者ニ対シ之ヲ為スヘシ、若シ製造者不在ノ時ハ其ノ代理ノ責任アルモノニ就テ之ヲ為シ、且免許鑑札ヲ姓名簿ニ照査スヘシ
 - 第二項 製造ニ用フル所ノ原質物ハ勿論、汲水ノ分異、醸造ノ方法等渾テ帳簿ニ記載シ置カシメ、検査ノ際之ヲ点檢スヘシ
 - 第三項 酒類製造ニ着手ノ月日及製成ノ期日ハ前以届出サセ置キ、成ヘク消糜セサル以前ニ検査スヘシ、既ニ消糜セシモノハ前項ノ帳簿ニ就キ製造法ニ照シ、申立石數ノ当否ヲ検査スヘシ

第四項 酒類製造ニ用ユル桶瓶類ハ製造者ニ於テ予メ其ノ容量ヲ取調置カシメ、検査ノ際著シク不相当ト視認ルモノハ再調セシメ更ニ検査ヲナスヘシ

第五項 酒類ノ造石數ハ成ヘク容量調査済ノ桶瓶類ヲ以テ検査ヲ為スヘシ、其ノ調査済桶瓶類ノ石數ニ充タサルモノ及其ノ容量調査未済ノモノハ適宜之ヲ査定スヘシ

第六項 酒類製造ニ用ユル桶瓶類及其ノ他器械ノ員數等ヲ点檢シ製造石高ニ參照スヘシ

第七項 検査ヲ了シタル帳簿ニハ年月日、検査員官姓名記載ノ上認印スヘシ

第八項 酒類製造元及麹等自製又ハ買入ノ數ヲ取調製造石高ニ參照スヘシ

但シ買入ニ係ルモノハ其ノ買入先ノ住所姓名ヲモ取調ヘシ

第九項 製成酒類消糜高及存在高ヲ取調製造高ニ參照スヘシ

第五條 第四條ノ手続ヲナシ若シ検査上疑訝アルモノハ倉庫室内タリト雖モ之ヲ檢視スヘシ、此ノ場合ニ於テハ製造者ニ其ノ事由ヲ示シ之レカ案内ヲ為サシムヘシ

第六條 検査中担当部外ノ徵証トナルヘキ事實アルトキハ之ヲ該部検査員ニ通報スヘシ

但シ他管下ニ係ルモノハ該府県庁ニ通報ノ手続ヲナスヘシ

第七條 犯則者ヲ発見シ告発スヘキ場合ニ於テハ治罪法第九十六條ニ拠ルヘシ

第八條 検査員ハ隨時齎麵營業者ニ就キ齎麵製造高及仕込米等ヲ点査シ、併セテ其ノ帳簿ニ就キ販売高ヲ取調検査ノ

徵証ニ供スヘシ

但シ買得人担当部外及他管下ニ係ルモノニテ検査ノ徵証トナルヘキ事實アルモノハ第六條ノ手続ニヨリ通報ス

ヘシ

第十條 醫翹受売者モ第八條第九條ニ準シ之ヲ臨檢スヘシ
 第十一條 検査員ハ一箇月間毎二別紙様式ノ如ク取調大蔵省租稅局出張所派出監査員ニ通報スヘシ
 但シ監査員不在ノ節ハ該出張所ニ通報スヘシ(書式省略)

〔法規分類大全〕第一編 租稅門(雜稅一)

78 明治17年9月 千葉県の酒稅検査手續

達乙第二百五十七号

收稅課

酒稅検査手續別冊之通相定候条、本年十月一日ヨリ之ニ照準取扱フヘシ、此ノ旨相達候事

明治十七年九月三十日

千葉県令船越 衛

酒稅検査手續

目次

第一款	検査区画及派出所組織	自第一項 至第五項
第二款	監督員及検査員職務	自第六項至 第十五項
第三款	酒造場調査	自第十六項至 第二十二項
第四款	酒造用諸器械調査	自第二十三項 至第二十九項
第五款	器械封緘及解破	自第三十項至 第三十三項
第六款	酒類元検査	自第三十四項 至第四十七項

第七款	醱検査	自第四十八項 至第五十五項
第八款	製成酒検査	自第五十六項 至第七十七項
第九款	諸帳簿調査	自第七十八項 至第八十項
第十款	帳簿調製及雜件	自第八十一項 至第九十五項
第十一款	申報手續	自第九十六項 至第一百項

酒造検査手續

第一款 検査区画及派出所組織

第一項 酒稅検査区画ハ營業者ノ多寡ト地形ノ便否等ヲ考察シ、管内ヲ大別シテ部ト爲シ、部ヲ分画シテ數区ト爲シ、
 毎区便宜ノ地ニ派出所ヲ置キ、検査員ノ數ニ從ヒ毎区ヲ小分シテ巡回地ヲ定ムルモノトス

第二項 毎部ニ監督員一名ヲ置キ、県庁ヲ以テ所在地トシ、一ヶ月毎ニ担当部ヲ転換スヘシ、又毎区ニ検査員若干名
 ヲ置キ巡回地ヲ担当セシメ、其ノ担当地ハ一巡回了ル毎ニ各員転換スルモノトス

第三項 毎年十月一日ヲ以テ検査員派出ノ期ト定メ、造酒繁閑ノ期節ヲ察シ、人員ヲ漸次ニ増加シ又ハ遞減スルモノ
 トス

第四項 派出所ノ位置及所屬ノ郡名等ハ別段ノ達ヲ以テ之レヲ定ム

第五項 検査員出張中ハ酒造検査ニ關スル一切ノ願届等ハ勿論、其ノ他派出所ヘ向ケ送達シ来ル文書ハ検査員ニ於テ
 受付スヘシ

但シ検査員不在ノ場合ハ便宜受付ノ方法ヲ設ケ置クヘシ

第二款 監督員及検査員職務

第六項 監督員ハ各検査員ノ措置成規規格ニ背カス取扱上区々ノ弊ナク正当ヲ得テ違脱ノ虞ナキヤ否ヲ視察スルヲ以テ職分トス

但シ職務上於テ直チニ検査員ニ指示シ且検査員ノ勤務等ヲ收税長へ具申スルコトヲ得

第七項 検査員ハ法規成例ニ従ヒ正当ヲ目的トシテ酒税ニ係ル検査ヲ為シ、收税額ヲ定ムルヲ以テ職分トス

第八項 監督員ハ検査上宜シキヲ得テ管内取締方周到セルヤ否ヤヲ視察センカ為メ、自ラ臨時營業家ニ立入り又ハ実地検査ノ立会ヲ為スヘシ

但シ一般ノ景況視察ノ為メ検査上ニ関スル書類ヲ検査員ヨリ徴スルコトアルヘシ

第九項 検査員ハ毎区トモ首席者於テ其ノ区内一切ノ事務ヲ主幹シ其ノ責ニ任スヘシ

但シ首席者事故アルトキハ次席者於テ之レニ代ルヘシ

第十項 検査員ハ其ノ区内ノ事ニ関スル伺・上申・報告其ノ他往復文書トモ都テ主幹者ノ名ヲ以テスヘシ

第十一項 監督員ハ区内ニ巡回ノ日數ヲ定メ、期日ニ至レハ県庁ニ会合シ、検査員ハ区内ニ巡回ノ日數ヲ定メ、期日ニ至レハ派出所ニ会合スヘシ

但シ本項ノ場合於テハ監督員検査員トモ各巡回中ノ実況ヲ交互通告シ必用ノ書類等ヲ交換シ、速カニ其ノ担当地ニ分派スヘシ

第十二項 検査員ハ検査上便宜ト認ムルコトアリト雖モ専断ヲ以テ成規外ノ処置ヲ為スコトヲ得ス

第十三項 検査上成規規格ニ疑惑ノ件アルトキハ事ノ細大ヲ問ハス都テ主幹検査員於テ收税長ノ指揮ヲ請フヘシ

但シ本項ノ順序ヲ撥ム能ハサル場合於テハ主幹者ヲ措テ直ニ收税長ノ指揮ヲ請フコトアルヘシ

第十四項 検査員転免アルトキハ該検査員於テ担当セル書類帳簿等ハ主幹者へ引継ヲナスヘシ

但シ主幹者転免アルトキハ引渡目録及演説書ヲ作り交代ノ者へ引継ヲ為スヘシ

第十五項 新任検査員ハ巡回ノ始メ於テ主幹検査員ト三日乃至五日間全行シ実地検査ニ従事スヘシ

第三款 酒造場調査

第十六項 検査員ハ造酒着手ノ如何ヲ問ハス出張ノ当初必ス区内各酒造場ヲ一巡スヘシ、此ノ場合於テハ先ツ營業者ニ自己ノ官職姓名及其ノ事由ヲ告ケ、第十七項ヨリ第二十二項マテノ順序ニ従フヘシ

第十七項 免許鑑札ヲ出サシメ鑑札面記載ノ廉ヲ点檢シ、事實相違ノ廉アルトキハ訂正ノ手續ヲ為サシムヘシ

第十八項 酒造場ハ絵図面及ヒ調書ニ対照シ区域ノ内外ハ勿論、諸建物ノ構造其ノ他ニ階穴蔵ニ至マテ細密調査ヲ遂ケ、若シ相違アラハ夫々訂正セシムヘシ

但シ本項調査済ノ上ハ検査簿ニ記入スヘシ

第十九項 酒造用諸器械細密調査トモ以テ調査簿及調書ニ対照シ遺漏ナク調査ヲ遂クヘシ、尤調査済ノ上ハ検査簿ニ記入スヘシ

但シ搾リ器械及蒸溜器械ハ封緘ノ体面如何ニ注意ヲ為スヘシ

第二十項 現在酒類ヲ調査シ而テ酒造米買入及杜氏履ヒ入レ艸室修築等ノ模様ヲ尋問シ、造酒着手ノ期日ヲ予知シ置クヘシ

第二十一項 酢元用酒類製造營業者ノ諸器械ハ酒造用ト酢造用トラ區別スルハ勿論、其ノ兼用スルモノハ酒造用ノ部分トシテ調査スヘシ

第二十二項 酒造着手後臨檢ノ場合於テハ酒造場ハ勿論、酒造米支払高、麴使用高、現在高等荷モ取締上必用ト視認

ツモノハ必ス点検スヘシ

第四款 酒造用諸器械調査

- 第二十三項 桶甕類ノ容量調査ハ税則取扱心得書第十八項第十九項ノ算則ニ遵ヒ調査ヲ遂ケ調査簿ニ登記スヘシ
- 第二十四項 諸器械桶甕類ヲ除クハ使用ノ有無ヲ問ハス烙印ヲ捺シ、得ラルヘキモノハ之レニ原庁ノ烙印ヲ捺スヘシ
- 第二十五項 調査済ノ桶甕類ヲ売買譲与貸借又ハ返却シタルトキハ其ノ売買譲与ニ係ルモノハ番号ヲ改メ、調査簿及検査簿ヲ加除シ、其ノ借受ケニ係ルモノハ仮番号ヲ付シ調査簿ニ朱書スヘシ、尤貸渡タルモノハ調査簿ニ掛ケ紙ヲ為シ之ヲ除キ置クヘシ

但シ營業者ニアラサルモノハ売渡カ又ハ破解セシトキハ桶側面ノ烙印并ニ記載ノ件々ヲ削除シ、且調査簿及検査簿ヲ訂正スヘシ

第二十六項 前項桶甕類ノ外烙印アル諸器械ヲ營業者ニ非サルモノハ売渡スカ又ハ破解スルモノハ其ノ烙印ヲ削除シ検査簿ヲ訂正スヘシ

第二十七項 造石税完納前於テ酒造用諸器械ヲ破壊又ハ毀損スルモノハ調査簿并ニ其ノ事由ヲ記載シ置クヘシ

第二十八項 新製若クハ買受ケ譲受ケタル桶甕類ハ調査簿ノ順次ヲ逐ヒ番号ヲ付記シ、諸器械ハ検査簿ヲ訂正スヘシ但シ調査済ノ桶甕類ニ欠番アルトキハ本項ノ桶甕類ヲ以テ補充スヘシ

第二十九項 廢業者ニシテ調査済ノ酒造用諸器械ヲ其ノ儘存置セントスルモノハ烙印及桶側面記載ノ件々ヲ必スシモ削除スルニ及ハス

第五款 器械封緘及解披

第三十項 搾り器械蒸溜器械ヲ封緘シ及解披スルトキハ其ノ時々受書ヘ登記スヘシ

第三十一項 搾り器械及蒸溜器械ヲ修繕若クハ洗滌センカ為メ解披ヲ請フトキハ其ノ事實及日數ヲ審査シ、封緘ノ全部若クハ一部ヲ解クヘシ

第三十二項 搾り器械ハ膠ノ石高、蒸溜器械ハ元粕ノ斤量、酒類石數ニ從ヒ使用日數ヲ査定シテ后子之ヲ解クヘシ

第三十三項 解披ノ期満子封緘ヲ要スル場合於テハ速ニ出張シテ封緘ヲ為スヘシ、其ノ封緘ノ手續左ノ如シ但シ封緘用紙ニ八年月日ヲ記入シ検査員之ニ捺印スヘシ

- 一 酒槽ハ樋口ニ木栓ヲ貫キ之ニ麻繩ヲ凡ニ尋ヲ通シ以テ槽ノ外部ニ突出シタル銚子口ヲ巻キ、其ノ結ヒ目ト木栓ニ封緘ス可シ
- 二 男柱ハ孔口ノ外周ヲ一線ノ繩ニテ巻キ、而シテ孔ノ上下漸ク手ノ入ルヲ度トシ、其ノ繩ノ兩端ヲ上下空隙ヨリ交通シテ巻キタル繩ヲ縊リ、其ノ結ヒ目ニ封緘スヘシ
- 三 甕蓋ハ一個又ハ數個ヲ重ネ、菰或ハ筵ノ類ヲ以テ之ヲ包括シ、縦横ヨリ繩ヲ掛ケ其ノ結ヒ目ニ封緘スヘシ、尤其ノ形容ノ異ナルモノアリ、之ニ準シカタキトキハ其ノ使用シ能ハサル緊要ト認ムルケ所ヘ嚴緘スルモノトス

第六款 酒類元検査

第三十四項 酒甑ハ蒸米麴米等ヲ半切桶ニ混和シタル日ヲ以テ既立ノ日ト定メ、巡回ノ都度仕込帳ノ既立順号ニ対照シ其ノ個數及米水ノ割合等ヲ予メ点検シ置クヘシ

但シ水甑ハ米ヲ浸シ母飯ヲ入レタル日ヲ以テ既立ノ日ト定ムヘシ

第三十五項 酒甑検査ハ仕込帳既立ノ順号ニ対照シ其ノ個數及熟不熟トヲ審査シテ熟成ノ分ニ限り検査スヘシ但シ検査ヲ了リタルモノハ検査簿ニ登記シ仕込帳ニハ烙印ヲ為スヘシ

第三十六項 買入酏ハ仕切書又ハ受取証ニ拠リ検査スヘシ、尤蒸・麴米・汲水等ハ其ノ造リ方法ニ拠リ仕込帳ノ酏立順号ニ組入、買入ノ月日トモニ記載セシメ前項ノ手続ヲ為スヘシ

第三十七項 検査済ノ酒酏數個ヲ一ト桶ニ合併シテ之レヲ使用スルモノハ臨檢ノ時々現在石数ヲ点檢シテ不取締之ナキ様注意スヘシ

第三十八項 弱酏ハ予メ調査ヲ遂ケ置クヘシ、尤仕込ニ至リ掛米ヲ減シ又ハ酏數ヲ増加シ又ハ既ニ仕込タル醗ヘ之ヲ混和セントスル場合於テハ、醸造方法ノ交換届ヲ為サシムヘシ

第三十九項 腐敗酏ハ其ノ使用見込ヲ立サセ検査ヲ為シ、之ヲ変製セントスルモノハ検査簿ヲ削除シ、更ニ変製酒元トシテ該検査簿ニ登記スヘシ、若シ之ヲ変製シ得ス販売又ハ廃棄ト為スモノハ不取締之レナキ様注意スヘシ

第四十項 不用ノ酒酏ヲ企業者へ売渡ストキハ双方ヨリ届出サシメ調査ノ上、売渡人ハ仕込帳ニ其ノ事由ヲ記載シ検査簿ヲ削除シ、買受人ハ第三十六項ニ準シテ検査ヲ為スヘシ

第四十一項 甲乙ニテ所ノ免許ヲ受ケシモノ、甲ノ酒造場ニテ製造シタル酒酏ヲ乙ノ酒造場へ移サントスルモノハ前以テ申出セシメ調査ノ上、甲ハ第四十項売渡人、乙ハ第三十六項買受人ノ手続ニ準シテ検査ヲ為スヘシ

但シ醗及製成酒モ本項ニ準ス

第四十二項 酒酏ハ個數ヲ検査シ、若シ其ノ石数造リ方法ニ対照シ不相当ト思料スル場合於テハ現石数ヲ丈量スルコトアルヘシ

第四十三項 酒酏ハ清酒酏濁酒酏ト區別ヲ立テ仕込帳記載方其ノ他ニ至ルマテ混同セサル様注意検査スヘシ

第四十四項 燒酎酒精ノ元ニ供スル原質物ハ醸造酒類・酒粕・其ノ他何種ヲ問ハス之ヲ検査シ検査簿ニ登記スヘシ

第四十五項 元粕検査ハ自製ト買入トヲ問ハス粕目方帳又ハ仕切書等ニ対照シテ其ノ斤量ヲ調査スヘシ、尤多量ニシ

テ一時調査シ能ハサルモノハ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ調査スヘシ

第四十六項 白酒元ニ供スル為メ醸造スル清酒ハ酏・醗・清酒ト順次検査ヲ遂ケ、其ノ石数ハ白酒検査簿ニ登記スヘシ、但シ白酒・味淋・銘酒等ノ元ニ蒸溜スル燒酎ハ燒酎検査順序ニ從ヒ本項ノ手続ヲ為スヘシ

第四十七項 酢元用酒類ノ酏ハ清酒酏検査ノ手続ニ拠ルヘシ、尤モ飲料ニ供シ得ラルヘキモノハ酒酏ヲ以テ造石高ヲ査定スヘシ

第七款 醗検査

第四十八項 醗ハ巡回ノ都度仕込帳ノ順号ニ対照シ、添・中・留ノ仕込順序ニ從ヒ、桶ノ配合方酒酏并ニ蒸米・麴米・汲水等ノ割合及其ノ熱不熱ヲ点檢シ置クヘシ

第四十九項 醗検査ハ留掛ノ日ヨリ數日ヲ経テ全ク熟成沈冷ニ至リシモノニ限ルヘシ、而シテ之レカ歩合ノ当否ヲ判断シ其ノ石数ヲ査定シテ検査簿ニ登記スヘシ

但シ検査ヲ為シタルモノハ其ノ時々仕込帳ニ檢印ヲ為スヘシ

第五十項 醗石数不相當ト思料スル場合於テ、若シ仕込タル米水ノ石数ニ誤謬アルコトヲ申出テ事實相違ナキトキハ造リ方法ヲ訂正セシメ之ヲ検査スヘシ

第五十一項 検査未済ノ醗ヲ都合ニ依リ數仕舞合併セントスルトキハ替ヘハニタ仕舞又ハ四仕舞ト其ノ分界ヲ立テシメ、製酒検査ニ至リ石数歩合等ヲ判別シ易カラシムヘシ

第五十二項 醗ヲ検査シタルトキハ必ス左ノ檢票ヲ付与シ之ヲ桶側面へ貼付セシムヘシ

第五十三項 熟成ノ醗又ハ濁酒へ枝掛ケ即チ掛米ヲ為サントスルモノハ造リ方法交換ト見做シ着手前届出サシムヘシ

仕込第何号
桶 第何号

三〇八

三〇八トアルハ端桶入実ノ深サ寸
尺ヲ記載スルノ一例ナリ

一 醪何十何石何斗何升何合

年月日

検査[㊦]

第五十四項 營業中都合ニ依リ未製成ノ酒類ヲ公業者へ売渡サントシ、双方連署ヲ以テ届出タルトキハ之ヲ検査シ、

売渡人ノ検査簿ニハ其ノ事由ヲ記載シ、買受人ノ検査簿ハ酏醪ノ部へ更ニ登記スヘシ

但シ仕込帳へハ其ノ順号ニ組入レ買入月日トモ記入スヘシ

第五十五項 酢元用酒類ノ醪ハ清酒醪検査ノ手続ニ拠ルヘシ、尤モ醪ノ儘酢ニ製造スルモノハ其ノ醪ヲ以テ造石高ヲ
査定スヘシ

第八款 製成酒検査

第五十六項 清酒ノ検査ヲ為スニハ槽掛中於テ臨時巡回ヲ為シ垂歩合ヲ点検スルヲ要ス、而シテ其ノ歩合ハ手帖等ニ

筆記シテ他日造石検査ノ参照ニ供スヘシ

但シ本項点検スルニハ例へハ醪若干石ヲニタ槽即チ二回ニ搾リ揚ケルモノハ先ツ其ノ一回搾切りノ時日ヲ期シ
テ臨検シ、搾リ残りノ現醪石数ヲ計量シ、而シテ槽ニ掛ケタル醪石数ヲ得之ニ対スル清酒ノ垂歩合ヲ算出スルカ
如シ

第五十七項 清酒検査ニ方テハ醪ノ熟否ト粕斤量ノ多寡ヲ計考シテ醪垂レ肉垂レ歩合ノ当否ヲ判断シ、其ノ石数ヲ查

定シ検査簿ニ登記スヘシ

第五十八項 前項石数計量ノ場合於テハ必ス桶毎ニ蓋ヲ開ラカシメ、口頭ノ一寸明キハ前後左右ノ平均ヲ以テシ、端

桶ハ税則取扱心得書第二十七項ニヨリ査定スヘシ

第五十九項 清酒ハ仕舞數ノ分界ヲ立テ検査スルヲ要ス、尤其ノ分界ハ醪石數ノ多寡ト搾リ器械ノ都合トニ拠ルヘシ、

故ニ其ノ分界ハ醪検査又ハ器械取扱ノ時於テ予メ之ヲ定メ置クヘシ

第六十項 清酒ハ第一号仕込搾リ場ケ於テ特ニ其ノ垂レ歩合ノ当否ニ注意スルヲ要ス、故ニ若シ垂レ歩合相当ヲ得

サレバ其ノ目的ニ達スルノ間ハ一ト仕舞毎ニ検査ヲ為シ、數仕舞ヲ合併シテ搾リ揚ルコトヲ許サ、ルヘシ

但シ既ニ桶二本へ三仕舞ノ醪ヲ合併シタルモノ、如キハ桶一本毎ニ分界ヲ立ツヘシ

第六十一項 營業者ノ都合ニヨリ搾リ中於テ清酒ノ検査ヲ請フトキハ第五十六項但シ書ニ準シ、其ノ分界ヲ明瞭ニセ

サレハ検査ヲ為スヘカラス

第六十二項 酒類ノ粕漉ヲ為サント申出ルトキハ其ノ酒類石数ハ勿論粕斤量ヲ検査シ、而シテ醪石数ヲ計量スヘシ、

尤此ノ場合於テハ營業者ヨリ該石数ヲ明記シタル受書ヲ徴シ置キ、尙製成ノ上其ノ石数ヲ検査スヘシ

但シ製成ノ上増石シタルモノハ其ノ増石及事由トモ検査簿ニ登記スヘシ

第六十三項 検査既済ノ新酒へ古酒ヲ混和シテ火入レ即チ煮込ヲサントスルトキハ前以テ申出サセ、該石数ヲ計量

シ酒蔵出帳ニ記載セシメ之レニ検印スヘシ、尤火入済ノ上ハ再ヒ調査スルコトアルヘシ

第六十四項 検査未済ノ清酒ヲ白酒ノ元ニ供セント申出ルトキハ其ノ清酒検査簿ニハ清酒石数ノ外書ニ其ノ

石数及ヒ事由ヲ記載シ、更ニ他ノ検査簿於テ元検査ノ手続ヲナスヘシ

但シ焼酎ヲ白酒・味淋・銘酒等ノ元ニ為サントスルモノモ本項ニ準スヘシ

第六十五項 非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ事實審査ヲ遂ケ其ノ変製シ得ヘキモノト廃棄ニ属スヘキモノトヲ區別セシメ、変製シ得ルモノハ更ニ変製酒ノ元トシテ検査簿ニ登記シ、変製シ得サルモノ及ヒ廃棄セントスルモノハ不取締之レナキ様適宜処分スヘシ

第六十六項 濁酒及ヒ白酒ノ検査ハ清酒醪検査ノ手續ニ準拠スヘシ

第六十七項 焼酎酒精ノ検査ハ蒸溜帳ニ就キ元粕ノ斤量及ヒ元酒類ノ石数其ノ蒸溜方法及器械ノ精粗等ヲ審査シ、垂歩合ノ当否ヲ判断シ其ノ石数ヲ査定スヘシ

但シ檢了シタルトキハ蒸溜帳ニ檢印ヲ捺シ置クヘシ

第六十八項 味淋銘酒等ノ検査ハ都テ清酒検査ノ手續ニ準拠スヘシ

第六十九項 買入酒ハ仕切書送状等ヲ檢閲シ、売主ノ住所氏名及ヒ買入ノ年月日・石数・価格等調査ヲ遂ケ検査簿ニ登記スヘシ

但シ検査ハ可成の販売及消費以前於テ為スヘシ

第七十項 味淋銘酒等其ノ醸造方法ニヨリ醪ノ上澄ヲ汲取り再ヒ焼酎ヲ加入スルモノアリ、是等ハ最初仕込ノ焼酎石数ヲ計量シ、次ニ醪熟成ノ期ニ至テ其ノ石数ヲ査定シ、尚立会ノ上、上澄ヲ汲取ラセ其ノ汲取タル石数及ニ番掛ケニ為スヘキ焼酎并ニ掛ケ卒リタル醪石数トモ順次之レカ検査ヲ為スヘシ

第七十一項 製成ノ酒類ヲ検査シタル時々左ノ檢票ヲ付与シ、之ヲ桶側面ヘ貼付セシムヘシ

但シ古酒買入酒ト雖モ調査シタルトキハ本項ニ準拠スヘシ

仕込第何号	三五〇
桶 第何号	
一 何酒何十何石何斗何升何合	
年月日	検査印

三五〇トアルハ端桶入実ノ深サ寸尺ヲ記載スルノ一例ナリ

第七十二項 酒精ヲ蒸溜セン為メ焼酎ヲ再溜セントスルトキハ其ノ着手以前焼酎高ヲ計量シ、再溜シタル酒精ノ歩合当否ヲ判断シ其ノ石数ヲ査定スヘシ

第七十三項 再製酒ノ元ニ供セントタメ検査ヲ受ケタル酒類事故アリテ製造スルヲ得ス、見込石高ヲ減却セントスルトキハ其ノ元酒類ハ更ニ其ノ石数ヲ検査シ、税則第二条ノ類別ニヨリ検査簿ニ登記スヘシ

但シ元酒類ノ儘翌期へ持越シ製造セントスルモノハ第七十四項ニ準シ其ノ手續ヲ為スヘシ

第七十四項 味淋銘酒等皆造期限迄ニ製成スルヲ得ス其ノ醪ノ儘翌期へ持越スモノハ其ノ年度ノ見込石数ヲ減却シ、更ニ翌期ノ見込石数ニ付加シ、検査簿ハ兩期トモ其ノ石数及事由ヲ記載スヘシ

第七十五項 税則第十八条造石税免除ノ酒類ヲ点検スルトキハ其ノ製造方法及ヒ之レニ調和スル品質等ヲ見分シ其ノ製造石高ヲ調査スヘシ

第七十六項 酔元用酒類ノ製成酒検査ハ其ノ同酒類ノ検査手續ニ準拠スヘシ

第七十七項 酢元用酒類ヲ以テ製造シタル酢ノ石高ハ勿論、酒粕及他ノ種類ヲ以テ製造シタルモノト雖モ取締ノ為メ
臨時点検スルコトアルヘシ

但シ本項ノ場合於テハ醸造方法及仕込帳ノ順号ニヨリ其ノ醪又ハ製成石高ヲ検査スヘシ

第七十八項 古酒現在高ノ調査ハ十月中於テ為スヘシ、其ノ場合ニハ先ツ自製ト買入トヲ區別シ、自製ハ蔵出帳、買
入ハ仕切書送状等ニ拠リ石数ヲ調査シ、蔵出帳ニ差引残及ヒ火入量リ減等ヲ記入セシメ之レニ検印ヲ為シ、尚檢
査簿ニ登記スルモノトス

但シ皆造検査ニ際シ現在石高ヲ調査スル場合ト雖モ本項ニ準シ蔵出帳ニ記入セシムヘシ

第九款 諸帳簿調査

第七十九項 酒造ニ関スル諸帳簿ハ營業者於テ其ノ調製及ヒ記載方等怠ラサル様臨檢ノ毎次之レヲ示諭スヘシ

第八十項 造酒検査ノ毎次左記ノ帳簿ヲ必ス調査スヘキハ勿論、尚酒造関係ノ諸帳簿ト雖モ檢閱スルコトアルヘシ
但シ諸帳簿ヲ檢閲シタルトキハ小計通計等ノ要所ヘ検印ヲ捺シ置クヘシ

一 酒造米元帳

二 仕込帳

三 蒸溜帳

四 酒粕目方帳

五 酒類蔵出帳

六 酒類売上帳

第八十一項 皆造検査ノ際ハ酒造一般ニ関スル諸帳簿ヲ精密ニ調査シ之レニ検印ヲ捺スヘシ

第十款 帳簿調製及雜件

第八十二項 桶甕類容量調査簿ハ第一号様式ノ如ク甲乙二帳ヲ製シ調査ノ時々之ヲ加除更正スヘシ

但シ甲帳ハ派出所ニ備置キ、乙帳ハ營業者ニ下付シ置クヘシ

第八十三項 酒類造石検査簿ハ第二号様式ノ如ク酒造場毎ニ甲乙二帳ヲ製シ置キ、検査ノ時々之レニ記入スヘシ

但シ甲帳ハ検査員之ヲ携帶シ、乙帳ハ營業者ニ下付シ置クヘシ

第八十四項 器械封緘請書ハ第三号様式ノ如ク調製シ甲乙検査簿ニ添付シ、封緘及解披ノ時々記入スルモノトス

第八十五項 酒類見込石高台帳ハ第四号様式ノ如ク調製シ、其ノ時々又ハ増減アルトキ之ニ記入スルモノトス

第八十六項 酒類検査済石高台帳ハ第五号様式ノ如ク調製シ、検査ニ係ル石数ヲ一ヶ月毎ニ記入スルモノトス

第八十七項 巡回日誌ヲ調製シ巡回ノ都度予メ巡回日割及町村名ヲ記載シ派出所ニ備ヘ置クヘシ

第八十八項 検査手帖ヲ調製シ造酒検査ニ関スル一切ノ事項ヲ細大遺漏ナク其ノ時々筆記シ他日ノ参照ニ供スヘシ
但シ手帖ハ予メ各検査員一定ノ書式ヲ設ケ置クヘシ

第八十九項 臨檢日誌ヲ調製シ乙号造石検査簿ニ添付シ置キ、臨檢ノ毎次年月日及臨檢ノ事由ヲ摘録シ之ニ検印ヲ為
スヘシ

第九十項 左記ノ書類ハ十月十五日迄ニ取纏メ整理スヘシ

但シ増減又ハ変換等ノ届書ハ調査済ノ后順次綴込置クヘシ

一 酒造用諸器械調

二 酒造場檢図面

三 造酒種目見込石高

四 酒類醸造方法

第九十一項 左記ノ書類其ノ他造酒ニ關スル一切ノ書類ハ調査済ノ上其ノ類別ニヨリ綴込置クヘシ

一 造酒着手届

二 酒類造石検査願

三 營業者代理委任届

四 酒造犯則ニ關スル書類

五 諸往復文書

第九十二項 左記ノ書類ハ参考ノ為メ各派出所ニ備ヘ置クヘキモノトス

一 酒造税則及之ニ關スル諸規則

二 前年度造酒検査簿

第九十三項 丈量器械及焼印等ハ所用ヲ見計ヒ予テ派出所ヘ備ヘ置クヘシ

第九十四項 器械封緘用紙ハ所用ヲ見計ヒ予テ派出所ヘ備ヘ置クヘシ

第九十五項 検査証票用紙ハ予テ印刷シ所用ヲ見計ヒ派出所ヘ備ヘ置クヘシ

第九十六項 納期ニ至リ若シ不納者アルトキハ速ニ其ノ人名ヲ通報スヘキ官所轄郡役所ヘ予テ協議シ置クヘシ

第十一款 申報手續

第九十七項 主幹検査員ハ区内検査上ノ事跡ヲ一ヶ月毎ニ取調翌月五日限り其ノ区派出所ヲ差立収税長ヘ報告スヘシ、

其ノ目左ノ如シ

但シ報告書ハ第六号ヨリ第十二号迄ノ様式ニ倣フヘシ

一 酒類検査済石高

二 酒造種目見込石数及増減

三 古酒現在石高

四 酒造場員数并ニ營業者人員及増減

五 犯則事由及人員

六 酒類垂歩合調

第九十八項 毎納期ニハ其ノ納額ニ係ル酒類検査済石高ヲ一人別限リ取調左ノ期限ニ從ヒ収税長及郡長ヘ報告スヘシ

第一期 三月五日限

十月一日ヨリ二月中検査済石数

第二期 七月五日限

三月一日ヨリ六月中検査済石数

第三期 九月五日限

七月一日ヨリ皆造検査済石数

第九十九項 非常ノ損害ニ罹リ造石税免除スヘキ酒類ヲ検査シタルトキハ其ノ実況及ヒ検査ノ顛末ヲ詳記シ其ノ時々

収税長ヘ報告スヘシ

第一百項 監督員ハ検査ノ実況及ヒ酒造一般見聞ノ事項ヲ一ヶ月毎ニ取調収税長ヘ報告スヘシ

酒造検査員心得

第一項 酒造検査ハ收税額ヲ定ムル基礎ニシテ最も緊要ノ事ナルヲ以テ苟モ検査員タルモノハ税則其ノ他ノ法規ヲ遵守シ之ヲ履行シ、敢テ輕卒ニ馳セ緩慢ニ流ル、等ノ措置ナカラシムコトヲ要ス

第二項 監督員并ニ検査員タルモノハ温厚誠実ヲ主トシ營業者ニ接シテハ都テ親切懇到ナルヲ要ス

第三項 監督員タルモノハ造酒期節ノ繁閑ニ從ヒ検査員ノ増減方ニ注意シ一般取締ノ欠遺ナカラシムコトヲ專ラ視察スルヲ要ス

第四項 検査員タルモノハ酒類醸造方法ハ勿論、造酒保存法器械使用方等造酒一般ニ關スルノ事ハ其ノ細大ヲ問ハス研究明知スルヲ要ス

第五項 酒醗ハ酒母ニシテ酒造上最も緊要ノ品質ナリ、故ニ之レカ検査於テ宜ク左記ノ事件ニ注意スヘシ

- 一 醗取ノ個數見込石高ニ超過セサルヤ否
 - 二 半切桶數ヲ順次減少シタルノ景状及石數ノ当否
 - 三 蒸米・麴米・汲水ノ割合及各石數ノ当否
 - 四 醗立ヨリノ日數及寒暖ニヨリ醗ノ熱不熱又ハ暖氣樽ヲ使用セシ度數
 - 五 生醗水醗ノ差別
 - 六 一仕舞ニ使用スル醗ノ個數分散ノ割合
 - 七 弱醗又ハ潰醗ノ使用方如何
- 第六項 醗検査ハ製酒石數ヲ査定スルニ必要ナリトス、故ニ左記ノ事件ニ注意スヘシ
- 一 添・中・留ノ順序ニ從ヒ仕込桶ノ配合使用方如何
 - 二 季候ノ寒暖造方法及日數等ニヨリ醗ノ熱不熱又ハ其ノ石數ノ差異

三 蒸米・麴米・汲水ノ割合及各石數ノ当否

四 醗ノ上澄ヲ汲取タル形跡ナキヤ否

五 検査既済ノ醗へ検査未済ノ醗ヲ混和シタル形跡ナキヤ否

六 検査既済ノ醗へ焼酎又ハ酒滓等ヲ混和シタル形跡ナキヤ否

七 検査既済ノ醗へ追掛ケヲ為シタル形跡ナキヤ否

第七項 清酒検査ハ税額ヲ確定スルモノナリ、故ニ垂レ歩合ノ当否ヲ審査スヘキハ勿論尚左記ノ事件ニ注意スヘシ

- 一 搾リ揚ケタル清酒石數ハ仕込ノ分界正確ナルヤ否
- 二 初垂レ(初垂)又ハ酒滓ノ類ヲ次槽或ハ他ノ醗へ混和シタルヤ否
- 三 醗不熟又ハ仕込米ノ粗悪其ノ他ノ口実ヲ設ケ垂レ分合ヲ作為スルコトナキヤ否
- 四 検査既済ノ酒滓又ハ隠蔽シタル醗又ハ水等ヲ混和シ搾リ上ケノ後其ノ石數ヲ引去リシ所為アラサルヤ否
- 五 古酒買入酒又ハ検査既済ノ酒類へ検査未済ノ酒類又ハ酒滓ヲ混和セシ所為アラサルヤ否
- 六 検査未済ノ酒類ニ火入其ノ他ノ作為ヲ以テ古酒ニ擬スルナキヤ否

第八項 滓引ハ造石検査ノ後於テ為サシムルノ旨趣タル取締ノ点ニ外ナラス、然ルニ強テ之ヲ檢束スルトキハ密カニ滓引ヲ為シ之ヲ隠匿スルノ弊ナキヲ保セス、故ニ滓引ヲ為スモ容器等ヲ別ニシ之ヲ現存シ検査ヲ請フ如キモノハ敢テ咎ムルニ及ハス

第九項 粕漉ハ酒味ヲ改良センカ為メニシテ或ハ之ニ醗酒滓又ハ蒸米麴米等ヲ混和スル弊ナシトセス、故ニ検査ノ際其ノ弊害ノ有無ニ注意スヘシ

第十項 焼酎検査ハ其ノ元トナルヘキ酒類石數及粕斤量等審査スヘキハ勿論、尚左記ノ事件ニ注意スヘシ

一 元トナルヘキ粕及腐敗酒等ノ現在高井ニ自製買入ノ區別

二 蒸溜器械ノ精粗及蒸溜方ノ巧拙ニ拠リ垂分合ノ当否

三 元粕及蒸溜済粕ノ酒精分ノ強弱

四 焼酎ノ酒精分ノ強弱度數及冷温ニ拠リ其ノ差異

五 蒸溜釜數ニ依リ其ノ時間ノ長短

第十一項 酒類ヲ丈量スルニ用フル尺度等ハ酒味ヲ害スル等ノ嫌ナキモノヲ以テスヘシ

第十二項 酒造稅則取扱心得書第十八項種類差違則中〇、〇四〇三八四ノ乘率ハ田積率^{七八}升法^{六四八}三個内^七出^八スルノ法

トヲ以テ除シタルモノナリ、又ニニテ除スルハ全深ノ二分ノ一ヲ乘スヘキヲ之レヲ前略シタルモノト心得ヘシ

第十三項 酒造用ニ供スル諸帳簿ハ通稅ヲ謀ランカ為メ真偽ノ兩帳簿ヲ調製スルモノナキヲ保セス、故ニ參閱上疑ハ

シキモノト思料スル場合於テハ所用ノ諸帳簿ヲ悉皆差出サセ遺漏ナク調査ヲ遂ケ、真偽ヲ鑑別スルヲ必要ナリト

ス

第十四項 醱酵ノ醸造減及製酒ノ垂分合等ハ米質ノ善惡、白米ノ精粗、造方ノ巧拙、醱熟ノ遲速、粕斤量ノ多寡、器

械ノ良否、酒質ノ淡濃、汲水ノ多少、其ノ他種々ノ原因アツテ同一ノ分合ヲ得ント欲スルモ能ハサルモノナリ、

然リト雖モ其ノ分合ノ差違ニ於ケル大同小異ニシテ多クハ水壘及粕ノ多寡等ニ因ス、故ニ予メ其ノ分合ノ程度目

的ヲ定メ苟モ其ノ程度目的ニ大ナル減差アルモノハ一旦検査ヲ中止シテ其ノ事實ヲ徵スルカ、又ハ他ノ検査員ノ

意見ヲ問ヒ然ル後検査ヲ為ス等ノ措置アルベシ

第十五項 検査員ハ区内巡回中左記ノ事件ニ注意シ漸次之ヲ調理スヘシ

米ノ相場

新古酒ノ相場

酒類売捌方ノ景況

酒造ノ純益酒造ノ盛衰及酒造一般ノ事情

第十六項 酒稅ハ通脫逃瀧ノ弊害多キモノナルカ故ニ監督員并ニ検査員於テ常ニ其ノ実況ニ注意シ、弊害ヲ未萌ニ防

遏スルコトヲ務ムヘシ

第十七項 通稅ヲ謀ラン為メ其ノ準備ヲナスモノト思料スルトキハ監督員ハ收稅長及検査員ニ、検査員ハ收稅長及監

督員ニ内報スヘシ、尤此ノ場合ニ於テハ監督員并ニ検査員ニ於テ其ノ時機ヲ失ハサル様取締方ニ注意スヘシ

(以下費式省略)

(昭43 東京 76)

79 明治25年4月 岩手県の間稅分署処務規程

岩手県署直稅分署間稅分署処務規程

訓令丁第三十一号

直稅署

間稅署

直稅分署

間稅分署

直税分署間税分署処務規程別冊之通改定シ、來ル五月一日ヨリ施行ス

明治二十五年四月二十五日

岩手県知事服部一三

直税間税分署処務規程

第一章 組織

第一条 直税分署間税分署ニ左ノ係ヲ置ク

直税分署

庶務係 賦租係 徴収係

間税分署

賦税係 検税係

第二条 間税分署ノ庶務ニ係ル事項ハ直税分署庶務係ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第三条 分署ニ署員若干名ヲ置キ収税屬及ヒ雇員ヲ以テ之ニ充ツ

第二章 章程

第四条 分署長ハ上官ノ指揮監督ヲ受ケ署内一切ノ事務ヲ処弁ス

第五条 分署長ハ分署一切ノ事務ニ就キ其ノ責ニ任ス

第六条 分署員ハ分署長ノ指揮ヲ受ケ各担任ノ事務ヲ整理ス

分署長事故アルトキハ上席収税屬内部ノ事務ヲ代理ス

第七条 左ノ事項ハ分署長ニ委任シテ之ヲ処分セシム

一 徴税令書發付ノ事

一 財産差押命令書發付ノ事

一 租税ノ納額ヲ收入官吏へ通知スル事

一 徴税令書中金員ヲ除クノ外誤記脱漏ヲ訂正スル事

一 署員ノ休暇・病氣・引忌引届ヲ承認シ及ヒ除服出仕ヲ命スル事

一 分署員ヲ部内へ出張セシムル事

一 分署小使進退ノ事

一 分署員ノ分掌ヲ定ムル事

一 登記事務ニ就キ登記所ニ出頭スル事

第八条 前条第九項ノ登記事務ニ関シ分署長事故アルトキハ署員(賦税)ヲ以テ之ニ充ツ

第九条 分署長自ラ所轄外ニ出張シ又ハ分署員ヲ所轄外ニ出張セシメントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ、知事へ稟申ス

ヘシ

但シ時期緊急ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ執行シ其ノ旨具申スルコトヲ得

第十条 成規定例ナキモノ又ハ処分上疑義ニ涉ルモノアルトキハ凡テ収税長ノ指揮ヲ受クヘシ

第三章 分掌

第十一条 成規定例ニ照シ分署各係ニ於テ処分スヘキ事務ノ項目左ノ如シ

直税分署 庶務係

一 分署員及ヒ小使ノ身分ニ関スル事項

一 分署用官印ヲ管守スル事項

- 一 文書ノ收受發送ニ関スル事項
- 一 文書ノ編綴及ヒ保存ニ関スル事項
- 一 各係ノ主管ニ屬セサル事項

直税分署 賦租係

- 一 直接国税ノ予算及ヒ賦課免除並ニ過誤納ニ関スル事項
 - 一 土地台帳及ヒ地図整理ニ関スル事項
 - 一 土地検査ニ関スル事項
 - 一 直接国税賦課現計書及報告ヲ調製スル事項
 - 一 土地台帳謄本下付ニ関スル事項
 - 一 地租延納ニ関スル事項
 - 一 所得税台帳整理ニ関スル事項
 - 一 直接国税調定ニ関スル証憑書類ノ整理及各明細書調製ニ関スル事項
- 直税分署 徴收係
- 一 租税収入ニ関スル事項
 - 一 租税ノ歳入及ヒ決算ニ関スル事項
 - 一 国税滞納処分ニ関スル事項
 - 一 市町村交付金ニ関スル事項

間税分署 賦税係

- 一 間接国税予算及賦課免除并ニ過誤納ニ関スル事項
- 一 間接国税諸台帳整理ニ関スル事項
- 一 間接国税(酒^飲、^糖、^紙)營業及ヒ船鑑札下付並ニ車検印ニ関スル事項
- 一 印紙類売捌願(元^紙、^紙、^紙)ニ関スル事項
- 一 間接国税賦課現計書及ヒ報告調製ニ関スル事項
- 一 酒造營業者納税保証ニ関スル事項
- 一 煙草製造營業者約状ニ関スル事項
- 一 間接国税調定ニ関スル証憑書類ヲ調理シ及過誤納明細書調製ニ関スル事項
- 一 市ノ菓子製造税ヲ調査スル事項
- 一 酒造及煙草營業者ヨリ徴スル物件保管ニ関スル事項

間接分署 検査係

- 一 間接国税検査ニ関スル事項
- 一 間接国税違犯者ニ関スル事項
- 一 間接国税検査台帳整理ニ関スル事項
- 一 煙草壳粟印紙交換審明及証明ニ関スル事項
- 一 間接国税諸報告ニ関スル事項
- 一 船間数検査ノ事項

第四章 文書取扱

第十二条 凡ソ分署ニ到達スル一切ノ文書物件ハ分署長之ヲ受ケ庶務係ヲシテ受付件名簿ニ記載、主任へ配付セシムヘシ

但シ地租ニ関スル文書ハ地租事務整理表ヲ以テ收受件名簿ニ兼用スヘシ

第十三条 主任ニ於テ配付ヲ受ケタル文書ハ二日以内ニ之ヲ処理スヘシ

第十四条 凡ソ分署ヨリ発スル文書ハ分署長名又ハ分署名ヲ用フヘシ、其ノ計算ニ関スル書類及ヒ特別ノ例規アルモノハ此ノ限りニアラス

第五章 宿直

第十五条 宿直ハ直税分署間税分署ヲ通シテ其ノ署員(分署長ヲ除ク)一名ツ、交代之ニ充ツ、其ノ時間ハ退署時限ヨリ参署時限迄トス、但シ休暇日ハ当期節ノ参署時限ヨリ翌日ノ参署時限迄トス

第十六条 宿直ハ休暇日ト当日トヲ分チ分署長ニ於テ日割ヲ定メ其ノ前日之ヲ通知スヘシ

但シ署員出張ノ場合ニ於テハ臨機順番ヲ変更スルコトヲ得

第十七条 宿直員ハ分署内一切ノ取締ヲ担任スヘシ

第六章 服務心得

第十八条 分署長以下署員出勤シタルトキハ先ツ自ラ出勤簿ニ捺印シテ後事務ニ従事スヘシ

第十九条 出勤簿ハ分署長席ニ備ヘ置キ出勤時限ニ至レハ分署長之ヲ点檢シ、遅参・病氣・出張等ノモノハ各其ノ印ヲ押捺スヘシ

但シ小使モ本文ニ準ス

第二十条 病氣又ハ事故アリ出勤シ能ハサルモノハ昇署時限届出ヘシ、其ノ病氣四日を超ヘ毎日、五日目ヨリ引籠届

ヲ出シ、十五日以上ニ渉ルトキハ医案ヲ添ヘ届出、尚ホ数月ニ及フトキハ三十日毎ニ其ノ病状ヲ届出ヘシ

第二十一条 転地療養若クハ帰省ヲ請願セントスルトキハ往復ノ日數ヲモ予定シ、分署長及ヒ収税長ヲ經由シテ願出ヘシ、若シ分署所在地外ニアリテ賜暇追願シタルトキハ其ノ旨分署長へ通報スヘシ

第二十二条 分署長転免アリタルトキハ引継目録及ヒ演舌書ヲ作り七日以内ニ後任者又ハ代理者へ引継、双方連署ヲ以テ収税長へ申報スヘシ

但シ分署員ハ分署長ノ指示スル処ニ依ルヘシ

第二十三条 分署員ハ退署時限ヲ過ルモ分署長在署ノ間ハ退署スルヲ得ス

第二十四条 間接国税検査員ハ本章服務心得ノ外尚ホ明治二十年六月二十一日日本県内訓ノ服務心得ヲ踐行スヘシ

(平 12 東京 509)

80 明治25年5月 岩手県の間税分署事務取扱手続

発第二七号

直税分署間税分署事務取扱手続別冊之通相定ム

明治二十五年五月三十一日

収税長田鎮義孝

水沢直間税分署長服部武温殿

直間税分署事務取扱通則

第一条 国税滞納処分土地検査及ヒ間税検査ノ為メ所轄内署員ヲ巡回セシムルトキハ別紙第一号様式ノ命令簿ニ記載

シ、本人ヲシテ承印セシムヘシ

但シ本文外ノ出張巡回ヲ要スルコトアルトキハ庶務規程第九條ニ拠リ承認ヲ受クル後、本條ノ手續ヲ為スヘシ
第二條 分署員ノ事務分掌ヲ定メタルトキハ別紙第一号様式ノ命令簿ニ記載承印セシメ其ノ時々収税長ニ申報スヘシ
但シ変更モ亦本文ニ全シ

第三條 凡ソ分署ヨリ發スル文書ハ發遣件名簿ニ記入、本署ニ番号ヲ付シ發送ノ手續ヲ為スヘシ

第四條 回議決判濟ノ上ハ之ヲ庶務係ニ交付スヘシ

庶務係ハ前項ノ文書ヲ受ケタルトキハ之レカ淨書ヲ為シ主任ト校合ノ上發送ノ手續ヲ為スヘシ

但シ簿記式及ヒ本署ニ添付スヘキ表式等ノモノハ主任ニ於テ淨書スヘシ

第五條 秘密文書ノ收受發遣ハ別ニ其ノ件名簿ヲ製シ置キ事ノ漏洩セサル様注意取扱フヘシ

第六條 主任ニ於テ配付ヲ受ケタル文書ニシテ事故アリ期日内ニ処理シ能ハサルモノハ、別紙第二号様式ノ延期件名簿ニ其ノ事由ヲ記入シ分署長ノ承認ヲ受クヘシ

第七條 庶務係ニ於テ主任ヨリ結了濟ニ係ル文書ノ交付ヲ受ケタルトキハ受付又ハ發遣件名簿ニ結了ノ印ヲ押捺シ之

ヲ編冊スヘシ

第八條 分署員ノ出勤簿ハ其ノ月分翌月三日限り収税長ニ進達スヘシ

第九條 分署ニ於テ取扱タル事務ノ件數ハ別紙第三号様式ニ做ヒ之ヲ調整シ、前半年分ハ十月十五日限り、後半年分

ハ翌年四月十五日限り進達スヘシ

第十條 令通用紙ノ受払表ハ別紙第四号様式ニ做ヒ取調之ニ損傷紙ヲ添付シ、毎年七月末日限り進達スヘシ

第十一條 分署ニハ日誌ヲ備ヘ置キ參考トナルヘキ事項ヲ記入スヘシ、但シ開庁時間外ハ宿直員ニ於テ仍ホ文書ノ發

着等ヲ記入スヘシ

第十二條 宿直中分署ニ到達スル文書ハ左ノ區別ニ從ヒ送付スヘシ

一 電報郵便別配運態夫等ノ至急送達ニ係ルモノハ直ニ分署長ニ回付シ、其ノ他名宛ノモノハ当人ヘ送付スヘシ

但シ態夫ノ送達ニ係ルモノハ該態夫ヲ留置キ收受者ニ就キ返信發送ノ有無ヲ問合スヘシ

一 通常ノ文書及物品等ハ翌日庶務係ニ引繼、庶務係ハ受領ノ証トシテ日誌ニ記載シタル該當ノ箇所ニ認印ス

ヘシ

但シ翌日休暇ナルトキハ日誌ニ対照交代員ト受授スヘシ

第十三條 分署長ノ許可ナクシテ分署備置ノ書類等ヲ人民ニ示シ、又ハ私事上他人ヲ事務室ニ入ラシムルコトヲ得ス

第十四條 分署小使ノ辞令書ニハ分署名ヲ用フヘシ

第十五條 旅費其ノ他ノ請求書等ハ分署長ヲ經テ差出スヘシ

但シ調査ノ証トシテ分署長認印スヘシ

第十六條 出張巡回ノ命令アリタルトキハ分署長ハ其ノ日割ヲ予定シ、別紙第五号様式ノ巡回予定簿ニ記入ノ上認印

セシムヘシ

但シ方面分派中ニ係ルモノハ本條ノ限りニアラス

直税分署事務取扱手續(省略)

間税分署事務取扱手續目次

第一章 賦稅係

- 第一款 諸願届ノ調理
 - 第二款 鑑札ノ取扱
 - 第三款 台帳整理
 - 第四款 間接国税賦課
 - 第五款 過誤納下戻
 - 第六款 免税調査
 - 第七款 現計書及報告
 - 第八款 過誤納額明細書及証憑書類調理
 - 第九款 酒造保証ニ関スル取扱
 - 第十款 煙草証約状取扱
- 第二章 検税係
- 第一款 台帳成蹟表報告
 - 第二款 煙草証約金ニ関スル事項
 - 第三款 犯則ニ関スル事項
- 間税分署事務取扱手続

第一章 賦税係

第一款 諸願届ノ調理

第一条 諸願届書ハ精細調査ヲ為シ尚書式アルモノハ其ノ書式ニ照シ処理ノ手続ヲ為スヘシ

但シ願届書ニ附属スル絵図面ニシテ検税係ニ關係アルモノハ其ノ時々同係へ回付スヘシ

第二条 諸鑑札ノ売買譲与又ハ転居ノ為メ他管庁へノ添翰ヲ願出ルモノアルトキ、若クハ免税船ノ定繫場ニ帰航ヲ届出ルモノアルトキハ之ヲ審査シ、分署名ヲ以テ添翰又ハ証書ヲ下付スヘシ

船税規則第三条ニヨリ仮鑑札ノ下付ヲ願出テタルトキハ調査ノ上之ヲ下付シ、其ノ旨定繫場所在ノ間税分署ニ通知スヘシ

第三条 印紙類売捌人ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ住所姓名ヲ所在印紙類元売捌所若クハ其ノ支店代理店ニ通知スヘシ

第二款 鑑札ノ取扱

第四条 諸鑑札ノ割印ハ分署印ヲ用フヘシ

第五条 自家用料酒免許鑑札ハ市町村長ヲ經由シ、其ノ他ノ鑑札ハ本人ニ下付スヘシ

第三款 台帳整理

第六条 間税賦課ニ関スル諸台帳ハ第一号ヨリ第十九号ニ至ル様式ニ拠リ調理スヘシ

但シ造石税賦課ニ係ル石数ハ検税係ノ通牒ニヨリ記入スヘシ

第七条 間税賦課ニ関スル売葉税ハ内務部第三課ヨリ、鉾業税鉾区税及菓子製造税ハ間税署賦課課ヨリ通牒ヲ得タルトキ各其ノ台帳ニ記入スヘシ

第四款 間接国税賦課

第八条 間接国税ヲ賦課スルトキハ諸台帳ニ拠リ賦課額ヲ定メ第二十号様式ノ徵税元帳ニ記入シ、之ニヨリ徵税合書ヲ調製シ、市町村長又ハ納税人ニ発付スヘシ

度量衡税・銀行税・銃猟税ヲ賦課スルトキハ内務部第二課郡役所警察署警察分署ノ通報ニ依リ前項ノ手続ヲ為

スヘシ、徵稅令書ヲ發付シタルトキハ其ノ納額ヲ通知スル為メ徵稅元帳ヲ收入官吏ニ回致シ、收入官吏ハ之ニ認
印ヲ為シ返付スヘシ

第九条 徵稅令書發付後稅金徵收以前ニ於テ減額ヲ要スルトキハ第二十二号様式ニ拠リ減額證書ヲ調製シ、之ヲ市町
村長ニ發付スヘシ

但シ本文ノ場合ニ於テハ之ヲ收入官吏ニ通知スヘシ

第十条 徵稅令書發付後令書面ニ誤記脱漏(除官)アルヲ發見シタルトキハ其ノ時々之ヲ訂正シ、同時ニ收入官吏ニ
通報スヘシ

但シ訂正ノ箇所ヘ認印スヘシ

第十一条 市町村ヲシテ徵收セシムル間接國稅ニシテ開廢業及一人別賦課額ニ異動ヲ生シタルトキハ市町村長ニ通報
スヘシ

第五款 過誤納下戻

第十二条 間稅ニ關スル過誤納下戻願書ヲ差出シタル者アルトキハ調査ノ上許可証ヲ下付スヘシ

第十三条 前条願書ニ対シ許可証ヲ付与シタルモノ及賦課額ノ減稅、若クハ免除ノ指令達ニ依リ生シタル既納金下戻
請求書等ヲ差出シタルトキハ、之ヲ調査シ分署長認印ノ上知事ニ進達スヘシ

〔二十六年八月發第十九号達ヲ以テ削除〕

第十四条 徵稅令書主記載方ノ誤謬ニ依リ生シタル過誤納金ヲ發見シタルトキハ、該金眞稅年度納期事申及納稅人
ノ住所氏名等ヲ取調知事主稟申サスヘシ

第十五条 総テ過誤納金ハ第二十一号様式ニ依リ調製整理スヘシ

第六款 免稅調査

第十六条 造石稅免除ヲ願出タルモノアルトキハ間稅官吏ノ檢定審ニ拠リ許可ノ手續ヲ為スヘシ

第十七条 前条免除ヲ要スルモノニシテ既納ノ稅金アルトキハ納期金額等ノ仕訳書ヲ作り願書ニ添付シ置クヘシ

第七款 現計書及報告

第十八条 間接國稅賦課現計書ハ第三十四号様式ニ拠リ調製シ期限ニ從ヒ進達スヘシ

第十九条 賦稅ニ關スル諸報告ハ第二十九号ヨリ第三十三号ニ至ル様式ニ拠リ調製シ各期限ニ從ヒ進達スヘシ

第八款 過誤納額明細書及証憑書類調理

第二十条 過誤納額明細書ハ二十三年大藏省訓令第四百二十四号ニ依リ調製シ九月五日限り進達スヘシ

第二十一条 間接國稅調定ニ關スル証憑書類ハ明治二十四年本県訓令丁第四四号及同年發第一〇〇号達ニ拠リ編綴保
管シ置クヘシ

第二十二条 酒類造石檢査簿(課税石檢査簿ニ係ル分)及醬油造石檢査簿(課税釀造ハ翌年二月十日ニ至リ檢稅係ヨリ受領シ目錄ヲ付シ之
ヲ保管シ置クヘシ)

但シ目錄ハ税目分ケ種類分トシ石數人員ヲ記載スヘシ

第二十三条 船舶測定規則ニ依リ取扱タル書類並ニ菓子製造稅及鳥獸獵ニ關スル証憑書類ハ所在郡役所警察署警察分
署ノ送付ニ拠リ編綴保管シ置クヘシ

第二十四条 証憑書類ハ會計年度後一ヶ月以内ニ総目錄ヲ付シ置クヘシ

第九款 酒造保証ニ關スル取扱

第二十五条 酒造營業手續第一条ニ依リ其ノ所有ノ不動産価格調書ヲ差出シタルトキハ其ノ当否ヲ調査処理スヘシ

第二十六条 保証物又ハ保証人認可ニ要スル財産ノ標準ハ左ノ各項ニ拠ルヘシ

税則第一条二項ノ一ニ当ルモノハ造石税四分ノ三以上トス

全 二ニ当ルモノハ造石税四分ノ二以上トス

全 三ニ当ルモノハ造石税四分ノ一以上トス

第二十七条 繼續營業者前年期ニ於テ差入レタル保証物ヲ尙ホ当期ニ於テ差入レンコトヲ申請シタルトキハ之ヲ認可スルコトヲ得

第二十八条 施行細則第九条ノ場合ニ於テハ保証物又ハ所有財産価格充分ニシテ納税上懸念ナシト認ムルモノハ之ヲ増徴セサルモ妨ナシ

第二十九条 保証物ニシテ左ニ掲クルモノハ實際売買ノ価格ニ拠ルヘシ

一 土地、建物

一 株券、債券、公債証券

第三十条 保証物ノ種類ハ施行細則第四条ニ掲クルモノ、外尙時宜ニ依リ国立銀行ノ現金預券ヲ以テ保証ニ供セシムルコトヲ得

第三十一条 保証物ヲ差出シタル後價格ヲ減少セシトキハ他ノ物件ヲ以テ之ヲ補充セシムルカ又ハ保証人ヲ立テシムヘシ

第三十二条 保証物又ハ保証人ヲ要セサルモノニシテ税則第一条二項ニ該当スル場合ニ至ルモ其ノ年期中ハ保証物又ハ保証人ヲ要セサルモノトス

第三十三条 保証物并ニ保証書ハ主管官吏ニ於テ保管スヘシ

第三十四条 保証物ノ預証書ハ明治廿三年十月発第一五三号達ニ拠リ之ヲ付与スヘシ

第三十五条 保証人ニ付テハ資産調査ヲ徴シ第二十六号標準ニ照シ其ノ当否ヲ審査スヘシ

保証人ハ所得税ヲ納ムル者ト雖モ一時ノ所得ニ止ルモノハ保証人タルヲ許サ、ルヘシ

第三十六条 保証物又ハ保証人ヲ認可スルトキハ明治廿五年本県訓令丁第三十七号ニ準シ認可証ヲ下付スヘシ

第三十七条 造石税不納ノ場合ニ於テ保証物ノ処分ニ及フトキハ実況ヲ具シ指揮ヲ請フヘシ

保証人ニ係ルモノハ先ツ營業者ノ滞納処分ヲ決行シ次ニ保証人ニ及フヘシ

但シ保証人ニ於テ代償ヲ為サ、ルトキハ其ノ旨申報スヘシ

第十款 煙草証約状取扱

第三十八条 煙草製造者証約金額ノ指定并ニ保証人ノ承認ヲ請フトキハ明治廿一年第十一号達ニ拠リ取扱フヘシ

保証人ニ就テハ資産調査ヲ徴シ審査ノ上承認ヲ与フヘシ、所得税ヲ納ムルモノト雖モ其ノ所得一時ニ止ルモノ

ハ保証人タルヲ許サ、ルヘシ

第三十九条 所得税ヲ納ムル保証人ヲ得ル能ハサル場合ニ於テハ身元健カナリト認ムルモノニ限り保証人ヲ立テシムルモ妨ナシ

第四十条 保証人ヲ得サル場合ニ於テハ抵当物ヲ差出し代充セシムルコトヲ得、其ノ種目價格ハ左ノ如シ

一 公債証券ハ明治廿年大蔵省訓令第四十八号ニ拠ル

一 国立銀行及政府ニ於テ利益ヲ保証スル会社ノ株券ハ時価ノ七割

一 国立銀行又ハ確實ト認ムル私立銀行会社ノ現金預リ証券ハ其ノ金額ノ七割

一 土地ハ地価ノ七割、但シ実況ニヨリ売買價格ノ五割

第四十一条 抵当物并ニ保証書ハ主管官吏ニ保管セシムヘシ

第四十二条 証約状記入金額ノ増減必要ノ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ具シ指揮ヲ受クヘシ

但シ器械・雇人員・建坪ニ異動ヲ生シタルモノハ証約金ノ増減ヲ要セス

第四十三条 証約金ノ徴収ニ回以上ニ及フモノハ既定金額十分ノ五以内ノ増額ヲ命スルコト得 此ノ場合ニ於テハ其ノ旨申報スヘシ

第四十四条 証約状記入金額ノ増減又ハ保証人抵当物等ノ交換ニ依リ改徵ヲ要スル場合ハ其ノ改徵前ニ係ル証約 又ハ保証ノ義務ニ就テモ責任ヲ負フヘキ條款ヲ補足セシメ、五日以内ニ証書ヲ改徵スヘシ

第四十五条 保証人資産ヲ失ヒ其ノ他不適當ト認メタルトキハ之ヲ変更セシムヘシ

第四十六条 証券及土地ヲ以テ抵当トナセシ証約状ハ第三十八号書式ニ拠リ取扱フヘシ

第四十七条 証約金徴収ノ達書ハ本人ニ送付シ同時ニ徴収金額ヲ收入官吏ニ通報スヘシ

第四十八条 保証ノ為メ抵当ヲ差出シタルモノ証約金徴収ノ達ヲ受ケ之ヲ納メサルトキハ該抵当物処分ノ指揮ヲ請フヘシ

第四十九条 証約金ノ一部又ハ全部ヲ徴収シ若クハ其ノ他ノ事故ニ由リ証約状ノ交換ヲ為サシムルニ當リ、其ノ指揮

ニ従ハサル場合ニ於テハ免許鑑札ヲ取上ケ其ノ旨申報スヘシ

第五十条 営業停止後本人又ハ保証人ニ於テ証約金額ヲ完納シ繼續營業ヲ為スモノハ新規營業ノ手續ニ拠リ鑑札ヲ下付シ其ノ旨申報スヘシ

第五十一条 証約状ヲ徴収トキモシタルトキハ住所・姓名・抵当物件ノ種類・金額・番号・枚数、土地ハ字・地目・反別・地価保、証人ハ住所姓名ヲ記載申報スヘシ

但シ還付シタルトキハ其ノ旨申報スヘシ

第五十二条 煙草製造人移転ノ際所管間税分署ヲ異ニスルトキハ甲間税分署ニ於テ証約金台帳ヲ除却シ、該証約状ヲ

乙間税分署ニ回送シ、同所ニ於テハ台帳ニ記入済ノ上、甲間税分署ニ通報スヘシ

乙間税分署ニ於テハ証約金台帳ニ記入ノ上其ノ旨申報スヘシ

第五十三条 廃業者アリタルトキハ裁判所警察署間税署ニ照会、犯則事件処分ニ係ルモノナキニ於テハ証約状ヲ下展スヘシ

第五十四条 証約金台帳ハ第廿三号様式ニヨリ調製整理スヘシ

第二章 検税係

第一款 台帳成蹟表報告

第五十五条 検査ニ関スル諸台帳及成蹟表ハ第廿四号ヨリ第廿七号ニ至ル様式ニ拠リ整理スヘシ

第五十六条 検査及査定済ニ係ル酒類並ニ溜石数ハ毎納期造石確定後五日以内賦税係ニ通報スヘシ

但シ酒造税則第十条第二項、醬油税則第六条第一項ニ係ル造石確定高、又ハ一時徴税ヲ要スルモノハ其ノ時々賦税係ニ通報スヘシ

第五十七条 酒造税則第十八条免除酒類石数(自前年十月一日起至本年五月三十一日)分ニ回ニ調査シ、各翌月五日マテニ賦税係ニ通報スヘシ

第五十八条 検税ニ関スル諸報告ハ第三十五号ヨリ第三十七号ニ至ル様式ニ拠リ調製進達スヘシ

前項報告ノ外税務上参照トナルヘキモノハ其ノ時々報告スヘシ

第五十九条 造石税免除願書ヲ賦税係ヨリ回付シタルトキハ臨検ノ上第廿八号書式ニ依リ検定書ヲ作り、願書ト共ニ

賦税係ニ回付スヘシ

第二款 煙草証約金ニ關スル事項

第六十条 証約状記入金額ノ増減ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ人名・金額・事由等取調、賦税係へ通牒スヘシ
第六十一条 煙草製造人ノ税則違犯ハ裁判官渡書寫若クハ分署長通告書寫(履行セシキニ限ル)及臨檢調書寫並ニ營業上平素ノ状況、初犯再犯ノ區別証約金徵収見込額ヲ取調申報スヘシ

第三款 犯則ニ關スル事項

第六十二条 脱税ニ係ル追徴金ハ通告履行済又ハ裁判確定後其ノ年度及金額ヲ賦税係ニ通牒スヘシ

第六十三条 告発及訴求事件ニ關シ裁判所へ出廷シタルトキハ其ノ訊問応答ノ要旨ヲ申報スヘシ

第六十四条 間接国税犯則者処分法第十一条及第十六条ニ拠リ收入スル納金アルトキハ納証ヲ調査シ分署長ノ認印ヲ得、之ヲ收入官吏ニ送付スヘシ

〔様式記載なし〕

(平12 東京 509)

81 明治27年12月 岩手県の収税署事務取扱手續

岩手県収税署事務取扱手續

第一章 通則

第一条 署員ノ事務分掌ヲ定メタルトキハ第一号様式ノ命令簿ニ記載承印セシメ其ノ時々収税部長ニ申報スヘシ、但

シ変更シタルトキ亦同シ

第二条 署員ヲ出張セシムルトキハ第二号様式ノ出張命令簿ニ記載シ承印セシムヘシ

間税検査ニ係ルモノハ第三号様式ノ指示簿ニ記載シ承印セシムヘシ

第三条 署員出張ノ命令ヲ受ケタルトキハ其ノ日割ヲ予定シ第四号様式ノ巡回予定簿ニ記入ノ上署長ノ認印ヲ受ケヘシ

第四条 署員ノ出勤簿ハ第五号様式ニ依リ之ヲ調製シ其ノ月分翌月三日限り収税部長ニ通達スヘシ

第五条 収税署ニ日誌ヲ備ヘ置キ他日參考トナルヘキ事項ハ署長自ラ之ニ記入スヘシ、但シ開庁時間外ハ宿直員ニ於テ之ニ記入スヘシ

第六条 收受シタル文書ハ署長自ラ第六号様式ノ件名簿ニ記入シ署員ニ配付スヘシ、但シ地租ニ關スル願届書及登記

通知書ハ該整理表ヲ以テ兼用シ收受件名簿ニハ記入ニ及ハス

発遣ニ係ル文書モ前項ニ準ス

第七条 処分議案ハ第七号様式ニ依リ起草シ、決判済ノ上ハ立案者自ラ淨書校合ノ上發送ノ手續ヲ為スヘシ

第八条 收受文書ニシテ別ニ処分ヲ要セサルモノハ第八号様式ニ依リ回覧ニ供スヘシ、但シ原議ヲ要セス又ハ一時限ノ事項ニ係ルモノ、如キハ余白ニ記入シ一覽用紙ヲ用ヒサルモ妨ケナシ

第九条 秘密文書ノ收受發遣ハ第六号様式ニ準シ別ニ其ノ件名簿ヲ製シ置キ署長自ラ第七条ノ手續ヲ為スヘシ

第十条 間税ニ關スル願届書(酒造ヲ除ク)ヲ收受シタルトキハ左ノ印ヲ押用シ、署員合議署長ノ決判ヲ經テ台帳ヲ加除スヘシ、但シ船車ハ檢定ノ上本項ノ手續ヲ為スヘシ

署長	署員	主任
鑑札下付		
烙印	明治	年 月 日
台帳加除		

第十一条 收税署ニ於テ取扱タル事務ノ件數ハ第九号様式ニ依リ調製シ前半分ハ十月十五日限り、後半分ハ翌年四月十五日限り收税部長ニ進達スヘシ

第十二条 令適用紙ノ受払ハ適宜帳簿ヲ備ヘ記入シ置キ第十号様式ニ依リ受払表ヲ製シ之ニ摺換用紙ヲ添付シ、翌年一月中收税部長ニ進達スヘシ

第十三条 審願届ニ対シ許可ヲ与フルモノハ明治二十五年勅本県訓令丁第三十七号書式ニ依リ之ヲ下付スヘシ、但シ認可ヲ与フルモノモ本文ニ準ス

第十四条 前条ノ許可又ハ認可ヲ与フヘカラスト認ムルモノハ処分案ヲ作り本庁ニ回付シ裁決ヲ受クヘシ

第十五条 署員ヨリ差出スヘキ旅費其ノ他ノ請求書等ハ署長ヲ經由シ、署長ハ調査ノ証トシテ認印スヘシ

第十六条 保証書類ハ署長之ヲ保管スヘシ

有価証券ヲ以テ保証物ニ充ツルモノアルトキハ明治二十六年勅本県訓令丁第五十号ニ依リ取扱フヘシ

第十七条 酒造醬油煙草製造營業人及印紙売捌人ノ開廢業其ノ他ノ異動ニ係ルモノハ其ノ時々收税部長ヘ申報スヘシ

第十八条 惣テ報告スヘキモノニシテ期限迄ニ進達ナキトキハ報告スヘキ事項ナキモノト認ムルニ付、報告スヘキ事

項アリテ期限ニ從ヒ難キ場合ハ速ニ其ノ事由ヲ收税部長ニ兩申スヘシ

第二章 直税(省略)

第三章 間税

第一節 酒造税 附自家用料酒

第五十四条 酒造税法施行手続第一条第二条第五条ノ免許申請ヲ受ケタルトキハ酒造税法及同法施行規則ニ照ラシ免許手続ヲ為スヘシ

続ヲ為スヘシ

第五十五条 營業免許ノ左ノ要領ニ依リ取扱フヘシ
前条其ノ他ノ申請ニ対スル免許ノ指令ハ左ノ書式ニ依リ下付スヘシ

指令第	号
署印ヲ以テ申請 書ト割印ノ專	国郡市町村大字番戸
	(業名)
	氏名
明治何年何月何日付申請(酒類(酒母又ハ麴)製造)(酒類継続製造)(酒造場移転)(酒類変更)(其ノ他ノ申請モ其ノ事故ヲ詳記ス)之件、開届ク	
年 月 日	知事

十 營業者ノ所有不動産価格ノ前年度未納税ヲモ參酌シ進右税四分ノ一以上

十一 保証物又ハ保証人認可主要ナル財産ノ標準小左ノ各項ヲ拠ルハシ

十二 税則第十二条第二項ノ一ニ当ルモノハ進右税四分ノ一以上

十三 同一ニ當ルモノハ進右税四分ノ一以上

十四 同一ニ當ルモノハ進右税四分ノ一以上

十五 保証人ヲ立テシムルモノハ前年度ノ未納税及其ノ前年度ノ進右税ヲ担保セシムルモノトス

税法第十二条ニ依ル酒類造石税免除ノ申請ヲ受ケタルトキハ開税検査手続第四十三条開税官吏ノ報告書

第五十六条 營業者ヨリ所有不動産調書保証物調書及保証人名簿ヲ差出シタルトキハ左ノ事項ヲ精査スルシ

一 依リ署長之ヲ査覈シ、処分按ヲ作り、本庁ニ回付シ裁決ヲ受クベシ

二 調書中ニ記載セル不動産中ニ他ノ酒造場主對シ既主取調文ハ質入書入トナリ居ルモノトナキヤ否

三 保証物トシテ差出シタル物件ノ正当ナルモノ又其ノ物件ノ真実主所有權ヲ有スルモノナルヤト、若クハ正当主所有權ヲ得タルモノナルヤ否

四 保証人ハ十分ニ納税義務ヲ担保シ得ルノ資力アリヤ或ハ多数ノ營業者ヲ担保シ若クハ其ノ資産ノ隠匿他ノ所

有ニ據シ居ルニエラサルヤ否

税法第十三条ノ保証物ヲ提供スルトキハ左ノ調査ヲ為スヘシ

第五十七条 地所建物其ノ他ノ担保物ハ左ノ手續ヲ依リ査定スルシ

一 土地ハ土地台帳ニ照シ地番・反別・地価等相違ナキヤ否

二 地所建物ハ其ノ所在市役所町村役場又ハ区裁判所若クハ其ノ出張所等ニ就テ隣接地現況與価格ヲ求メテ之ヲ標

準トシ、其ノ比例ヲ得サルモノハ適宜見込ヲ立テ決定スルモノトス

三 建物ハ酒類製造場内ノモノナルヤ及火災保険契約成立シアルヤ否

四 株券債券等ハ東京株式取引所最近相場主依リ決定スルモノトス

五 前項主依リ難キモノハ各地ノ時價主依リ

六 有価証券ハ真実ニ所有權ヲ有スルモノナルヤ否

七 株式会社ノ株券債券ハ政府ノ保護又ハ監視ヲ受クルモノナルヤ否

八 第三者ニ於テ酒類製造者ノ為メ保証物ヲ提供スルトキハ前項ノ手續ヲ為スヘシ

九 保証物トシテ提供スル土地建物ハ登記ヲ受ケシメ、金錢又ハ有価証券ハ明治廿三年七月勅令第百四十

第五十八条 査定ノ価格ヲ不当トシ評価ヲ請求シタルトキハ其ノ願末ヲ臬シ收税部長ノ指揮ヲ請フヘシ

十 五号供託規則、同廿六年九月大藏省令第二十一号供託物取扱規程ニ依リ供託手續ヲ為サシメ、供託受領証ト納税

保証書トハ署長之ヲ保管スヘシ

前項供託受領証ニ添ユルニ尚ホ左ノ指定書ヲ徴シ置クベシ

供託物払渡シ指定書

別紙何第何号供託受領証書面ノ金何円(何々國債証券(債券)何番号何円券何枚)酒類造石税ノ納税保証金トシ
テ供託致置候処、供託者ニ於テ酒造税法第十五条ノ場合ヲ生スルトキ其ノ滞納税金ニ充用スル為メ、岩手県何收
税署ニ於テ供託物払渡ヲ受クルモ、聊カ異議之レナキコトヲ証スル為メ此ノ指定書ヲ添付ス

年月日 国都市町村大字番

酒類製造主 氏名印

〔第三者ニ於テ保証物ヲ差出ストキハ、(一)ノ下ニ「酒類製造主氏名印」ヲ加ヘ、「致置候処ノ下イ供託者」ヲ「酒類製造主氏名」トシ、氏名印之肩書「酒類製造」主ヲ削ル〕

施行規則第三十条ニ依リ保証物交換ノ申請ヲ受ケタルトキハ前二条ノ手續ヲ為シ、猶ホ金錢及有価証券第五十九条、譲渡人サシテ価格ヲ評定セシムルキ場合ハ其ノ地所建物の所在市役所町村役場又ハ便宜ノ場所ニ於テ願ハニ保ルトキハ供託受領証ヲ收受シタル後、先ノ供託受領ハ本人ニ還付スヘシ、同規則第二十四条ニ依リ保証物ヲ立余ホ七執行スヘシ
提供セシムルトキ亦同シ

施行規則第廿二条第二項ニ依リ保証物免除ノ申請ヲ受ケタルトキハ左ノ調査ヲ為シ不都合ナキモノハ許第六十条 土地建物ヲ保証トセルモノハ登記ヲ受ケシテ他府県主所有セル土地建物ト係ルトキハ其ノ事由ヲ收税部長可手続ヲ為スヘシ
申報シ、指揮ヲ係テ取扱フ可シ

一 保証人ハ保証契約能力ヲ有スルヤ否

二 保証人ハ十分ニ納税義務ヲ担保シ得ルノ資力アルヤ否

三 保存酒類ハ實際保存ニ堪ユルモノナルヤ否

四 保存酒類ノ時価ハ市価ニ対シ適當ナルヤ否

施行規則第廿七条及廿九条ニ依リ保証人又ハ保存酒交換ノ場合モ前各号ノ手續ヲ為スヘシ

酒類ヲ保存シ保証物ニ代ユルトキハ前月中ノ卸売時価平均ノ七割ヲ以テ算定スヘシ

第六十一条 保証物又ハ保証人ヲ許可セルトキハ処分案ヲ作り本庁ニ届付シ裁決ヲ受クヘシ

造石税ヲ前納シ保証物ノ免除ヲ申請スルモノアルトキハ第四章第百七条以下ノ規定ニ依ルヘシ

第六十二条 税則第十八条ノ酒類ヲ製造セントセルモノアルトキハ其ノ製造方法ヲ調査シ其ノ造石税免否ノ処分案ヲ作り本庁ニ届付シ裁決ヲ受クヘシ

保存酒容器ノ変更ヲ申告シタルトキハ該申告書ハ保証書ニ添付シ置クベシ

第六十三条 末災其ノ他非常ノ損害ヲ係リタル酒類ノ造石税ノ開税検査手續第四十八条開税官吏ノ報告書ニ依リ審長ニテ検査シ処分案ヲ作り本庁ニ届付シ裁決ヲ受クヘシ

間税検査手續第三十七条ニ依リ開税官吏ヨリ査定造石税ノ通知ヲ得タルトキハ、本人ヨリ提供シタル納第六十四条 造石税不能ノ場合ニ於テ滞納処分ノ末保証物ノ処分ヲ為セントセルトキハ其ノ寒況ヲ具シ收税部長ノ指揮保証書又ハ保証物免除申請トニ照ラシ、其ノ造石税ノ当否ヲ調査シ相違ナキヲ認め前各条ノ手續ヲ為スヘシ
ヲ請フヘシ

保証人ト係ルモノハ先ツ營業者ノ滞納処分ヲ決行シ次ニ保証人ト及ブヘシ
但シ保証人ト於テ代償ヲ為サントキハ其ノ管收税部長ニ申報スヘシ

税法第廿二条ニ対スル通告ヲ履行シ若クハ裁判確定シタルトキハ直ニ第四章第百七条以下ノ手續ヲ為第六十五条 自家用料酒製造ノ届書ヲ受ケタルトキハ酒造税則及自家用料酒製造人心得書、並ニ明治十九年甲本県スヘシ、税法第廿一条ノ場合亦同シ

甲第百十号自家用料酒製造手續ヲ徴シ鑑札ヲ付シ手續ヲ為スヘシ

間税検査手續第十一条ニ依リ遺税ヲ謀ル所為アリト認めタル旨開税官吏ノ通知ヲ受ケタルトキハ能ク其第六十六条 焼酎、酒精等ノ製造ヲ届出タルトキハ其ノ重量十石以上ヲ超過スルヤ否ヲ調査シ、若シ飲用ノ適ニ

ノ実況ヲ審按シ、税法第七条ニ該当スト認ムルトキハ前条ノ取扱ヲ為スヘシ
 先貨品キシテ十右以上ヲ超ユルトキハ十右以内ヲ訂正セシムヘシ

前項ノ場合ハ其ノ旨収税部長ニ申報スヘシ

第六十七条 施行規則第三十一条酒類製造主ニ於テ税金ヲ納メザル場合納税保証人ニ通知スルトキハ左ノ通知書ヲ調製シ、分任収入官吏ヲ経テ交付スヘシ

税 額 通 知 書	
第 号	住所
調定元簿ト 割印ス	酒類製造主氏名納税保証人 氏 名
一 金	酒類造石税
右ハ酒類製造主氏名ニ於テ造石税ヲ納メザルニ付、何月何日限り主任収入官吏 官氏名所屬何収税署分任収入官吏官氏名ヘ納入方申出ヘシ 右酒造税法施行規則第三十一条ニ依リ通知ス	知 事
年 月 日	

第二節 自家用酒税

第六十八条 自家用酒税法施行手続第一条第一項ノ免許申請ヲ受ケタルトキハ自家用酒税法及同法施行規則ニ照ラシ
 尚ホ其ノ資格ヲ調査シ免許ノ手続ヲ為スヘシ
 免許ノ指令ハ左ノ書式ニ依リ下付スヘシ

第 号	住所
(一) (二) 種	氏 名
何酒 何酒	年 月 生
自家用酒製造免許	
年 月 日	岩手県

施行手続第一条第二項ノ場合ニ於テモ前項ニ同シ

第六十九条 免許者ニシテ税法第五条ニ該当スルモノアリタルトキハ直ニ該当ノ月ヨリ台帳加除ノ手続ヲ為スヘシ
 第七十条 税法第九条二項ノ場合ハ第四章第百七条以下ノ手続ヲ為スヘシ

第三節 混成酒税

第七十一条 免許申請ヲ受ケタルトキ及ヒ其ノ他ノ手續ニ関シテハ第五十四条乃至第五十六条及ヒ第六十六条ニ準拠スヘシ

第七十二条 酒造税法第廿二条第一項ノ場合ニ於テ通告ヲ履行シ若クハ裁判確定シタルトキハ第四章第百七条以下ノ手續ニ依ルヘシ

第四節 酒精營業稅

七十三

第七十七條 酒精營業及明治廿六年^五勅令第五十八号^二条ノ認許ヲ受ケントスルモノハ願書ヲ受ケタルトキハ酒精營業税法及勅令第五十八号並酒ニ精營業税法施行細則、明治廿六年^六勅令第三十六号酒精營業ニ関スル手續等ニ徴シ免許ノ手續ヲ為スヘシ

營業願書又ハ保証金追補願等ニ添付スル供託受領証ハ明治廿三年^七勅令第五百五十四号供託規則、廿六年^九大蔵

省令第廿一号供託物取扱規程ニ照ラシ精査スヘシ

七十四

第七十八條 最初見込石高二対シ増石ヲ為スニ当リ其ノ税額保証金ノ最高額以外ニ出ツルカ或ハ税額最高額以内ニ在リト雖モ、營業者保証金ノ追補ヲ願ハザルトキハ保証金ニ超過スル販売石高二対シ徵稅令書發付ノ手續ヲ為スヘシ

七十五

第七十九條 營業者ニシテ販売見込石量ヲ減少シ保証金ノ減少ヲ乞フトキハ新夕ニ供託受領証ヲ受ケタル後、前ノ供託受領証還付ノ手續ヲ為スヘシ

七十六

第七十條 税法第五條第二項ニ該當スルモノハ其ノ住所氏名等ヲ台帳ニ記入シ、住所氏名変更ヲ届出タルトキハ其ノ都度台帳ヲ整理スヘシ

七十七

第七十一條 營業者他ノ府県へ移転セントスルトキハ管内ニ於テ販売シタル數量及供託金高ヲ其ノ移転地ノ管庁ニ通報シ、該管庁ヨリ保証金供託済ノ通知ヲ得テ前ノ供託物ヲ還付スヘシ

前項移転ノ場合ニ於テ税金ノ即納ヲ申出テタルモノアルトキハ其ノ旨移転地ノ管庁ニ通報シ、同時ニ供託物還付ノ手續ヲ為スヘシ

七十八

第七十二條 勅令第五十八号^二条ニ依リ税金免除ヲ乞フ為ニ帳簿ヲ差出タルトキハ同令第六條ノ規定ニ従ヒ照會取調ヲ為シ、月計ノ欄へ免税ノ印ヲ押捺シ其ノ付屬書類ニハ主任者檢印ヲ押捺スヘシ

第五節 醬麴營業稅

七十九

第七十三條 營業願書ヲ受ケタルトキハ醬麴營業稅則取扱心得書並ニ明治廿四年^九勅令第廿三号醬麴營業人心得書ニ徴シ鑑札下付ノ手續ヲ為スヘシ

八十

第七十四條 稅則第六條第七條ニ依リ届出テタルトキハ前條ニ依リ処分スヘシ
〔以下酒稅以外の稅に付省略〕

82 明治27年10月 間接国税検査計画の件

収間第七二一号

間接国税ノ検査ハ検査計画ニ拠リ旅費ヲシテ最モ有効ニ使用スヘキハ勿論ニ候処、動モスレハ一日中半日ハ在署シ半日ハ検査ニ従事シ、収税署所在地内外ヲ混同検査シ、巡回路順宿泊ヲ要スル場合ニ殊更帰署スル等ノ弊ナキヲ保シ難シ、右ハ事衷止ヲ得サルノ外ハ署長ニ於テ認許セサル事トシ、専ラ検査ノ周到ト敏捷トヲ期セラルヘシ、今ヤ軍国多事ノ際特リ此ノ事ノミナラス署員ヲ統率シ、力メテ冗費ヲ汰シ、署務ヲ敏捷ニ処スルハ署長其ノ人ニ在ツテ存ス、深ク注意セラルヘシ

明治二十七年十月二十六日

大分県収税部長

大分県収税長上田恭徳 印

武田収税署長

収税属須田繁殿

83 明治27年11月 収税署長間税検査監督に関する件

収間第七五〇号

一 収税署長間税検査ノ監督ヲナストキハ左ノ要件ニ注意スヘシ

検査ノ事務一般ニ周到ナルヤ否

検査ノ寛厳及時機ノ緩急宜ヲ得タルヤ否

犯則者ノ檢挙可察ニ涉ルノ弊ナキヤ否

諸税ノ消長ハ万般ノ現象ニ徴シ適當ナルヤ否

間税官吏ト營業人トノ關係及検査執行上一般ノ感觸如何

一 収税署長ハ殊ニ間税官吏執務ノ時間、巡回ノ順路及検査ノ実績ヲ検査手帳ト実地トニ対照シ周密監督スヘシ

一 収税署長ハ監督日誌ヲ調製シ監督ノ始末ヲ詳記シ其ノ実績ヲ明瞭ナラシムヘシ

一 収税署長監督ヲナシタルトキハ直ニ監督上ノ実況及右ニ關スル意見ヲ申報スヘシ

右内訓ス

明治二十七年十一月七日

大分県収税部長

大分県収税長上田恭徳

竹田収税署長

収税属須田繁殿

今般大蔵省令第十五号公布相成、従前府県ニ於テ發布アリタル命令廢止アリタルニ就テハ左ノ各項ヲ心得処理スヘシ

明治三十年十月七日

東京稅務管理局長仁尾惟茂 印

- 一 大蔵省令第十五号ヲ以テ酒類製造主又ハ自家用酒製造申請者ノ準拠スヘキ様式ヲ示サレタルモ、右様式ニ拠ラサル書類ト雖モ、申請申告ノ要領ヲ失ハサル限リハ總テ受理スヘキモノトス
- 二 酒類ノ製造出入二關スル帳簿様式ニ付テハ別ニ規定セラレタルモノ無之モ、記載スヘキ事項ハ施行規則第四十三條ニ明記シアルニ由リ、從來ノ慣行ニ從ヒ可成一定ニ出ツル様検査監督スルコト
- 三 新酒古酒若クハ四月末日迄ノ査定済酒類ト其レ以後ニ於ケル査定済酒類ト混和スルトキ、其ノ石数ヲ容器及帳簿ニ記載スヘキコトハ酒類製造主ニ對シテ何等ノ規定無之モ、右ハ造石稅ノ免除ヲ要スル場合ニ於テハ酒類製造主ニ於テ稅金未納ノ酒類ヲ区分証明スヘキ責任ヲ有スルヲ以テ、予テ之ヲ明確ナラシメ置クハ製造主ニ取リテ利益アルコトナルヲ以テ其ノ旨ヲ了知セシメ、事ニ從ヒテ判別ニ困難ヲ來タシ免稅ノ利益ヲ受クルコト能ハサルカ如キコトナキ様検査監督スルコト
- 四 客年稅法及施行規則改正相成候ニ付テハ従前ノ如ク検査ニハ必スシモ製造主又ハ其ノ代理人ヲ立會ハシムヘキモノニ無之、検査員ハ其ノ職權ヲ以テ何時ニテモ検査監督ヲ執行シ得ヘキ筈ニ付、製造主ノ不在等ノ為メニ職務執行ヲ中止スル様ノコトナク十分ノ取締ヲ相立ツルコト、尤モ検査監督ハ重大ノ事柄ニ付全ク立會人ナクシテ執行

スル様ノコトアリテハ甚タ不都合ニ候條、製造主不在等ノ節ハ必ラス其ノ家族雇人又ハ隣人等ヲ立會ハシメタル上検査監督スルコト

- 五 酒類製造又ハ自家用酒類製造免許等ト記シタル標札ノ掲出ナキ為メ土地ヲ熟知セサル検査員ニハ時々其ノ場所ヲ知ルニ苦ムコトナキニアラサルヘキモ、元來検査員ナルモノハ其ノ検査監督スヘキ場所ノ何レニ在ルヤハ常ニ能ク心得居ラサルヘカラサル筈ニ付、標札ノ掲出如何ニ關セス取締方周到スル様注意スヘシ
- 六 酒母醪等ノ容器ニ紙票又ハ白墨ニテ其ノ符號順号等ヲ掲出セサル場合ニ於テ、事務ニ習熟セサル検査員ハ往々酒母醪ノ区分ヲ明カニスル能ハス、為メニ取締方周到セサルコトナキヲ保シ難キモ、元來検査員タル者ハ製造主ノ指告ヲ嫉タスシテ酒造場内ノ状況ハ周ク熟知セサルヘカラサル筈ニ付、右等ノ場合ニ於テモ帳簿等ト引合セ取締方周到ヲ欠クカ如キコト無之様注意スヘシ
- 七 酒類製造主若クハ其ノ納稅保証人ノ居所氏名ニ異動ヲ生シ又ハ酒類ヲ製造セサル者、其ノ製造ニ係ル醪ヲ飲料トシテ醸造シタルトキ等ニ於テ検査員ハ進テ敏捷ニ其ノ事實ヲ了知シ、臨機ノ処置ヲ為サ、ルヘカラサル義ニ付、常ニ右等事實ノ有無ニ注意シ遺漏ナキヲ期スヘシ
- 八 自家用酒製造者ハ別ニ帳簿ヲ設備スヘキ規定ナキ為メ其ノ製造シタル石数等ヲ了知シ難キモ、自家用酒製造者ニ於テ制限以外ノ製造ヲ為スル法律違犯トシテ制裁ヲ加フヘキノミナラス、其ノ害ハ延テ酒類製造主ニ及フヘキカ故ニ、免許ヲ受ケスシテ自家用酒ヲ製造スル者ヲ取締ルヘキハ勿論ナレトモ、免許者ノ制限以外ノ製造ヲナスコトモ亦々厳密ニ取締ルヘキ次第ニ付十分注意ヲ要ス
- 九 府県ニ依リ混成酒毎月ノ製造見込高ヲ前月末日マテニ申告セシムルノ與令ヲ發布シタルモノアリシモ、混成酒稅法施行規則第二條ハ製造高ノ多少ニ依リ毎月期間ヲ定メ其ノ期間ニ製成スル混成酒ノ査定ヲナスカ為メニ、予メ

之ヲ申告セシムルノ趣旨ニ出テタルモノナレハ、製造主毎ニ其ノ事情ヲ異ニシ、随テ回数及ヒ期間長短モ各製造
主同一トナスヲ得サルヘキカ故ニ、製造主毎ニ之ヲ指定シ緩急機宜ニ適スルノ査定ヲ為サ、ルヘカラサル次第ニ
付、事情ノ如何ヲ問ハス又製造高ノ多少ニ拘ラス一斉ニ毎月一回ニ定ムル如キ、勅令ノ趣旨ト背馳シタル取扱無
之様注意スヘシ

(昭56 東京 2167)

85 酒造場日記(抄)(静岡県岡部町初龜酒釀)

明治三十年

日記

十一月

明治三十年丁酉十一月二十五日 木曜日 陰曆十一月二日

ひのとゐ 大白 乾 とつ 赤口

十一月二十五日 精天、平井桑平差引給料勘定結算ス、同日休ミ、鈴熊稲カリニテ休ミ

十一月二十六日 精天、中島富藏来ル、但シ十一月二十八日迄ニ返金ノ約束ス

十一月二十七日 朝来精天、小泉茂三郎氏小宮之件ニテ来店

三十年十一月二十八日 日曜日 陰曆十一月五日 ひのえとら 九紫

十一月二十九日 (陰曆外)「精」、本日河の山方行

十一月三十日 (陰曆外)「精」、午后河野山方ヨリ帰宅ス、同日第八十一号・第三十一号一ツ火清酒冷引セリ

十二月一日 (陰曆外)「寒暖計本日四十度也」、精天、河野ハ山方ヨリ静岡ヘ行ク、富岡税務属来ル、原料石検査ヲ受

ル、本日天一天土大吉辰ニ付醗麴トギ初メル、村松繁藏午後内行、田中又吉酒取ニ来ル、日雇帳支払タリ、第一号

清酒冷引

十二月二日 (陰曆外)「精」、桜井杜氏来ル、青野喜吉桜井行、中島富藏来ル、翌五日迄ニ返金之事、村松繁藏午後四

時帰ル、冷引清酒第七十四号清酒冷引セリ、本月初室入ル

十二月三日 精天、鈴熊稲移リニテ休ミ、午前七時寒暖計四十度

十二月四日 精、鈴熊全休ミ、午后初室麴出シ、午后六時渡仲徳藏内行

十二月五日 精、午前七時三十分寒暖計三十九度、渡中徳藏休、鈴熊休ミ

十二月六日 精天、鈴熊来ル、徳藏午前十一時三十分帰リ来ル、本日ヨリ醤油上ケ

十二月七日 朝来曇天、立ヶ谷惣吉来ル、但シ新倉庫内庭タ、キニスルニ付キ、徳・熊手伝へ、本日醗蒸米洗條ス、

河野喜市午后夕方静岡ヨリ来ル

十二月八日 (陰曆外)「陰曆十一月十五日」、朝来曇天、立ヶ谷惣吉庭タキニ来ル、河野朝比奈行

十二月九日 精天、秋山源吉本日ヨリ雇入ル、河野朝比奈ヨリ帰リ、静岡ヘ行

十二月十日 精天、桶磯、桶松、桶徳輪替ニ雇入ル

十二月十一日 精天、桶磯・松・徳来ル、外ニ戸塚常藏倅金藏来ル

十二月十二日 (陰曆外)「日曜日、陰曆十一月十九日」、桶磯・松・徳来ル、左官常藏倅金藏来ル、村松繁藏并ニ小僧

小杉宅ス、ハキ手伝ニ行ク

十二月十三日 精天、寒暖計四十度、桶屋三人来ル、左官一人来ル、午后藤枝柿伝へ自分酒屋集會ニ行ク、右留守宅
稅務署長臨檢トシテ出張ス

十二月十四日 精天、桶工三人来ル、左官二人来ル

十二月十五日 精天、桶屋三人・左官二人来ル、正午ヨリ静岡ヨリ藤枝・焼津行、金一錢社并ニ寺尾米開合セニ行
ク

十二月十六日 精、寒暖計四十度、桶屋三人来ル

十二月十七日 金一静岡ヨリ帰ル、中島富蔵兩三日之延期ヲ乞フ、但シ藤枝稅務行、桶屋、左官休、村松繁蔵ハ下
女ツマト結婚ニ付内行

十二月十八日 精天、繁蔵戻ル

十二月十九日 精天ナリ、寒氣四十度アリ、中島富蔵来ル、小杉和作新通ヨリ米代金持參之為出張也、午后帰宅セリ

十二月二十日 寒氣四十度ナリ、小杉和作遠州掛川午前行

十二月二十一日 精天、寒暖計四十度ナリ、静岡ヨリ鈴木藤助金員持參出張セリ、午前十時小杉和作掛川ヨリ帰宅セ
リ

十二月二十二日 精天、寒氣三十九度、老人早朝一色古井浦吉ヲ呼ニ行ク

十二月二十三日 精天、河野喜市未明静岡ヨリ桶磯半切請求ニ来ル、午后一時河野ト同道金一静岡へ高橋利右衛門〇
印ノ件ニテ行ク

十二月二十四日 精天、金一午后静岡ヨリ精米会社へ立寄り帰ル、鈴木熊吉朝ヨリ正午迄藤枝登記所行ニテ半日休

十二月二十五日 精、納稅保証人書類調製ス、午后七時精米、古井浦吉外一人来ル、邦太郎・藤助俵友吉午后来ル
十二月二十六日 精天、浦吉外一人機械直シ并ニ片付ス、小杉和作午前九時三十分掛川米件ニテ出発ス、午后夕方金
作働人来ル

十二月二十七日 精米方初メ、桶磯一人坪台直シニ来ル、立ヶ谷惣吉ハ酒釜屋直シニ来ル、河野喜市静岡ヨリ午后夕
来ル

十二月二十八日 精、桶磯直直シニ来ル、旧十二月五日旧正月、醬油上ケ、粥煮ニ取掛ル、手伝人河野喜市、午后四
時ヨリ藤枝柿伝へ金一醬油集會ニ出席セリ、小杉和作掛川ヨリ米之件ニテ午後五時帰ル

十二月二十九日 精天、小杉和作掛川米搦上ノ件ニテ静岡精米会社へ遣ス、午前八時出発ス、正午鈴木熊稅務署へ遣ス、
田中方吉酒取ニ来ル、本日旧十二月六日、正月餅付ス、池田喜太郎氏二十八日午後十一時来ル、一泊之上二十九日
午前四時帰ル

十二月三十日 精天、午后中島富蔵来ル、午后三時小杉和作静岡精米会社行之處帰ル、上田伴三へもやし四かん注文
セリ

十二月三十一日 精、添第一号掛ケタリ、午前十一時ヨリ藤平・金藏二人ニテ蔵ノ飾リニ来ル、小杉和作自用ニテ
焼津并ニ島田へ行ク、八木間土屋氏虫封シ、龜報ヲ発ス、

明治三十一年一月一日 朝来小雨アリ、正午土屋氏来ル、正午桜田氏来ル

一月二日 精、土屋氏滞在ス、桜田氏来ル

一月三日 曇天、土屋氏午後一時帰途セリ

一月四日 邦太郎焼津へ、西駿学友会へ出席、午前鈴熊稅務署へ遣ス、午後二時半渡中徳蔵内行、精米部古井浦吉モ同ジク内行、同道ス

一月五日 曇天、午后小杉和作一時精米会社米搗上ケ之件ニテ、且自分ノ年始ヲ兼出發セリ、(以下一行鉛筆書き) 午后五時渡中徳蔵帰ル、午后ヨリ少雨ナリ

一月六日 雨天

一月七日 曇天、奈須野藤平銀行へ、借用之件ニ付藤枝へ出張ス、午前不調ニシテ帰宅セリ、其レヨリ大蔵地所割地ノ「タイ」打等ヲナス、尤モ立ヶ谷惣吉氏モ手伝タリ、小杉和作氏ハ午后二時静岡ヨリ帰宅セリ、邦太郎ハ学校行ニ付静岡へ、正午帰途ス

一月八日 精天、桜田持蔵来ル

一月九日 (霧) 〔旧十二月十七日〕、精天、老人藤枝へ使ニ差遣ス、萩原検査員臨検トシテ来ル

一月十日 精、午前焼津一銭社へ金員之件ニ付自分出頭セリ、談合之上帰宅ス、同日午前小杉和作静岡西家井二当店酒造米仕入之件ニテ掛川地方へ向ケ出頭ス

一月十一日 精天

一月十二日 自分中イツ一銭社惣会ニ付出頭セリ、其レヨリ静岡へ出頭ス、但シ突印静岡ニテ入用ニ付一泊セリ、本日小杉和作掛川ヨリ帰宅ス

一月十三日 精、午前八時河野喜市自用ニテ静岡行、自分午後三時帰宅ス、臨時雇伝蔵麦マキ雇入ル

一月十四日 精、午前八時藤枝登記所へ自分出頭ス、一銭社代理人モ出登セリ、後見人番地相違ニテ、未済ニテ帰宅ス、午後五時小杉和作静岡行、但シ焼津六時四十七分発ニテ出頭ス、小杉ハ桜井行、自分ハ本店行、但シ納稅件

之為メ、本店へ一泊ス(立ヶ谷惣右衛門酒造修繕ニ付午後二時ヨリ、河野喜市夕刻帰宅ス)

一月十五日 曇天、自分ハ本店ヨリ本朝市役所へ出頭、其レヨリ十時汽車乗後レ、旧道中ヲ帰宅ス、正午ヨリ雨天、午后一時前帰宅ス、其レヨリ藤枝銀行納稅ニ老人遣ス、小杉和作午後四時帰宅ス、立ヶ谷惣吉本日酒瓶口塗りニ来ル

一月十六日 雨天

一月十七日 小雨ナリ、自分ハ藤枝登記所行、但シ一銭社ヨリ借入金之登記ニ付頭ス、午後四時登記済ニテ帰宅セリ、午后静岡本店ヨリ周吉使ニ来ル、午后四時半タツ旧年暮物買物トシテ周吉ト同道ニテ、六時汽車ニテ出頭ス、藤平午後ヨリ梅判付手伝イタリ

一月十八日 曇天、桶磯雇入ル、藤平手伝ニ来ル、小杉和作午前八時ヨリ掛川米荷受トシテ出發ス、タツ午後三時帰宅セリ

一月十九日 (霧) 〔三十年旧十二月二十七日〕、精天、桶磯雇入ル、藤平通集メニ山方行、村松庄兵衛正午手伝イトシテ来ル、古井浦吉午後六時帰郷中之処来ル、同日小僧(渋谷安蔵)付ケ来ル、同精米今言父モ来ル

一月二十日 (霧) 〔旧十二月二十八日〕、精天ニテ、午後二時掛川行、小杉和作帰宅ス、午后下女雇入ル、藤平手伝ス、庄兵衛手伝ス

一月二十一日 (霧) 〔旧十二月二十九日、大海日〕、精天、老人早朝藤枝稅務署行、藤平掛集メ、庄兵衛手伝イ

一月二十二日 (霧) 〔旧一月一日〕、精天、蔵方半日休業ス、富岡收稅属来ル、藤平掛集メ、庄兵衛手伝へ、自分

通帳調々

一月二十三日 曇天、村松繁蔵・河野喜市朝比奈掛集メ行、庄兵衛正午帰宅ス

二月二十四日 曇天、河野・郵松掛集メ山方行、本日第一号隠受検査済

二月二十五日 雨天、河野・郵松繁蔵山方掛集メ行、本日消防出初メアリタリ、松井格太郎、桑原茂吉引受ヘニ来ル

二月二十六日 晴天、河野焼津掛取行、繁蔵近在掛取行、清酒第一号受検査、小杉和作遠州ヘ掛川米荷受ニ付出張ス、本日元大麓住宅地跡貸付約定、奈須野藤平外連中ト契約済、三ヶ年ナリ

二月二十七日 新酒売初メ、並酒小売二十一錢也、掛取金勘定、本日鋤入(但シ合籠貸付連名)、本日仁科米契約セリ、本店兄麻次郎保福島并ニ築地近辺ヘ回リテ来ル、午后二付一泊ス

二月二十八日 (曇)「旧正月七日」、本日一筆賞清酒祝宴會、朝比奈小売場一同ヲ招ク、正午山田平十參堂、同シク客人前島兼吉来ル、午后三輪大畑老母来ル、夕方松井格太郎・大村金蔵・小長楨一參列ス、他ハ不参、藤平・自分・和作・河野參列、協議ヲ關ク、保証人ヲ立テル之件議決ス、午后十時會散ス、本日麻次郎氏正午帰宅セリ

二月二十九日 營業税届取調ベヲナス、村越久七来ル、小杉和作本日用米之件ニテ静岡ヘ出張セリ

二月三十日 晴天、小杉和作静岡ヨリ午后二時帰宅セリ、精米出入并ニ遣松等酒造帳簿調査ス

二月三十一日 晴天、午后小泉茂三郎来ル

二月一日 本日日一月十一日、蔵開キ、老人醬油納税ニ付藤枝ヘ遣ス、本日桶松店出、酒桶輪替ニ付半日雇入ル

二月二日 御料林松下之件ニテ小泉茂三郎氏ヲ招ク、協議ヲナス、仁科米本日五十ヶ受取、外静岡行分受取ヲ積出ス

二月三日 (曇)「小寒アケ」、晴天ナリ、小泉參堂ス

二月四日 晴天、本自分并ニ小杉和作ト同道、静岡御料局支庁ヘ料林松下願手續ニ付出張セリ、但シ午前八時出張、午后二時三十分汽車ニテ帰宅セリ、同シク鈴藤静岡ヨリ来堂、外永井保蔵・コフ井ニおしの来堂ス

二月五日 雨天、午后三時山口保次郎・富山幸作ニ氏參堂ス、但シ御料林松下之件ニ付出張ス、泊ス、本日午后四時ヨリ繁蔵ヲ酒造組合会ヘ出席サセタリ、自①ヤヘ招カレ行ク、小泉茂三郎參堂ス

二月六日 晴天、本朝河野・富山・小杉三名ニテ桂島ヘ出張ス、直ニ帰宅ス、山口・永井・鈴藤三名ハ帰宅ス、小泉来店種々御料林件ニテ協議ヲナス、小泉午后帰宅セリ、老人八木間淨蓮寺行、鈴熊本日三吉ラ家政之件ニ付半日休業

二月七日 雨天、小泉參堂ス、富山幸作帰宅セリ、鈴熊半日休業

二月八日 晴、自分・河の本日朝比奈ヘ掛取ニ行ク、小杉和作本日米之件ニテ堀之内行、老人八木間ヨリ帰宅ス、本日日川原町ほら松俵麥

二月九日 小杉和作御料地之件ニテ小泉氏ト同道静岡行、ほら松俵雇入、辨割ス、お孝女斎藤母付添永井ヘ帰宅ス、本日日火入、新酒ヲナス

二月十日 (曇)「旧一月二十日」、曇天ナリ、ほら松俵雇入ル、中島富蔵来ル、小杉和作午后戻ル

二月十一日 本日日ヨリほら松俵山方荷持行、矢倉行、桶松本日桶子荒ケズリニ来ル

二月十二日 午前八時大石幸藏氏来堂、古酒売却之件ニテ来ル、小杉和作本朝小泉氏同道静岡御料局行、村松繁蔵年頭トシテ帰郷ス、小杉午后戻ル

二月十三日 晴天、寒暖計三十六度(朝)

二月十四日 晴天、河野喜市山方大石多作之件ニ付出張ス、田中又吉来ル、河野夕方戻ル

二月十五日 晴天、河野大石多作之件ニ付藤枝行、村松繁蔵帰郷中之処本日午后三時帰宅ス

二月十六日 晴、午前十時ヨリ源吉休ミ、但シ徴兵之件ニ付、河野午后戻ル、夕刻源吉入

二月十七日 精、鈴熊休、但シ登記所行、桶磯、桶松七十四号下輪掛ニ半日来ル、林稅務屬臨時検査ニ出張ス、醜井
ニ現在酒調査之処不相当之為現在酒へ封印ス、午后河野静岡行
二月十八日 午前二時静岡河野并ニ麻次郎同道ニテ来ル、本目林并ニ池田署長出張ス、午后麻稅務署行、并ニ大塚氏
方へ行ク

二月十九日 麻次郎滞在、検査上之件ニテ本日静岡へ帰岡ス

二月二十日 同人后静岡ヨリ来ル

二月二十一日 老人櫛木行、本日山口伝次郎氏見舞トシテ来ル

二月二十二日 本日山口氏并ニ麻次郎同伴一段落ニ付帰宅ス

二月二十三日

二月二十四日

二月二十五日 本朝自分稅務署へ古酒解封願ニ行ク

二月二十六日

二月二十七日 本目林検査員来リ、古酒丈ケ解封トナル

二月二十八日 精、本朝河野山方掛集メニ行、午後七時帰宅ス

三月一日 雨天、富岡稅務屬臨檢トシテ出張セラル、午后河野静岡へ行ク、家用ニテ

三月二日 精天、本日川原町千代蔵清水ケ沢桑耕作ニ雇入ル、河野喜市静岡行之處午后四時帰宅ス、精米部本日ヨリ
飯米玄米搗キ掛ル

三月三日 精天、本日第三十四聯隊第四中隊凡百二、三十名、当地方演習トシテ到着、午后六時各家へ宿泊ス、当家

へ伊奈重曹・兵卒九名泊ル、本夕小杉庄作氏来ル、同時宿泊ス

三月四日 午前七時当町出發、朝比奈ヨリ静岡兵營へ帰營ス、小杉氏モ帰宅ス、鈴木熊吉稅務署へ遣ス

三月五日 精天、小杉老人閑齋式参列之タメ午后来ル

三月六日 〔雜處〕二月十四日、仕込仕舞、精天、本日午前十二時城之腰長谷川仲右衛門葬式ニ付、金市并ニ和作
出頭ス、午后帰ル、寺尾當次郎氏同シク仲右衛門葬式ヨリ同道シテ閑齋式ニ参列ス、午后閑齋式執行、客人大石多
作・立ヶ谷惣右衛門・小杉老人・那須の藤平・横田屋・小杉和作・桑原政吉参列ス

三月七日 〔雜處〕二月十五日、精天、當次郎午前十一時帰宅ス、村越嘉右衛門酒貸之件ニ付参堂ス、本日ハ惣休
業ス、午前十二時渡仲徳藏・田中金作帰郷ス、古井浦吉・渋谷今吉同シク帰郷、解雇ス、本朝富岡稅務吏清酒（二
一）検査ニ来ル、渋谷安藏（小僧）同時一時帰郷ス、河野喜市静岡本店へ閑齋式ニ行ク、金市午后二時静岡行、燒
津ニテ卷田寅吉・渡仲徳藏・河野喜市同道、三時五十六分發ニテ静岡閑齋式ニ参列ス、古井浦吉后帰郷ス

三月八日 河野喜市静岡ヨリ帰宅ス、本日鈴熊休

三月九日 金市静岡行之處帰宅ス、午前十一時田中金作帰郷中之處正午帰宅ス、河野ハ山方行

三月十日 河野山方へ一泊之上正午帰宅ス、本日ヨリ味淋元・焼酎取初メ

三月十一日 曇天、老人藤枝稅務署行、并ニ本町山村、川原町喜助、同松井へ行ク、小僧安藏帰郷中之處帰宅ス

三月十二日 曇天、本日小杉和作自分用ニテ清水行、外記スコトナシ

三月十三日 曇天之處雨トナル

三月十四日 朝来精天、本日焼酎粕干、立ヶ谷惣右衛門蔵部屋家根拵へニ雇フ、渡仲徳藏帰宅中之處本日午前十一時
来ル、小杉ハ自用ニテ島田行

三月十五日 酒税納税日、精天、未明ニ那須野藤平静岡へ、山内鉄蔵ヨリ預リ金之件ニ付静岡へ出頭、午後二時金子持参帰宅之上、藤枝支金庫へ酒税納付ニ差遣ス、大工房吉・立ヶ谷惣吉雇入ル、但シ新倉庫原料米倉場敷直シ、本日味淋仕込、麴洗條ス、本日醬油諸味入実、万年税務属調査セリ

三月十六日 大工房吉・立ヶ谷惣吉新倉庫敷造リニ来ル、粕干ス

三月十七日 精天、大工房吉雇ヒ、立ヶ谷惣吉新部屋屋根作りニ来ル、本日正午頃谷川御料林之火事ニテ、立ヶ谷ハ半日ニテ消防ニ付出頭休ミ

三月十八日 本日雨天ナリ、古雇人ナシ、村松繁蔵病氣ニテ休ミ

三月十九日 曇天、繁蔵病氣ニテ休ミ、立ヶ谷惣吉蔵部屋家根拵へニ来ル、小杉和作税務署行、本日新清酒解封トナ
ル

三月二十日 曇天、「陰曆二月二十八日」、精天、繁蔵休ミ、立ヶ谷惣吉室崩シニ来ル、小杉和作自分用ニテ清水行、山村兼吉来店ス、本夜旧三月餅付ス、本日ヨリ協同一錢社貸越日歩引上通知有之、即チ貸越百円ニ付金三錢六リ、預ケ金利子一錢五リ宛、承諾ス

三月二十一日 精天、繁蔵休ミ、立ヶ谷惣吉・全雇吉室崩シニ来ル、本日藤枝税務署長臨検トシテ出張セラル、老人静岡行

三月二十二日 精天、立ヶ谷惣吉酒屋・釜屋修繕ニ来ル、繁蔵病氣休ミ

三月二十三日 曇天、「旧三月二日」、曇天、自分酒類酒造帳簿整理、村松繁蔵本日ヨリ病氣快方ニ付来ル

三月二十四日 精天、「旧三月三日」、精天、邦太郎静岡ヨリ来ル

三月二十五日 本日皆遣受検査、萩原税務属出張、受検了

三月二十六日 精天、本日味淋仕込、萩原検査員立会之上任込ミス、鈴木熊吉朝ヨリ休ミ、但シ次右衛門葬式ニ付

本日小泉茂三郎来店、三十年六月以后之譜勘定差引勘定ヲナス

三月二十七日 精天、鈴熊入、邦太郎静岡へ帰ル、鈴木熊吉解雇ス

三月二十八日 精天、田中金作解雇帰宅、正午、渡仲徳蔵午後二時解雇帰宅ス、平井幸平本日限り解雇ス

三月二十九日 精天、秋山源吉一人残り入、桶工磯吉・倅徳蔵新種拵へニ付入、金一藤枝税務署ヨリ登記所行、但シニ十九年度保証物提供物件、造石税管納ニ付解除取消願ニ付、其レヨリ築地西村角蔵方行、帰途中島富蔵方へ立寄り、帰宅ス、本日老人藤枝山村兼吉外用件ニ付出張ス

三月三十日 曇天、桶屋磯・龜・松・徳四人来ル、「イカケヤ」二人半日釜漆ハキニ来ル、午前十一時金一藤枝登記所保証物之件ニテ即取消ニ付亦々出頭、午后帰宅、小杉和作十二時ヨリ当座用ニテ殿村大家方へ使ニ差出ス、老人ハ明日和田浜遊散行ニ付、同地先発トシテ差遣ス、午后邦太郎静岡ヨリ来ル

三月三十一日 精天、午前三時ヨリ和田浜半兵衛方行ニ付出張、同行者金一・邦太郎・てふ・河野喜市・鈴熊・桑政・小僧・小杉和作、桶龜・松・徳同道セリ、焼津渡仲徳蔵方へ立寄り、同道、六時和田浜着ス、静岡本店ヨリ麻次郎・クラ・ハル、杜氏七藏・常吉・彦太郎同道、出合タリ、床麻モ来ル、各遊興之上、午後六時帰途船ニテ城之腰着、静岡組ハ午後六時汽車ニテ帰宅ス、岡部組ハ老人・邦太郎・てふ・桑政・小僧・桶屋三人帰宅、魚又方へ宿泊ハ金市・和作・河の・鈴熊・床麻五名宿ル、桶屋四人休ミ

四月一日 雨天、金一午前十時帰宅ス、小杉・鈴熊ハ正午十二時帰宅セリ、床麻午後帰宅ス、本日桶屋四人共休ミ
四月二日 曇天ナリ、河野ハ城之腰ヨリ午前十時帰宅ス、桶屋磯・松・龜・徳来ル、秋山源吉本日限り解雇ス
四月三日 雨天、地震アリ(朝六時三十分)、河野喜市静岡行、二十日祭ニ付、桶屋四人来ル

四月四日 曇天、セン・老人・カナ・邦太郎午前九時汽車ニテ静岡二十日祭行、桶四人来ル
四月五日、雨天、桶工四人来ル
四月六日 雨天、桶工休ミ、河野静岡ヨリ帰宅ス
四月七日 曇天、午后二時ヨリ金一城之腰一銭社ヨリ、渡中徳蔵方ヨリ午后四時汽車ニテ静岡行
四月八日 晴天、桶工四人、左官常職・伊吉酒造本倉家根修繕ニ来ル、正午古井浦吉・渋谷安蔵父来ル、午后金一静岡ヨリ帰宅セリ
四月九日 曇天、正午ヨリ雨天トナル、河野山方掛取下シテ出頭ス、繁蔵保福島味淋買入ニ行ク、渡中徳蔵正午来ル
(火入ニ付)、熊吉(火入清酒審査并ニ釜磨キ)午後二時ヨリ入、立ヶ谷惣吉二時頃ヨリ来ル、左官本日二人来ル、但シ雨天ニテ午后三時仕舞、磯吉午後一時ヨリ試シ桶修繕ニ来ル
四月十日 曇天、左官常半日ヨリ来ル、本日火入着手ス、但シ本日ハ一本、田中金作午前十時来ル、雇人鈴熊・渡中徳蔵・平井幸平・秋田源吉・田中金作ナリ
四月十一日 精、曇天、火入、朝河野山方出張中之処帰宅セリ、左官二人来ル、萩原税務属出張セラル、味淋入実、醤油諸味入、実新桶文量、煮込火入酒検査、味淋買入御検査
四月十二日 上々晴天、左官常職来ル、火入、八木間土屋氏来堂ス
四月十三日 上々晴天、火入、左官二人来ル、酒造倉其ノ他
四月十四日 上々晴天、左官二人来ル、同火入ス
四月十五日 同火入、左官二人来ル、但シ本日ニテ左官一時終了
四月十六日 晴天、火入

四月十七日 晴天、火入、田中方吉酒取ニ来ル、本日ニテ火入終了ス、正午永井徳蔵・上田長次郎来ル、永井一泊ス
四月十八日 晴天、貯蔵酒罎并ニ諸片付ス、上田永井氏帰宅ス、繁蔵山方行、鈴熊本日限り解雇ス
四月十九日 晴天、田中金作午后三時迄解雇ス、中島富蔵之代理人来ル
四月二十日 晴天、山口安次郎氏来店ス、渡中徳蔵火入中之処終了ニ付解雇、帰宅ス、午后田中又吉酒取ニ来ル、河野官分用ニテ午后四時ヨリ城之腰行
四月二十一日 雨天、河野城之腰ヨリ午前戻ル
四月二十二日
四月二十三日 晴天、金一本店へ小徳ノ見舞ニ行ク、徳蔵本日来ル
四月二十四日 雨天、金一滞在、鈴熊来ル、泊ル
四月二十五日 雨天、金一午前九時静岡行ノ処帰宅ス
四月二十六日 晴天、渡中徳蔵自分用ニテ来ル、但シ帰宅セリ
四月二十七日 晴天、本日ニテ焼酎取モ終了ニ付秋山源吉・平井幸平解雇ス
四月二十八日 雨天、正午ヨリ河野山方行、村松繁蔵午後二時藤枝酒造組合集會へ代理トシテ遣ス
四月二十九日 晴天、午前河野山方ヨリ帰宅ス
四月三十日 精、金一午后焼津ヨリ静岡行、邦太郎静岡ヨリ来ル
五月一日 精、金一帰宅ス、邦太郎静岡へ帰ル
五月二日 霧、八十八夜、雨天、繁蔵萬草ヨリ城之腰行、河野山方行、但シ瓶詰売込
五月三日 雨天、村松繁蔵帰宅ス、大工房吉半日ヨリ入、ラムネ箱、酒瓶詰製造ニ来ル、静岡本店使彦太郎来ル、返

ル

五月四日 精天、金一、小杉和作蔵資本之件ニテ城之腰へ和作氏ト同道シテ行ク、同静岡行、大工房吉来ル

五月五日 全、金一静岡ヨリ帰宅ス、河野静岡行、大房吉来ル

五月六日 精天、房吉休

五月七日 精天、房吉休、河野静岡行之処午前十一時帰宅ス、金一ラムネ製造許可出願ニ付藤枝警察署へ出頭ス、即時帰宅ス

時帰宅ス

五月八日 曇、雨天トナル、房吉休業

五月九日 曇天、房吉休

五月十日 曇天、房吉来ル、金一静岡県庁へ出頭、同浜松行、但シラムネ件ニ付

五月十一日 曇天、金一午后帰宅ス

五月十二日 精天

五月十三日 曇天、雨天トナル

五月十四日 精天

五月十五日 精天、本日大工房吉ラムネ箱持へニ雇入ル

五月十六日 精天、房吉来ル

五月十七日 同、房吉来ル

五月十八日 雨天

五月十九日 精天、本日ラムネ製造着手ス

五月二十日 精天、大工房吉半日ヨリ来ル

五月二十一日 大工房吉来ル、雨天、午后一時精天、渡中徳蔵来ル、泊ル、渋谷安蔵父平助来ル、直ニ帰宅ス

五月二十二日 精天、大工房吉来ル、渡中徳蔵二時帰宅ス、河野喜一アサヒナ請求之為メ出張ス、小柳津市蔵アサヒ

ナ通帳集メニ正午ヨリ依頼ス、田中万吉酒取ニ来ル

五月二十三日 精天、大工房吉雇ヒ入、河野山方ヨリ午前九時帰宅ス、秋山源吉・村松繁蔵二人ニテ焼津地方へラム

ネ売込ニ出張ス、自分ハ藤枝税務署へ証券印税検査ニ付帳簿持参出張ス、直ニ帰宅ス

五月二十四日 曇天、雨天トナル、房吉雇入ル

五月二十五日 房吉雇

五月二十六日 房吉雇

五月二十七日 精天、金一小泉茂三郎ヨリ来談之件ニテ静岡并ニ楠木行

五月二十八日 曇天、房吉休

五月二十九日 精天、房吉来ル、金一静岡ヨリ午前帰宅ス、小島茂三郎氏湖山ノ件ニテ来ル

五月三十日 雨天、房吉休

五月三十一日 精天、房吉ト源吉雇ヒ、但シ安蔵同道ラムネ配達ニ行ク、河野喜市朝比奈へ掛取トシテ出張ス

六月一日 精天、房吉雇入ル、河野午后二時朝比奈ヨリ帰宅ス、源吉ラムネ用ニテ雇入ル

六月二日 大工房吉雇ヒ、秋山源吉ラムネ販売ニ雇ヒ、本店兄麻次郎午前十時来ル、即日帰宅ス

六月三日 精天、源吉雇入ル、ラムネ配達ニ行ク、林税務属吏味淋膠検査トシテ出張セラル、醬油膠受検査、鈴木熊

吉午后四時味淋膠之件尋問ニ付来ル

六月四日 曇天、房吉履ヒ、源吉ラムネ詰、瓶洗ヒ、鈴木熊吉味淋醪未検査ニ付下築地焼酎屋ヨリ稅務署行、午后帰宅ス、邦太郎静岡ヨリ午後三時半来岡ス

六月五日 雨天、邦太郎滞在ス、午后五時頃大雨之為メ裏側河水流溢シ、堤防一尺八、九寸モ乗越シ、貯造酒倉庫凡ソ一尺三寸許リ浸水ス、格別損傷ト申ス程ノ事ナシト雖モ、近来珍ラシヤ大水ナリシ、午后七時沈静、水ヒケトナル

六月六日 精、倉庫内片付ス、手伝人鈴木熊吉・桑原政藏・大工房吉・源吉・立ヶ谷惣吉等アリ、邦太郎午前七時静岡へ帰宅ス

六月七日 精天、源吉・小僧ラムネ配達ニ行ク、午前十一時第三十四聯隊第二大隊通行、一小隊ハ当家中飯之為休息、西軍セリ、午前十時頃渡中徳藏水香見舞トシテ来ル、倉田稅務屬味淋醪検査トシテ出張セラル、徳藏并ニ鈴熊午后二時ヨリ味淋搾リ上仕度ヲナス、田中方吉午后二時酒取ニ来ル

六月八日 鈴熊・徳藏・源吉味淋醪搾リ上、并ニ日覆ヒ拵へノ為メ来ル

六月九日 右三人共来ル、但シ日覆ヒ出来ス、徳藏午后六時帰宅ス、源吉・熊吉本日限り解雇ス

六月十日 精天

六月十一日

六月十二日

六月十三日

六月十四日

六月十五日

六月十六日 曇天

六月十七日 雨

六月十八日

六月十九日 精、河野山方行、安藏ラムネ配達、ヤイツ

六月二十日 精、安藏静岡行、河野滞在、安藏午后帰宅

六月二十一日 曇、大工房吉酒室拵へニ来ル、河野山方行之処静岡へ回り、正午帰宅ス、小僧安藏カシワ遺物持参、午后二時ヨリ静岡行

六月二十二日 小雨、大工房吉来ル

六月二十三日 (曇外)「旧五月五日節句」、小雨、大工房吉休、金一午前静岡大川行ク

六月二十四日 小雨、大工房吉来ル

六月二十五日 小雨、安藏焼津行、

六月二十六日 小雨ナリ、金一静岡行之処午前九時帰宅ス、安藏焼津一錢杜行

六月二十七日 精、曇、渋谷安藏静岡本店へ使ニ出ス、即日帰宅ス、醬油室直シ着手

六月二十八日 小雨

六月二十九日 精天、安藏・定吉ラムネ配達、大工房吉履、腰計九十度

六月三十日 精天、房吉来ル、寒暖計九十度

七月一日 (曇外)「寒暖計九十度」、精天、房吉履ヒ、倉庫トイ修繕ス、ラムネ配達、河野并ニ車力定吉参ル、藤枝、郡喜平(本店杜氏)来店、静岡行ニ付立寄ル、午前十一時杜氏渡中徳藏来店ス、静岡井上藝吉氏令息同道午后一時

參堂、精米器械設計調査ニ来ル、午后四時帰途ス

七月二日 曇天、小雨、徳藏滞在ス

七月三日 晴天、渡中徳藏正午帰宅ス

七月四日 小雨ナリ、房吉休ミ、田中又吉醬油仕込之為メ午前来ル、直ニ着手ス、立ヶ谷惣右衛門半日間醬油煎釜之煙筒修繕之為メ雇フ

七月五日 晴天、秋山源吉醬油仕込手伝トシテ入ル、房吉雇ヒ、河野焼津ラムネ配達ニ行ク、渡中徳藏后七時ラムネ製造手伝トシテ出頭セリ

七月六日 曇天、「源焼津滞在」、房吉入、源吉頭痛之為半日ヨリ休ミ、内行、郷國・安蔵ラムネ配達、河野后十時焼津ヨリ帰宅ス

七月七日 晴天、房吉・種七・川の病氣ニテ休ミ

七月八日 晴天、房吉雇ヒ入ル、渡中醬油手伝イ、川の井二千代蔵城之腰ラムネ配達ニ行ク、金一鳴谷ヨリ飯宿茂

三郎へ行ク、直ニ帰宅ス

七月九日 晴天、本日房吉・立ヶ谷惣右衛門兩人大水後ノ床下ノ泥サライヲナス、ラムネ配達休業ス

七月十日 晴天、床下、^{後ヒ}、房吉・惣右衛門二人ニテ、河野焼津ラムネ配達、国蔵三輪ラムネ配達行、病氣ニテ帰宅、自分鳴谷ニ枕案ヲ乞フ、田中又吉午后内行

七月十一日 晴天、田中又吉休、立ヶ谷・房吉休ミ、河野ラムネ行、秋山源吉醬油仕込ニ付入

七月十二日 晴天、河野ヤイズラムネ行、房吉・立ヶ谷床下檢ヒ等ニ付入、田中又吉未明来ル、后三時内行

七月十三日 晴天、田中万吉休ミ、河野焼津行、房吉・立ヶ谷来ル、但シ中座敷戸柵修繕、午后ヨリ雨天

七月十四日 曇天、田中又吉休ミ、房吉・惣右衛門来ル、座敷床下掃除ニ来ル、河野城之腰一泊之上午帰ル

七月十五日 晴天、老人藤枝銀行へ納税之為メ出頭ス、小僧安蔵静岡本店へ違ス、田中又吉后三時来ル、但シ又々午

后七時ヨリ内行、但シ登記事件未済ニ付

七月十六日 三十九号清酒一本火入ス、但シ鈴木熊吉臨時雇ヒ、渡中・源吉火入、立ヶ谷惣右衛門来ル、大工房吉雇ヒ、本日午前十二時田中又吉藤枝登記済之由ニテ入ル、房吉・立ヶ谷本日限一時解雇、又吉内行

七月十七日 晴天、田中又吉家根替ニテ休ミ、河野藤枝、小僧安蔵ラムネ配達之為メ焼津出頭ス、小杉和作島田行

七月十八日 金一未明静岡へ病氣之為行、田中又吉本日入

七月十九日

七月二十日

七月二十一日 徳藏内行、田中又吉入

七月二十二日

七月二十三日

七月二十四日

七月二十五日

七月二十六日

七月二十七日

七月二十八日

七月二十九日

七月三十日

七月三十一日

八月一日

八月二日

八月三日

八月四日

八月五日 本日醬油瓶倒シ

八月六日

八月七日 精天、金一静岡滞在(病氣)中之処午前帰宅、渡中徳蔵水見舞内行之処来ル、午前十時邦太郎学友会行

八月八日 精天、邦太郎焼津海水浴行、河野喜一本日休業、但シ自分用、源吉雇入ル、ラムネ配達行、小杉利三郎静

岡ヨリ来ル、午后帰宅ス

八月九日 精天、河野城之腰一泊ス、安蔵ラムネ配達ニ行ク

八月十日 精天、河のラムネ、秋山源吉ラムネ配達ニ雇入ル、小僧安蔵内行

八月十一日 精天

八月十二日 精天、河のラムネ配達行、田中又吉酒取ニ来ル、小僧安休暇帰郷中之処正午帰宅ス、村松繁蔵祭礼ニ付

内行、夕刻

八月十三日 精天、未明セン・ハナ・老人城之腰祭礼ニ行ク、鈴藤倅友吉モ行ク

八月十四日 精天、村松繁蔵夕刻焼津実家行之処帰宅ス、お孝女午後二時静岡ヨリ来ル、但シ療養之為メ、河野ラム

ネ売行之処午后夕刻帰宅ス、繁蔵帰宅ス

八月十五日 精天

八月十六日 精天

八月十七日 河野喜一本日城之腰行、ラムネ休シ

八月十八日 精、タツ静岡行、但シ旧曆盆遣物買入等之為メ、午前八時汽車ニテ行ク、鈴木税務属醬油入実調査并ニ

醬油諸味、并ニ醬油現在支払等調査済

八月十九日 精天

八月二十日 精天、夕刻繁蔵酒造集會行、徳蔵自用ニテ夕方内行

八月二十一日 徳蔵帰リ来ル、源吉臨時雇ヒス、

八月二十二日 精天、タツ静岡ヨリ午後帰宅ス、

八月二十三日 (雑記)「七月旧七日」、精天、井戸替へ徳蔵・繁蔵、臨時手伝人源・熊・藤平・ヨニタ・惣右衛門・

桑政・平・幸ナリ、池上(江尻)僧侶来ル

八月二十四日 精天、池上和尙午前八時帰宅ス

八月二十五日 雨天、河野休業、徳蔵モ骨休ミス

八月二十六日 雨天、元三十九号清酒火入、三ツ火ス、徳蔵・河の・繁蔵

八月二十七日 精天、河のラムネ休シ、醬油手伝イ、巻田寅吉来ル、但静岡本店杜氏之件ニ付、但夕刻戻ル、安蔵ラ

ムネ配達ニ三輪行

八月二十八日 (雑記)「旧七月十二日」、精天、藤平掛取雇ヒ、手伝ス

八月二十九日 (録載外) 「十二日」、精天、当年ハ米価騰貴之為メ例年ヨリ人出寒シ、藤平掛取帳簿調へ
 八月三十日 精天、秋山源吉雇ヒ、醬油手伝へ、河のラムネ配達休ミ、製造手伝イ、藤平掛取、金二調へ
 八月三十一日 藤平・繁蔵掛取山方行、金一帳簿調へ
 九月一日 (録載外) 「二十日、旧七月十六日」、藤平休ミ、雨天、渡蔵・源吉・河野休業サセル、金一帳簿調へ
 九月二日 精天、藤平・繁蔵山方掛取行、源吉雇ヒ
 九月三日 雨天、源吉休ミ、渡中徳蔵后四時内行、河の休ミ、大雨ナリ、后晴レ
 九月四日 精天、村松繁蔵城之腰掛取行、河のラムネ配達ニ行ク、午后辰ル
 九月五日 邦太郎・静岡老母城之腰行、但シ邦太郎ハ沼津新玉様へ参詣行の見込、老母ハ静岡の見込、河の喜一野田
 店へ八木重右衛門ト掛取ニ行ク
 九月六日 雨天、河野休業、午后風雨烈シ、尚午後九時頃ヨリ暴風雨ニナル、皆起テ種々用意ヲナシ防グ、翌朝二時
 頃迄ニテ平穩トナル
 九月七日 精天、桑政・立ヶ谷・車力国蔵・金若片付ニ手伝ヒ、半日間、源吉正午ヨリ手伝ヒ、桑政・源吉ハ夕方手
 伝ヒタリ
 九月八日 (録載外) 「旧二十三日」、精天、金二午前汽車ニテ内行、大川珍察受ニ行ク
 九月九日 (録載外) 「旧二十四日」、宇津ノ谷地花園日、客人仲右衛門方嫁、魚又老母一泊ス
 九月十日
 九月十一日 タツ静岡ヨリ午前汽車ニテ帰宅ス、土用休業、邦太郎滞在中之处学校行之為メ静岡へ行ク
 九月十二日 土屋氏来ル、滞在ス

九月十三日 (録載外) 「雨天、祭礼」、徳蔵祭礼ニ付来ル
 九月十四日 (録載外) 「雨天、同」
 九月十五日 (録載外) 「同」、曇天、金一静岡ヨリ帰宅ス、小杉和作横浜ヨリ帰郷セリ、鈴熊納税ニ遣ス、八木間土屋
 氏・蔵徳滞在之处帰宅セリ
 九月十六日 曇天
 九月十七日 精天
 九月十八日 精天、高橋利左衛門氏柴田へ出張中之処一寸立寄りタリ
 九月十九日 精天、渡中徳蔵后七時来ル、但シ桶洗着手準備ニ付入
 九月二十日 (録載外) 「本日彼岸入」、精天
 九月二十一日 精天、鈴木熊吉東京行ニ付立寄りタリ、金一酒造組合集會ニ付出席ス、但シ后三時ヨリ
 九月二十二日 精天、秋山源吉本日ヨリ洗物ニ入、鈴木熊吉本日半日許リ手伝ス、但シナル流シ拵へ
 九月二十三日 自分岡部役場行、商号登記之手続ヲス
 九月二十四日 秋山源吉齒痛休ミ、土屋氏夕刻来ル、麻次郎午后二時来ル
 九月二十五日 雨天、土屋・麻次郎滞在ス、源吉休ミ
 九月二十六日 精天、午前金一藤枝登記所行、但シ商号登記申請ス、麻次郎滞留之处同時焼津へ向ケ帰途ス、田中文
 吉本朝酒取ニ来ル、お松・繁蔵藤枝組合之内各酒造家へ酒之景況聞取之為メ出頭ス、土屋氏本日帰宅セリ、金一藤
 枝ヨリ保福島桶木買入、大井神社参詣之上、夕刻帰宅ス、繁蔵夕方帰宅ス
 九月二十七日 精天ナリ、半切洗ヒ、坪台洗、徳・源・河の三名ニテ、午后築地西村角蔵氏豆州温泉行ニ付勧誘ニ来

ル、一泊ス

九月二十八日 源・蔵・河の樽道具洗ヒ、村松繁蔵藤枝近辺へ酒買入之為メ出張ス、西村角蔵帰宅ス

九月二十九日 源吉齒痛休ミ、雨天、河の梢子張リ、金一ラムネ帳簿調査ス、徳蔵ラムネ瓶片付ス

九月三十日 曇天、源吉休ミ、徳蔵蒸米スダレ網ミ、河の梢子張、金一現在酒調査并ニ酒造帳調べ、徳蔵午後三時ヨ

リ内行、本店若者彦太郎三州人長松ニ付添イ午前十時来ル、彦太郎一泊ス

十月一日 晴天、源吉来ル、彦太郎内行、徳蔵午後四時海水汲取ニ来ル、熊吉(鈴木)本日静岡本店へ行

十月二日 う天、朝築地西村角蔵出張シ、并ニ斎藤君入湯シ、兩人ニテ出張也、山中検査院^院現在石改メニ午後一時

三十分頃出張シ、同二時二十分頃かへり、后六時河のかへり、午后四時頃城之腰仲右衛門妻出張シ、并ニ斎藤ふじ

かへり、安蔵・庄松并ニ繁蔵塩明ニ致し候也

十月三日 晴天、河の畑へ行、四斗樽滓スミヲ繁蔵取、八十二号・四十九号を水き水石積、一時頃、醤油掛米イリ、

酒八十九号・八十三号桶口切、本日二時頃ヨリ出

十月四日 朝晴天、磯吉・松蔵桶子ケズリ来ル、蔵舟場越直シ、惣右衛門午前十一時ヨリ来ル、但シ後ヨリ源吉・庄

松土ハコビ、并ニ河の氏モ同上致し、繁蔵醤油上取カ、ル

十月五日 雨天、磯吉・松蔵・徳蔵三名ニテ桶子ケズリ来ル、惣右衛門蔵越直シ来ル、

十月六日 雨天、磯吉・松蔵醤油桶輪替へ来ル、惣右衛門蔵越直シ、并ニ室工ニ来、并ニ皆々手ツダイ、常蔵・金

太郎瓦直シニ来ル、源吉午前九時ヨリ痛氣ニテ休

十月七日 晴天、惣右衛門室工ニ来ル、并ニ河の・徳蔵・庄松共々同工シタリ、磯吉・松蔵醤油桶輪ニ来ル、藁惣

右衛門妻持来ル、源吉休、新屋新兵衛酒見本持来ル、酒松永仁平ハ一ツ火ニメ百五十匁、二ツ火ニメ二百匁

十月八日 う天、源吉来ル、磯吉・松蔵・惣右衛門来ル

十月九日 う天、惣右衛門釜屋直シ、并ニハネツルベ直ニ来ル、磯吉組休

十月十日 晴天、惣右衛門種々用ニ来ル、磯吉組休

十月十一日 晴天、惣右衛門来ル、磯吉組休、源吉・庄松桶洗

十月十二日 同、河の畑エ行、徳スダレアミ

十月十三日 同、河の喜市朝比奈掛取ニ行、元鈴木検査、醤油入妻并ニ酒造道具検査ニ来、午前十時頃酒造桶第十八

号并ニ八号桶、ハイキン八号桶ハ醤油製造用ニ使用致事也

十月十四日 ^{初次}□天、午前九時ヨリ渋谷安蔵内行、河の近在ラムネ瓶アツメ行、午後ヨリ河の氏桂島行、掛取

十月十五日 晴天、桶松蔵来ル、河の氏静岡内行ニ付、出品酒第一号・八十一号・七十四号桶三品本店へ検査ニ持行、

酒造組合ヨリ品ン出瓶来ル、午后七時頃国太郎帰来ル

十月十六日 晴天、磯吉・松蔵来ル

十月十七日 同日、桶や二名来ル、国太郎殿午後かへり

十月十八日 晴天、金一豆州入浴中之処午前六時四十分汽車ニテ、静岡発午前八時帰宅セリ、清酒品評会出品請取集

メ之処事務所員岡部氏午前九時半出張ス、第七十四号出品シタルガ、尚充分比較スルニ、第一号清酒之方上等出品

ニ適シタルモノト考へタルニ付、又々立会人岡部氏三出頭、再出品改メノ為使ヲ出ス、八幡橋岡田方三岡部氏居リ

タルニ付、早速引返シタリ、依テ改一号清酒ヲ出品ス、午後小僧安蔵日待ニテ帰郷中之処帰宅セリ

十月十九日 ^{静岡}静岡ニテ酒品評会開設、晴天、源吉祝言ニテ休ミ、徳蔵・庄松桶洗ヒ

十月二十日 雨天、源吉休ミ

十月二十一日 精天、源吉休ミ、金一藤枝才判所ヨリ下築地石部藤太郎方行、同中島富藏方へ立寄り、八幡橋岡田平五郎方へ立寄り、酒一本買入約定ヲナス、但シニツ火古酒内ニ五百匁直四升七合替、本月限り請取約定之事、午後六時帰宅セリ

十月二十二日 (蘇蘇)「授与式、旧九月八日」、静岡興清酒品評会授与式静岡にて開設ス、渡中徳藏前源吉同道品評会見物之為メ出張ス、旧曆九月八日ニテ多忙、授与式ニ参列セス

十月二十三日 源吉・徳藏休ミ

十月二十四日 源吉来ル、四斗樽洗ヒ、徳藏休ミ、繁藏后一ヨリ庚申参詣ヲ藤枝自分親戚へ新客ニ行ク

十月二十五日 雨天、源吉休ミ、小泉茂三郎期日米之件ニ付来ル

十月二十六日 精天、源吉入、樽洗ヒ、河の喜一静岡ヨリ午后四時来ル、渡中徳藏岡内行中之処后六時来ル、身延詣日待執行

十月二十七日 精天、繁藏八幡橋岡田平五郎へ酒受取ニ出張ス、車力・岩・俊・田・内庄松・河の喜一・源吉行、徳藏留守、酒火ニハ一ケス、源吉夕刻ヨリ歯痛ニテ内行

十月二十八日 源吉休、朝、徳藏午前八時内行、河野・庄松農事

十月二十九日 精天、高野山方行、村松繁藏藤枝へ行ク、但シ酒買入之為メ

十月三十日 精、金一未明遠藤弥吉・石原亀吉・河塚常蔵ト四名ニテ秋葉参詣之為メ出張也

十月三十一日 精

十一月一日 精、金一午后帰宅ス、河野本朝城之越へ自用ニテ出頭ス

十一月二日 精、石部藤太郎来リ泊ス

十一月三日 雨天、石部氏滞在ス

十一月四日 精天、金一静岡安四市川源四郎方へ悔ミ之為出張ス、西村藤太郎滞在中之処帰宅セリ、河野帰宅ス

十一月五日 金一静岡ヨリ帰宅ス

十一月六日 曇天ナリ、小杉老人和作用件ニテ正午来ル、内老人静岡へ本店へ行ク、本店主富次郎殿来ル、但シ桶木買入之為メ一泊ス、藤枝町キタ午后小児引付レ来リ一泊ス

十一月七日 精天、酒引取之為メ繁藏藤枝行、車力同道ス、本店富次郎午前保福島へ磯吉同道出張ス、城之腰長谷川伝左衛門参堂ス、即日帰宅ス、小杉老人帰宅ス、おこふ午后四時内老人ト来ル

十一月八日 雨天

十一月九日 曇天

十一月十日 精天、ス、払ヒ、午前三時ヨリ起キ、手伝人源吉・桑政・立ヶ谷・藤平・横田屋方金十・河野・繁藏・庄松、女集ツマ・下女・小杉ナミ等ナリ

十一月十一日 精天

十一月十二日 精天、本日ヨリ元大蔵社家敷之鎌入初メ、但シ庄松并ニ小長谷春吉雇ヒ入、渡中徳藏本日后二時半来ル入、村松繁藏午后六時ヨリ焼津田中文吉方行、小泉茂三郎本日来ル、但シ米之件ニテ、自分小杉宅日待ニ行ク

十一月十三日 曇天、村松繁藏午后帰宅ス

十一月十四日 曇天、醤油仕込第二期ニ着手、但シ九石仕込ニケ、秋山源吉酒造部へ入ル、河野喜市山方掛取ニ行ク、小杉利三郎午前十一時来ル、二時帰宅ニ付ク

十一月十五日 (蘇蘇)「酒造之麴洗滌ス」、精天、金一城之腰協同一銭社ヨリ、藤枝税務署ヨリ中島富藏へ立寄り、

尚下築地西村角藏方行、午后帰宅ス、本日ヨリ翫麴洗滌ス

十一月十六日 精天、房吉本日ヨリ入(本日酒造流シ修繕ス)、小僧安藏城之腰一銭社行、田中方吉午后四時酒取ナガラ、仕込之様子見ニ来リ帰ル

十一月十七日 曇天ナリ、小僧安藏藤枝稅務行、(原姓)房吉本日ヨリ休ミ、酒造帳簿調ベ

十一月十八日 雨天、立ヶ谷惣吉惣勘定ヲナス、てふ学校帰リ藤枝町川原町根本總吉方へ小僧之祝ヒニ行ク

十一月十九日 精天、金一正午ヨリ小泉行、午后帰宅ス、静岡ヨリ鈴熊第一号ヨリ八号既持參ス、自宅へ泊ス

十一月二十日 雨天、大籠烟雇人定吉倅一人、外川原町与市倅一人雇入レリ、熊吉午前帰宅ス

十一月二十一日 曇天、元八十一号清酒冷引ス

十一月二十二日 雨天、母タツ后ヨリ身延山へ參詣之見込ニテ静岡迄出向ク、但シ小田部様ト同行ス

十一月二十三日 雨天ナリ、自分后三時新兵送別会へ列席ス、午後八時静岡雇人彦太郎并ニ三州人足伊東藤七入

十一月二十四日 (原姓)「旧曆十月十一日」、精天、彦太郎帰宅ス、大籠地所へ雇人山下定吉本日米精米ス

十一月二十五日 精天、午前十一時半浜部七藏来ル入、午后四時古井浦吉来ル、精米器械直シ之見込ニテ、二、三日

間雇入之見込、本朝小僧安藏古井浦吉方行、但シ泊ル

十一月二十六日 (原姓)「醤油開釀式」、曇天、古井浦吉ハ朝ヨリ器械直シ、并ニ精米部屋片付ニ、并ニ配守器械調

査之為メ出張サセル、小僧安藏午前十一時帰宅ス、本日ヨリ房吉入、但シ酒倉飯二階拵へ之為メ来ル

十一月二十七日 精天、本店内彦太郎八幡橋菓賣取ニ參ル、直ニ帰宅ス、浦吉精米手始メス、但シ藤市本日ヨリ精米

ニ取掛ル、房吉雇入

十一月二十八日 精天、浦吉午前七時内行キス、大工房吉来ル、渡中徳藏并ニ自分同道午前九時ヨリ焼津駅ヨリ静岡

行、十一時三十六分汽車ニテ行ク、静岡在平川寺精米器械調査ス、其レヨリ吉川行、楠本行、桜井戸灸治ヲ頼ミ、

吉田杉山彦三郎氏宅へ立寄り、午後六時小杉宅ニ立ち寄り、静岡本店へ一泊ス

十一月二十九日 精、大工房吉来ル、桶屋磯・松屋ヒ、河野喜一ハ兵士送りニ遣ス、金一午前十一時静岡ヨリ帰宅セ

リ

十一月三十日 雨天、臨時雇人大工房吉階子拵へ、磯吉・松吉甕拵へニ来ル、庄松本日精米方ス、藤市腹痛ニテ午后

二時迄休業セリ、村松繁藏小泉茂三郎方倅兵士送別之為メ出張、藤枝へ廻リ帰宅ス、渡中徳藏后十一時半桜井戸ヨ

リ自宅行之处来ル、河野・角藏兵士送りヨリ城之腰一泊之上本日午后二時帰宅セリ

十二月一日 精天、繁藏病氣ニテ午前中休ミ、臨時雇人大房酒造二階拵へ、桶磯・桶松二人甕へ修繕等ニ来ル、母

タツ身延山行之处午后四時半帰宅セリ

十二月二日 雨天、雇人桶磯・松、大工房吉三人、金一正午ヨリ、藤枝ヨリ青木精米器械調査ニ行ク、午后帰宅ス、

河の喜一山方行、午后帰宅ス、片岡勘太郎午后二時来ル入

十二月三日 雨天、雇人大工房吉休業、桶松休ミ、桶磯来ル

十二月四日 精天、雇人房吉・桶磯来ル、浜部七藏后三時ヨリ行、金一午后ヨリ七藏ト同道静岡行、但シ精米器之件

ニ付

十二月五日 精天、房吉・磯吉入、本日精米器械師東武八氏来リシ由

十二月六日 房吉入、磯吉入

十二月七日 房吉・磯吉入、金一静岡行之处、山口小杉件ニ付滞在之处本日和解ニテ帰宅ス

十二月八日 房吉・磯吉入、本朝精米器械師東武八氏来ル、即時帰宅ス、正午静岡安西器械師鈴木安藏氏来ル、午后

掃宅セリ

十二月九日 臨時雇人房吉・磯吉入、精米、藤市休業セリ、山下定吉耕作交蒔、午后二時ヨリ雨天、仕舞セリ、村松繁蔵后一時ヨリ下築地味淋取行、后帰ル

十二月十日 精米藤市国元へ帰ス、房吉・磯吉雇、但シ磯吉ハ本日限り一時解雇

十二月十一日 房吉入

十二月十二日 村松繁蔵遠州榛原運沼行、巻田寅吉同道午后二時来ル、富吉一泊ス、但シ藤鑑查属托^{（藤鑑）}之為メ、臨時雇大工房吉本日迄ニテ一時解雇ス

十二月十三日 雨天、巻田寅吉滞在ス、臨時雇人ナシ

十二月十四日 精天、寒氣増セリ、巻田寅吉滞在ス、本店父上第一号・二号腐敗藤鑑查之為メ出頭セラル、精米雇ヒ午后三時来ル、一色ヨリ古井金太郎ト申スモノ、本日ハ精米部屋片付ヲス、三州人午后静岡ヨリ来店、一泊サス、本店父泊ル

十二月十五日 精天、父富次郎午后二時帰宅セリ、巻田寅吉午后四時内行ス、自分小泉宅行

十二月十六日 精天、寒氣一層増進ス、小杉老人滞在中之処午前八時帰宅セリ、臨時雇ヒ磯吉来ル、渡中徳蔵午后四時ヨリ内行ス

十二月十七日 精米部器械修繕ニ付本日休業ス、古井金太郎午前内行、午后四時半戻ル、金一仮宿小泉方行

十二月十八日 渡中徳蔵午前正午帰リ来ル、臨時雇人磯吉外二人輪替ヲナス、片岡勘太郎后二時ヨリ内行、藤枝おきた来ル、金一后五時ヨリ静岡行

十二月十九日 精天、河野ラムネ掛取下在行、金一后四時静岡ヨリ帰宅ス、片岡勘太郎后五時半帰宅ス

十二月二十日 精天、自分諸帳簿調査セリ、午后二時藤枝税務署長井二浅井税務属随行来ル、午后五時半ヨリ秋山繁蔵私用ニテ焼津行

蔵私用ニテ焼津行

十二月二十一日 精天、金一午前ヨリ納税保証人之件ニ付朝比奈、殿村行、繁蔵焼津行之處午前帰宅ス

十二月二十二日 精、金一后一時ヨリ納税保証人之件ニテ朝比奈行、午后戻ル、邦太郎后休暇ニテ入ル

十二月二十三日 同、桶磯三人輪替ニ来ル、小泉氏午后来ル

十二月二十四日 同、臨時雇人ナシ

十二月二十五日 精天、精米器械正午来ル、直ニ据付ニ取掛ル、邦太郎午前ヨリ静岡へ遣ス

十二月二十六日 全天、精米器械据付ヲナス、邦太郎静岡ヨリ帰宅ス、河野喜一午后ヨリ城之腰へ私用ニテ行ク

十二月二十七日 精天、雨天、精米器械据付ヲナス、午后ヨリ精米器械師江尻行キス

十二月二十八日 曇天ナリ、大工房吉精米部屋修築^{（修築）}イニ来ル、金一午前藤枝税務署行、正午帰宅、小柳津市蔵正午ヨリ精米部屋^{（修築）}へ手伝ヲナス、午后二時ヨリ邦太郎ハ静岡本店へ手伝イ之為メ出岡セリ、金一同時仮宿小泉茂三郎方行

十二月二十九日 精天、雇人大工房吉、大工春吉、手伝入市蔵・金太郎、午前十時藤枝税務署長井二鈴木税務属腐敗

藤二ヶ検査之為メ来ル、市蔵ハ午后四時内へ帰宅セリ、河野喜一城之腰石屋行之處午后四時帰宅ス

十二月三十日 精天、臨時雇人大工房吉・立ヶ谷惣吉来ル

十二月三十一日 精天、臨時雇人大工房吉・春吉・立ヶ谷惣吉精米部屋修築ニ来ル、藤平・金蔵ノ飾リ持へニ来ル、

渡中徳蔵正午ヨリ静岡本店酒造視察之為メ出張ス

明治三十二年一月一日 精天、臨時雇人大工房吉・春吉・惣右衛門来ル、精米金太郎午后ヨリ内行、邦太郎静岡ヨリ来ル、徳藏正午帰宅

一月二日 精天、大工房吉・春吉入、立ヶ谷ハ来リシガト、直ニ自分自家父病氣ニ付休ミ行、金太郎休ミ

一月三日 金太郎午前来ル、大工房吉・春吉来ル、セン・テフ・ハナ・大野老母静岡行、午前立ヶ谷半日ヨリ来ル

一月四日 精天、大工房吉・立ヶ谷・大工春吉入、金一醬油集金ニテ城之腰纏屋方行

一月五日 精天、臨時雇人ナシ、本日煮込酒火入ヲナス、郡ノ雇人星野梅吉本日正午入

一月六日 精天、金一静岡ヨリ午前九時帰宅ス

一月七日 露感外「恵比壽講」、恵比壽講ヲナス、手伝人横田兩人・河野喜市・静岡本店老母并ニて静岡ヨリ午后

来ル、小杉老人午后夕方来ル、鈴木熊吉午后静岡ヨリ遠州蓮沼行之处来ル、一泊ス、村松繁蔵酒造集會行

一月八日 精天、長谷川伝左衛門正午来ル、鈴木熊吉・渡中徳藏兩人正午静岡本店行、長谷川帰宅ス、邦太郎冬季休

業中之処午后静岡行

一月九日 精、小杉老人・橋本本店老母滞留ス

一月十日 精、珠算教師来ル、小杉老人内行、午后徳藏静岡ヨリ帰宅ス

一月十一日 精天

一月十二日 精天、渡中徳藏午前静岡本店へ行ク

一月十三日

一月十四日 精天、金一静岡行、寒氣強シ

一月十五日 精天、寒氣強シ、秋山源吉静岡本店行、午后四時源吉并ニ金一・徳藏同道帰宅セリ、立ヶ谷兩名ニテ石

白据付ニ来ル

一月十六日 精天

一月十七日 精天、熊吉午后静岡ヨリ来リ一泊ス

一月十八日 精天、桶松小物持ヘニ来ル、静岡本店老母滞留中之処正午城之腰纏行、熊吉午后内行、繁蔵午后ヨリ古酒

買入ニ行ク

一月十九日 精天、桶松来ル、渡中徳藏午后二時ヨリ静岡行

一月二十日 精天、桶松休、金一后仮宿行、徳藏静岡ヨリ夕刻来ル

一月二十一日 精天、金一藤枝稅務署ヨリ静岡行、渡中徳藏后静岡行

一月二十二日 全、渡中徳藏静岡ヨリ帰宅、正午、金一后三時帰宅

一月二十三日 精天ナリ、立ヶ谷兩人釜屋持ヘニ来ル、但シ惣右衛門・棧五郎、金一藤枝ヨリ兵太夫村松東平方ヘ酒

買ニ行ク

一月二十四日 全、本店麻次郎午后三時来ル、片山新兵衛俸全四時来ル、醬油屋ヘ入ル、桶松入

一月二十五日 精天、臨時雇人桶松入、麻次郎午前十時半静岡ヘ帰宅ス、渡中徳藏十一時ヨリ静岡行

一月二十六日 渡中徳藏ハ静岡ヨリ片山新兵衛ヲ本朝ツレ来ル、郡梅吉ハ明日静岡行ニ付テ内行、但シ后二時ヨリ

一月二十七日 精天、郡梅吉本日静岡行、金一未明兵太夫新田村松東平ヘ酒受取ニ出張ス、同藤枝柿伝方醬油造集會

ニ出席セリ、后帰宅、小杉和作講無尽ニ出席也、桜田又兵衛氏、小杉利三郎氏モ同講ニ付出席セリ、酒母第二五・

第二六号ニケ静岡本店ヘ續渡ニ付送付セリ

一月二十八日 精天、午后邦太郎静岡ヨリ来ル

一月二十九日 精天

一月三十日 精天、邦太郎滞在ノ処静岡へ行ク、本日酒母二ケ・元麴一ケ分静岡本店へ送付ス

一月三十一日 未明精米方金太郎内行、タツ五人静岡小杉利三郎結婚式ニ出向ク、但シ正午ヨリ

二月一日 精天、渡中徳藏午後三時ヨリ静岡本店へ派出ス、精米金太郎・全今吉ヲ付シ后夕刻帰リ来ル

二月二日 精天、石屋仁平臨時雇入、但シ精米米臼直シニ来ル、片山新兵衛倅徹三醤油手伝中之処本日ヨリ酒屋へ入

ル、秋山繁藏午前古酒買入之為メ藤枝へ遣ス

二月三日 精天、石屋休ミ、金一午前九時ヨリ焼津協同一銭社行、正午帰宅ス、渡中徳藏午前九時静岡行ノ処戻ル

二月四日 精天、石屋仁平臨時雇入、金一帳簿調査ス

二月五日 雨天、タツ后三時静岡ヨリ帰宅ス

二月六日 精天、繁藏菊川へ酒買取ノ為メ出張ス、并ニ伴酒遣ス、中島方行、并ニ小土小柳五平方行

二月七日 雨

二月八日 精、片岡勘太郎午后三時ヨリ内行

二月九日 (露紙巻)「旧二月二十九日」、精、手伝小杉和作・片岡勘太郎夕刻戻ル、片山鉄藏夕刻内行、但シ静岡本

店へ行クニ付キ

二月十日 (露紙巻)「旧三十二年一月二日」、精、繁藏正午ヨリ市中并ニ宇津ノ谷迄掛取

二月十一日 全、同人午前ヨリ市中・内谷・三輪地方行

二月十二日 精、同人午前ヨリ、朝比奈掛島ヨリ羽佐間行、午前九時山口保次郎・田中并ニ大黒軍曹・兵士二名ト

兎狩ニ来ル、同道シテ廻沢行ク、午后帰宅ス

二月十三日 同、同人同ヨリ朝比奈行、殿村入舟・宮島行

二月十四日 同、同人同豊青羽根玉取行

二月十五日 同、同人正午ヨリ谷川并ニ村良・入野地方行、午前永井安藏こふ・本店父同道来ル、父ハ帰宅ス

二月十六日 雨天、保藏・こふ滞在中、后静岡蔵方星野梅吉来ル、一泊ス

二月十七日 (露紙巻)「年頭人古井浦吉・村松庄兵衛・渋谷平助来ル」、精、本日秋葉講当番執行ス、梅吉ト渡中徳藏

同道午前静岡行

二月十八日 全、徳藏未明戻ル、午后二時滞在中之餘藤・永保・おこふ后二時汽車ニテ帰宅ス、邦太郎后四時静岡ヨ

リ来ル、本日酒母二ケ静岡へ送付ス

二月十九日 精天、邦太郎午后静岡へ戻ル、秋山源吉腹痛ニテ正午ヨリ休ミ

同月二十日 (露紙巻)「旧一月十一日、蔵開」、精天、源吉腹痛ニテ休業

同月二十一日 源吉来ル、本日酒母静岡一ケ送ル

二月二十二日 精、大工房吉倅裏門拵へニ入ル、村松繁藏后ヨリ焼津、年頭ナルガ二日掛取ニ行ク

二月二十三日 雨天、午前本店五人来ル、午后帰宅ス、本日大工房吉ノ倅来ル

二月二十四日 大工房吉倅来ル、村松繁藏内行中之処午后戻ル

二月二十五日 本日片山新兵衛后芝居ヨリ内行

二月二十六日 片山新兵衛夕刻戻ル、渡中徳藏正午静岡行、小杉庄作氏度量衡ニ付岡部役場へ参ル

二月二十七日 大工房吉倅来ル、小杉氏滞在、芦野長吉本日一日間臨時雇ス、金一正午ヨリ朝比奈へ掛取ニ行ク、本

朝臨時検査トシテ浅井蔵検査出張セラル、渡中徳藏午后夕方戻ル

二月二十八日 精天、村松繁蔵午前ヨリ藤枝支金庫へ酒造税納付之上、保福島井二小土水車等ヨリ城之腰行、小杉庄作氏度量衡之件ニ付出張滞在之處午后帰宅ス

三月一日 (假紙外) 旧一月二十日、雨天、村松繁蔵静岡上大工町火事見舞トシテ出頭ス

三月二日 精天、村松繁蔵静岡ヨリ午前帰宅ス

三月三日 (假紙外) 三十一年度仕込任舞、曇天、午前八時小杉庄作氏度量衡販売之為朝比奈へ参ル、橋本富次郎氏来ル、来客立々谷岡人・渡久・田中又吉・桑政・藤平、郷国・小杉和作・古井浦吉

三月四日 精天、古井浦吉・今蔵・金太郎・小僧安蔵同道内行、庄松静岡へ遠ス、本店父帰宅、小杉后帰宅ス、徳蔵后内行

三月五日 精天、源吉指痛ミニテ休ミ、庄松静岡ヨリ帰ル

三月六日 精天、源吉休、墨器度器検定受トシテ繁蔵藤枝行ス

三月七日 精天、源吉休、金一后ヨリ静岡本店仕込任舞ニ出席、井三焼津城之腰行之為メ出張ス

三月八日 精、源吉休ミ

三月九日 精、桶磯・桶松二人輪竹ケズリニ来ル、金一后二時帰宅ス、小僧安蔵休暇帰郷中之処正午戻ル、秋山源吉本日ヨリ入

三月十日 曇天、桶屋休ミ、渡中徳蔵内行中之処后三時来ル、本店雇人彦太郎后ヨリ来ル、即時帰宅ス、三州人鈴木庄松本日迄ニテ解雇ス

三月十一日 曇天、鈴木庄松帰国ス、桶屋二人入

三月十二日 (假紙外) 取始メ、桶磯入、精、小杉利三郎氏后来ル、一泊

三月十三日 桶磯入、精、小杉利三郎氏午前帰宅ス

三月十四日 精、秋山源吉指痛ミニテ休、村松繁蔵午前近在掛取ニ行ク、金一正午ヨリ明日桶美濃輸行ニ付静岡へ行ク

三月十五日 (假紙外) 旧曆初午、同、源吉休

三月十六日 金一未明帰リ来ル、雨天、源吉休

同十七日 精天、源吉休、金一午后ヨリ藤枝柿伝へ酒造集會ニ参列之為メ出席セリ

同十八日 精天、源吉来ル、正午ヨリ片山新兵衛内行ク、桑苗本日ヨリ植へ付ケ始メル、星野梅吉来リ一泊ス

同十九日 精天、桑苗加藤井ニ臨時雇平市入、桶屋磯・松・徳・亀四人本日ヨリ入、立ヶ谷午后ヨリ醤油煙筒筒へニ来ル

同二十日 同、繁蔵葉梨名倉沢酒受取ニ行ク、桶四名入、片山新兵衛午前十時入ル

同二十一日 桶屋四人来ル、内半日間桶亀・磯ハ休ミ、但シカヤノ木四十六引行ニ付、秋山繁蔵后焼津行

同二十二日 (假紙外) 本日煎物始、醤油仕込着手、桶工四人来ル、田中万吉午前十時入、皆道検査済、無事終了ス、

渡中徳蔵后内行

同二十三日 桶屋四人来ル、邦太郎学季試験済ニテ休暇ニ付帰宅ス

同二十四日 雨天ナリ、桶屋四人入

同二十五日 精天、桶屋四人入、新屋善七午前九時ヨリ入、但シ桶蓋拵へニ来ル、渡中徳蔵后四時来ル

同二十六日 雨天、桶屋四人来ル、木工善七蓋拵へ、醤油仕込中、母上大慶寺へ日宗管長説教聴聞ノ為メおせい同道行、午后ヨリ雨天

三月二十七日 精天、桶工四人、外善七蓋拵へ、小杉利三郎氏后私用ニテ来ル、泊ス
三月二十八日 精天、富田平五郎酒取之為メ金一午前出張、并ニ築地焼酎屋迄行ク、桶工四人入、蓋拵、善七の店主
屋玄順氏来ル、泊ス、邦太郎修業式明日ニ付静岡行

三月二十九日 精天、桶屋四人、善七入、田中万吉午前十時ヨリ内行ク、葬式ニ付、渡中徳蔵腹痛ニテ休業ス、土屋
滞留

三月三十日 精天、桶屋四人入、田中万吉本朝入、金一仮宿茂三郎方行、午后ヨリ雨天ニテ桶屋四人同二時半迄ニテ
休業セリ、土屋外繁蔵・小僧三人ニテ后ヨリ芝居行

三月三十一日 雨天、桶屋四人休業ス、善七蓋拵ヒ、立ヶ谷惣吉室崩シニ来ル、繁蔵午前藤枝支金庫へ第四期酒造税
納付之為メ出張ス、土屋午前帰途ニツク

四月一日 曇天、立ヶ谷惣吉・熊吉塚垣根修繕ニ入ル、善七蓋拵イ、桶屋四人午後三時ヨリ入ル、金一・小僧安蔵静
岡へ后三時行

四月二日 曇天、桶屋四人入ル、善七蓋拵イ、桶屋本日修了

四月三日 曇天、酒造部渡中徳蔵・片山新兵衛・片岡勘太郎本日ニテ終了ス、善七蓋拵イ

四月四日 雨天、渡中徳蔵外二人午前内行、解雇ス、善七蓋拵イ、小僧安蔵静岡行ノ処午前帰宅ス、金一后帰宅ス

四月五日 曇天、善七蓋拵イ、母タツ静岡岡二十日祭初会行、田中又吉后四時ヨリ同行

四月六日 精天、田中万吉午前十一時入、小僧安蔵保福島へ白酒取ニ行ク

四月七日 小雨、善七醬油槽道具拵イ、本日第一号味淋仕込ヲナス、夕刻田中万吉内行

四月八日 精、田中万吉午前十一時入ル、本日ニテ醬油仕込第一期甑仕舞ナリ、田中本日ニテ解雇ス、善七仕事也

四月九日 (露紙外)「旧三月二十九日」、精、タツ静岡ヨリ后四時帰宅ス、善七醬油槽竹拵イ、田中万吉未明内行、
三九

秋山源吉眼痛ニテ后三時ヨリ内行、一時解雇ス

四月十日 精、善七本日迄ニテ解雇ス、金一・河野山方詣求ニ行ク、后帰宅ス

四月十一日 (露紙外)「旧三月二日」、精、老人静岡行ノ処午前帰宅ス

四月十二日 (露紙外)「三日」、雨

四月十三日 雨

四月十四日 精、金一本日病床

四月十五日 精天、正午片岡勘太郎火入ノ為メ来ル、渡中徳蔵后来ル、星野梅吉モ后来ル

四月十六日 (露紙外)「本日ヨリ火入」、精天、火入初、新屋ヨリ片山徹蔵入ル、静岡本店母上ヤイツヨリ来ル、徳・

源・繁・勘・松・徹六人、小僧安蔵築地へ味淋取ニ行ク

四月十七日 曇天、雨トナル、火入

四月十八日 曇天、火入

四月十九日 曇天、火入

四月二十日 雨天、火入、河野喜一自用ニテ城ノ腰・掛川行ノ処本日帰宅、但シ午前ナリ

四月二十一日 雨天、火入、安蔵葉梨倉沢井ニ八幡橋岡田平五郎方行ク

四月二十二日 精天、火入、安蔵城ノ腰掛取ニ行ク

四月二十三日 精天、火入本日終了

四月二十四日 精天、倉庫片付、火入人足惣掛リ、本日迄ニテ終了ス

四月二十五日 精天、朝星野梅吉・片沼勘太郎・片山徹三解雇、帰宅ス
四月二十六日 精天、渡中徳藏本日解雇、后帰宅ス、秋山源吉同解雇ス、秋山繁藏自用并ニ掛取ヲ兼テ夕方焼津行
四月二十七日 精天、秋山源吉勘定ヲナス、秋山繁藏帰宅ス
四月二十八日 同、おこふ・永井娘同行、繁藏后ヨリ藤枝集會行
四月二十九日 精天、河野焼耐取
四月三十日 同、河野焼耐取
五月一日 同、河の同
五月二日 同、河の同
五月三日 雨天、同
五月四日 精、同
五月五日 〔露紙外〕^④皆造、精、本日 皆造済
五月六日 精、菊川ヨリ古酒受取ス、車力國藏・千代藏・繁藏・国藏老父
五月七日 雨天、河野休業
五月八日 曇、河野喜一静岡手伝イノ為メ午前出張
五月九日 精
五月十日 精
五月十一日 精天、金一正午ヨリ焼津・静岡行
五月十二日 雨天、午后上ル、築地石部藤太郎来ル、即時帰宅ス

五月十三日 精天、邦太郎静岡ヨリ来ル
五月十四日 同、金一午前帰宅、邦太郎后ヨリ静岡行
五月十五日 精
五月十六日 雨天
五月十七日 精
五月十八日 精天、小僧安藏保福島行、味淋取トシテ
五月十九日
五月二十日
五月二十一日 雨
五月二十二日
五月二十三日
五月二十四日
五月二十五日 精
五月二十六日 〔露紙外〕〔旧四月十七日〕、精、醬油倉シコロ崩シニ取掛ル、雇人大工房吉・立ヶ谷惣右衛門・常藏・同倅金藏・金子岩吉、五人
五月二十七日 曇天、雇人左官常藏、倅金藏酒倉・精米屋根繕ヒ、岩吉菊屋婿石カツギ（立ヶ谷休ミ、大工ハ休ミ）
五月二十八日 曇天、雇人金子岩吉・菊屋石屋仁平・戸塚常藏・倅金作、石屋金市静岡出張、国太郎四時頃来ル
五月二十九日 雨天、雇人吉見や・倅菊や仁平・戸塚二名、五人来ル、国太郎戻リ、午前ニ菊川酒店ヨリ金受取ニ

杜氏が来ル、相渡シ、金子岩吉休、石ハコビシマイ、并ニ土子^{ウツ}リ教也

五月三十日 曇天、雇人菊屋休、吉見や仁平・戸塚常藏・金作計四名来ル、安藏城之腰掛取ス、午后二時頃ヨリ河の氏静岡ヨリ帰宅

五月三十一日 雨天、雇人惣休、⁺店出、精米場ヨリ

六月一日 曇天、雇人吉見や一名来ル、繁藏藤枝酒買入ニ付出立、渡中徳藏十一時頃帰ル、河の氏來カリ并ニシナベ
六月二日 晴天、田中又吉藏へ見二来ル、午前、雇人惣右衛門・房吉・岩吉・吉見や・仁平、^ノ五名、内岩吉午前十

時頃中山よ吉之惣しきニ付戻リ、内仁平ハ半人より来ル、斎藤家引ニ付梅吉・文平・榮作并ニ作藏是等物四名来ル
六月三日 曇、十一時頃ヨリ大雨ニ成、雇人仁平ト倅・吉見や・岩吉・立ヶ谷、^ノ五名来ル、内吉見やハ七分、岩吉

七分、惣右衛門三名ハ七分トナク、家引組来ル
酒受取ニ出張、繁藏・国藏・千代吉三名ニテ持来ル

六月四日 雨、雇人惣右衛門・岩吉・吉見や・仁平ト倅、^ノ五名也、エハ買入、家をはこび、家引ハ一時三十分頃迄
ニしまい、家之すきに梅吉・常作・作藏・文平行、并ニトヘブキシタル

六月五日 曇、雇人立前ニ付惣右衛門・房吉・金三、吉のや・岩吉・仁平ト倅、梅吉・榮作、^ノ九名、内榮作ハ十時
頃ヨリハガイタミ休ミ、安藏藤枝ヘクギ買ニ出張、政吉手ツタイニ来ル

六月六日 天気、雇人常藏・惣右衛門・房吉・岩吉・吉のや・梅吉・榮作、^ノ七名来ル、国藏二時頃ヨリ手ツタイニ
来ル、安藏・繁藏桑切リ行

六月七日 晴天、河の氏朝比奈へ掛取行、雇人惣右衛門・房吉・岩吉・金藏・吉のや・梅吉・文平・常藏・倅金作、
^ノ九名ナリ、渡中徳藏午后六時頃戻リ

六月八日 雨、雇人房吉・金藏二名、早川佐吉手ツダイニ来

六月九日 雨、雇人惣休、早田佐吉一名来ル

六月十日 天気、雇人房吉・金藏・常藏・金作・梅吉・榮作・吉見や・寅吉、^ノ八名、外佐吉・河の二名ナリ

六月十一日 晴天、雇人房吉・金藏・常藏・金作・寅吉・吉見や・梅吉・常作、^ノ八名、外佐吉・河の二名の物種々
事致し

六月十二日 天気、雇人常藏・金作・吉のや・寅吉・佐吉、^ノ五名、畑工致し

六月十三日 曇、雇人惣休、午后三時ヨリ藤枝へ古酒買入行、国藏・熊吉并繁藏、村松久次郎ヨリ買入、味淋一樽杉
井榮作ヨリ買入

六月十四日 天気、佐吉小杉行、雇人房吉・金藏・常藏・金作、^ノ四名来ル、河の氏午前一時ヨリ静岡へ行

六月十五日 天気、雇人房吉・金藏、^ノ二名来ル

六月十六日 晴天、同房吉、金藏二名来ル

六月十七日 晴天、雇人金藏、いかけや、^ノ二名来ル、金一不在中之処午后四時邦太郎同道帰宅ス

六月十八日 晴天、雇人ハ金藏老人、河野喜一小杉事件ニテ静岡行中之処母タツ出向ヒトシテ正午来ル、午后一時汽

車ニテ母并ニ河野同道静岡行、邦太郎后帰静ス

六月十九日 精、金藏・鑄掛屋雇、金一午前役場へ出頭

六月二十日 晴天、金一五県品評会之件ニ付役場へ出頭ス、雇人大工金藏・小杉・梅吉・鑄掛屋一名来ル、午后四時
城ノ腰清水儀七外一人焼津ホテル株式ノ件ニテ来ル、即時帰宅ス

六月二十一日 晴天、雇人ナシ、金藏休

六月二十二日 雨天、金藏休、小僧安藏午前十一時静岡本店ヨリ小杉屋へ遣ス、午后四時半帰宅ス
 六月二十三日 晴天、大工金藏来ル
 六月二十四日 精、金藏入、河野小杉伊三郎出向中ノ処本日右件ニテ来ル
 六月二十五日 精、金藏入、河野静岡行
 六月二十六日 晴天、金藏休業ス、安藏一銭社へ遣ス、河野本夜帰宅ス
 六月二十七日 晴天、金藏入
 六月二十八日 全、金一午前帳簿受檢之為メ出藤へ出頭ス、午后帰宅ス、金藏入、本日迄ニテ一時解雇ス
 六月二十九日 晴天、本日味淋醪受檢査ス、正午渡中徳藏日覆ノ為メ来ル、小僧安藏城ノ腰一銭社へ差遣ハサス
 六月三十日 曇天ナリ、本日雇人農事、熊藏入ル、源吉入、徳藏・河野味淋上ケ并ニ日覆ヲナス
 七月一日 曇天、日覆徳藏、河野味淋醪場、熊藏入、農事
 七月二日 曇天、熊藏休シ、徳藏味淋器械洗ヒ、河野手伝、渡中徳藏夕刻内行、解雇ス、農事山下定吉
 七月三日 曇天、河野・山下定吉農事ヲナス
 七月四日 晴天、午前金一静岡本店、父病氣見舞ニ行ク、山下定吉・河野農事
 七月五日 晴天、午后金一静岡ヨリ帰宅ス、山下定吉・河の農事
 七月六日 曇天
 七月七日 曇、河野静岡行
 七月八日 曇
 七月九日 曇、寒冷、雨、小僧安藏藤枝行

七月十日 (曇外)「寒シ」、曇天、母タツ静岡行中之処帰宅
 七月十一日
 七月十二日
 七月十三日 雨天、雇人高田ヨリ来ル
 七月十四日
 七月十五日
 七月十六日 雨、朝高田雇人ニ午前五時頃ニげ行
 七月十七日 雨天
 七月十八日 曇天、午後六時頃ヨリ渡中徳藏来ル
 七月十九日
 七月二十日
 七月二十一日
 七月二十二日 大雨天、雇人秋山源吉来ル、一名、河の喜一静岡行
 七月二十三日 天気
 七月二十四日 曇天、雇人源吉一名今日迄来ル
 七月二十五日
 七月二十六日
 七月二十七日

七月二十八日 曇天、河の喜一朝比奈掛取行、雇人金藏・いかげや・石屋、ノ三名来ル、ラムネノ書面届出也
七月二十九日 天気、雇人金藏・いかげや・石屋、ノ三名来ル

七月三十日 天気、河の喜一城之腰ニ掛取行、雇人金藏・石屋・いかげや・常藏・伊之吉・金作、ノ六名来ル、金一掃宅ス

七月三十一日 晴天、河野藤枝へ納税ニ遣ス、金一浜松五二会へ出品物ノ件ニ付出張ス、本日常藏・金藏・石屋三人
臨時雇ヒ、金一夕刻帰ル

八月一日 常藏・金藏・石屋・鱈掛屋四人来ル

八月二日

八月三日 金一焼津ヨリ静岡行

八月四日

八月五日

八月六日

八月七日 晴天、河野喜一静岡へ行ク、戸籍謄本入用ニ付（大石鷹藏支払命令ニ付、ラムネ五本持参ス）

八月八日 金一静岡ニテ、ラムネ五本県庁へ持参、大石鷹藏支払命令、并ニ差桶ノ件出願ス

八月九日 執達吏本日大石鷹藏へ参ル

八月十日 晴天、雇人戸塚常藏・伴金藏、外昼屋本日来ル、静岡行出滞在中ノ奇藤母、外本店老母午前同道来ル、金一午后静岡ヨリ戻ル

八月十一日 晴天、雇人石屋仁平・豊屋・左官休ミ

八月十二日 曇天「旧七月七日、井戸替也」、臨時雇人ナシ、精、井戸手伝人桑政・国藏・河野・繁藏、内安藏・源吉

八月十三日 臨時雇人ナシ、精、静岡老母外てふ同道、邦太郎老人同道、焼津祭典ニ行ク

八月十四日

八月十五日

八月十六日 河の朝比奈行

八月十七日 河の夕刻戻ル

八月十八日 曇天「旧七月十三日」、晴天、当年ハ流行病等ノ為商内掛入少シ、雇人秋山源吉、午后五時夕刻渡中
徳藏来ル

八月十九日 曇天「旧七月十四日」、晴天、掛取村松繁藏一人ニテ、右町内巖新町・内谷・三輪迄行、河野喜一外
秋山源吉二人ニテ、左町内ヨリ川原町・廻沢・宇津ノ谷行、渡中手伝イ

八月二十日 曇天「十五日」、同、掛取、渡中徳藏手伝、河野喜一ハ谷川・村良・仮宿・葉梨・戸沢行、渡中徳藏
手伝、村松繁藏・秋山源吉ハ朝比奈・殿村迄テ行ク、本店麻次郎午后二時城ノ腰ヨリ回り来ル、一泊

八月二十一日 曇天「十六日」、本店麻次郎午前掃宅ス、掛取、渡中手伝、河野入舟・笹川・野田沢行、繁藏・源
吉ハ富島ヨリ曳舟羽根玉取へ行ク、后帰ル、女集芝居行

八月二十二日 曇天「十七日」、精、正午ヨリ芝居行、渡中・河の・邦太郎・繁藏・安藏・源吉六人、芝居行、源
吉本日迄

八月二十三日 精、渡中手伝、明日火入ノ用意、河野喜一城ノ腰掛取ニ行ク、午后掃宅ス

八月二十四日 精天、第七十八号火入ス、但シ河の・村松源吉・渡中、自分手伝イヲナス

八月二十五日 精天、渡中・源吉農事手伝イ、ラムネ詰、河の農事ヲナス、安藏藤枝川原町迄テ行ク、渡中徳藏午后内行、解雇、秋山源吉解雇、村松繁藏后自用ニテ内行

八月二十六日 精、午前七時母タツ静岡小杉事件ニテ行ク、石屋仁平・鑄掛屋鬻油釜入屋トイツリニ入ル、繁藏后夕帰ル

八月二十七日 同、雇人石屋仁平鬻油煎釜持ニ入ル、鑄掛屋トイ針ニ来ル

八月二十八日 雨、石屋仁平煎鍋、河野喜一山方掛取ニ行ク、后帰ル

八月二十九日 曇、（録録）「旧七月二十四日、宇津ノ谷地蔵、客人藤枝鮎吉、築地石部氏等ナリ」、雨、石屋仁平煎釜、河野農事、静岡本店ヨリ仁科氏返金三一〇持参、使池田定吉来ル、双方帰ル、土屋玄順氏夕方来ル

八月三十日 曇、石屋仁平鬻油煎釜持ニ来ル、土屋氏セガキヲナス、安藏城ノ腰掛取、井二一銭社へ遣ス

八月三十一日 曇天、秋山源吉農事、雇人河野二名ニテ草取り、石工仁平鬻油屋雨水土管いけ

九月一日 （録録）「二十十日」、朝大雨、正午ヨリ精天トナル、仁平鬻油煎釜修繕ニ来ル、源吉休、午后四時邦太郎・秋山繁藏城ノ腰へうぶき針ニ行ク

九月二日 雨、繁藏・邦太郎朝帰ル、石屋仁平鬻油煙筒入ル

九月三日 曇天、河野農事、石屋仁平入、鑄掛屋トイツリニ入ル、石屋本日迄ニテ解雇ス、河の農事ヲナス

九月四日 精天、雇人鑄掛屋入、源吉農事雇、河の・繁藏農事ヲナス、金一午前仁科入、宅地抵当抹消登記出願トシテ藤枝登記へ出頭、午后二時帰宅セリ

九月五日 精天、河野・源吉農事耕作、鑄掛午前九時迄ニテ帰ル

九月六日 精天、河野・源吉ハ耕作、ソバマキ本日ニテ一時終了、源吉本日迄ニテ解雇ス、小杉和作横浜ヨリ后三時帰ル

九月七日 雨天、河野自用ニテ城ノ腰行

九月八日 雨天、鑄掛屋入、正午ヨリ大風雨、午后河野喜一帰宅ス

九月九日 精天、鑄掛屋来ル、午后夕刻石部藤太郎来リ、一泊ス

九月十日 精天、河野祭典ノソーシニ行ク、石部藤太郎午前内行、金一静岡ヨリ午前九時三時帰ル、邦太郎中学休暇中ノ処明日ヨリ開校ニ付午后ヨリ静岡行、河野喜一自用ニテ城ノ腰行、鑄掛屋本日迄

九月十一日 精天、金一大石鷹藏不動産抄本下付願ノ為メ出頭ス

九月十二日 雨天、金一午前八時頃ヨリ大石鷹藏ノ件、不動産仮差押ノ申請ニ付静岡才判所へ出頭セリ

九月十三日 （録録）「当地祭典」、精天、金一午前十一時帰宅ス、小杉和作小杉利三郎同道来ル、別ニ客人ハナシ、今夕ハ煙火献筈アリ、邦太郎午后来ル

九月十四日 曇天、利三郎午前帰ル、魚又老母来ル

九月十五日 精天、邦太郎午前四時静岡へ帰ル

九月十六日 精天、河野山方行、金一藤枝税務署味淋立会分析ノ為メ出頭ス、おこふ滞留中ノ処正午帰宅ス、河野夕帰ル

九月十七日 精天、臨時雇人ナシ

九月十八日 精天、臨時雇人ナシ、河野喜一大石鷹藏ノ不動産抄本申請之為正午ヨリ藤枝才判所へ遣ス

九月十九日 曇天、河野喜一村越久七件ニテ引受人へ遣ス、午后三時帰ル、即時静岡へ遣ス、渡中徳藏洗物ノ用意ト

シテ入ル、午后三時来ル

九月二十日 風、曇天、臨時雇人渡中サ、ラツキ、小僧安藏午前七時静岡へ遣ス、夕刻帰ル、但シ裁判件ニ付印形持
参ス、渡中徳蔵后三時ヨリ静岡へ中里探尋ノ為メ行ク（私用）

九月二十一日 風、曇天、渡中徳蔵午前八時帰リ来ル、徳蔵サ、ラ付、河野喜一后三時静岡ヨリ帰ル、直ニ入船迄大
石蔵蔵件ニテ出頭、午后七時帰ル

九月二十二日 晴天、徳蔵サ、ラ、河野農事、大石蔵蔵引受人寺川外其ノ他宗談之件ニテ来ル、田中又吉酒取ニ来ル
九月二十三日 晴天、秋山源吉臨時雇入、醤油室土練リ、渡中徳蔵サ、ラ付、河野室土手伝イ

九月二十四日 晴天、秋山源吉・河の室土ネリ、徳蔵サ、ラツキ、静岡ヨリ近藤茂吉来ル、即時帰ル、静岡本店老母
ハル・耕三郎外邦太郎付添へ来ル、后三時、邦太郎ハ后六時汽車ニテ静岡へ戻ル

九月二十五日 晴天、徳蔵サ、ラ、源吉・河の醤油室手伝、大工房吉醤油室組立ニ来ル、但シ外小僧一名入レ
九月二十六日 曇天、源吉・河の・徳蔵・繁蔵・萩原国蔵醤油室土塗リ、大工房吉外小僧并ニ伴幸太郎酒造増築倉ニ
階梯ニ来ル、静岡老母ハル・耕三郎午前十一時城ノ腰へ行ク、田中万吉正午醤油室手伝トシテ入ル

九月二十七日 晴天、大工幸太郎外小僧入、秋山源吉・田中万吉・河の・渡中醤油屋室手伝へ、金一午前八時汽車ニ
テ大石蔵蔵裁判口頭弁論ニ付静岡行、田中万吉ハ午后醤油室出来ニ付内行、解雇ス

九月二十八日 曇天、金一静岡、午前帰宅ス、本日雇人石屋仁平酒造釜修繕、煙筒拵ニ入ル、大工幸太郎外小僧一名
酒造ニ階梯ニ入ル、河の・源吉醤油屋手伝イ、并ニ職人ノ手伝、渡中モ手伝ス

九月二十九日 曇天、石屋仁平及婿老人入、大工幸太郎・小僧同入、河の・源吉・醤油や・小僧安藏藤枝へ買物ニ遣
ス

九月三十日 雨天、石屋下倅二人酒釜屋崩シ、大工幸太郎外小僧二人ニテ酒屋ニ階板敷張り、河の醤油手伝、源吉・

渡中酒造貯酒桶コモ取りヲナス、安藏城ノ腰掛取ニ遣ス、大慶寺上人夕刻立寄ル

十月一日 晴天、石屋二人酒釜拵直し、大工ニ階板敷ス、幸太郎外弟子・渡中徳蔵・秋山源吉ハ洗物流し地面タ、キ
ノ仕度ヲナス、大工二人ハ午后三時ヨリ藤枝祭典行ニテ休ミ

十月二日 曇天、大工二人来ル、石屋仁平来ル、臨時メ三人、徳蔵・源吉・河の洗揚地面タ、キ、大工ヒサシ拵イ
十月三日 晴天、大工幸太郎・弟子ヒサシ、屋根、醤油板ノ間板ケズリ、石屋仁平ハ酒屋釜、河野農事、源・徳・安・

繁タ、キラナス、河野午后五時ヨリ自用ニテ城ノ腰行

十月四日 曇天「第一号清酒二番火、火落ニ付」、晴天、大工幸太郎外弟子入、醤油屋板敷、石屋仁平ハ酒釜ニ入
ル、源吉・徳蔵ハタ、キ、并ニ本日第一号清酒ノ火入ヲナス、金一・繁手伝イ、母たつ静岡小杉事件ニテ出張中ノ
処本日一寸立寄ル、静岡老母午前十時汽車ニテ療養之為メ来ル

十月五日 雨、源吉休、大工幸太郎外弟子入、石屋仁平二名入、徳蔵手伝、河野喜一夜ル自用ニテ焼津・静岡へ出向
キ中ノ処帰ル、母たつ亦々静岡小杉事件ニテ午後一時汽車ニテ行ク

十月六日 雨天、大工幸太郎外弟子入、石屋二人入ル、源吉休、河の・徳蔵ハ酒倉壁コマイ拵イ

十月七日 曇天「大風、雨」、雨天、源吉休、大工幸太郎外弟子ハ井戸グタ拵イ、石屋仁平・同倅ハ酒屋釜拵
徳蔵・河のハ午前八時頃ヨリ、午後一時頃迄、大風雨ナリシ

十月八日 晴天、大工幸太郎弟子来ル、石屋仁平休ミス、河野キ一・徳蔵タ、キ、源吉休ミ、秋山・繁蔵ヲ午前十一
時ヨリ城ノ腰風雨大波ノ見舞ニ遣ス、渡中徳蔵夕刻ヨリ内ニ行ク

十月九日 晴天、大工休ミ、石屋休ミ、源吉休、徳蔵モイナイ、河野・繁蔵ハ片付、安藏午后一時ヨリ静岡へ遣ニ行

ク、勝手用ニテ徳藏夕刻来ル

十月十日 精天、石屋仁平外一名来ル、酒釜大工ハ休ミ、徳・河の・繁ハ丸太流し持ヲナス、源吉休ミ

十月十一日 精天、大工幸太郎ノミ入、石屋二人入、徳藏・河の・源吉入、三人ニテ男柱ヲ掘返ス、桶松午后三時入、小物拵イ

十月十二日 〔靈紙外〕旧九月八日、同天、大工幸太郎入、石屋二人入、大工ハ半日ニテ休ミ、桶松入、源吉休ミ、河の・徳男柱ヲイケル

十月十三日 同天、大工休ミ、石屋二人酒釜仕上ケニ来ル、桶屋休ミ、源吉休ミ、徳藏片付、夕方ヨリ徳藏・繁ハ六社祭典ニ行ク

十月十四日 同天、石屋二人ハ酒屋舟場石掛積ミニ来ル、桶松小物直シニ入ル、源吉休ミ、安藏ハ午前静岡へ遣ス、且自分実家日待ニ行ク

十月十五日 雨天、石屋二人休ミ、大工休ミ、桶松一人入ル、徳藏わら仕事ヲナス

十月十六日 〔靈紙外〕旧九月十二日、精天、大工幸太郎入、石屋仁平外一人酒糟場直シニ入ル、幸太郎ハ酒室場ノ外邊壁ヘマド明ケス、徳藏手伝イス、石屋本日迄ニテ解雇ス

十月十七日 精天、大工幸太郎一人入、酒室窓其ノ他井戸ケタ直シ、渡中徳藏酒室ノカベ小前拵、安藏内行中ノ處掃宅ス

十月十八日 精天、大工幸太郎休ミ、徳藏室壁小マイ拵へ、安藏廻り沢へ樽集メ

十月十九日 精天、臨時雇人ナシ、徳藏室壁コマイ拵イヲナス、金一午后一時ヨリ静岡恵比寿へ参詣トシ、道中ヲ出岡ス、渡中徳藏祭典ニテ午后夕方ヨリ内行キ

十月二十日 雨天、臨時雇人ナシ、金一ルス

十月二十一日 精天、源吉入、外雇人ナシ、源吉室壁塗り、金一午前十一時帰宅ス、金一午后酒造組合集会ニ行

十月二十二日 精天、源吉入、室蓋洗ヒヲナス、河野農事ヲナス

十月二十三日 精天、源吉入、洗物ヲナス、繁藏醬油仕上ケ仕度ヲナス、河野農事ヲナス

十月二十四日 全、源吉洗物、繁藏醬油上ケ、河野手伝イ、午后一時小杉老人来ル

十月二十五日 精天、源吉洗物、河野醬油屋ヲナス

十月二十六日 精天、源吉洗物、河野手伝、繁藏醬油場、金一午前ヨリ焼津城ノ腰行、城ノ腰長谷川伝左衛門妻来ル

十月二十七日 精天、午前金一帰宅ス、河野・源吉洗物ヲナス、繁藏醬油揚ヲナス、渡中徳藏内行キノ処夕刻来ル

十月二十八日 精天、大工幸太郎入、酒屋拵イ、徳藏・源吉洗物ヲナス、片山徹三洗物トシテ本日午前十一時入、河野喜一朝比奈へ掛金集メトシテ出頭ス、本店高山嘉恭氏用事ニテ午后来ル、即時帰ル

十月二十九日 精天、大工幸太郎入、徳藏・徹三・河の・源吉壁塗り、其ノ他洗物、繁藏醬油ヤ

十月三十日 精天、老人本店恵比寿詣ニ行ク、幸太郎入、徳藏・徹三・河の・源吉洗物ヲナス

十月三十一日 全、幸太郎入、徳藏・徹三・河の・源吉洗物、金一午前城ノ腰一錢社ヨリ藤枝稅務署并ニ銀行へ納

税ニ行キ、午后帰宅ス、午前八時石部藤太郎来ル、后四時帰宅ス、本日小杉日待ニ行ク

十一月一日 曇天、幸太郎入、徳藏・徹三・河の・源吉洗物

十一月二日 精天、幸太郎入、徳藏・徹三・河の・源吉洗物、味淋引ヲナス

十一月三日 精天、大工幸太郎休業、徳藏・河野・源吉洗物ヲナス、徹三ハ病氣見舞トシテ朝内行

十一月四日 全、スス払施行ス、手伝人萩原国藏・桑政・徳・源・喜一・繁・金十、女集ハサト一人、大工幸太郎

入、石屋仁平シコロ壁下へ煉瓦ヲ積ミニ来ル、源藏庭作りニ来ル

十一月五日 精天、幸太郎入、源藏庭作りニ来ル、徹藏内行中本日午前十時来ル、河野・源吉・徳藏洗物ヲナス

十一月六日 精天、幸太郎入、源藏入、庭作りニ来ル、徳藏・河野・徹三・源吉洗物ニ来ル

十一月七日 精天、幸太郎入、徳藏・河野・徹三・源吉洗物、藤枝税務署長三好外秋原税務属吏腐敗酒検査トシテ来ル

十一月八日 精天、幸太郎入、徳藏・河野・徹三・源吉洗物、并ニ第七十四号清酒ノ滓引ヲナス、安藏島田池田岩太郎宅へ遣ス、午后夕方帰宅ス、大工幸太郎本日迄ニテ一時解雇ス

十一月九日 精天、河野農事、徳藏・源吉・徹三洗物

十一月十日 曇天、雇人河野農事、徳藏・源吉・徹三洗物、金一葉梨倉沢へ出頭ス

十一月十一日 曇天、精天、左官戸塚常藏来ル、河野農事、源吉・徳藏・徹三洗物ヲナス、金一江尻町青柳市太郎妻葬式ニ付午前十時汽車ニテ行、帰路本店耕三郎祝ニ廻ル、村松繁藏午前ヨリ藤枝地方へ古酒買入ノ為メ出頭ス

十一月十二日 精天、河野農事、源吉・徳藏・徹三洗物ヲナス、繁藏藤枝町へ遣ス、金一午後静岡ヨリ帰宅ス

十一月十三日 精天、源吉・徳藏・徹三洗物ヲナス、河野農事ヲナス、金一午前ヨリ焼津商業銀行藤枝駅前へ出頭セリ、帰路藤枝庄作方へ立寄り帰宅ス、本日仕事師女中雇入れ来ル、魚又老母付添イタリ

十一月十四日 (霧外) 旧十月十二日、精天、河野農事、源吉休ミ、静岡行、徳藏・徹三洗物ヲナス、村松繁藏兵太夫酒買受ニ遣ス、藤枝町キタ外小僧来ル、徳藏・徹三本日解雇ニテ午後内行キ

十一月十五日 精天、源吉来ル、河野農事ヲナス

十一月十六日 精天、源吉洗物、河野農事、小杉利三郎午后来店ス、夜河野并ニ源吉ハ明日秋期運動トシテアヂツイ

行ニ付、渡中徳藏方へ先発トシテ出頭ス

十一月十七日 精天、金一・安藏未明アヂツイニ焼津浜ニ参ル、繁藏ルス

十一月十八日 精天、午前七時半金一・河の・源吉・安藏帰宅ス、源吉洗物、河の農事ヲナス、午前十時大慶寺様外世話人二名来ル

十一月十九日 精天、源吉洗物、繁藏、兵太夫酒引直之為メ出頭ス、河野喜一ハ焼津商業銀行ヨリ藤枝へ下車、兵太夫新田村松東平方行、同酒取ノ為行ク

十一月二十日 精天、源吉・河野・繁藏農事ヲナス、安藏瓶詰ヲナス、本日交味酒蒸溜ニ付、蒸溜器開封トシテ永野検査員来ル

十一月二十一日 精天、河野農事、源吉酒取、焼酎

十一月二十二日 (霧外) 旧十月二十日、精天、河野農事、源吉焼酎取、三好税務署長堀税務属同道、焼酎臨時検査員来ル

十一月二十三日 曇天、河野農事、源吉焼酎取

十一月二十四日 精天、河野農事ヲナス、源吉酒取、蒸溜ヲナス

十一月二十五日 曇天、河野農事ヲナス、源吉酒取、蒸溜ヲナス、繁藏ハ機油上ケ仕度、邦太郎午後四時静岡ヨリ来ル

十一月二十六日 雨天、河野農事、源吉片付、繁藏醬油揚ケ、邦太郎午後三時静岡行、本店兄午後四時来店セリ

十一月二十七日 精天、河野農事、源吉片付、繁藏醬油上ケ、本日石屋仁平入、酒釜煙筒直シヲナス、秋山源吉本日限り一時解雇セリ

十一月二十八日 精天、河野農事、繁蔵醬油上ケヲナス、兄麻次郎八午前一時汽車ニテ帰宅セリ、河野喜一城ノ腰へ掛取ニ遣ス、源吉醬油手伝ニ入ル、小僧安蔵兄兵士行ニ付午前ヨリ内行ス、河野午后戻ル

十一月二十九日 精天

十一月三十日 精天、石屋仁平入ル、河野町内兵士迎ヒニ行ク、源吉醬油手伝イ、安蔵午后帰ル、河野午后帰ル、金一兵士慰勞会ニ臨席ス

十二月一日 精天、(石屋仁平入り、酒釜煙口直シ)、河野・源吉・繁蔵醬油上、膳片付、農事等ヲナス、鈴藤午后来店、一泊

十二月二日 精天、石屋仁平煙筒笠拵ニ来ル、河野・源吉・繁蔵ヘイ塗

十二月三日 精天、源吉・河野ヘイヌリ

十二月四日 曇天、源吉・河野農仕事

十二月五日 曇天、秋山源吉休、繁蔵灸スヘニ行ク、河野自分用ニテ静岡ヘ行

十二月六日 曇天、源吉休ミ、徹三片付、土ネリヲナス

十二月七日 精天、秋山源吉休業、片山徹三八蕪仕度ヲナス、渡中徳蔵夕刻酒造着手ノ為メ来ル

十二月八日 精天、源吉本日ヨリ又々入ル、源吉・徳蔵・徹三・繁蔵酒造室拵ヘ上ケヲナス、立ヶ谷午後二時ヨリ手

伝ヲナス

十二月九日 精、源・徳・徹

十二月十日 (源吉休)「酒造着手」、精、本日酒母元麴洗降初メ

十二月十一日 雨天、萩原稅務所来ル、原料米検査

十二月十二日 精天、秋山繁蔵ヲ藤枝ヨリ築地西村方及保福島中島富蔵方及小柳五平方ヘ遣ス、河の静岡小杉方ヘ出頭中之処本日一寸相談ニ参リ、即時二時汽車ニテ亦行ク、本日も醗麴洗條ヲナス

十二月十三日 精天、繁蔵米出シヲナス、金一午后一時ヨリ朝比奈殿村大家迄行、市川ヘ依頼シ、大家ヘ保証人之件ニテ出頭セリ、夕刻帰ル、本日午后醬油売子トシテ宗一來リ入ル

十二月十四日 (源吉休)「元入」、精天、第一・第二号元入ヲナス、大工房吉醬油室道具拵ニ入ル、源吉・垣根拵ニ入ル、静岡老母午后ヨリ静岡ヨリ来ル、河野静岡小杉之件ニテ行中之処本日午後帰宅セリ

十二月十五日 精天、大工房吉入、源助入、本夕小杉利三郎来店ス、金一同道七時汽車ニテ静岡小杉宅行、并ニ陰山ヘ立寄ル、小杉ハ一泊ス

十二月十六日 精天ナリ、大工房吉入、源助入ル、本日意比講并ニ花女祝ヒノ内宴ヲ開ク、来客はる・山口やゑ・永井こゑ、榮吉同道来ル、金一后二時汽車ニテ静岡ヨリ帰ル、静岡ヨリ又々邦太郎同シグ四時ニ来ル、小杉老人モ来ル、午后四時祝ヒノ宴ヲ開ク、夜終了後午後五時恵比講開會、蔵働キ一同外手伝人桑原政蔵・横田・源助・萩原國藏・久作妻・ヨコタ妻・大の老母・小杉なみ等ナリ、来客立ヶ谷熊吉・奈須の藤平・鈴木熊吉・石部藤太郎・田中万吉外齧吉、藤枝根本齧吉モ夕刻祝ニ列席トシテ来ル

十二月十七日 大工房吉来ル、醬油道具拵ニ来ル、朝田中又吉外齧吉帰ル、根本齧吉帰ル、石部藤太郎午前十時帰ル、午後一時金一ベスト講話拝聴トシテ行ク、邦太郎・小僧安蔵送り物持参シテ静岡行ク、河野喜一江尻ノ送り膳ヲ持参シテ午後三時汽車ニテ行ク

十二月十八日 雨天 房吉入ル

十二月十九日 精天、房吉入ル、午前九時星野梅吉酒造ニ入ル、午後一時汽車ニテ永井こゑ、静岡本店老母はる・や

多同道帰宅セリ、金二岡部銀行ノ払込借用ニ行ク、小杉庄作礼ニ河野喜一ト同道来ル、古井浦吉午后依源助酒造へ入ルニ付来ル、午后七時土屋玄順氏来店セリ、秋山繁蔵午前ヨリ築地石部方并ニ杉井金次郎及杉井榮蔵方行キ、后晚ニ帰ル

十二月二十日 精天、房吉休業、岡部銀行へ金二午後一時ヨリ行、夕帰ル、小杉庄作氏礼并ニ相談ノ件ニテ滞在
十二月二十一日 曇天、房吉外一人酒造ニ階梯ニ入ル、金二午前三時ヨリ秋葉井ニ朝川へ参詣ニ行ク、同行者戸塚金藏・石部藤太郎、小杉庄作帰宅ス

十二月二十二日 曇、精天、房吉外一人二階梯ニ入ル、安蔵・惣一樽集メニ行ク、土屋氏帰ル、桶屋二人六分ツ、
十二月二十三日 精天、房吉外一人来ル、桶松・磯吉仕事ニ来ル、小僧安蔵・惣一朝比奈へ樽集ニ行ク

十二月二十四日 精天、房吉外一人来ル、桶屋磯吉・松蔵来ル、桜田栄吉荷物受取ニ来ル、邦太郎季期休業ニ付来ル
十二月二十五日 精天、大工新室、増田善七来ル、但シ酒室流シ梯ニ入ル、大工房蔵外一人来ル、桶松修繕ニ来ル、

金二午后二時秋葉山ヨリ豊川行之処帰宅セリ

十二月二十六日 精天、桶屋磯吉及松蔵入、大工房吉外一人入、増田善七流し梯イ

十二月二十七日 精天、桶屋二人小物拵、坪台直し、大工房吉外金平醬油屋板敷拵イ、善七流し梯イ、母たつ并ニ滞在中之小杉老人静岡へ后一時汽車ニテ行ク、てふ小杉なみと帰宅セリ、大工房吉并ニ金平ハ本日限り一時解雇セリ

十二月二十八日 霽曇外「旧十一月二十六日」、精天、桶屋二人小物拵、善七流し梯イ

十二月二十九日 曇天、桶屋二人入、善七流し梯イ、渡中徳蔵本店酒実査、并ニ下店既見本持参之上午前出張ス、秋

山繁蔵藤枝へ麴板之件ニテ発遣ス

十二月三十日 精天、桶屋二人・善七酒槽台拵イ、繁蔵ヲ焼津へ米受取并ニ掛取ニ遣ス、母たつ小杉宅へ出張中ノ処

午前十時帰宅セリ、餅搗ヲナス、善七解雇ス

十二月三十一日 曇天、繁蔵ヲ藤枝へ川原町杉井へ遣ス、安蔵ラムネ掛取ニ遣ス、善七内行、桶屋二人

明治三十三年一月元旦 霽曇外「旧十二月一日」、精天、桶屋休業

一月二日 精天、桶屋二人入ル、繁蔵醬油揚ケ仕度、田中又吉酒取ニ来ル

一月三日 精天、桶屋三人来ル、菊川米作氏年賀ニ来ル、望月清七氏榮吉ノ件ニ付礼トシテ来ル、桶屋本日解雇ス

一月四日 精天、第一号初添米洗條ス、邦太郎西駿学友会へ出席ス、片山徹平自分局ニテ午後三時ヨリ内行

一月五日 精天、河野喜一自分局事ニテ掛川火事見舞ニ行ク、但シ午前十二時、片山徹平午後三時来ル、宗一ヲ藤枝へ麴板買遣ス、鈴木熊吉夜酒造部ニ雇入ル

一月六日 精天

一月七日 精天、午后夕方精米之部今蔵来ル

一月八日 精天、大工幸太郎麴板拵ニ来ル、金二午前村松鹿蔵氏ト同道、平吉様ノ件ニ付長原町藤田方へ出頭ス、本日税務署長臨檢ニ来ル、小杉老人静岡ヨリ来ル

一月九日 精天、大工幸太郎入、片岡勘太郎午後二時来ル、酒造部ニ入ル

一月十日 曇天、秋山繁蔵杉井方へ酒引取ニ遣ス、金二正午静岡ヨリ帰宅セリ、大工幸太郎入、午後掛川行中ノ処寄助帰リ来ル、星野梅吉午後四時ヨリ内行

一月十一日 精天、秋山繁蔵、杉井榮作へ酒買取ニ遣ス、大工幸太郎入、渡中徳蔵午後四時ヨリ静岡桜井へ行ク、星野梅吉休ミ

一月十二日 精、星野梅吉未明ニ来ル、蕨科惣一本日ヨリ禿子初メヲナス、大工幸太郎入
 一月十三日 精天、大工幸太郎麴板拵ニ来ル、渡中徳藏本日桜井ヨリ午后三時来ル、本店小僧蔵蕃物持参シテ来ル
 一月十四日 精天、幸太郎入、源吉半日間休ミ、病氣ニテ
 一月十五日 精天、幸太郎入、金一城ノ腰行、焼津商業銀行、他親戚へ行、夕刻帰宅ス
 一月十六日 同、大工幸太郎入、鈴木熊吉午前十一時ヨリ自分用ニテ内行き、金一午后ヨリ藤枝柿伝集會酒造直上ケル件ニテ行ク、土屋玄順氏午后四時小杉ノ件ニテ来ル
 一月十七日 大工幸太郎入、鈴木熊吉休業セリ、土屋氏滞在ス
 一月十八日 精天、大氣三十八度、片山徹三腹痛ニテ休ミ、土屋氏正午内行、藤枝おきた来ル、大工幸太郎麴板拵
 一月十九日 霽天、〔旧十二月十九日〕、精天、大工幸太郎入、桶屋磯・松・徳外一人、四人輪替ニ来ル
 一月二十日 精天、大工幸太郎入、桶屋四人入り
 一月二十一日 〔霽天〕本日ヨリ日仕舞着手、精天、大工幸太郎入、桶屋四人休業ス、高塚松藏本日ヨリ醬油上ケ手伝トシテ来ル
 一月二十二日 精天、大工幸太郎休ミ、母たつ静岡へ旧年暮物買入トシテ午前十一時汽車ニテ行ク、桶屋休業、大工幸太郎本日迄ニテ一時解雇ス
 一月二十三日 曇天、増田善七城ノ腰酒槽之件ニテ来ル、金一右件ニテ午前城ノ腰へ酒槽買入ニ出頭セリ、午后三時帰宅ス
 一月二十四日 精
 一月二十五日 雨、卷田寅吉午后二時遊沼ノ帰宅ノ途次酒造檢分トシテ来ル、一泊ス、母たつ静岡行中ノ処午前帰宅

ス

一月二十六日 精、卷田午后静岡へ行ク、渡中徳藏午后四時桜井へ既檢分ノ為出頭ス
 一月二十七日 精、午后二時邦太郎休業ニ付旧年末手伝ニ来ル
 一月二十八日 〔霽天〕〔旧十二月二十八日〕、精、渡中徳藏静岡ヨリ正午帰ル
 一月二十九日 〔霽天〕〔旧十二月二十九日〕、精天、本日午后一色村下女来ル
 一月三十日 〔霽天〕〔旧十二月三十日〕、精天、本日限高塚松藏解雇、但シ明日静岡行ノ予定、邦太郎午后汽車ニテ行

一月三十一日 全、渋谷安藏ヲ藤枝町杉井へ遣ス、正午ヨリ掛取ニ秋山繁藏、西へ、市中回り河の外宗一東ヨリ、(市
 中) 宇津ノ谷行

二月一日 精天、繁藏・宗一朝比奈行

二月二日 〔霽天〕〔旧一月三日〕、第一号清酒ヲ珍重、雨天、繁藏・宗一朝比奈行、掛取ニ、本日第一号清酒検査ヲ

受ケタリ

二月三日 雨天、繁藏・宗一朝比奈行

二月四日 精天、午前十一時藤枝町キタ小僧同道来ル、午后帰宅ス、魚又キヨ小守女同道ニテ来ル、古井浦吉・渋谷

平助来ル

二月五日 精天、午前滞在中ノ静岡本店老母ハル外魚又キヨ同道城ノ腰へ行ク、大工幸太郎酒槽締木拵ニ来ル、繁藏

城ノ腰へ掛取ニ行ク

二月六日 雨、大工幸太郎入、秋山繁藏藤枝町本町山村へ酒取ニ行ク

二月七日 精天、同

二月八日 精天

二月九日 精天、片山徹平病氣ニテ休業

二月十日 (舊曆外)「旧十一日、蔵開キ」、精天、金一午前八時静岡石川新五郎方シゲ葬式ニ行ク、若者芝居行、金一

午後戻ル、片山徹平病氣ニ付内行、但シ正午ヨリ

二月十一日 精天

二月十二日 精

二月十三日 精、片山繁蔵藤枝たき村松へ酒買入之為メ差遣ス、渡中徳蔵午後一時ヨリ静岡桜井仕込任舞祝宴ニ列席之為メ行ク

二月十四日 精天

二月十五日 精、渡中徳蔵未明ニ帰宅セリ、金一午后六時帰ル

二月十六日 精天、煮込清酒火入ヲナス、城ノ腰長谷川とみ来ル

二月十七日 雨天、長谷川とみ滞在

二月十八日 曇天、秋山繁蔵朝比奈掛取ニ遣ス、蕨科宗一私用ニテ桂島及入野へ行ク、繁蔵戻戻ル、長谷川とみ午前帰宅セリ

二月十九日 精天、繁蔵焼津掛取ニ行ク

二月二十日 精天、秋山繁蔵藤枝へ古酒請取ニ行ク、但シ村松方行

二月二十一日 精天、秋山繁蔵本店開醸式ニ参列之為メ行、大沢屋たき来ル、午后帰ル

二月二十二日 全、繁蔵静岡ヨリ正午帰ル、午后三時上田榮吉氏年賀ノ為メ来ル、午后帰ル

二月二十三日 全、午前金一藤枝登記所行、午後帰ル、土屋玄順氏午後六時来ル

二月二十四日 午前金一静岡区才判所へ親族会招集之為メ出頭セリ、華陽院法主来ル、即日帰宅セリ、桜井半次郎氏来ル、西村角藏午后来ル、即日帰ル、土屋氏滞在セリ

二月二十五日 (舊曆外)「留掛仕舞、開醸式」、金一午前静岡へ帰宅セリ、秋山繁蔵午前ヨリ築地杉井へ遣ス、土屋玄順氏正午帰ル、午后高山嘉慈及邦太郎来ル、蔵九人・醤油二人、渡久・立ヶ谷・桑政・横助・小杉老人・邦太郎・金一・高山・秋国蔵等ナリ、邦太郎・高山ハ午後十時汽車ニテ帰ル

二月二十六日 精天、渋谷今吉解雇、片岡勘太郎本日解雇、渡中徳蔵行、鈴熊解雇セリ、古井浦吉午后来ル

二月二十七日 精、古井浦吉渋谷安蔵同道ニテ郷里行

二月二十八日 精、小杉老人静岡行、金一秋山繁蔵同道ニテ酒造、并ニ築地杉井金次郎方へ古酒解約申越ニ付相談ニ出頭ス、小杉庄作氏来店、夕方帰ル、廻リ沢惣八妻来店、泊ル

三月一日 (舊曆外)「旧二月十四日」、精天、午后ヨリ雨天、小杉老人午後静岡へ帰り来ル

三月二日 全、片山徹三来店、直ニ帰宅ス、田中万吉醤油仕込之相談ニ午後二時来店、即刻帰ル、渡中徳蔵内行中之処午後三時来ル、蕨科宗一本日迄ニテ解雇ス

三月三日 曇天、桶屋磯吉・松蔵二人輪替ニ来ル

三月四日 精天、蕨科宗一今夜解雇セリ、金一静岡小杉方行ク

三月五日 精天、大工善吉地神様拵ニ来ル、金一午後帰ル、秋山源吉実母病氣ニテ行、休

三月六日 精天、大工善吉入、桶屋三人輪替ニ来ル、源吉休、徳蔵午後ヨリ徳蔵病氣

三月七日 全、秋山源吉入ル、大工善吉入、桶屋磯吉、松蔵入、徳蔵病氣休業、金一藤枝登記ヨリ上築地杉井、及下築地石部藤太郎ヨリ寄帰宅、秋山繁蔵夕刻ヨリ焼津行

三月八日 精、徳蔵病氣休業ス、金一午前藤枝登記所ヨリ上築地杉井金次郎方行、秋山繁蔵焼津ヨリ午前帰宅、直ニ藤枝行、午后帰宅

三月九日 精天、秋山繁蔵杉井金次郎へ遣ス、金一桶磯同道正午ヨリ桶子買入ノ為メ藤枝山本方行、午后戻ル、繁蔵商業銀行へ回り、帰宅セリ

三月十日 (露紙外)「旧二月十日、初午」、秋山繁蔵清酒受取ノ為メ上築地杉井金次郎へ遣ス

三月十一日 精天、秋山繁蔵病氣休業、桶屋本日ヨリ入、四人入

三月十二日 (露紙外)「六尺桶仕込、七四ニテ約定也」、同、秋山繁蔵藤枝小山酒造店へ遣ス

三月十三日 同、古清酒三十樽引取、小山儀左衛門へ繁蔵請取ニ遣ス、桜井母貞夜ル一寸来店セリ、小杉へ宿泊ス、中山現在清酒臨時調査セリ

三月十四日 曇天、桶屋五人入ル

三月十五日 (露紙外)「醬油仕込ニ着手」、精、本日桶屋五人来ル、焼酎取ニ着手、醬油仕込、煎物ニ着手セリ

三月十六日 精、桶屋五人入ル、菅野長吉焼酎取ニ臨時雇入ル、田中總一醬油手伝ニ来ル

三月十七日 精、桶屋五人入ル、秋山源吉母病氣ニテ休業セリ

三月十八日 全、桶屋五人入ル、秋山源吉母病氣ニテ休業ス、田中万吉夕方来リ入ル

三月十九日 曇天、桶屋五人入ル、秋山源吉休業ス、本日ヨリ田中又吉醬油仕込ニ入ル

三月二十日 (露紙外)「清酒皆造」、精天、桶屋五人入、本日皆造、無事済シタリ、永田税務屬及横派税務官臨場セリ

三月二十一日 精天、桶屋五人入ル、桜井半次郎氏酒粕之為来岡セリ

三月二十二日 曇天、桶屋五人入、菅野長吉ハ休業セリ、秋山源吉ハ兵太夫村松東平へ使ニ出ス、后帰宅ス

三月二十三日 精天、桶屋五人入、渋谷安蔵ハ兵太夫新田村松東平へ古酒ノ件ニテ遣ス、邦太郎試験休ミニテ今朝来ル、桜井へ粕渡シヲナス、臨時手伝人田中總一ハ江尻行ノ為解雇、午后行

三月二十四日 雨天、秋山繁蔵病氣ニテ休業セリ、桶屋五人入、朝田中吉蔵来ル、醬油手伝ニ入ル

三月二十五日 精天、桶屋五人入、繁蔵病氣ニテ休業セリ、菅野長吉本日限り解雇セリ

三月二十六日 精天、桶屋五人入、繁蔵入ル、河野喜一ハ兵太夫へ酒壺取ニ遣ス、田中万吉夕刻内行、中島老人来ル、渡中徳蔵・星野梅吉解雇、午后内行、秋山源吉モ解雇、邦太郎午後汽車ニテ内行

三月二十七日 朝雨、桶工五人入ル、中島老人午前十時汽車ニテ内行、源吉休業セリ、田中万吉隣家仁平病氣ニテ休業セリ

三月二十八日 精天、田中万吉午前八時来ル、桶屋五人入、秋山源吉廻リ沢へ、小村坂へ樽集メ行、邦太郎夜ル来ル

三月二十九日 全、秋山源吉樽集メニ行ク

三月三十日 (露紙外)「旧二月三十日」、精天、邦太郎城ノ腰長谷川へ遣ス、及一錢杜行、源吉・安蔵ハ朝比奈役場へ酒ヲ以テ行ク、田中又吉午後ヨリ内行、石部藤太郎夕刻来ル、即時帰ル

三月三十一日 (露紙外)「旧三月一日」、精天、秋山源吉休業ス、邦太郎藤枝へ税納ニ行ク、田中又吉午前十時来ル

四月一日 (露紙外)「旧三月二日」、雨、秋山源吉入、清酒火入ヲナス

四月二日 (露紙外)「旧三月三日」、曇天、焼酎皆造済、古井源助解雇、午前十一時内行、秋山源吉本日限り内行

四月三日、精、秋山源吉小釜研ギ、桶片付ニ来ル、河野喜一静岡祭典二午前十一時ヨリ行、セン・トシ・下女十一時

汽車ニテ静岡行、小杉老人モ同時ニ道中ヲ行ク

四月四日 全、秋山源吉桶片付、洗ヒ之為メ入、桶屋四人入ル、老人静岡祭典ニ行ク、源吉・安藏ハ午前十時ヨリ藤枝山本金太郎へ桶蓋板取ニ遣ス、邦太郎休暇中ニテ滞在中ノ処午後一時ヨリ静岡へ行ク

四月五日 晴天、秋山源吉桶片付ヲナス

四月六日 晴天、桶屋四人午前ニテ桶仕上、五本済ミナリ、秋山源吉休業

四月七日 曇天、秋山源吉半日醬油屋手伝イ、河野喜一午前十時静岡ヨリ戻ル、田中方吉午後夕刻ヨリ内行、解雇セリ

四月八日 曇天、午前五時ヨリ浜行ノ為メ、金一・源吉第一回ニ出発ス、午前八時ヨリ雨ニテ残人名見合セタリ、邦太郎及耕三郎浜行ス、セン・トシ・下女及老人静岡行中ノ処午後帰ル

四月九日 曇天ナリ、朝星野梅吉火入之為メ来ル、桶磯入、金一・源吉正午城之腰ヨリ戻ル、渡中徳藏モ正午入ル、静岡青木宗道氏小杉ノ件ニ付出張、午后三時ニテ帰ル

四月十日 曇天「一番火入替手」、雨天、桶屋四人桶蓋拵ニ入ル、火入本日一本、外煮込三八、一本火入、徳藏・熊吉・源吉・繁藏・梅吉・河野・金一手伝イ、午前十時ヨリ渋谷安藏参うるし買入ニ藤枝へ遣ス、午後二時帰宅、午後二時田中方吉醬油売子大村ノ文蔵ト同道来ル、田中帰ル

四月十一日 曇天、桶屋四人来ル、二本火入、徳・熊・源・繁・梅・河野・金一手伝イ、母たつ午後三時江尻ヨリおてふト帰宅セリ、片岡勘太郎夕刻火入ノ為来ル

四月十二日 雨、火入、桶屋四人来ル、桶蓋拵ニ来ル、おてふ本日裁縫之稽古ニ上リテ行ク、火入二本

四月十三日 晴天、桶屋四人来ル、午前十時本店小僧浜行ノ為メ向ヒニ来ル、即刻金一小杉和作同道ニテ和田浜行、

夕刻帰ル、母タツ・母フジ外蔵働キ一同芝居行、小杉老人静岡ヨリ来ル入

四月十四日 晴天、桶屋四人来ル、火入二本セリ、午后ヨリ女子供芝居行、本日醬油屋売子出初メ、文蔵宇津ノ谷行
四月十五日 全、桶屋四人桶蓋拵ニ来ル、火入二本、渋谷安藏ヲ藤枝ヨリ兵太夫新田村松東平及高洲村石部藤太郎へ遣ス、午後帰ル、渡中徳藏ハ夕刻ヨリ私用ニテ内行

四月十六日 晴天、火入二本セリ、渡中未明ニ来ル、藤枝町庄作来ル

四月十七日 晴天、火入二本セリ、小杉利三郎夕刻来ル

四月十八日 晴天、火入二本セリ、秋山繁藏ヲ忠兵衛新田大塚へ古酒買受ニ遣ス、午後帰宅セリ、小杉利三郎滞在中

四月十九日 曇天、小杉利三郎帰ル、本日一本ト三八へ火入、火入ハ本日限り終了セリ、本店兄午後一時来ル、午後ヨリ雨トナル、鈴木熊吉本日限り解雇

四月二十日 晴天、本店麻次郎氏午前一時汽車ニテ帰宅セリ、渡中徳藏及星野梅吉・片岡勘太郎解雇、一時内行、同時河野喜一私用ニテ城之腰、静岡行、秋山繁藏モ私用ニテ焼津へ行キ、皆同道セリ、秋山源吉モ同ジク解雇、内行セリ、藏一人モナシ

四月二十一日 曇天「旧三月二十二日、甲子」、雨天、石上文吉・実石作十樽集メ行ク

四月二十二日 曇天、記ヌコトナシ、雇人モナシ

四月二十三日 曇天、秋山繁内行中ノ処午前十時来ル、渡中徳藏午後二時来ル、即時帰ル

四月二十四日 雨天

四月二十五日 雨天

四月二十六日 雨天、午前十一時渡中徳藏自分用ニテ来ル、帰ル、
四月二十七日 曇天、戸塚常蔵家根修繕ニ来ル

四月二十八日 晴天、戸塚常蔵来ル、家根修繕セリ、午前永井ヨシ来ル、午后一時清水儀七来ル、暫時ニテ帰ル、午
后三時那須野勝蔵及嫁三ツ目ニ来ル、夕方帰ル、河野喜一夕方静岡ヨリ帰ル、夕方秋山繁蔵ノ件ニテ田中又吉来ル、
夜少帰ル

四月二十九日

四月三十日 金一午前ヨリ大石多作ノ件ニテ藤枝登記所へ行く、午后一時戻ル、午前朝秋山繁蔵ヲ志兵衛新田へ酒取
ニ遣ス、午后帰宅セリ

五月一日 晴天、午前十時小杉利三郎来店セリ、但シ小杉ノ件ニテ午后一時戻ル、午前十一時静岡安西市川源四郎氏
永井よし之件ニテ来ル、午后七時兩人同道帰ル、藤枝町杉本庄作酒取ニ来ル、石部藤太郎夕刻来リ、帰ル、朝田中
又吉酒取ニ来ル

五月二日 晴天、河野喜一午前九時ヨリ静岡小杉之件ニテ遣ス、午后雨天

五月三日 晴天、河野喜一朝来リ、又静岡行、藤枝庄作酒取ニ来ル

五月四日 晴天、午后一時ヨリ石上文吉内行

五月五日 晴天、河野喜一静岡小杉之件ニ来リ、正午又静岡へ行く

五月六日 晴天、午前金一小杉ノ件及ラムネノ件ノ為メ静岡行

五月七日 曇

五月八日 曇

五月九日 精

五月十日 會紙外「皇太子殿下御慶事、御大典」、晴天

五月十一日 晴天、桶磯風呂掃除ニ来ル、戸塚常蔵及伊吉修繕ノ為メ入ル、金一午前九時静岡行中之処帰宅セリ、本
店兄夕刻来ル

五月十二日 晴天、金一兄富次郎同道午前静岡行、ラムネノ件

五月十三日 晴天

五月十四日 晴天、金一午后一時静岡ヨリ帰ル、河のキ一静岡滞在中ノ処帰宅、午后四時

五月十五日 晴天、左官二人貯蔵倉家根塗りニ来ル

五月十六日 同

五月十七日 精、土屋氏夕刻来ル

五月十八日 同、土屋氏滞在

五月十九日 精、土屋氏滞在ス

五月二十日 精、金一静岡行、土屋氏滞在

五月二十一日 雨、土屋氏滞在

五月二十二日 晴天、金一午前九時ニ静岡ヨリ帰宅セリ、那須の勝蔵俸来ル、土屋玄順氏滞在中之処午後三時汽車ニ

テ帰ル、源氏太夫午后来ル

五月二十三日

五月二十四日 精

五月二十五日 精天
 五月二十六日
 五月二十七日 精
 五月二十八日 精、勝手用并戸堀人足金子岩吉・立ヶ谷惣吉・鈴木熊吉雇入、桶磯入
 五月二十九日 精、桶磯入
 五月三十日 同、桶磯入、并戸皮
 五月三十一日 精天
 六月一日 精天、渡中徳藏午后来店
 六月二日 精天、渡中徳藏午前帰ル、古井浦吉午后来リ、即時帰
 六月三日 同
 六月四日 同
 六月五日 同
 六月六日 同、金一城ノ腰長谷川伝左衛門方行、午前
 六月七日 同、金一焼津ヨリ帰宅ス、午前
 六月八日 同、戸塚常藏入ル
 六月九日 同、戸塚常藏入、繁蔵藤枝及小土及保權島行、
 六月十日 同、戸塚常藏来ル、河の喜一山方掛集メニ行、安蔵焼津ラムネ掛取ニ行ク
 六月十一日 〔録外〕「入梅入」、雨天

六月十二日
 六月十三日
 六月十四日
 六月十五日
 六月十六日
 六月十七日
 六月十八日
 六月十九日
 六月二十日
 六月二十一日 精
 六月二十二日 精
 六月二十三日 精、邦太郎来ル
 六月二十四日 精、邦太郎午后母上たつ及はな同道静岡行、河の喜一静岡ヨリ及掛川行之処来ル
 六月二十五日
 六月二十六日 精、蔵日覆ヲナス、繁蔵・小僧安蔵・秋山源吉一日手伝
 六月二十七日 精
 六月二十八日
 六月二十九日

六月三十日

七月一日

七月二日

七月三日 精天

七月四日 曇天、午前渡中徳蔵来ル、午后内行

七月五日 精

七月六日 河野喜一静岡へ私用ニテ行ク

七月七日

七月八日

七月九日

七月十日

七月十一日 十二日 十三日 十四日 十五日 十六日 十七日

七月十八日

七月十九日

七月二十日 邦太郎静岡ヨリ休暇ニ付来店、金一静岡滞中ノ処帰ル

七月二十一日

七月二十二日 金一焼津一銭社行

七月二十三日 精、焼津ヨリ金一午前帰宅、繁蔵夕刻ヨリ焼津行、静岡へ廻ル

七月二十四日 精天、ころ滞在

七月二十五日

七月二十六日

七月二十七日

七月二十八日

七月二十九日

七月三十日

七月三十一日

八月一日

八月二日

八月三日

八月四日

八月五日

八月六日

八月七日

八月八日

八月九日

八月十日

八月十一日
 八月十二日
 八月十三日
 八月十四日
 八月十五日
 八月十六日
 八月十七日 晴天、金一未明ニ城ノ腰ヨリ帰ル
 八月十八日 十九日 二十日 二十一日
 八月二十二日 二十三日 二十四日 二十五日 二十六日 二十七日 二十八日 二十九日 三十日 三十一日
 九月一日 二日 三日 四日 五日 六日 七日 八日 九日 十日
 九月十一日 晴天
 九月十二日 十三日 十四日 十五日
 九月十六日 金一焼津石田老母病氣見舞ニ朝行夕、午后二時帰宅ス
 九月十七日 朝本店兄来ル、午后永井安藏来ル、后小杉源次・小杉利三郎来店セリ
 九月十八日
 九月十九日 渡中徳藏午后夕来ル、酒造洗物準備ノ為メ
 九月二十日
 九月二十一日 繁蔵◎へ出頭セリ、巻田寅吉午后一時来店、午后四時頃渡中徳藏ハ巻田同道静岡へ行

九月二十二日 醤油揚ニ取掛
 九月二十三日 雨天、醤油火入、后金一油屋扱物手伝イ、渡中徳藏夕刻静岡ヨリ帰来ス
 九月二十四日 雨天、渡中徳藏サ、ラ、醤油揚ゲ(三人、繁・文・安)
 九月二十五日 金一午前十一時汽車小杉和作向ヒニ静岡ヨリ横浜行ノ見込ニテ出発ス
 九月二十六日 者藤母静岡行、本日火入ヲナス、午后二時頃ヨリ手伝、鈴熊・源吉八時頃終了、渡中ハ戻ル
 九月二十七日 曇天、小僧安藏午后ヨリ静岡行
 九月二十八日 大暴風雨、午前六時ヨリ八時半迄別段ノ障リモナシ、安藏静岡ヨリ帰ル、渡中徳藏・石上文吉内行、午前十一時、但シ風雨見ニ行
 九月二十九日 曇天、金一午后帰宅ス、テフ横田屋サト同道静岡山村へ足入之為メ午后二時汽車ニテ行
 九月三十日 晴天、石上文吉風雨見舞ニ内行中ノ処午前十一時帰ル、渡中徳藏夕方帰来ス、小僧安藏藤枝税務署へ遣ス、河野喜一静岡ヨリ午後来店セリ
 十月一日 晴天、徳藏ハサ、ラ、繁蔵・安藏ハ農事ヲナス、河野喜一ハ静岡へ帰ル、但シ午后
 十月二日 雨天、渡中サ、ラ、繁・安農事
 十月三日 晴天、滑酒・焼酎・味淋(麴入分)、現在酒調査、岡田税務局来堂セラレ
 十月四日 晴天、金一朝比奈掛取及支店之件ニ付入舟迄行夕、徳藏サ、ラ、繁・安農事
 十月五日 晴天、徳藏サ、ラ、繁・安蔵片付ヲナス
 十月六日 曇天、小雨、タツ及永井ヨシ午前十時汽車ニテ静岡行、徳藏午前ハサマへ遣ハス、帰宅、繁・安・醤油や粥タキス

十月七日 晴天、醬油上ケ、徳蔵サ、ラ、新倉家棟梁役瓦付ニ戸塚常・庄本日入
十月八日 晴天、渡中徳蔵朝ヨリ静岡桜井へ小杉和作ト同道セリ、金一午后二時ヨリ志太郎醬油業会ニ列席ス、夜ル
帰ル
十月九日 雨天、文吉休ニテ醬油揚手伝ヲナス、渡中徳蔵私用静岡岡行中之処午后四時帰来ス、午后和作・桜井平次郎
両氏来店セリ、小杉方へ泊ス
十月十日 晴天、桜井氏午前八時汽車ニテ帰宅セリ、本日ヨリ酒屋復業ニ付立ケ谷惣吉入、秋山源吉モ手伝トシテ入、
徳蔵三人ニテ着手ス
十月十一日 晴天、立ケ谷入、徳蔵手伝ヲナス、源吉桑耕作ヲナス、繁蔵ヲ^⑩へ荷受ニ遣ハス
十月十二日 晴天、立ケ谷入、源吉農事ヲナス、徳蔵釜屋手伝ヒ、たつ静岡岡行之處午后四時帰宅セリ
十月十三日 全、立ケ谷源吉農事ヲナス、和作本日横浜行ノ見込ニテ静岡迄夜ル行
十月十四日 ^{（蜜紙外）}「旧閏八月二十一日、庚申」、雨天、立ケ谷・徳蔵ハ釜ツキ、源吉休業、本日醬油屋仕込煎物始
メヲナス、繁蔵ハ静岡呉服町ニ火災ニ付同地親戚へ見舞ニ遣シ、夕帰セリ、
十月十五日 晴天、立ケ谷・徳蔵ハ釜ツキ、源吉休業ス、夜石上文吉内行
十月十六日 晴天、立ケ谷酒釜修業ニ徳蔵二人、源吉休、文吉休ミ、醬油煎物取掛ル、繁蔵・安・金一手伝、邦太郎
午後八時来ル
十月十七日 同、立ケ谷入、源吉醬油屋へ入、邦太郎二時静岡へ帰ル
十月十八日 ^{（蜜紙外）}「本日醬油仕込初室入」、立ケ谷惣吉入、源吉入、田中又吉午前二入ル、醬油仕込、中学生徒演
習ニテ通過ス、邦太郎立寄ル

十月十九日 立ケ谷惣吉釜屋入、徳蔵手伝、源吉・繁蔵・又吉醬油仕込、増田善七午前十時ヨリ入、酒槽拵ヒ之為メ、
桜井平次郎氏正午来店、但シ杜氏ノ件ニテ、徳蔵ニ面会ノ為メ、午后帰ル、片山新兵衛来店シテ帰ル、渡中徳蔵午
后夕刻ヨリ桜井杜氏件ニテ内行、増田善七モ同時ニ槽材木ノ件ニテ内行
十月二十日 晴天、立ケ谷惣吉入、午前ヨリ小杉老人恵比寿参詣ノ為静岡岡行、金一ハ小杉和作横浜行調査ノ為同時出
岡ス、渡中徳蔵夕刻戻ル
十月二十一日 同
十月二十二日 金一静岡ヨリ本日出発セリ
十月二十三日 本日夕刻田中又吉ハ内行
十月二十四日 大工房吉及常吉本日ヨリ入、井戸家形拵ヒ、田中又吉休業
十月二十五日 大工一人入、房吉休、田中又吉休業
十月二十六日 大工二人入、田中又吉午前来ル
十月二十七日 大工二人入
十月二十八日 晴天、房・常・惣右衛門入、醬油屋・又吉・源吉・繁蔵ナリ、金一横浜行ノ処静岡ヨリ午前帰ル、小
僧安蔵午后ヨリ本店へ用件ニテ遣ハス
十月二十九日 精・房・常・惣吉入ル、繁蔵城ノ腰掛取ニ遣ス、安蔵午前静岡ヨリ帰ル、八木藤兵衛氏婚礼人数定メ
二来ル、午后静岡ス、本客十六人、入足十人、渡中徳蔵及田中万吉ハ夕刻ヨリ内行
十月三十日 ^{（蜜紙外）}「旧九月八日」、曇天、大工房・常・立ケ谷惣右衛門来ル、井戸家形拵ヒ、田中万吉・渡中徳蔵
休業、但シ内行ニ付、桑原政吉ヲ八木間浄蓮寺サダ迎ニ遣ハス、午后帰宅セリ

十月三十一日 雨天、大工房吉ノミ入、立ヶ谷惣吉モ入ル、田中又吉・渡仲徳藏休業セリ、川原町寅吉朝比奈飯支店
設置之準備ニ付臨時雇入ル、石上文吉ヲ酒造納税ニ遣ハス、本店兄麻次郎午后一時来店、午后三時帰宅ス、小僧安
藏勝手用ニテ午后ヨリ静岡へ遣ハス、渡中徳藏内行ノ処夕刻来店セリ、土屋玄順氏おきた同道来店、夕刻

十一月一日 曇天、寅吉入、殿村へ遣ハス、房吉・立ヶ谷・大常入、田中又吉休、源吉醬油仕込、土屋玄順氏及
だハ藤枝勝藏方へ正午行、金一ハ殿村支店開業ノ為メ正午ヨリ渡中徳藏同道出張ス、支店留守ハ小柳津市藏及寅吉
ト一時定ム、夕方帰宅セリ、午后七時頃本店ノ使庄作来店セリ

十一月二日 晴天、大房・大常・立ヶ谷入ル、田中又吉ハ休業、源吉ハ従業ス、午后五時半静岡ヨリ邦太郎来店

十一月三日 晴天、立ヶ谷・大房・大常入、善七及弟子就業セリ、田中又吉午前二入ル、本日煎物仕舞日ナリ、源吉
モ入、渡中徳藏就業中ナリ

十一月四日 晴天、本日従業者ハ善七外弟子ナリ、醬油引白ノ仕舞ニテ、又吉・源吉・繁藏・安藏午前十一時迄就業
セリ

十一月五日 晴天、酒槽善七、弟子ハ従業、他ハ皆休業ナリ

十一月六日 晴天、従業者善七外弟子、渡中ハ洗物、繁藏・安藏ハ醬油屋、秋山源吉休業セリ

十一月七日 (曇外)「閏九月旧十六日」、晴天、善七・弟子及徳藏・源・繁・安就業ナリ

十一月八日 晴天

十一月九日 晴天、雇人房吉・善七、及弟子・立ヶ谷室拵、手伝源吉モ同シク、長谷川伝左衛門午后十時帰宅セリ、
夕刻ヨリ渡中徳・善七・弟子日待ニ付内行、石上文吉内行

十一月十日 晴天、大工房吉及立ヶ谷入、源吉・繁藏ハ洗物ヲナス、渡中徳藏・善七、及弟子・石文は内行ニテ休業

中、立ヶ谷午后一時ヨリ私用ニテ休業セリ

十一月十一日 雨天、房吉ハ入ル、立ヶ谷休業セリ、渡中徳藏午前二帰来、酒室拵

十一月十二日 晴天、房吉入、石上文吉未明ニ入ル、善七及弟子午前二入ル、徳・源・繁室拵、立ヶ谷休業セリ

十一月十三日 精、立ヶ谷入、房吉入ル、酒室拵、徳・源・繁・惣右衛門、手伝中ノ仲右衛門妻とみ・せん・とし・

とめ城ノ腰行、山口老人寺参リニ行ク、金一午前八時半ヨリ朝比奈殿村行、夕刻帰宅

十一月十四日 精、房吉・立ヶ谷入、酒室、徳・源・繁ナリ

十一月十四日

十一月十五日

十二月二十日 午后小杉和作・斎藤金一帰宅セリ

十二月二十一日 岡部町中回礼ヲナス

十二月二十二日 (曇外)「酒母麴米洗條初メヲナス」、金一朝比奈行、渡中病氣暫ク内行中ノ処午后来店、仕込ニ着
手セリ

十二月二十三日 朝比奈ヨリ正午帰宅、立ヶ谷入、半日ヨリ休業、川原町本日火事三軒焼失セリ

十二月二十四日 立ヶ谷入、金一城之腰ヨリ静岡行

十二月二十五日 (曇外)「酒母仕込ニ着手」、立ヶ谷入、金一八木間小島・江尻行、渡中徳藏正午ヨリ静岡桜井酒造

巡視ニ行ク、繁藏午后静岡行、邦太郎休暇ニテ帰宅セリ

十二月二十六日 立ヶ谷入、金一静岡市中回礼、渡中徳藏静岡ヨリ藤枝山村へ立寄午後夜帰宅、村松繁藏夕刻静岡行

ヨリ戻ル

十二月二十七日 立ヶ谷入、金一午前八時汽車ニテ帰ル、内谷佐藤儀平借用金件ニ付金一午后三時ニテ静岡行、午後

九時戻ル

十二月二十八日 立ヶ谷・金一藤枝税務署及銀行、午後二時帰ル

十二月二十九日 立ヶ谷入

十二月三十日 立ヶ谷入、金一酒造帳簿調査、渡中徳藏午后四時内行、但シ医師診断ヲ受クルタメ、本日餅搗キヲナ

ス

十二月三十一日 立ヶ谷入、渡中徳藏午后三時内ヨリ帰店セリ

三十四年一月元旦 天気晴精、役場新年会へ臨席ス、同時ニ市中年頭回礼ヲナス、立ヶ谷休業、桶屋休業

一月二日 立ヶ谷休業、桶工四人入、朝邦太郎ハ静岡市中へ年頭ノ為メ出岡セリ、午後二時清水儀七年頭ノ為メ来ル、

即時帰宅セリ

一月三日 立ヶ谷休、邦太郎静岡ヨリ帰宅セリ、豊田村柳新屋赤坂滑左衛門小傭年十五入ル

一月四日 午后山村兼吉年頭及酒造ヲ見ニ来ル、山村九兵衛・おてふ・おたか年頭ノ為メ来ル、河野喜一夜ル来店

一月五日 (露紙外)「旧十一月十五日」、雨天、山村九兵衛・てふ・娘たか滞留ス、検査員栗田来ル

一月六日 (露紙外)「消防出初」、曇天、河野喜一正午静岡へ帰ル、秋山源吉休業セリ、山村九兵衛・おたか午后帰岡

セリ

一月七日 曇天、小雨、秋山源吉休業セリ、邦太郎午后三時静岡学校始業ニ付静岡へ行

一月八日 曇天、渋谷安蔵城ノ腰掛取ニ行ク、秋山源吉ハ午后三時ヨリ入ル、金太郎午後二時自宅へ行ク

一月九日 晴天、おてふ藤枝へ行ク、藤枝税務署長外一人臨検ニ来ル、金太郎ハ朝来ル、渡中徳藏午後四時静岡へ酒

母実見ニ行ク

一月十日 同

一月十一日 同、金一未明ニ静岡ヨリ焼津一鐵社行、午後帰ル、渡中静岡行ノ処帰宅セリ

一月十二日 晴、恵比壽講ヲナス、来客別ニナシ、坊侍佐藤儀平、中山白振ナリ

一月十三日 (露紙外)「本日添」、同、星野梅吉午前ニ入ル、従業セリ、午後二時古井浦吉用件ニテ来店セリ、午後二

時ヨリ八幡宮氏子惣代ガ神社森林及地所松下ニ付協議会ニ列席セリ、午後四時小杉庄作氏来店、午後八時半小杉和

作静岡ヨリ帰ル

一月十四日 晴天、おてふ(車屋おせい)ハ午前静岡へ帰来ス、金一午後二時岡部銀行へ配当金受取ニ行ク、小杉庄

作午後七時二帰岡、渡中徳藏ハ午後七時汽車ニテ鈴木熊吉ト同道、静岡桜井酒造視察ニ出頭セリ

一月十五日 晴天、安蔵ハ藤枝ヨリ下築地西村へ遣ス、木挽一人入、立ヶ谷モ入ル、高橋利右衛門氏今夜一寸来ル

一月十六日 晴天、渡中午前二静岡行ノ処帰ル、小僧静岡行ノ処帰ル、正午倉働キ人志太郡下小杉ノ山口梅吉入ル、

下築地石部藤太郎后来店、夕刻帰ル、今夜氏子惣代協議ニ行ク

一月十七日 雨天、午前十一時金一殿村出店へ出張、一泊セリ、秋山源吉休業セリ、実母病氣ノタメ、石上文吉内行、

正午

一月十八日 晴、石上文吉朝帰ル、金一午前十時殿村ヨリ帰ル、金一午后ヨリ藤枝魚安へ酒造組合松尾講へ出席セリ、

夜九時二帰ル

一月十九日 晴天、繁蔵人民惣代代理ニテ正午ヨリ八幡宮林地調査ノ為メ、他惣代ト同道セリ
一月二十日 晴天、渋谷安蔵兵太夫へ味淋ニ歌取ニ行、おさだ静岡行、小僧静岡へ使ニヤル、永野検査員来ル、源吉
休

一月二十一日 雨天、立ヶ谷ト諸勘定ヲナス、秋山源吉休、記事モナシ
一月二十二日 晴、源吉休業

一月二十三日 晴、源吉休業、午后永井徳蔵氏来店、本店小僧来店セリ、兩人共泊ル、夜ハ金一氏子惣代協議ニテ
王キへ行

一月二十四日 同、源吉入ル、繁蔵倅病氣ニテ休業、永井徳蔵ハ午前ニ帰ル、本店小僧朝帰店セリ、田中又吉午後一
時石上文及繁蔵件ニテ来店、秋山銀平酒店ノ件ニ来店、夕刻退去セリ、夜氏子惣代会王喜ニ行ク

一月二十五日 晴天、本日午後横浜管理局出張官二名外藤枝署長外二名ノ五名ニテ、臨検アリタリ

一月二十六日 金一静岡へ午前行

一月二十七日 金一午後帰宅セリ

一月二十八日 晴天、蔵働杉本金太郎ハ正午ヨリ内行、但シ私用ニテ

一月二十九日 晴天、杉本金太郎午前十一時来店セリ、金一午前築地ヨリ石崎へ出デ、静岡へ行

一月三十日 晴天、金一夜ル帰宅セリ、今夜氏子惣代ノ集會王キへ出席

一月三十一日 晴天、田中金作午後三時来店、倉へ入ル、立ヶ谷入、源吉休業、病氣ニテ、土屋玄順氏来店、午後セ
リ

二月一日 安蔵・土屋氏宿ル、源吉ハ就業セリ

二月二日 晴天、寒氣強シ、三十六度、杉本金太郎ハ正午ヨリ栗買ニ私用ニテ内行、土屋玄順氏正午出立セリ、金一
正午ヨリ城ノ腰及大村へ出張、夕刻帰宅セリ、永井保蔵滞留セリ

二月三日 露紙外「本日寒明ク」、永井安蔵滞留ス、但シ永井よし縁談之件ニテ、杉本金太郎ハ休業ナリ

二月四日

二月五日 永井保蔵滞留中ノ処朝出立ス、萩原検査員現在酒調及第一号膠検査ヲナス、金一午後二時ヨリ朝比奈村殿
出張店ヲ他へ貸与之件ニテ出頭ス

二月六日 露紙外「第一号清酒搾」、晴、岡村屋妻来店、帰宅ス、金一ハ午後朝比奈ヨリ帰ル

二月七日

二月八日 金一朝比奈へ午后行、支店引続キノタメ、殿支店本夜限り閉店、秋山銀平ニ譲ル、小杉老人静岡へ派出、
夕刻帰宅ス

二月九日 源吉臨時休業、病氣ニテ、金一殿支店ヨリ朝帰宅セリ、華陽院法主午前来宅、午後一時帰宅セリ、金一午
後一時ヨリ焼津新屋支店へ行、夕刻帰ル、邦太郎静岡ヨリ夕刻入

二月十日 川原町源吉入、朝邦太郎手伝ヲナス

二月十一日 田中金作内行、渡中徳蔵ハ正午内行、私用ニテ、邦太郎午後静岡へ行

二月十二日 露紙外「旧十二月二十四日」、晴、渡中午前二入ル、星野梅吉午後内行

二月十三日 晴、星野梅吉ハ午後入ル、永井徳蔵滞留セリ

二月十四日

二月十五日

二月十六日
二月十七日

二月十八日 〔露紙外〕旧曆十二月三十日

二月十九日 晴、渡中徳藏午^{カミ}后刻ヨリ静岡桜井商店へ閉齋式ノ參列ノタメ行ク

二月二十日 全、八幡橋山口善太郎及妻ヨシ年始ニ来ル、渡藏正午帰ル

二月二十一日 全、上田栄吉氏年始ニ来ル

二月二十二日 全、藤枝那須ノ勝藏及妻さだ来店セリ

二月二十三日 晴天、金一午后三時ヨリ新屋及本店閉齋式ニ行ク

二月二十四日 晴天、源吉・清市病氣休業セリ、金一静岡ヨリ帰ル、川原町新藏倅今夜入ル、但シ源吉代人トシテ

二月二十五日 雨、秋山源吉・清市病氣休業ス、金一午后一時ヨリ新屋行、夕方帰ル

二月二十六日 晴、秋山源吉・清市病氣休業ス

二月二十七日 清市ハ快氣就業セリ、源吉休

二月二十八日 源吉休

三月一日 源吉休

三月二日 秋山源吉本日ヨリ就業、但シ病氣全快、川原町新藏倅本日限り解雇セリ

三月三日

三月四日

三月五日 〔露紙外〕旧正月十五日、仕込仕舞、閉齋式ヲナス

三月六日 浅蔵・山田梅吉・金太郎解雇、渡中徳藏内行、正午過ぎ、古井浦吉午后内行

三月七日 繁蔵ヤイツ掛取ニ行、永井孝ハ八幡橋山口方へ行、おたつ・おはな静岡ヨリ藤枝ナスノ方ニ行

三月八日 晴天、午后一時汽車ニテ永井孝及栄吉帰ル、おてふ・おだい三時帰岡セリ

三月九日 晴天、渡中徳藏休暇中ノ処午后二時入

三月十日 晴、煮込酒火入ヲス、石上又吉入

三月十一日 晴々

三月十二日 石又吉指痛内行

三月十三日 繁蔵焼津年頭ニ行、秋山源吉平日休業、松永清市モ午前十一時ヨリ内行

三月十四日 鈴木熊吉本日午后三時迄手伝ヲナス、秋山源吉正午ヨリ入、松永清市ハ夕刻入ル

三月十五日

三月十六日

三月十七日 土屋玄順氏午后来店

三月十八日

三月十九日 晴、土屋氏帰ル

三月二十日 晴

三月二十一日 晴、金一午后静岡ヨリ来ル

三月二十二日 晴、邦太郎休暇ニテ来ル

三月二十三日 晴

三月二十四日
 三月二十五日 秋山源吉齒痛ニテ休業、金一才判用ニテ静岡行
 三月二十六日 晴、秋山源吉休業、金一午后四時静岡ヨリ帰宅ス、土屋玄順氏小杉縁談之件ニテ来店、即時前島行、桜井半次郎酒粕之件ニテ来店セリ、帰宅、小杉老人邦太郎付添静岡へ午后七時汽車ニテ行、石上又吉指痛ニテ内行中ノ処来店
 三月二十七日 秋山源吉入
 三月二十八日 小杉老人邦太郎付添静岡へ帰宅セリ
 三月二十九日
 三月三十日 (霧懸外)「皆造」、酒造皆造ヲナス、(秋原稅務属・三村角藏氏来店セリ)
 三月三十一日 日曜日、桶屋三人外小僧入、本日ヨリ入、村松繁藏本日ヨリ焼津へ車力ニ行
 四月一日 桶工四人(桶亀共)外小僧一人、酒造納稅ニ付邦太郎藤枝へ遣ス、秋山源吉本日限一時解雇セリ(桜井へ明日行ク火入ニ)
 四月二日 晴、邦太郎ハ休暇中ノ處静岡学校へ出席ニ付帰岡セリ、渡中徳藏・梅吉・精市ハ本日解雇ニテ、午后内行
 四月三日 晴、母たつ及はなハ静岡初会祭ノ為メ静岡へ行ク
 四月四日 晴
 四月五日 晴
 四月六日 晴
 四月七日 晴

四月八日 同
 四月九日 (霧懸外)「焼酎皆造」、晴
 四月十日 雨、立ヶ谷惣吉酒釜屋繕ヒニ入
 四月十一日 晴、火入準備ノ為星野梅午前十一時入、秋山繁藏午前十一時ヨリ入、秋山源正午ヨリ入ル、渡中徳藏夜ニ来ル、立ヶ谷本日モ釜繕ヒ
 四月十二日 (霧懸外)「火入」、晴、火入ニ著手セリ、徳・熊・繁・古源・秋源・梅六人、金一手伝、本店くら滞在
 中ノ処おせい同道静岡へ正午帰宅、火入二本
 四月十三日 (霧懸外)「火入」、晴、火入三本、人足前日通、午前金太郎火入ニ入ル
 四月十四日 晴、火入三本、人足前日通
 四月十五日 晴、火入三本、人足全
 四月十六日 曇、小雨、本日ハ火入、煮込及外清酒一本
 四月十七日 晴天、火入三本
 四月十八日 晴、火入二本、三八ニテ終了セリ、繁藏火入本日迄ニテ解雇セリ
 四月十九日 曇、本日狐まき、源・徳・源・熊・梅・金太郎(源・熊解雇外解雇セリ)
 四月二十日 曇、渡中徳藏内行、金太郎・古井源吉内行、午山口安二郎来店、一泊、邦太郎モ静岡ヨリ入ル
 四月二十一日 晴天、未明和田浜行ニ静岡ト合併ニテ行ク
 四月二十二日 晴
 四月二十三日

四月二十四日
 四月二十五日
 四月二十六日
 四月二十七日 雨
 四月二十八日 四月二十九日 四月三十日 五月一日
 五月二日 金一静岡行、五月三日正午帰宅
 五月四日
 五月五日 曇、本店年回ニ付金一・たつ・はな午前十一時汽車ニテ行ク
 五月六日 精、金一八午後静岡ヨリ帰宅ス、秋山繁蔵本日臨時雇入ル
 五月七日 雨
 六月・七月ハ別ニ雇人出入ナシ
 七月二十六日 午后四時ヨリ入、田中方吉倅吉蔵醬油仕込手伝ヒトシテ来ル
 八月三日 醬油仕込着手之為繁蔵臨時雇、煎物ヲ始ム
 八月四日 精天
 八月五日 精天、金一楠及静岡・江尻行
 八月六日 同、金一夕刻帰宅
 八月七日 同、渋谷平助参店、午後夕立雨フル
 八月八日 曇天

八月九日 曇天
 八月十日
 八月十一日 精天、夜邦太郎京都行之處帰宅セリ
 八月十二日 醬油屋田中吉蔵午前九時ヨリ祭礼ニ付内行、杜氏田中万吉モ全シク午後十二時ヨリ内行、蒔田慎蔵モ正午内休ニ行
 八月十三日 精天、醬油仕込ハ一時休業セリ
 八月十四日 同、本店元本朝来店セリ
 八月十五日 同、正午ヨリ金一及兄下同道豊田行、古井浦吉来店
 八月十六日 同、金一焼津へ回り戻ル
 八月十七日 同
 八月十八日 同、渡中徳蔵来店、田中吉太郎本夜ヨリ又入ル、渡蔵泊ス
 八月十九日 同、渡中徳蔵午前帰宅セリ
 八月二十日
 八月二十一日 二十二日 二十三日 二十四日
 八月二十五日 〔霧懸外〕旧盆七月十二日、手伝トシテ渡中徳蔵来ル、山村テフ・永井幸本店老母永井弟之初盆ヲ兼ネ、手伝トシテ来店セリ
 八月二十六日 〔霧懸外〕旧盆七月十三日、房・繁・安・吉・文・徳・慎ナリ、当年ハ至極商内薄ク、掛入金少シ、尤モ原因一般ニシテ、茶価低落、米価暴騰ニ依ル、一俵六円五十銭位、近年稀ニサムシ

八月二十七日 本日掛取出張ハ秋山源吉入、(秋山繁藏・渋谷安藏)一組、石上文吉・秋山源吉掛取ヲナス、渡中徳藏留守、田中吉ノ助留守

八月二十八日 本日掛取秋山源吉・渋谷安藏、石上文吉・鈴木寅吉二組出ス、渡中徳藏・田中吉ノ助留守

八月二十九日 本日掛取秋山源吉・鈴木寅吉・渡中徳藏・渋谷安藏外石上文吉、掛取終了ス

八月三十日

八月三十一日 渡中徳藏貯酒火入等ヲナシ、午後帰村セリ、秋山源吉火入手伝、午前十一時ヨリ入タリ、吉蔵手伝、

渋谷安藏ハ城ノ腰掛取ニ行ク

九月一日 田中吉之助下痢病ニテ休

九月二日 田中吉之助下痢ニテ休

九月三日 晴天

九月四日 渡中徳藏倉庫片付ノ為午前參店、就業、金一藤枝行、午后帰ル

九月五日 田中万吉午前ニ入ル、醬油仕込ニ掛ル

九月六日 (倉庫外)「旧八月二十四日」、宇津ノ谷地蔵縁日ナリ、客人城ノ腰魚又キヨ・長谷川伝妻・山九母・山仙妻・

築地石部等ナリ

九月七日

九月八日 九日 十日 十一日 十二日 十三日 十四日 十五日 十六日 十七日 十八日 十九日 別ニ記スル

程ノ事ナシ

九月二十日 渡中徳藏本日休、静岡へ灸スエニ行ク、横田横藏足痛ニテ自宅休行、田中又吉醬油仕込終了ニ付午後解

履、内行、小杉庄作氏小杉和作之件ニテ滞在ス、渡中徳藏午後夕帰店入ル

九月二十一日 小杉庄作滞在、小杉和作仕方之事件ニテ

九月二十二日 秋山源吉本日ヨリ洗物手伝ニ入ル、庄作滞在、榎井半次郎同伴ニテ来店

九月二十三日 小杉榎井滞在

九月二十四日 小杉榎井滞在、夕刻小杉老人庄作氏向ニ来ル

九月二十五日 小杉榎井午前帰岡セリ、小杉老人午后帰岡セリ、午后三時ヨリ渡中徳藏ヲ松尾講參会ニ付代人トシテ

遺ス

九月二十六日

九月二十七日 田中吉之助ハ午後一時解履ス、渡中・秋山洗物、金一午後汽車ニテ静岡行

九月二十八日 渡中・秋山兩人就業ス、渡中午後夕刻内行、

九月二十九日 渡中私用ニテ静岡行(巻田之件ニテ)、休業、源吉入モ休業ス

九月三十日 渡中休業、夕刻入ル、吉之助本朝又々入ル、源吉ハ入

十月一日 渡中・秋山・吉之助火入、和作手伝ハ

十月二日 渡中・秋山・火入

十月三日 渡中・秋山洗物、吉之助休

十月四日 渡中・秋山源洗物、午后一時吉之助来店入ル、渋谷安藏内行休ミテ行ク

十月五日 渡中洗物、秋山源吉休業セリ

十月六日 小雨、田中吉之助本朝解履、内行、秋山源吉・渡中徳藏仕事ヲナス

十月七日 雨、渡中・秋山就業、蕪仕事
十月八日 徳・源ハ桶洗
十月九日 同
十月十日 同、金一ハ朝比奈へ請求ニ行
十月十一日 同、金一酒買入ノ為メ藤枝近辺行、弥左衛門新田大石方ニテ清酒二本買入約定セリ
十月十二日 雨
十月十三日 雨
十月十四日 雨、秋山源吉休、静岡小僧庄作酒之件ニテ参店、午后帰ル、槇蔵ヲ藤枝小山及本町へ遣ス、久莚正章ナルモノ来店セラレタ
十月十五日 金一ト城之腰得意集金ノ為出張セリ、源吉ハ休
十月十六日 源吉病氣休、渡中徳蔵午後二時ヨリ自分用ニテ内行、戸塚常蔵入
十月十七日 源吉休、徳蔵休
十月十八日 雨天、源吉就業セリ、渡中徳蔵夕刻自宅ヨリ来店入
十月十九日 天気、洗物渡中及源吉就業ス、戸塚常蔵家根修復ニ入ル、新任久保田稅務屬外一名臨檢ニ来ル
十月二十日 露蔵外「旧九月九日」、晴、徳蔵桶洗、花火ニセン・サタ・シマ外若者一同行
十月二十一日 露蔵外「同十日」、晴、徳・源室仕度、午後土屋玄順来店ス
十月二十二日 露蔵外「同十一日」、晴、未明金一・徳蔵・源ハゼ釣ニ行、土屋氏滞在、検査員来ル、金一外二名夕刻戻ル、永井半右衛門休ニ来

十月二十三日 朝土屋出立
十月二十四日 晴、源吉・徳蔵・立ヶ谷室ツキ、出来セリ、内日待ニナシ、及選藤由兵衛・小口善太郎及安平・立ヶ谷招待セリ
十月二十五日 同、源吉・徳蔵・立ヶ谷室ツキ、出来セリ、
十月二十六日 同、源吉休、渡中サ、ラ付、現在酒検査受、桶松樽直シニ入ル
十月二十七日 同、源吉入、渡中サ、ラ、桶松樽直シ
十月二十八日 雨、源吉ハ休、渡中サ、ラ、桶松樽直シ
十月二十九日 源吉休ニテ車力ニ行、徳蔵正午ヨリ洗物、其ノ他片付キタルニ依リ一時帰宅、解雇セリ、金一酒引取立会ノ為弥左衛門新田行
十月三十日 天気、源吉入、醬油手伝
十月三十一日 天気、源吉全入、金一納税ニ藤枝行、及下築地石部藤太郎勘定ノ為行
十一月一日 同、源吉醬油屋手伝、たつ及はな廻沢行
十一月二日 晴天、源吉入
十一月三日 晴、源吉入、金一遠州榛原益田祝助道具売物アルニ付出張、及静岡行
十一月四日 同、同
十一月五日 雨、同、金一静岡ヨリ帰宅セリ
十一月六日 雨、源吉休
十一月七日

十一月八日
十一月九日 晴、金一遠州青柳益田方へ荷配分之為メ出張セリ
十一月十日 晴、金一焼津へ回ハリテ帰ル
十一月十一日 晴、ス、取執行、源・安・繁・政・金一・根・立ヶ谷・大・市・文、本店元正午来店、午后帰、小杉庄作夕刻来店
十一月十二日 晴、源吉休業、小杉庄作滞在、善押供托金依頼ニテ
十一月十三日 晴、源吉薪片付ケ、金一小杉庄作下同人依頼保証金ノ件ニテ同道、静岡へ行
十一月十四日 晴、源吉薪片付、金一静岡ヨリ午后帰宅セリ
十一月十五日 晴、源吉薪片付ニ入ル、源吉一時解雇セリ
十一月十六日 晴、源吉休、金一桶引取之為メ遠州行、(たつ・はな)午後静岡本店夷纏ニ行ク
十一月十七日 晴、源吉休
十一月十八日 晴、戸塚常蔵及倅新倉修繕ニ入ル、酒造器械検査アリ、金一正午ヨリ船運送店へ桶之売却ノ件ニテ出頭セリ、午后金一及巻田寅吉・大谷村鈴木辰蔵午后同時ニ来、一泊ス
十一月十九日 雨、寅吉及辰蔵内行、長谷川とめ午前来店、午后帰宅セリ
十一月二十日 晴天
十一月二十一日 同
十一月二十二日 同
十一月二十三日 晴、金一正午ヨリ城ノ腰及静岡行

十一月二十四日 同、金一桜井方へ、静岡マテ行
十一月二十五日 同
十一月二十六日 同
十一月二十七日 晴、左官来ル
十一月二十八日 晴、左官来ル
十一月二十九日 晴、左官二人入ル、寅吉本日ヨリ醬油手伝ニ雇入、金一大石市右衛門酒取ニ行
十一月三十日 (霧外)「旧十月二十日、恵比寿講」、晴天、午前金一藤枝銀行へ行ク、夕刻土屋玄順氏来店、寅吉醬油屋手伝ス、左官二人入ル
十二月一日 同、土屋滞在、寅吉醬油手伝、左官本日入、終了セリ
十二月二日 同、金一城ノ腰一銭社及藤枝銀行行、土屋滞在、寅吉醬油や入、立ヶ谷室塗ニ入ル
十二月三日 晴天、渡中徳蔵外蔵働一名・秋山源吉醸造部へ就業ス、星野梅吉午前八時入、就業、寅吉醬油手伝、土屋玄順氏午前帰ル、金一午前ヨリ静岡行、午後藤枝ヲ回ハリテ帰ル、安蔵藤枝へ遣ス
十二月四日 晴、寅吉入、榎蔵静岡ヨリ帰宅セリ
十二月五日 (霧外)「酒造着手」、晴、桶屋三名輪替ニ付キ入ル、寅吉樽集メニ行、本日酒造米洗滌ヲナス
十二月六日 晴天、桶工三名輪替ニ入ル、寅吉・榎蔵樽集メニ行
十二月七日 晴、桶屋三人入ル

十二月八日 晴、同三人入ル、和作午后島田ヨリ来ル、小杉庄作氏夕刻来ル
十二月九日 同、桶屋三人入ル、(金一、小杉二人)ニテ、ナミ生命保険ノ件ニテ杉山三面談ス、午后和作島田行、小杉庄作氏午后内行

十二月十日 晴

十二月十一日 晴、金一午前静岡及江尻秋葉行、永井安藏本日来店

十二月十二日 晴、永井安藏・よし滞留、金一夕方静岡ヨリ戻ル

十二月十三日 晴、母タツ永井保藏同道ニテ城ノ腰行、縁談ニ付、タツ夕刻戻ル、よし滞在

十二月十四日 晴、朝永井よし八幡橋へ帰ル、桶屋三人本日輪替ノ為入ル

十二月十五日 晴、桶屋休ミ

十二月十六日 晴、桶屋休ミ、午后二時藏働キ成川作太郎入ル、酒造部ニ入ル

十二月十七日 晴、繁蔵醬油手伝ニ入ル、桶屋三人入ル

十二月十八日 朝小雨、午前九時ヨリ金一及渡中徳藏下同道本郡へ派出、技手醸造上講話会有之義ニ付聴講ニ出席ス、夕刻戻ル、長谷川伝左衛門氏来店セシ由

十二月十九日 晴、桶屋三人来店、小杉和作午后来店、土屋玄順晚ニ来ル

十二月二十日

十二月二十一日

十二月二十二日 金一岡部才判所行

十二月二十三日 古井源吉午后夕入ル、金一静岡ヨリ帰ル、小杉庄作同道来ル

十二月二十四日 小杉庄作滞在

十二月二十五日 土屋玄順石津へ回ハリテ内行、小杉庄作午后内行

十二月二十六日

十二月二十七日 吉村一策掛回ニ遣ハス、母たつ静岡へ夕刻行ク

十二月二十八日 渡中徳藏静岡行、山田梅吉午后三時頃来ル

十二月二十九日 晴天、金一倉沢保七酒受取ニ行、母たつ静岡ヨリ帰ル

十二月三十日 晴天、吉村一策朝比奈掛回リニ行

十二月三十一日 晴天、金一城ノ腰掛回ハリ及一銭社行、寺尾善一内行

(明治三十五年)

一月一日 晴天、金一新年会ニ列席、成川作蔵本夜内行

一月二日 晴天、小杉和作来ル、午后島田へ行、成川作蔵帰ル

一月三日 晴天、立ヶ谷惣吉酒桶倉庫へ入ルタメ隣地掘ヲ取リテ入ル、山村九兵衛午后三時新年頭ニ来店セリ

一月四日 晴、山村九兵衛午后二時汽車ニテ帰ル

一月五日 同、本日本集母たつ、せん・つま・おせい・はな引連レ、藤枝芝居見物ニ行ク

一月六日 同、午后石部藤太郎来店、夜分帰ル

一月七日 同、納税保証依頼ノ為金一羽佐間前島七郎方へ行、邦太郎休暇中ノ処本日静岡行

一月八日 同

一月九日 晴、秋山源吉本日休業セリ
 一月十日 晴、吉村一策ヲ朝比奈掛取ニ遣ハス
 一月十一日 晴、本店老母はる足入ノ為メ午后来ル
 一月十二日 同、金一焼津銀行ノ總會ニ行ク
 一月十三日 晴、岡部銀行總會行、はる老母午后内行、星の梅吉休業、立ヶ谷釜修繕ニ履ヒ
 一月十四日 晴、八幡橋よし午后来店ス
 一月十五日 晴、八幡橋よし午前静岡実家へ行ク
 一月十六日 同
 一月十七日 同、吉村一策朝比奈へ前島七郎印鑑証明外掛取ノ為メ履フ
 一月十八日 晴、午後十一時汽車ニテ静岡へ行ク
 一月十九日 晴
 一月二十日 晴天、金一夕刻帰宅セリ、寺尾善吉午后二時頃ヨリ病氣ニテ休、立ヶ谷モ小杉貸家壁塗り
 一月二十一日 立ヶ谷貸家壁塗りノ為来ル、善太郎病氣ニテ休業、母たつ静岡へ御暮買物之為午后一時ノ汽車ニテ行ク、
 吉村一策ヲ水車搦白米立会検査ニ履フ
 一月二十二日 小雨
 一月二十三日 晴、吉村一策朝比奈掛取ニ遣ヌ
 一月二十四日 晴、山村母及たつ午后三時静岡同道来ル
 一月二十五日 晴、山村母午前内行

一月二十六日 本日正午田中又吉醬油上ケニ来ル
 一月二十七日 同
 一月二十八日 同
 一月二十九日 同、金一水車立会ニ行、本店兄来リテ帰リタリト云フ
 一月三十日
 一月三十一日
 二月一日 田中又吉休、金一焼津へ建物見買受ノ為メ行
 二月二日 田中又吉午后夕刻建物ノ件ニ来リ、内行
 二月三日 田中又吉午前十一時ヨリ解雇、内行
 二月四日 立ヶ谷及戸塚常蔵中イッ建物実査ニ行
 二月五日
 二月六日 七日 八日 九日 十日 十一日
 二月十二日 (蘇籍外) 二月七日ニ、十三日、山村テフ休ミニ入ル
 二月十四日 (蘇籍外) 旧十二月二十九日大晦日
 吉村二月六日ヨリ二月十四日迄掛取其ノ他
 鈴木寅吉二月九日ヨリ二月十九日迄イセ参リ休
 二月十五日 金一静岡行
 二月十六日 田中吉蔵午前醬油仕込手伝之為来ル、吉村朝比奈育羽根行

二月十七日 田中又吉醬油仕込ノ為午後二時入ル、今夜金一掃宅セリ
 二月十八日 渡中本店甌仕舞ニ行ク
 二月十九日 金一朝比奈年始及掛取ノ為行
 二月二十日 せん、ハナ・テフ同道十日地藏參詣ニテ静岡行
 二月二十一日 金一午后藤枝行
 二月二十二日 吉村近在掛取、鈴木寅吉病氣休業
 二月二十三日 同人朝比奈行、金一焼津掛取行
 二月二十四日 同人全行、立ヶ谷惣吉酒室崩シニ来ル、秋山源吉病氣休、永井安藏午后来店
 二月二十五日 吉村一策藤枝才判所行、秋山源吉休ミ
 二月二十六日 〔舞藝外〕「甌仕舞、旧一月十九日」、秋山源吉休、本甌仕舞執行、^{貞親也}藏働一同外立ヶ谷・吉村・ナスノ・久作・政藏
 二月二十七日 寺尾善太郎・山田梅吉・成川作藏解雇ス、渡中夕刻内行、田中又吉夕方内行、古井源吉午后ヨリ内行、源吉休
 二月二十八日 鈴木納税ニ遣ス、田中又吉休業、秋山繁藏醬油屋手伝雇入
 三月一日 田中又吉・源吉休、繁藏醬油仕込手伝イ、古井源吉本日午后入
 三月二日 〔舞藝外〕「正中取着手」、戸塚徳藏掃家中ノ処午后掃、秋山源吉本日ヨリ入、田中又吉本朝入ル
 三月三日 源吉休、静岡ヨリ古酒引取
 三月四日 源吉休、渋谷平助・古井浦吉来店
 三月五日 源吉休

三月五日 源吉休
 三月六日 繁藏本日酒屋煮込酒手伝ニ雇、源吉午前十時ヨリ入ル、渋谷安藏病氣ニ付掃郷サス
 三月七日
 三月八日 土屋午后二時ヨリ城ノ腰行
 三月九日 午后小杉和作来店、夜ル島田行
 三月十日 せん静岡行ノ処午后一時掃宅ス、午后二時静岡本店兄長谷川伝左衛門来店セリ
 三月十一日 噴、田中万吉病氣休業、秋山繁藏ヲ雇入ル、長谷川本店兄午后一時掃ル
 三月十二日 田中又吉午前ヨリ病氣ノ為内行、吉ノ助病氣ニテ休業ス、繁藏杜氏代理ス
 三月十三日 金一楠及清水行、吉村一策朝比奈へ掛取ニ遣ス
 三月十四日
 三月十五日 本朝金一遠藤幸次郎ノ依頼地所ノ件ニテ藤枝行、山村仙吉氏来店、午后内行
 三月十六日 〔舞藝外〕「酒造皆造」、皆造、無事終了、午前土屋玄順来店セリ、戸塚常藏壁塗ニ入ル、繁藏醬油仕込、鈴木寅吉惣十方へ手伝ヒノ為休業
 三月十七日 寅吉休
 三月十八日 寅吉休
 三月十九日 〔舞藝外〕「醬油甌仕舞」、鈴木寅吉入、秋山源吉指痛ニテ休業、戸塚常藏家根板モミ
 三月二十日 醬油仕込秋山繁藏本日限り解雇ス、源吉休、小杉和作へ貸家家根藩ヲナス、山口次助・立ヶ谷・戸塚
 三月二十一日 秋源休

三月二十二日 秋源休

三月二十三日

三月二十四日 金一清水醬油諸味買入ノ為メ出張ス、邦太郎中学卒業、帰宅ス、秋源休

三月二十五日 本店老母及ヤエ付添来店ス、渋谷安藏病氣全快ニテ来店就業ス、秋山源吉本日ヨリ入

三月二十六日 土屋玄順晩方来店ス、老母ヤス滞留、田中吉藏醬油仕込終了ニテ解雇ス

三月二十七日 (兼紙社)「総蔵働解雇」、晴、金一清水・静岡行中ノ処午前八時帰宅ス、土屋滞在、渡中徳蔵・星の梅

吉・秋山源吉及古井源吉及鈴木寅吉正午解雇

三月二十八日 吉村硝子張、土屋滞在、本店老母及ヤエ内行、邦太郎静岡へ行

三月二十九日 吉村硝子張、土屋午前帰郷、金一午前ヨリ焼津行、田中吉ノ助自家ヨリ本日正午来店セリ

三月三十日 雨、田中吉ノ助ヲ焼津及小田村へ遣ハス、午后帰ル、邦太郎静岡銀行へ振出金請取ノ為午后行、吉村焼

津集金行

三月三十一日 晴、田中吉樽集メ行、邦太郎正午静岡ヨリ帰店、藤枝納税ニ行、吉村硝子張

四月一日 吉村一策雇入、金一午前買受諸味売込ノ為メ焼津及島田行、母たつ午后七時汽車ニテ静岡行

四月二日 雨、金一午后帰ル、渡中徳蔵火入準備ノ為午后二時来店ス

四月三日 田中吉ノ助焼津自家へ遣ハス、徳蔵火入準備

四月四日 徳蔵就業、土屋玄順午前来店、庚申堂開堂式ニ行

四月五日 邦太郎午前八時汽車ニテ中学校へ授与式行、金一午前九時清水行、星の梅吉午前十時来店、午前九時鈴木

寅吉来、古井・源吉・山田梅吉・成川作蔵午后三時入、土屋滞留

四月六日 (兼紙社)「旧曆三月二十八日、火入着手也」、一番火入着手、寺尾善太郎朝来店、火入人足揃、徳蔵・星の

古源・山田梅吉・成川作蔵・鈴木寅・寺尾善太郎、七人、秋源不参、土屋滞在、金一午后静岡ヨリ帰ル、永井こふ

全榮吉来店

四月七日

四月八日 小雨、火入七人、秋山源吉本日ヨリ入、土屋滞留、邦太郎静岡ヨリ帰ル、小杉老人同道来ル(絶筆)

(裏表紙)

西駿岡部

橋本商店

(平 19 名古屋 15)

86 明治34年8月 帳簿書類検印廃止の件

間発第一八〇号

北条稅務署長

間稅検査員製造家ニ臨檢シ帳簿書類ヲ検査シタルトキハ檢印シ来リタル処、自今廃止致シ候條、洩レナク示達シ置ク

ノ

明治三十四年八月二十七日

東京稅務監督局長田中國三郎 印

(昭56 東京 2169)

87 明治35年3月 酒造稅法施行上暴行予防などの件

間収第五九三号二

酒造稅法施行上ニ於ケル暴行予防等ニ関シ大蔵大臣ヨリ内務大臣ヘ照会ノ末、同省警保局長ヨリ左記ノ通り地方長官
ヘ通牒相成候旨通知來候條、為心得及内牒候也

明治三十五年三月三十一日

東京稅務監督局長田中國三郎 印

佐原稅務署長所持次郎殿

秘乙第一〇一号

酒造稅法ノ施行ニ関シテハ客年六月訓第四九四号ヲ以テ訓令相成候次第モ有之候処、尚近来各地方ニ於テ収稅官吏ノ
職務執行ニ抵抗シ危害ヲ加フル者尠ナカラス、甚シキハ地方ノ保安ヲ害スル者亦有之候趣聞込候條、此等暴行予防ニ
関シテハ一層ノ注意ヲ加ヘ、警察官吏ノ援助ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ機ヲ誤ラス、殊ニ又納稅義務ヲ重ンスヘキコ
トニ就テハ此ノ際一般ニ告諭セラルル様致度、依命此ノ段及通牒候也

明治三十五年三月十九日

内務省警保局長安立綱之

(昭56 東京 2181)

88 明治35年4月 酒類などの製造用檢定簿備え付けの件

間収第七六号

稅務署

酒類、醬油、麥酒、酒精及酒精含有飲料製造用容器・器具・器械検査簿、製造場へ備付ケ未済ノモノハ四月末日迄ニ
調製シ備付ケヘシ
製造場へ備付ケ済ノ上ハ検査査定ノ際携帯スルニ及ハス

明治三十五年四月一日

東京稅務管理局長田中國三郎 印

(昭45 東京 5-1)

89 明治35年5月 犯則にかかわる証拠物件封印注意の件

間収第一四六号

稅務署長

近来犯則ニ係ル証拠物件ノ封印不完全ノ為メ物件ヲ變換セラレタル故ノ疑ヲ生スヘキモノ有之、不都合ニ付今後十分
ノ注意ヲ以テ封緘ヲ施サシメ、若シ尚ホ不安全ノ場合ニ於テハ第三者又ハ物品品會計官吏ヲシテ保管セシムヘシ
右内訓又

明治三十五年五月二十三日

東京稅務監督局長田中國三郎 印

90 明治35年6月 腐敗清酒を濁酒、焼酎蒸溜用に供する件

鑑発第九号

税務署

自今腐敗清酒若クハ濁酒ニシテ造石税免除ノ上焼酎蒸溜ノ用ニ供スルモノハ、可検物採集ノ際スヘテ封緘ヲ施シ、解除ノ時ニ於テ一石ニ付〇匆五分ノ割合ヲ以テ「フロキシシ」ヲ混和セシムヘシ、若シ「フロキシシ」ヲ得難キ場合ハ「フロキシシ」ト同様ノ色相ヲ呈スル程度(一石ニ付約二匆五分)ニ於テ食料紅ヲ代用セシムルコトヲ得、但シ焼酎原料用清酒ハ蒸溜ノ為メ封緘解除ノ際本文着色ノ手續ヲ為スヘシ

明治三十五年六月十日

東京税務監督局長田中国五郎 印

(昭45 東京 5-1)

91 明治35年9月 酒類製造検査簿紙数の件

閏発第二一八号

税務署

酒類製造検査簿ノ紙数ハ造石数ノ多少ニ依リ標目毎ニ其ノ所用ノ総紙数ヲ予定シテ、第三号以下第十一号迄ハ各酒類

毎ニ区分シ、調製後ニ於テ漫ニ増減セサル義ト心得ヘシ、但シ調製及記載例ハ不日相達ス

明治三十五年九月三十日

東京税務監督局長中田国三郎 印

(昭45 東京 5-1)

92 明治35年12月 間税検査監督及び犯則者処分法に関する封印用紙の件

訓甲第二号


税務署

間税検査監督及犯則者処分法ニ関スル封印用紙形式左ノ通相定ム

明治三十五年十二月十六日

東京税務監督局長 印

明治 何年 署
印 何月 何日 封緘



主任認印

美濃紙 縦八ツ切

(昭45 東京 5-1)

93 明治36年1月 造石税免除申請につき手続上注意の件

訓甲第一五号

稅務署

酒造稅法第十二條第二項第三項ニ依リ増石稅免除ノ申請アリタル場合ニ於テ其ノ酒類未タ飲料ニ供シ又ハ販売シ得ルヲ理由トシ、免稅ニ關スル手続ヲ為サ、ル向有之哉ニ相聞ヘ候処、抑モ麥味ト腐敗ノ区分ハ畢竟程度ノ問題ニ屬スルヲ以テ、本局ニ於テ未タ鑑定ノ手続ヲ為サ、ル以前ニ於テ安ニ營業者ノ意思ヲ抑制スヘキモノニアラサルニ付、營業主ニ於テ腐敗酒トシテ免稅ノ申請ヲ為シタルトキハ其ノ程度如何ニ係ハラス相当ノ手続ヲ為スヘシ
右特ニ訓示ス

明治三十六年一月二十九日

東京稅務監督局長 印

(昭56 東京 2181)

94 明治36年10月 間稅檢査員を量定員、監視員に区分の件

○訓甲第一六〇号

稅務署

間稅檢査員ヲ量定員、監視員ニ区分シタルハ素ト其ノ事務ノ性質自ラ異ナルニ依ルモノニシテ、量定事務ハ課稅基本ノ計畫ヲ敏捷ニシ以テ營業者ノ利便ヲ得セシムルニアルモ、監視事務ハ不正行為ヲ未萌ニ防キ又ハ之ヲ既發ニ檢査シ

以テ課稅物件ノ脱漏ナキヲ期スルニ在リ、故ニ署長ハ須ラク其ノ目的ニ從ヒ各員ノ技能ニ鑑ミ量定員監視員ヲ相當ニ分配シテ其ノ担任ヲ命ジ、各員ヲシテ各其ノ長所ヲ發揮セシメ、間稅檢査ノ効力ヲ偉大ナラシムルニ努ムヘク、尚ホ左記ノ事項相心得監視ノ完全ヲ期スヘシ

- 一 監視員ノ内一名ハ必ス間稅課主任ヲ以テ之ニ充ツヘシ
 - 二 專担任ヲ置ク能ハサル特殊ノ事情アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ本局ノ認可ヲ得テ相互兼任セシムルコトヲ得
 - 三 監視員ハ其ノ事務ノ性質上担当区域ヲ限定スヘキモノニ非ス、稅務署所轄内ヲ通シテ其ノ行動ヲ自在ナラシメ監視ノ完行ヲ期セシムヘシ
 - 四 担任ヲ命シタルトキハ其ノ時々申報スヘシ、但シ專担任者病氣其ノ他ノ事故ニ依リ一時兼任ヲ命シタル場合ハ此ノ限リニアラス
 - 五 自家用醬油稅、印紙稅、壳藥稅、膏牌稅、檢査ノ場合及酒造稅、酒精及酒精含有飲料稅、無免許製造者取調ノ為メ同行臨檢ヲ要スル場合ニ於テハ、特ニ量定員ヲシテ兼任セシムルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ申報ヲ要セス
- 右内訓ス

明治三十六年十月八日

東京稅務監督局長

(昭56 東京 2181)

95 明治36年10月 酒造期節に向い酒造檢査一層注意の件

訓乙第三七三号

木更津稅務署長

且下追々酒造期節二向ヘルノミナラス本年米作ハ近年稀レナル豊穰ナルヲ以テ、地方ニ依リ家用酒密造者ノ増加ハ蓋シ免レサルコト、認ム、依テ酒造最盛期以前ニ於テ十分ノ監視ヲ為スヘシ、又酒造家ニ於ケル造石數ハ是亦大ニ増加ヲ來ス傾向ナルニヨリ、從テ多數營業者中不正行為ヲ企圖スルモノ可有之、就テハ検査上一層注意ヲ加ヘ検査事務ヲ鑑定監視ニ区分シタル趣旨ニ鑑ミ取締上遺憾ナキヲ期スヘシ

明治三十六年十月十六日

東京稅務監督局長 印

(昭45 東京 5-1)

96 明治36年12月 蔵出課稅主義採用理由の件

訓乙第四四七号

佐原稅務署長

主稅局ヨリ送付相成候酒稅ニ關シ庫出課稅主義採用理由書及回送候條、主ナル營業者ニ便宜指示スヘシ

明治三十六年十二月十日

東京稅務監督局長 印

追テ庫出後三ヶ月以内稅金徵收猶予ノ規定ヲ設ケラル、趣ニ付、此ノ点ヲモ併セテ指示スヘシ

酒稅ニ關シ庫出課稅主義採用ヲ可トスル理由

酒稅ノ如ク最後ノ負擔者カ消費者ニ在ルヘキモノニ在テハ其ノ稅金ハ原則トシテ、課稅物件タル酒類カ製造人ノ手ヲ

離レテ消費者ノ手ニ入ルノ時ニ於テ之ヲ納メシメサルヘカラス、何トナレハ國庫ノ權利ニ屬スル稅金カ酒価ノ一部ヲ成シテ製造人ノ手ニ入りタルニモ拘ラス、之レカ納付ヲ為サシメサルトキハ國庫ハ故ナクシテ其ノ權利ニ屬スル金銭ノ利用ヲ為スコト能ハス、製造人ハ故ナクシテ其ノ權利ニ屬セサル金銭ノ利用ヲ為スノ結果ヲ生スヘキヲ以テナリ故ニ歐米各國ニ於ケル酒稅徵收ノ實際ヲ見ルニ、其ノ原料課稅主義ヲ取ルモノニ在テハ原料使用ノ時稅金ヲ徵收シ、其ノ製品課稅主義ヲ取ルモノニ在テハ製品ノ庫出又ハ入市ノ時稅金ヲ徵收スルヲ例トシ、製品カ庫出又ハ入市セラレタル後担保ヲ徵スルコトナクシテ其ノ稅金ノ徵收ヲ猶予スルカ如キハ殆ト之レ有ルコトナシ

参照

英國

ウィクトリヤ女王即位四十三年乃至四十四年法律第二十号第十六条(麥酒)

ウィクトリヤ女王即位四十三年乃至四十四年法律第二十四号第四十七條、第百六条(蒸溜酒)

仏國

千八百十六年四月二十八日法律第九條、第二十一條、第四十七條、第四十八條、第八十八條

獨逸

獨逸帝國麥酒釀造稅法第十六條

千八百八十七年六月二十四日ブランド、ワイン稅法第三條

白耳義

千八百二十二年八月二日法律第四條

千八百九十六年四月十五日酒精製造輸入ニ關スル法律第九十一條及第九十二條

米國

内國稅法第三千二百五十一條

内國稅法第三千三百四十二條

翻テ我酒稅制度ヲ見ルニ、酒稅ノ課稅物件中最大部分ヲ占ムル清酒ハ多クハ毎年十一月、二月ノ交ヨリ翌年三月、四月ノ交ニ至ルマテ五、六箇月ノ間ニ於テ製造セラレ、其ノ中一部分ハ製造セラルル傍ヨリ直チニ庫出セラレテ消費者ノ手ニ移リ、他ノ一部分ハ製造後十數月ヲ経テ始メテ市場ニ供給セラルルニモ拘ラス、其ノ税金ハ法律ノ強要スル所ニ依リ凡ソ四分ノ一ツ、左ノ四期ニ於テ必ス之ヲ納メサルヘカラス

第一期 翌年七月

第二期 翌年十月

第三期 翌々年二月

第四期 翌々年三月

今酒稅納期カ右ノ如ク一定スルコトヨリ生スル欠点ノ二、三ヲ挙ケテ其ノ影響スル所ノ如何ニ広大ナルカヲ示サムトス

一 製造人ハ税金ノ立替ヲ為ササルヘカラス

地方又ハ營業者ニ依リテハ清酒醸造後直チニ之ヲ販売スルコトヲ為サス、一回夏期ヲ経過セシメテ始メテ市場ニ売出スラ常トスル者アリ、清酒産出ヲ以テ有名ナル地方ニ在テハ特ニ然リ、故ニ現行法律ニ依ル第一納期ニ於テハ營業者ハ未タ清酒ノ販売ヲ為ササルヲ以テ、國庫ノ權利ニ屬スル税金ハ未タ之ヲ受領セサルニモ拘ラス、一定ノ時期ニ達シタルノ一事ヲ以テ國庫ニ對シ税金ノ立替納付ヲ為ササルヘカラス、而シテ酒稅ハ其ノ額寡少ナラサ

ルヲ常トスルカ故ニ之レカ立替納付ハ當業者ニ大ナル負担ヲ命スルモノナリ

二 製造人ハ造石税金ト製造資金トヲ同時ニ調達スルノ苦痛ヲ免レス

現行納期中第一期ヲ除クノ外ハ十月、二月及三月ノ如ク酒類製造ノ着手期ヨリ其ノ最盛期ニ在ルカ故ニ、製造人ハ一方ニ於テハ少カラサル製造資金ノ融通ヲ求ムルコトヲ要シ、他ノ一方ニ於テハ巨額ノ造石資金ヲ調達セサルヘカラス、酒類製造ノ如ク資本ヲ要スルコト少カラサル業務ニ在テ、製造資金ノ融通ヲ求ムルト同時ニ造石税金ノ調達ヲ為スコトハ決シテ容易ノ業ニアラス、稍信用アル者ト雖モ時ニ頗ル困難ヲ感ス、況ンヤ其ノ信用薄キ者ニ於テラヤ、酒類製造業者ニ付テノミ時ニ金融逼迫ノ声ヲ聞クコトアルモノ故ナキニアラサルナリ

三 納期ノ連至ハ製造人ヲ困弊セシム

酒稅納期ノ第三期及第四期ハ二月三月ノ兩月ニ連至スルヲ以テ製造人ハ酒造最盛期タル二月ニ於テ苦心慘憺、始メテ税金ノ調達ヲ為シ、未タ其ノ意ヲ安スルニ至ラサルニ當リ、早ク既ニ第四納期タル三月ノ到来スルアリ、製造人ハ更ニ同額ノ税金ヲ調達セサルヘカラス、是ニ於テ乎資力信用ノ乏シキ者ニ在テハ酒類ノ低價投売ニ因リテ税金ヲ調弁セムコトヲ試ミ自ラ倒産ノ不幸ニ陥ルノミナラス、延テ他ノ營業者ノ販路ヲ妨ケ之ヲシテ其ノ運命ヲ共ニセシムルノ例少カラス、現時酒類製造業ノ大ニ振フニ至ラサルモノ其ノ原因一ニシテ足ラサルヘシト雖モ、納稅時期ノ適當ナラサルコト亦其ノ一因ナリト謂ハサルヘカラス

四 國庫ハ酒稅ノ徴収ヲ完フスルコト能ハス

地方又ハ營業者ニ依リテハ現行納期後ニ至リ始メテ清酒ノ売出ヲ為ス者アルコトハ既ニ述フル如クナリト雖モ、之ト同時ニ現行第一納期タル七月又ハ第二納期タル十月以前ニ於テ早ク既ニ全部ノ酒類ヲ販売シ尽シ、又何等ノ残ス所ナキ者甚タ多シ、此ノ如キ營業者ハ酒類ノ一部トシテ國庫ニ屬スル税金ヲ受領シナカラ之ヲ國庫ニ納付セ

スシテ自ラ之ヲ利用スルモノナリ、而シテ利用ノ結果ハ常ニ良績ヲ呈スルモノニ非ラス、時ニ不慮ノ損失ヲ為シテ之ヲ喪失スル者亦少カレバサルカ故ニ、納期ノ到来スルニ及ヒテハ税金ヲ國庫ニ納付スルコト能ハスシテ終ニ其ノ欠損ニ帰セシムルモノ少カラス、今明治二十九年年度以降酒類造石税ノ欠損額及收入未済額ヲ見ルニ左ノ如シ

年 度	不納欠損額	收入未済額
明治二十九年年度	一一、五一八円	
明治三十年度	一一、一九六	
明治三十一年度	二六、七一〇	六四八円
明治三十二年度	七五、二二四	九一九
明治三十三年度	一八一、三〇〇	一三、三〇〇
明治三十四年度	二三〇、六九五	一一〇、六五八
明治三十五年度	三五二、七四〇	三六三、五五七

統計ノ示ス所ニ依レハ滞納ニ因ル欠損額及未収入額ハ漸次増進ノ傾向ヲ有ス、今ニシテ之レカ矯正ヲ計ルニ非サレハ國庫ノ損失ハ年々益多大ナルニ至ルヘシ、特ニ酒税ノ滞納者ハ真ニ商業上ニ不慮ノ損失ヲ招キタル者ノミニアラス、現行法ニ依ル納税保証物ノ価額カ税金ニ対シ僅カニ凡ソ其ノ四分ノ一二過キサルニ乘シ、初ヨリ保証物ヲ犠牲トシテ滞納ヲ為シ、之ニ因リテ税金ノ四分ノ三ヲ利得セントノ姦策ニ出テタリト認ムヘキ者亦少カラス、而シテ此ノ如キ不正業者ハ酒価ヲ低廉ニシテ濫売ヲ為スカ故ニ取引上到底正業者ノ競争シ得ル所ニ非ラス、故ニ現行納期ハ独リ國庫ニ欠損ヲ生セシムルノ危険アルノミナラス、不正業者ヲ駆テ正業者ヲ苦マシムルモノナリ

五 國庫收支ノ現況ヲシテ良好ナラシメス

我國庫收支ノ現況ヲ見ルニ明治三十五年度ニ於テハ左ノ如シ

月別	歳入	歳出	歳入過不足	過不足差引累計
四月	四、二五〇、三九一円	一九、一一九、六〇二円	△一四、八六九、二一〇円	△一四、八六九、二一〇円
五月	六、四八二、四二一	二七、三八二、七四四	△二〇、九〇〇、三三三	△三五、七六九、五三三
六月	一五、〇六六、三九四	一八、四〇四、二二〇	△三、三三七、八一五	△三九、一〇七、三四九
七月	二一、一五六、〇四五	一六、五七七、九三六	四、五七八、一〇八	△三四、五二九、二四〇
八月	一三、〇八五、五三四	一四、七九三、六三六	△一、七〇八、一一一	△三六、二三七、三五二
九月	九、二九五、七四五	二一、五六六、七〇五	△二二、二七〇、九六〇	△四八、五〇八、三一二
十月	二七、四〇八、一七四	四一、九七九、五三六	△一四、五七一、三五二	△六三、〇七九、六六四
十一月	三三、二二六、七七五	二四、六九九、四七三	八、五二七、三〇一	△六一、五〇六、九六五
十二月	二四、〇〇八、九八八	二一、八一九、七五〇	二、一八九、二三八	△五三、三二五、七〇三
一月	二二、二二六、五八七	一五、四二七、四九一	六、七八九、〇九一	△五九、一一四、七九四
二月	三四、四二六、八三五	二〇、三三四、二六四	一四、一〇二、五六一	△七三、二一六、三五五
三月	四九、三七〇、四〇三	三七、一八二、八四二	一二、一八七、五六一	△八五、三九三、九一〇
四月以降	三四、九六五、〇八九	九、九四八、五四六	二五、〇一六、五四三	△一一〇、四一〇、四〇三
計	二九四、九四九、三六二	二八九、二二六、七三〇	五、七二三、六三二	五、七二三、六三二

△印ハ減

右ノ計數ニ依テ見ルトキハ我國庫ニ於ケル收支ハ年度ノ初ヨリ其ノ末ニ至ルマテ常ニ累計ニ於テハ歳入不足ヲ免レス、年度後會計整理時期ニ至リテ始メテ收支差引上ノ歳入ノ超過ヲ生スルニ至ルモノナリ、國庫ノ現況ヲシテ此ノ如キ状態ニ在ラシメタルモノハ独リ酒稅納期ノ如何ニノミ關スルモノニ非ラズト雖モ、總額凡ソ六千五百萬円ト計上セラルル酒稅ノ納期カ主トシテ年度ノ後半、特ニ其ノ末期ニ在ルコトハ与テ大ニ力アルモノト謂ハサルヘカラス、而シテ其ノ結果ハ國庫ヲシテ一時大藏省証券又ハ日本銀行ヨリノ借入金ニ依頼セサルヲ得ザラシムルニ至ルモノナルカ故ニ、酒稅納期ノ主トシテ年度後半ニ在ルコトハ一方ニ於テハ一般國民ヲシテ、証券又ハ借入金ノ利子ヲ負担スルノ不利ヲ恐ハシムルモノニシテ、他ノ一方ニ於テハ民間事業者ヲシテ國庫ニ吸收セラレタル程度ニ於テ事業資本ノ欠乏ニ苦マシムルモノナリ

酒稅納期ノ一定スルコトヨリ生スル欠点ノ主要ナルモノハ以上略述スル所ノ如シ、而シテ之ニ對シテハ種々ノ矯正法ヲ案出スルコトヲ得ヘシ

試ミニ其ノ一、二ヲ左ニ摘記スヘシ

第一 現行法ニ於ケル納稅保証ノ規定ヲ改正シ税金ト同額ノ担保ヲ徵スルコトト為スヲ相当トス

租稅ハ國政遂行ニ必要ナル經費ニ充當スルカ為メ之ヲ徵收スルモノナルヲ以テ、之レカ徵收ハ必ス之ヲ完フセサルヘカラス、故ニ税金ノ徵收ヲ猶予スル場合ニ於テハ徵收權ヲ保全スルカ為メ担保ヲ徵スルコトハ当然ノ事ニシテ、歐米ニ於ケル法制殆ント皆然ラサルハナシ、酒稅ニ一定ノ納期ヲ設クルコトハ法律ヲ以テ一種ノ徵收猶予ヲ為シタルニ外ナラサルカ故ニ、現行法ノ如ク納期ヲ定メテ酒稅ヲ徵收スルニ於テハ税金ト同額ノ担保ヲ徵スルコトハ至當ノ事ト為ス、而シテ此ノ方案ヲ以テスレハ能ク前記欠点ノ(四)ヲ矯正スルコトヲ得ヘシ、然レトモ此ノ方案ハ其ノ前提トシテ現行納期ヲ是認スルモノナルカ故ニ、現行納期ニ伴フ欠点タル前記(一)(二)(三)及

(五)ハ少シモ矯正セラルル所ナキノミナラス、不正業者又ハ無資力者ノ滯納ヲ予防スルカ為メ正業ニシテ資力アル者ニ對シテマテ担保提出ノ義務ヲ增加セサルヘカラスナル欠点ヲ免レス

第二 現行納期中第四期タル三月ヲ五月ト改正スルヲ相当トス

此ノ方案ハ一部業者ノ希望ニ出ツルモノニシテ、衆議院モ亦之ヲ可認シ政府ニ向テ兩三回建議シタル所ノモノナリ、此ノ方案ニ依レハ現行法ノ納期ヲ更ニ延長スルモノナルカ故ニ、前記欠点中(三)ハ之ヲ除クコトヲ得、(二)及(五)モ亦幾分緩和セラルヘシト雖モ、其ノ他ノ欠点ハ之ヲ矯正スルコトヲ得サルノミナラス、(四)ノ如キハ却テ大ニ助長セラルルニ至ルヘシ、加之此ノ法案ヲ實行スルトキハ實行当初ノ會計年度ニ於テハ酒稅ノ凡ソ四分ノ一即チ凡ソ千六百萬円ノ欠損ヲ生スルカ故ニ、之レカ補填ノ途ヲ講スルニ非サレハ此ノ方案ハ到底之ヲ實行スルコト能ハサルモノトス

第三 酒稅ノ納期四回ナルヲ改メ其ノ回数ヲ増加シ仍一般ニ其ノ納期ヲ繰上クルヲ相当トス

此ノ方案ノ可否ハ其ノ納期ノ定メ方如何ニ在テ存スルモノニシテ、納期ノ繰上方ニシテ僅々タルトキハ前記ノ欠点ハ格別ノ矯正ヲ見ルコトナシト雖モ、若シ大ニ納期ヲ繰上クルトキハ前記欠点中ノ(五)ハ之ヲ矯正スルコトヲ得ヘク、(二)(三)及(四)モ亦稍矯正ノ途ニ就クナルヘシ、然レトモ(一)ノ欠点ハ独リ矯正セラルルナキノミナラス現在ニ比シ更ニ一段ノ甚シキヲ加フヘシ

以上舉ケタル矯正ノ方案ハ共ニ皆多少ノ欠点ヲ有シ之ヲ以テ完全ノモノト為スコト能ハサルノミナラス、其ノ第二案ノ如キハ殆ント言フヘクシテ行フコト能ハサルモノナリ、故ニ納期ニ關スル現行法ノ欠点ヲ矯正セント欲セハ課稅ノ主義ヲ根本ヨリ改正シ、酒稅ハ酒類カ其ノ製造場ヨリ庫出セララル際之ヲ徵收スルコトト為スヲ以テ最モ適當ノ方案ト為ス

庫出課税主義ニ依レハ現行法ノ前記各欠点ハ悉ク之ヲ除クヲ得ルコト左ノ如シ

一 製造人ハ酒類ヲ庫出セサレハ税金ヲ徴収セラルルコトナキカ故ニ、酒類ヲ販売セサルニモ拘ラズ國庫ニ對シ税金ヲ立替サルヘカラサルカ如キ不利ヲ見ルコトナシ

二 酒税ハ酒類庫出ノ際之ヲ納ムレハ可ナルヲ以テ、製造最盛期ニ於テ強テ税金ヲ調達セサルヘカラサルカ如キ必要ヲ生ゼス、縱令製造期中酒類ヲ庫出スルカ為メ税金ヲ納付スルノ必要ヲ生スルコトアリトスルモ、其ノ税額タルヤ蔵出石数ニ對スル税金額ニ過キスシテ、現行法ニ於ケルカ如ク一年ノ製造石数ノ凡ソ四分ノ一ニ對スル税金額ノ如キ巨額ノモノニアラス、故ニ之レカ調達ハ甚シキ難事ニアラス、況ンヤ酒類販売ノ時税金ヲ納ムル制度ニ於テハ、製造人ハ酒価トシテ受取りタル金額中ヨリ税金ヲ支弁スルノ便宜ヲ有スルニ於テラヤ

三 酒類ヲ庫出スルト否トハ全ク製造人ノ任意ナルカ故ニ、税金納付ノ時期ハ全ク製造人ノ意思ニ因リテ定マルモノナリ、故ニ製造人ヲ強要シテ屢々税金ノ調弁ニ苦マシムルカ如キハ庫出課税主義ニ於テ見ルヘカラサルノ事ナリ

四 庫出課税主義ニ於テハ税金ヲ納付セサレハ酒類ヲ庫出スルコト能ハサルカ故ニ、國庫ハ無資力者ノ滞納ニ因リ欠損ヲ生ゼシメラルルノ虞ナキニ至ルモノナリ

五 庫出課税主義ニ依レハ國庫ノ權利ニ屬スル税金カ酒価ノ一部ヲ成シテ製造人ノ手ニ入ル度毎ニ其ノ税金ハ國庫ニ納付セラルルカ故ニ、苟モ税金ニシテ製造人ノ手ニ入ル以上ハ會計年度ノ初ヨリ其ノ都度國庫ノ收入トナルモノニシテ、現行法ニ於ケル如ク主トシテ會計年度ノ後半ニ至テ納入セラルルカ如キコトナシ、隨テ國庫收支ノ狀況ハ大ニ調整セラレ大藏省証券又ハ日本銀行ヨリノ借入金ニ依賴スルコト少クシテ、能ク國庫ノ運用ヲ完フスルコトヲ得ヘシ

庫出課税主義ニ對シテハ反對ノ意見ヲ有スル者ナキニアラサルカ如シ、今其ノ二、三ノ議論ヲ挙ケテ其ノ重^{ウチ}ヲ置クニ足ラサルコトヲ……明カニセントス

反對論ノ第一ハ酒類ノ庫出ハ必スシモ売買約定済ノ場合ニ於テノミ之ヲ為スモノニアラサルカ故ニ、庫出ノ際税金ヲ徴収スルノ制モ亦製造人ヲシテ税金ノ立替ヲ為サシムルコトヲ免ラサルモノニシテ、現制ニ比シ五十歩百歩ノ論ニ過キスト為スモノナリ、然レトモ此ノ説ハ庫出課税主義ナルモノハ保稅倉庫制及徴収猶予制ト相待テ円滿ナル施行ヲ見ルモノナルコトヲ忘却スルモノナリ

酒類ノ庫出ハ常ニ売買約定ニ伴フモノニアラス、又我邦ニ於テハ懸売ナル取引習慣アリテ、売買ノ約定ヲ為スモ直チニ代金ヲ授受セサル場合少カラス、是等ノ事實ハ朝野ノ共ニ能ク熟知スル所ナリ、政府カ課稅方法ノ如ク實際ノ取引ト密接ノ關係ヲ有スル制度ヲ變革スルニ當リ、此ノ如キ朝野ノ熟知シタル事實ヲ無視シタル立法計画ヲ為ササルヘキコトハ想像スルニ足ルカ故ニ、改正法律案ハ庫出課税主義ヲ取ルト同時ニ必ス製造場ヨリ庫出スルモ保稅倉庫ニ庫入スルモノハ税金ヲ徴収セス、又相當ノ担保ヲ提供スルトキハ保稅倉庫ニ庫入レセサルモノト雖モ尚税金ノ徴収ヲ猶予スルノ制ヲ設ケ、以テ一方ニ於テハ製造人ヲシテ納稅前子メ酒類ヲ需用地ニ移シテ取引ノ成立ヲ待ツコトヲ得セシメ、他ノ一方ニ於テハ酒類ヲ懸売シタル者ヲシテ代金領收ノ時ニ至テ納稅ヲ為スノ便ヲ得セシメントスルナルヘシ、立法ニシテ若シ此ノ如クンハ反對論ハ全ク其ノ根柢ナキモノナリ

反對論ノ第二ハ庫出課税主義ハ小製造人ヲ擁護シテ大製造人ヲ保護スルモノナリト謂フニ在リ、其ノ說ニ曰ク從來小製造人ハ酒類ヲ製造スル傍ラヨリ之ヲ販売シ、酒価ノ一部トシテ入手シタル税金ヲ利用シテ次ノ製造資本ニ充テ、以テ資力以上ニ酒類ヲ製造スルコトヲ得タルモノナリ、然ルニ若シ酒類ノ庫出毎ニ税金ヲ納付スヘキモノトセハ是等ノ製造人ハ製造資金ヲ得ルコト能ハサルカ故ニ終ニ廢業スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ

然レトモ是レ製造人ノ大小ニ関スル問題ニアラスシテ其ノ資力ノ有無ニ関スル問題ナリ、相当ノ資力又ハ信用アル者ハ製造ノ大小ニ拘ラス税金ヲ利用スルコトナクシテ能ク其ノ製造ヲ遂行スルコトヲ得ヘシ、之ニ反シテ資力ナク又信用ナキ者ハ大製造人ト雖モ税金ヲ利用スルニアラサレハ其ノ製造ヲ為スコト能ハサルコトアルヘシ、元來現行法ヲ酒稅ニ納期ヲ設ケタルハ酒類ノ代價カ製造人ノ手ニ入ル時期ニ於テ税金ヲ納メシメ、以テ納稅ノ困難ヲ免レシメントノ趣旨ニ出テタルモノニシテ、之ヲシテ税金ノ利用ヲ為サシメントスルノ趣旨ニ出テタルモノニアラス、從來製造人カ國庫ノ權利ニ屬スル税金ヲ利用スルコトヲ得タルハ全ク其ノ僥倖ニシテ、之ヲ以テ納期改正ヲ拒ムヘキ理由ト為スコト能ハス、勿論他ニ急切ノ必要ナキニ於テハ國庫ノ權利ニ屬スル税金ナルノ故ヲ以テ、強テ俄カニ製造人ノ利用ヲ禁絶スルノ手段ヲ取ルニ及ハスト雖モ、現行納期カ一般製造人ニ對シ極メテ不便ナルコト既ニ述ブル如ク、又國庫ニ取リ甚ダ不利ナルコトモ亦前ニ掲ケタル如クナル以上ハ、國庫ニ對シテ欠損ヲ与フル危險最モ多キ無資力製造人ノ僥倖的便宜ヲ減殺スルコトハ已ヲ得サルモノト断念セサルヘカラス

反對論ノ第三ハ酒類庫出ノ際其ノ税金ヲ徵收スルコトトセハ徵稅費ヲ増加スヘシト謂フニ在リ

庫出課稅主義ハ現行法ニ比スレハ酒類庫出ノ際其ノ石數ヲ査定スルノ手數ヲ増加スルヲ以テ徵稅費ノ増加ヲ要スルハ論ヲ竣タス、然レトモ之ニ依リテ一方ニ於テハ現行納期ヨリ生スル製造人ノ苦痛ヲ除去シ、他ノ一方ニ於テハ國庫ヲシテ税金ノ徵收ヲ完フセシムルノミナラス、大ニ金繰上ノ便宜ヲ得セシムル以上ハ其ノ利益タルヤ實ニ多大ナリト謂ハサルヘカラス、官民多大ノ利益ヲ得ルカ為メ徵稅費ニ於テ些少ノ増額ヲ支出スルコトハ決シテ惜ムニ足ラサルナリ

(參考) (參考の部分は朱書き)

徵收猶予ノ期間ハ三ヶ月以内

英國

ウイクトリヤ女王即位第四十三年乃至四十四年法律第二十号

第十六条

麥酒釀造人麥酒ノ査定ヲ受ケタルトキハ査定ヲ受ケタル月ノ翌月十五日迄ニ麥酒稅ヲ納付スヘシ

ウイクトリヤ女王即位第四十三年乃至四十四年法律第二十四号

第四十七條及第百六條

蒸溜酒製造人ハ納稅ノ後ニアラサレハ消費ノ為ニ蒸溜酒ヲ釀出スルコトヲ得ス

收稅官吏ハ蒸溜完成ノ後十日以内ニ蒸溜酒稅賦課額ヲ決定シ納稅告知書ヲ製造人ニ交付シ、製造人ハ直ニ納稅スルコトヲ要ス

仏國

千八百十六年四月二十八日法律

第九條

前二條ニ定メタル場合ノ外荷送人ハ第一條ニ從テ税金ヲ納付シ、葡萄酒林檎酒及蜂蜜酒ニ付テハ納稅済、火酒酒精又ハ混成酒ニ付テハ第八十八條ニ定ムル除外例ノ場合ノ外、運搬免許証ヲ携帯スルコトヲ要ス

第二十一條

有稅市中ノ小売商人ニ引渡サルヘキ総テノ酒類ニ付テハ其ノ市ノ外郭ニ於テ入市稅ヲ徵收ス、但シ散在シタル住居及市ノ要部ヨリ全ク隔絶シタル村落の附屬地ハ免稅ノ特典ヲ有ス

第四十七条

葡萄酒、林檎酒、蜂蜜酒、火酒、酒精又ハ混成酒ヲ小売シタルトキハ売上金額百分ノ十五ノ小売税ヲ徴収ス

第四十八条

小売人ハ代金ヲ領收シタル都度酒類ノ売上金額ヲ收税官吏ニ申告スルコトヲ要ス、酒類ノ価格ハ手帖及帳簿ニ記載シ置クト同時ニ、小売人ノ住所ノ最モ見易キ所ニ揭示スルコトヲ要ス

第四十九条

消費税ハ小売相場ニ依リ荷物到着地ニ於テ徴収ス、酒類到着シタルトキハ運搬免許証ノ交付前消費税ヲ納付スルコトヲ要ス、但シ荷送人ハ発送地ニ於テ消費税ヲ納付スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ酒類ノ運搬ヲ為スニハ運搬免許証ノ代リニ納税済証ヲ携帯スルコトヲ要ス

独逸

千八百七十二年独逸帝国麦酒醸造税法

第十六条

何人ヲ論セス醸造ノ業ヲ営ムモノハ製造毎ニ第一条列記原料ノ中其ノ使用セントスル原料、数量、水浸ノ日時及ヒ之ヨリ得ル所ノ麦酒ノ量ヲ審面ニテ收税署ニ届出ツヘシ
醸造毎ニ届出ルカ又ハ定期醸造ヲ届出ルカハ醸造人ノ自由ニ任ス、前段ノ場合ニハ届出ト同時ニ租税ヲ納ムヘク、後段ノ場合ニハ全期ノ租税ヲ納メ、或ハ麦芽水浸毎ニ納税スルカハ營業者ノ撰択ニ任ス
收税署ノ受取又ハ証明ニ対シテ手数料ヲ要スルコトナシ

千八百八十七年六月二十四日ブランドワイン税

第三条

消費得税ハブランドワインガ稅務検査ヲ經自由取引ニ供セラル、際之ヲ納付スヘキモノトス

白耳義

千八百二十二年八月二日ノ法律

第四条

消費税ハ本法第十三条ニヨリ醸造業者ノ為シタル申告ニヨリ直チニ之ヲ賦課ス、其ノ納付ノ時期、方法及免税ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依ル

千八百九十六年四月十五日ノ法律

第九十一条

納税義務ハ作業申告ニ依リ開始ス

第九十二条

蒸餾業者ハ相当ノ担保ヲ提供スルトキハ毎月ノ申告ニヨリ納付義務ノ発生スル税金支払ニ対シ四ヶ月間ノ信用期間(徴収猶予)ヲ得ヘシ
前項信用期間ハ作業申告期間ノ尽クヘキ月ノ末日ヨリ起算ス

米國

千八百七十五年三月三日ノ議定ニ依リ修正セラレタルモノ

第三百二十五一条

合衆国内ニ産出スル酒精ハ總テ各プルーフガロン毎ニ九十仙ノ租税ヲ賦課ス、該税ハ蒸溜所ノ保税倉庫ヨリ移出スル前ニ納ムヘキモノトス

税金ノ計算法ハ其ノ計量シタル全量若クハプルーフ以下ノ場合ニハワインガロンニテ納税スヘキモノトス、酒精度数プルーフスピリットノ強度度ヨリモ強度ナル場合ニハ其ノ度ノ増加スルニ從テ其ノ比例ヲ以テ増納セシム(又其ノ容器ノ容積ニ一・二ガロン若クハ一・二ガロン以上ノ端數アル場合ニハ一ガロントシテ徴収シ、又一ガロンヨリモ少ナキ端數ノ場合ニハ計算外トシテ切捨ルモノトス)

或蒸溜器、蒸溜所若クハ其ノ他蒸溜器械ノ使用ヨリ利益ヲ受クル者ト是等ノ所有主トハ、此ノ器械ニ由テ産出セシ蒸溜酒精ニ賦課サレタル租税ヲ共担スルモノトス、而シテ蒸溜酒精産出ノ時ヨリ其ノ税ノ納了マテ政府ハ蒸溜酒精之レカ為メ蒸溜所此ノ蒸溜所ニ屬スル諸般ノ蒸溜器械及蒸溜所ノ設置サレタル土地ニ向テハ租税先取ノ特權ヲ有ス

第三百四十二条

醸造者ハ其ノ収税区ノ監督局長ヨリ所要ノ税額ニ對スル印紙ヲ得テ其ノ酒類ヲ販売若クハ移出セントスル前ニ其ノ各販売用容器ノ栓口ニ其ノ印紙ヲ貼付スヘシ

但許可ヲ得タル場合ニハ此ノ限ニ在ラス

(昭56 東京 2181)

97 明治36年12月 酒造検査の際参考事項は手帳に記載の件

訓甲第一九七号

北条稅務署長

従来酒造検査ノ際参考トナルヘキ事項ハ總テ参考録ニ記入ノ処、自今事ノ秘密ニ屬スル事項ハ別ニ手帳ヲ備ヘ置キ、収税官吏ヲシテ鉛筆ニテ記入押印セシメ、酒造検査時同様ノ方法ヲ以テ検査簿保管處ヘ獻置セシムヘシ

明治三十六年十二月十日

東京稅務監督局長 印

(昭56 東京 2169)

98 明治37年5月 収税官吏に危害を加え証憑物件湮滅を図る件

訓乙第二八二号

木更津稅務署長

近時間接國税ノ犯則事件発見ニ當リ往々當該官吏ニ危害ヲ加ヘ証憑物件湮滅ヲ図ラムトスルモノアリ、漸次酒精及酒精含有飲料ノ最盛期ニ向クノ際、此等犯則者ハ一層奸譎ノ輩ナレハ暴力ヲ以テ犯跡ヲ蔽ハムトスルモノ起ルナキヲ保スヘカラス、而シテ非常特別稅法ノ結果國民ノ負担ニ重キヲ加フルト共ニ、不正者ハ益脱稅手段ヲ講シ以テ不當ノ利ヲ点メムトスルハ被害ノ境遇上正ニ然ルヘキトコロ、而モ帝國戰勝ニ連レ、一般人氣軒昂タルモノアレハ、此ノ時ニ方テ稅務官吏ノ取ルヘキ態度ハ其ノ言語動作ヲ慎ミ、苟モ暴行脅迫ヲ誘致スル方如キ言動ハ最モ之レヲ戒メサルヘカ

ラス、若シ夫レ危急ノ身ニ迫ルニ於テハ機宜ノ行動ニ出テ以テ身体ノ保全ヲ計リ、兼テ証憑物件ノ全滅セサルコトニカムル様予メ部下ヲ訓戒スヘシ
右内訓ス

明治三十七年五月十三日

東京稅務監督局長 印

(昭45 東京 5-1)

99 明治37年5月 間接國稅犯則事件の搜索に注意の件

訓乙第三一九号

木更津稅務署長

間接國稅犯則事件ニ付關係者ノ家宅其ノ他ノ場所ニ就キ搜索ヲ為スハ素ト其ノ証憑ヲ蒐集スルノ手段ニ外ナラス、而シテ犯則者ハ漸次其ノ手段ノ巧妙ヲ極メ百方犯跡ヲ蔽ハムコトニ努ムルノ状態ナルモ、全然之レカ犯跡ヲ秘スルハ殆ント為ス能ハサルコトナレハ、家宅等ノ搜索ハ精密之ヲ行フニ於テハ意外ノ場所ニ於テ証憑ヲ得ルコト尠ナカラス、然ルニ往々一部ノ証憑ヲ得タル為メ他ニ得ラルヘキ証憑ノ存スルニモ不拘、之ヲ等閑ニ付シ充分搜索差押ヲ遂ケサルモノアリ、是等ハ後日却テ關係者ヲシテ之ヲ利用セシムルノ嫌アルヲ以テ、苟モ搜索ヲ執行スルニ方テハ細心搜索スヘキ場所及物件ニ着眼シ完全ノ証憑ヲ得ルコトヲ期セシムヘシ

明治三十七年五月三十一日

東京稅務監督局長

(昭45 東京 5-2)

100 明治37年6月 收稅官吏の職務執行に抗拒の件

訓乙第三四四号

木更津稅務署長

收稅官吏ノ職務執行ヲ抗拒セムトスル刑法上ノ犯罪アリタルトキハ駐在巡查ニ援助ヲ求ムルノ外、可成速ニ所轄警察署若クハ分署ニモ通報スヘシ

明治三十七年六月十四日

東京稅務監督局長

(昭45 東京 5-2)

101 明治37年6月 收稅官吏の職務に関する犯罪取り扱いの件

訓乙第三四五号

木更津稅務署長

收稅官吏ノ職務ニ關スル犯罪取扱ノ件協議ノ結果、千葉地方裁判所後事正ヨリ別紙ノ如ク通牒アリタルヲ以テ參考ノ為メ送付ス

明治三十七年六月十五日

東京稅務監督局長

(別紙)

千葉地方裁判所	明治三十七年六月一日
検事局	検第一一五号

収税官吏ニ対スル犯罪及稅務ニ関スル犯罪取扱ニ付當職ヨリ甲号ノ通り訓令シ、乙号ノ通り千葉眞警察部保安課長ヨリ右警察署分署長へ通牒相成候条、為参考及通牒候也

明治三十七年六月十日

千葉地方裁判所検事局
 検事正 滝川長教

東京稅務監督局長浜口雄幸殿

(甲号)

檢第一〇六号

司法警察官

収税官吏ノ報告又ハ其ノ他ノ原由ニ因リ収税官吏ノ職務ニ対スル現行準現行ノ抗拒罪、又ハ國稅徵收法第三十二条ニ該ル現行準現行ノ犯罪ヲ認知シ、其ノ他刑法犯及ヒ間接國稅犯罪則者処分法ニ依リ取扱フ以外ノ法令違犯ヲ認知シタルトキハ、収税官吏ニ於テ事件ヲ檢事ニ告発スルト否トニ拘ハラズ、直ニ現場ニ出張シ相當ノ搜查ヲ為シ(檢事ノ臨檢ヲ必要トスル場合ハ其ノ請求ヲ為スハ勿論ナリ)、之ヲ完結シ事件(被告人ヲ当然送致スヘキ場合又ハ之ヲ送致スル必要ヲ認メタル場合ハ事件ト共ニ)ヲ管轄檢事ニ送致セラルヘシ

右訓令ス

明治三十七年六月三日

千葉地方裁判所檢事正滝川長教

(乙号)

保發第四三号

稅務官吏ニ対スル保護及氣脈交通ノ件ニ就テハ已ニ屢々示達相成居候処、援助又ハ職務ノ補助ニ関シ未タ遺憾ノ点ナシトセス、今又檢事正ヨリ訓令セラル、所アリ、将来ニ於テ取扱上至ラサルノ点アリトセハ、延ヒテ警察ノ威信ニモ關スル事少カラス候条、此ノ辺深ク御省慮取扱上遺策無之様御注意ノ上、今後援助其ノ他ノ件ニ付テハ其ノ概況電話報告相成度、依命此ノ段及通牒候也

明治三十七年六月十日

保安課長
 警部 藤川 信

警察署長

警部

殿

(昭45 東京 512)

102 明治37年10月 沖繩県において製造の酒類輸出につき注意の件

訓乙第五四八号

稅務署長

沖繩県ニ於テ製造シタル酒類ヲ外國へ輸出スルハ元來無稅ナルヲ利用シ、同地ヨリ支那、朝鮮へ輸出スル如ク裝ヒ、出港ノ手續ヲ終リタル後航海途中ヨリ該酒類之積戻ヲ為シ、再ヒ内地へ陸揚ヲ為スモノ有之哉モ難計旨、大藏省主稅

局長代理ヨリ通牒有之候ニ付、各地沿岸特ニ貨物輻輳地ニ就キ検査上注意セシムヘシ
右内訓ス

明治三十七年十月十一日

東京稅務監督局長

(昭45 東京 5-2)

103 明治37年11月 間接國稅の營業者中收稅官吏雇い入れの件

訓乙第六〇三号

稅務署長

酒類製造者其ノ他間接國稅ノ營業者中收稅官吏タリシモノヲ雇入れ、從來検査監督上經驗シタル処ヲ利用セシメ不正ヲ為スノ手段ニ供セムトスル者アルヤノ聞ヘ有之候処、稅務ノ検査監督ニ從事シタル者一朝ニシテ検査監督ヲ受クル者ノ雇人トナリ、元同僚タリシ者ニ忒接シ其ノ經驗ヲ利用シテ雇主ノ為メニ不正ヲ働カムトスルモノ、並ニ是等ノ者ヲ雇入れ不正ノ手段ニ供セムトスル者ハ、共ニ不徳儀ノ次第ト察候、就而ハ爾今間接國稅營業者カ検査監督ニ從事シタル者ヲ雇入れムトスル場合ニ於テハ予メ署長ノ承認ヲ受クヘキ様便宜營業者ニ通知シ置キ、若シ承認ヲ受ケスシテ雇入レタル者アルトキハ嚴密監視ヲ加ヘ、取締上遺憾ナキヲ期スヘシ

明治三十七年十一月八日

東京稅務監督局長

(昭45 東京 5-2)

104 明治37年11月 保管証雜形の件

保管証

一 検査簿及檢定簿在中箱 一個

但封印ノ儘

右ハ今般自分保管致候ニ付テハ收稅官吏御臨檢ノ際之ヲ提出シ、御使用済ノ上ハ尚引続キ保管可仕候也

明治 年 月 日

住所

酒類製造主氏名

印

稅務署長宛

(昭45 東京 5-2)

105 明治37年12月 菰漉きなどによる濁酒の取り扱ひの件

訓甲第一三五号

稅務署長

從來濁酒トシテ取扱来リタルモノハ之ヲ菰漉、手搾リ又ハ粗製ノ麻袋ヲ用ヒ搾製スト雖モ、其ノ操作ノ目的澄清ヲ期スルニアラス、亦其ノ操作ノ結果澄清ナルニ至ラサルモノニ限り濾過ト看做サス、總テ濁酒トシテ取扱フヘシ

右内訓ス

明治三十七年十二月二十九日

東京稅務監督局長 印

(昭45 東京 5-2)

106 明治38年5月 味淋の査定方につき注意の件

訓乙第四二四号

稅務署長

從來味淋ノ査定ニ方リ混成ノ疑ナキモノニ就テハ特ニ酒精分ノ検査ヲ為サスシテ普通二十度以下ノモノト看做シテ取扱フヘキ旨三十三年四月間第一九六号内牒ノ処、目今強度ノ矯耐ヲ使用シ若ハ不正行為ヲ施シタル形跡アルモノニ就テハ酒精分ヲ検査シテ其ノ造石數ヲ査定スル義ト心得ヘシ

明治三十八年五月十三日

東京稅務監督局長 印

(昭45 東京 5-2)

107 明治38年5月 検査・査定・検定簿を洋式に改正の件

訓乙第四五〇号

稅務署長

間税ニ關スル検査・査定・検定簿不日洋式ニ改正スヘキニ付、實施ニ際シ支障ナキ様予メ検査員ヲシテ「ペン」ノ使用法及亞刺比亞數字ヲ習得セシムヘシ

明治三十八年五月十九日

東京稅務監督局長 印

(昭45 東京 5-2)

108 明治38年6月 封緘用紙護謄糊廢止の件

問第三〇八号

明治三十八年六月九日

東京稅務監督局長

稅務署御中

關稅検査手續ニ依ル封緘用紙ハ從來護謄糊ヲ塗布シ使用致乘候処、自今之ヲ廢止スル事ニ相成候ニ付、他ノ適當ナル糊ヲ用紙ノ小孔兩端ニ掛ケ完全ニ付着シ施封相成度、此ノ段申進候也
追テ用紙ヲ縦ニシテ糊ヲ付着スルトキハ破損スルノ虞アルニ付、横ヨリ付着セラレ度、為念申添候也

(昭45 東京 5-2)

109 明治39年10月 酒造期節中検査員の常時駐在場所及び受持区域に関する件

訓乙第六五六号

木更津稅務署

開税検査ノ周到ヲ期スル為メ酒造期節中検査員ヲ常時駐在又ハ時々宿泊セシムヘキ場所并ニ其ノ受持区域ヲ左ノ通指定ス、但シ指定以外ノ場所ニ於テモ必要ニ応ジ宿泊セシムヘシ

明治三十九年十月十一日 東京稅務監督局長 印

- 一 久留里町 常時駐在 検査員一人
- 区域 久留里町 松丘村 小樺村 平岡村 馬來田村
- 一 佐貫町 常時駐在 検査員二人
- 区域 佐貫町 竹岡村 環村 秋元村 小糸村 周南村 八重原村
- 一 青堀村 出張日數ノ三分ノ一以上
- 区域 青堀村 飯野村 周西村 貞元村

備考 区域ハ酒造場所在ノ町村ノミヲ掲グ

(昭45 東京 5-3)

110 明治39年11月 酒稅検査員ノ受持分担区域交替に関する件

聞第九八〇号

明治三十九年十一月十五日 東京稅務監督局 印

稅務署御中

酒造期節中ニ於ケル分担区受持検査員ノ交替ハ概シテ月末又は月始ニ交替スルコトニ相成居候処、月末及月始ハ報告其ノ他内部事務多端ニシテ兎角在署スル者多數ヲ占メ、從テ外部ノ検査周到ヲ欠キ、不正業者ハ其ノ機ニ乘シ巧ニ脱稅ヲ為シタル例モ不少候條、本月十三日訓乙七五〇号ニ依ル受持期間ハ月末及月始ノ交替ヲ避ケ、報告材料ハ受持検査員ヲシテ署長ニ報告セシメ候様取計相成度、又監督上必要アル場合ニ於テハ終期ノ日限ヲ定メスシテ出張命令ヲナシ、十五日以上経過ノ后隨時ニ召還相成候モ差支無之候、為念此ノ段及通牒候也

(昭45 東京 5-3)

111 明治40年8月 酒造検査簿取り扱い方の件

聞第五〇九号

明治四十年八月十九日 東京稅務監督局 印

稅務署御中

酒造検査簿ハ前年度九月中編綴記入等ヲ完了シ、翌年度開始ノ際ニハ使用上モ支障ナキ様夫々準備可有之筈ニ候処、從來年度開始後ニ至ルモ記載事項ノ完了セサルモノ、甚シキハ未編綴ニ係ルモノ等アリ、其ノ理由トシテ用紙到着遅延ノ為メ準備時日ナキニ起因スル旨申立ノ向有之、然ル処用紙ハ請求ヲ俟テ発送スヘキ規定ナルハ申ス迄モナキ次第ナルニ、期日(九月五日)迄ニ請求書ノ提出無之為メニ発送遅延スルモノ有之、要スルニ請求書提出ハ準備上必要ノ事ニ屬スルニ、之ヲ等閑ニ付スルハ局署間ノ事務上支障ヲ来スノミナラス、年度開始後遽ニ編綴記入等ノ未完備ヲ整理セントスルモ、検査事務煩雜ノ為メ遂ニ之ヲ整理ラ了スル暇ナク時日ヲ遷延スルモノアル趣ニ付、本年度ハ九月五

日前成ルヘク八月中ニ於テ正確ノ所要数量ヲ調査シ請求書提出相成度、本局ハ調査ノ上到着順ニ依リ発送スベキ管二付、到着ノ上ハ直ニ編綴記入等ニ着手シ本年度未迄ニ完了シ、四十年年度開始ノ際未完備ノモノナキ様準備上深ク御注意相成度、此ノ段及照会候也

(昭45 東京 5-3)

112 明治41年1月 査定簿携帯に関する件

訓乙第二〇一号

税務署長

本局出張員ノ復命ニ依レハ酒類及醤油ノ査定トシテ臨検スルニ方リ、検査員中査定簿ヲ携帯セサルカ為メニ査定石数記載漏トナリタルモノ有之趣、査定簿ヲ携帯スヘキコトニ付テハ屢次訓示シタルニモ拘ハラシ今尙其ノ弊ヲ改メサルハ、畢竟スルニ訓示ノ主旨徹底セサルモノト認ムルニ依リ、此ノ際検査員二十分ノ訓戒ヲ加ヘ以テ過限ナキヲ期スヘシ

明治四十一年一月十二日

東京税務監督局長 印

(昭45 東京 5-3)

113 明治41年1月 營業者などの所持にかかる帳簿書類取り扱い方の件

訓乙第三三三号

税務署長

間税官吏カ營業者其ノ他ノ者ノ所持ニ係ル帳簿書類等ヲ占有セムトスルトキハ処分法ノ規定ニ基キ適法ニ差押ノ手續ヲ為サヘルヘカラス、然ニ之カ調査ヲ為スモ証拠薄弱ナルカ為メ正当ノ差押ヲ得サル場合、若クハ一時其ノ煩雜ナル手續ヲ避ケムカ為メ任意提供又ハ一時預リト称シ、漫然之ヲ領置スル者モ有之哉ニ相聞ヘ候条、此ノ際一般間税官吏ヲ戒飾シ是等違法ノ処置ナカラシムルコトニ注意スヘシ

明治四十一年一月二十五日

東京税務監督局長 印

(昭45 東京 5-3)

114 明治42年9月 検査簿、査定簿の標目に関する件

訓甲第五三三号

税務署

酒造税其ノ他自今左ノ通取扱フヘシ

明治四十二年九月十五日

東京税務監督局長 印

一 酒樽油税等ノ検査簿、査定簿ノ標目ハ紙数少クシテ必要ナキトキハ之ヲ廃止スルモ差支ナシ

二 内地製造ノ酒精ニハ総テ査定シタル稅務署名及査定年月日又ハ査定順号ヲ鐫リ封口部等ニ表示スルコト
三 樽入黒糖課稅方ハ左記ノ如ク取扱フモノトス

(イ) 最初焚上ノ際ヨリ樽ニ入レテ凝結セシメタルモノト、他ノ方法ニ依リ凝結セシメタルモノトヲ問ハス樽詰トシテ査定ニ供シ、樽詰ノ儘引取ルモノハ総テ樽入トス（凝固ノ後樽ヨリ打出シテ引取ルモノハ樽入トシテ取扱ハサルモノトス）

(ロ) 八号以上ノ砂糖ニシテ從來第一種ト見做シ取扱ヒタルモノハ分離器ニ依リ分蜜シタルモノ、及白下糖ハ縦令樽入トナスモ樽入黒糖トシテ取扱ハサルモノトス

115 明治42年10月 間稅檢査及び承認省略の件

(昭45 東京 513)

訓甲第六七号

稅務署

間稅ノ檢査及承認省略ニ関シテハ營業者ノ正否ノ区分方法取締ノ程度各管区々ニシテ取扱方同一程度ニ出テサル憾アルヲ以テ、自今左ノ標準ニ依リ正否ヲ区分シ正業者ニ対シテハ檢査監督ヲ省略シ、之ニヨリテ省キ得タル人員ト時間トヲ不正業者ノ取締ニ利用シ檢査監督ノ目的ヲ達スルコトヲ期スヘシ
右内訓ス

明治四十二年十月二十九日

東京稅務監督局長 關

一 既往及現在ニ於ケル檢査事蹟ノ当否營業狀態、地方ニ於ケル信用ノ程度、資産ノ有無、本人、戸主、家族及従業員

者等ノ性行・経歴・其ノ他營業上ニ関スル事蹟ニ鑑ミ營業者ヲ左ノ四種ニ区分スルコト

甲種 正業者

乙種 准正業者

丙種 正否何レニモ属セサル者

丁種 不正業者

二 前項ノ調査事項ハ酒造ニ付テハ間稅檢査手續様式第四号ニ、其ノ他ハ之ニ準シ調製シタル帳簿ニ登錄シ、毎年一回以上調査シ著シク変化シタルモノニ対シテハ種別ヲ變更スルモノトス

三 檢査又ハ承認事項等ヲ省略スルハ左ノ標準ニ依ルヘシ

(一) 酒類製造者

甲種ニ属スルモノ

イ 施行規則第三十六条、全第三十八条、全第四十一条ノ承認ハ申請ニ依リ予メ之ヲ為スコト

ロ 全第三十七条、全第三十九条ノ檢査及承認ヲ受クヘキコトヲ命セサルコト

ハ 搾り器械、蒸溜器械、罐、及原料用酒類ハ酒類製造中、酒粕ハ常時封緘ヲナサミルコト

ニ 焼酎原料醪及原料用酒類ノ醪ニ色素ヲ混和セサルコト

乙種ニ属スルモノ

イ 施行規則第三十八条、全四十一条ノ承認ハ申請ニ依リ予メ之ヲナスコト

ロ 全第三十七条（醪及粕ヲ除ク）、全第三十九条（第四号、第五号、第六号ヲ除ク）ノ檢査、及承認ヲ受クヘキコトヲ命セザルコト

ハ 焼酎原料醪及原料用酒類ノ醪ニ色素ノ混和並ニ酒粕ニ封緘ヲナサ、ルコト
丙種ニ属スルモノ

施行規則第三十九条第一号ノ承認ヲ受クヘキコトヲ命セサルコト

丁種ニ属スルモノ

総テノ検査及承認ヲ省略セサルコト

(二) 酒母、醪製造者

甲、乙種ニ属スルモノ

施行規則第十一条(酒母製造者ニハ酒母、醪製造者ニハ醪ヲ除ク)、全第十七条ノ検査及承認ヲ受クヘキ

コトヲ命セサルコト

丙種ニ属スルモノ

施行規則第十七条ノ承認ヲ受クヘキコトヲ命セサルコト

丁種ニ属スルモノ

総テノ検査及承認ヲ省略セサルコト

四 酒精及酒精含有飲料税法施行規則第十四条ノ封印及全第十五条ノ承認事項等ハ酒造ニ準シ、其ノ他ハ適宜ニ正否

ヲ区分シ、正業者ニ対シテハ不取締ナキ限度ニ於テ監視ニ属スル臨検度数ヲ減シ、不正業者ノ監視ニ利用スル方

法ヲ講スルコト

五 臨時検査ヲ省略スルハ凡ソ左ノ標準ニ依ルヘシ

甲、乙種ハ不取締ナシト認ムル限度ニ於テ之ヲ省略スルコト

丙種ハ直接製造ニ關係ナキモノニ限り必要ナシト認メタルトキ之ヲ省略スルコト

丁種ハ前各種ニ依リ省キ得タル監視力ヲ集中シテ取締ヲ励行スルコト

六 検査監督ヲ省略シタルモノト雖モ果シテ正当ナル業務ヲ持續シツ、アルヤ否ヤヲ監視スル必要アルヲ以テ、少ク

トモ左ノ事項ハ一定ノ帳簿ニ記載セシメ置キ、其ノ当否ヲ時々調査スヘシ

一 醪ハ留即時、口打前後、槽掛前ノ寸尺温度、及其ノ日時

二 酒母ハ使用当時ニ於ケル寸尺月日

三 承認省略ニ係ル実行事項ノ詳細及其ノ実行日時

七 酒類製造者ニシテ甲種ノ取扱ヲナサントスル者アルトキハ調査事項ヲ詳具シ指揮ヲ受ケ之ヲ決行スルコト

(昭45 東京 5-3)

116 明治42年11月 間税検査及び承認省略に関する件

間第九五〇号

明治四十二年十一月二十七日

稅務署御中

東京稅務監督局 印

客月二十九日訓甲第六七号間税検査及承認省略ニ関シ營業者正否ノ区分ニヨリ取扱ノ寛嚴ヲ異ニシタルハ時勢ノ推移
ニ連レ其ノ必要ヲ認メタルモノナルモ、若シ之レカ鑑別ヲ誤ルトキハ其ノ害却テ甚シキモノアリ、隨テ甲種ノ取扱ヲ
為サントスルモノニ対シテハ特ニ稟申ノ上指揮ヲ受ケ決行スヘキ事ニ相成居候処、從來稅務署ニ於テ酒類製造者ニ対

シ甲種同様ノ取扱ヲ為シ居ルモノニ付テハ特ニ稟申ヲ要セサルモノトシ、署限リ引続キ甲種ノ取扱ヲ為スモ差支ナシトノ見解ヲ抱キ居ル向モ有之哉ニ聞及候得共、右ハ認可ヲ受ケ取扱フヘキ儀ニ有之候条、為念及通牒候也

(昭56 東京 2170)

117 明治42年12月 東京稅務監督局間稅檢査規程設定の件

訓甲第八七号

監督官
間稅部
秘書係
稅務署(市内及付近ヲ除ク)

本局間稅檢査規程別冊ノ通相定ム

明治四十二年十二月一日

東京稅務監督局長 印

(別冊)

本局間稅檢査規程

第一条 左ノ監視区域ヲ設ケ局員ヲシテ間接國稅ニ關スル檢査監督ニ從事セシム

檢査監督区域

稅務署名

第一区 横浜 神奈川 横須賀 藤沢 大磯 小田原 厚木

第二区 浦和 川越 比企 大宮 熊谷 忍 粕壁

第三区 千葉 松戸 佐倉 佐原 銚子 東金 茂原 木更津 北條

第四区 青梅 八王子 甲府 石和 鉾沢 藍崎 都留

第二条 監視区ニ主幹及監視員ヲ置キ、局員ヲ以テ之ニ充ツ

第三条 監視主部ヲ左ノ稅務署内ニ置キ主幹及監視員ヲシテ執務セシム

第一区 横浜

第二区 浦和

第三区 千葉

第四区 甲府

第四条 主幹ハ監視事務ニ關シ監視員ヲ指揮監督スルモノトス

第五条 監視員監視事務ヲ執行スルトキハ間接國稅檢査官吏ノ制服ヲ着用スヘシ

第六条 主幹及監視員ハ間稅事務規程ニ準拠シ監視事務ヲ執行スヘキモノトス

第七条 主幹及監視員ハ十日間ノ巡回予定ヲ為シ其ノ都度本局ニ報告スヘシ

其ノ予定ヲ変更シタルトキ亦同シ

第八条 監視員同時ニ二人以上ノ出張ヲ要スト認メタルトキハ稅務署收稅官吏ニ同行ヲ求ムルコトヲ得

但シ稅務署收稅官吏ノ同行ヲ求ムル場合ニアリテハ署長ニ協議シ、若シ事急速ヲ要スルトキハ事後署長ニ通報スルコトヲ要ス

第九條 主幹及監視員重大ナル犯罪事件ヲ発見シタルトキハ直ニ申報シ其ノ指揮ヲ受クヘシ

若シ急速処理ヲ要スル場合ニアリテハ直ニ着手シ遲滞ナク申報スルコトヲ要ス

第十條 主幹及監視員監視事務執行中発見シタル犯罪ニ關連シ他ノ監視区内ニ出張ノ必要ヲ認メタル場合ニ於テ事ノ急速ヲ要スルトキハ直ニ出張シテ其ノ事由ヲ局長ニ申報スヘシ

第十一條 主幹及監視員他ノ監視区内ニ於ケル犯罪事件ヲ認知シタルトキ又ハ其ノ偵察ヲ必要ト認メタルトキハ直ニ其ノ区担当ノ主幹若クハ監視員又ハ当該稅務署長ニ通報スヘシ

第十二條 監視員ノ犯罪ヲ発見シタルトキハ調査終了ノ上犯罪管轄地稅務署收稅官吏ニ引継クヘシ

第十三條 前條ノ場合ニ於テ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ引継キタルトキハ其ノ領收書ヲ徴スヘシ

第十四條 主幹ハ二稅務署ノ巡回ヲ了スル毎ニ其ノ要領ヲ、又監視員ハ十日毎ニ別紙様式ニ依リ間稅監視実績ヲ局長ニ申報スヘシ

年 月 日 第何区監視員 何 某

局長宛

自何月何日間稅監視報告
至何月何日

監視月日	署 名	税目監 検度数	全 上	全 上	犯罪檢挙数	
					酒 造	何 々

- 一 稅務署監視ノ概況
- 一 局監視ノ概況
- 一 其ノ他参考トナルヘキ事項

(昭45 東京 5-3)

118 明治43年7月 間接國稅檢査に従事する官吏の公務用自転車に関する件

明治四十三年七月一日發議

間接國稅ノ檢査ニ従事スル官吏ヨリ公務用自転車ニ關シ証明申請アリタルトキ左案ニ依リ証明可然哉

證明書

木更津稅務署在勤

所有者 稅務署屬 姓名

一 公務用自転車 一輛

但シ間接國稅ノ檢査ニ従事スル際ニ限り乗用ス

右証明ス

木更津稅務署長

明治 年 月 日

氏 名

(昭45 東京 5-3)

119 明治43年9月 酒類製造者の使用する酒袋実積に関する件

閣第八三六号

明治四十三年九月十九日

東京稅務監督局 印

木更津稅務署御中

酒類製造者ノ使用スル酒袋一枚当リノ実積ハ袋ノ大小ニ依リ元ヨリ一定セサルヘキモ大体ニ於テハ大差ヲキ管ナルニ、從來ノ調査実積ニ依レバ著シキ差異アル向モ有之候条、此ノ際各酒造家ニ就キ左記方法ニ依リニ様ノ調査ヲ為シ検査ノ参考ニ供セラルベク、且ツ其ノ調査終了月日及袋一枚当リノ実積並ニ容積ハ酒類製造場別ニ申報可相成右通牒ス

追テ左記以外確實ニ調査ノ途アルトキハ其ノ方法及之ニ依リ調査シタル成績併テ申報ヲ要ス

(左記)

- 一 袋一枚ノ実積ハ容器ニ一定ノ水ヲ入レ之ニ乾燥袋二十枚以テ投入シ、其ノ増加石数ヲ袋ノ枚数ニテ除シタルモノトス
- 二 袋一枚ノ容積ハ前項水ニ浸シタル袋ノ水ヲ圧搾器等ニテ除去シタル后之ヲ積ミ重キ、其ノ縦横及其ノ高サノ寸尺ヲ相乘シ、之ヲ升率並ニ袋ノ枚数ニテ除シタルモノトス

(昭45 東京 5-3)

120 明治43年11月 酒造稅取り締りに必要事項実行の件

訓乙第六三三号

稅務署

過般間稅課長會議ニ於テ酒造稅取締上ニ關シ諮問シタル別紙決議事項ハ取締上必要ナリト認メラル、ヲ以テ夫々実行スヘシ

明治四十三年十一月十二日

東京稅務監督局長 印

〔別紙〕

- 一 取締計画ヲ個人別ニ立テ其ノ実行方法ヲ謀議講究シ置クコト
- 二 酒造操作時刻ヲ予メ取調置取締ノ参考ト為スコト
- 三 釀ハ左ノ時期ニ於テ之ヲ採取シ酒精分ヲ取調、取締ノ参考ト為スコト

(イ) 初添ハ中添前

(ロ) 中添ハ留添前

(ハ) 留添ハ留当日

留掛ノ翌日ヨリ熟成ニ至ル間日毎ニ

前項ハ繰越追掛等ノ不正行為ヲ未発ニ防止スルハ勿論、其ノ不正行為ヲ容易ニ発見シ得ル必要方法ナルヲ以テ、標準ト為スニ足ルヘキ酒類製造者ニ、三ニ就キ、秋、冬、春ノ三期ニ於テ仕込タルモノニ對シ、其ノ方法ノ異ナル毎ニ三仕込以上調査シ標準ヲ求メ置クコト

- 四 種麴ノ受払ヲ記帳セシメ其ノ使用高ノ当否ヲ調査スルコト
- 但シ標準ト為ルヘキニ、三酒造業者ニ就キ其ノ使用量ヲ予メ調査シ置クコト
- 五 査定後ノ酒類ハ水ヲ加ヘ販売セントスル者ニ対シテハ予メ卸小売(新古酒ニ区分)別ニ其ノ割水ノ割合ヲ畫面ニテ徴シ置キ取締ノ參考ト為スコト
- 六 麴室ハ其ノ内部ノ構造ニ依リ製造能力ヲ予メ取調、取締ノ參考ト為スコト
- 七 原料品ノ買入先ヲ密ニ取調置取締ノ參考ト為スコト
- 八 粕放シノ際粕百匁ヲ採取シ乾燥セシメ之ヲ換算量ト生粕ノ換算量ト對比シ取締ノ參考ト為スコト
- 九 三項ハ秋、冬、春仕込ニ区分シ其ノ一区分ノ調査ヲ終リタルトキ、八項ハ調査ノ時々申報スルコト

(昭56 東京 2170)

121 明治43年12月 酒類製造業者の製造上注意の件

間第一一四九号

明治四十三年十二月十九日

東京稅務監督局 印

木更津稅務署御中

酒類取締上ニ關シ各製造者ヘ注意事項別紙ノ通り甲府稅務署長ヨリ通信有之候条、為參考送付ス

「各」酒類製造主 (何 某)

酒類製造上ニ關シ營業者トシテ遵守スヘキ酒造稅法同施行規則並ニ曾テ本官ヨリ發シタル命令事項ノ外、尚左記各項

ニ付テハ特ニ注意可有之

右為念通牒ス

明治四十三年十二月八日

甲府稅務署長稅務官竹内勝策

左記

- 一 原料米蔵置場ヲ整理スルコト
- 酒造用外ニ販売用又ハ自家用ヲ蔵置スル場合ニハ區画ヲ立テ用途ハ數量ヲ明記シ、俵ノ堆積排列方ニ付テモ數量ヲ見易ラシムベシ
- 二 米出シ桶ハ容量ノ検定ヲ受ケ置クコト
- 三 帳簿記載ニ付テハ左ノ事項ヲ注意スルコト
 - (イ) 原料米又ハ酒類ノ數量ノ如キハ往々取引慣例ノ儘掲記シアルヲ以テ其ノ實量ニ過不足アル場合多シ、右ハ必ス實量ニ依リ數量ノ明記スルヲ要ス
 - (ロ) 但シ酒類ニアリテハ實量ニ依リ數量ヲ算出シタル場合ニ其ノ換算率ヲ明記スルヲ要ス
 - (ハ) 酒類蔵出帳ニハ売場出又ハ蔵売ノ区分ヲ明記スルヲ要ス
 - (ニ) 酒類売上帳ニハ売渡先ノ住所、氏名ヲ明記スルヲ要ス
- 但シ一定シタル売渡先ニアリテハ売上帳ノ初葉ニ住所、氏名及其ノ略号ヲ明記シ置キ、各筆ハ単ニ略号ヲ記スモ妨ケス
- (ホ) 割水石數ハ總テ外費スルヲ要ス

- (ハ) 売上代金ハ事実ノ通り記帳スルヲ要ス
- 四 種麹ノ買入先及其ノ使用ノ受払ヲ記帳スルコト
- 五 浸米ノ用途、數量、洗滌着手終了日時ハ必ス左ノ方法ニ依リ浸桶ニ表示スルコト
 - (イ) 竹ニ小札ヲ挟ミ之ニ表記シテ浸米ノ上ニ挿入シ若クハ黒板ヲ桶ニ掛ケ之ニ記載スル等ノ方法ヲ執ルコト
 - (ロ) 用途ハ何号酒母ノ麴米又ハ蒸米仕込第何号ノ添(仲又ハ留)ノ麴米又ハ蒸米ト一見明瞭ナルヲ要ス
- 六 蔵出ノ時又ハ蔵出后売場等ニ於テ新古自他製造ノ清酒ヲ混和シ又ハ水ヲ加ヘ販売セントスルモノハ予メ卸小売清酒相互ノ混和割合又ハ割水ノ歩合ヲ書面ニテ申告スルコト
- 七 酒母、醪、酒類ニシテ変味又ハ腐敗ノ兆候アリト思料シタル場合ニハ必ス収税官吏ニ告知スルヲ要ス
- 八 蔵出前ノ酒類ハ可成無検定ノ伊丹樽等ニ入レ蔵置セサルコト、万一不得止場合ニハ其ノ蔵置ヲ整正ナラシメ數量ヲ見易カラシムルヲ要ス
- 九 新酒ノミヲ煮込スル場合空焚ト雖モ其ノ煮込ノ月日數量ヲ記帳スルヲ要ス
- 十 蒸甑ノ容積又ハ店売場ニ使用スル容器ハ総テ検定ヲ受ケ置クコトヲ要ス
- 十一 新規検定又ハ改測ヲ要スル容器ハ直チニ申告シテ検定若クハ解散処分ヲ受ケ遲滞ナキヲ要ス
- 十二 曾テ提出セル製造場図面ニ変更ヲ要スル事項發生ノトキハ遲滞ナク申告ヲ要ス

(昭45 東京 5-3)

122 明治44年1月 酒造改良に関する件

間第九一五号

北条税務署

酒類製造ニ関シ別紙ノ通千葉税務署ヨリ申報ニ付為参考

右通牒ス

(別紙)

第三五三二号

明治四十四年九月二十一日

千葉税務署長

東京税務監督局長殿

予メ報告致置キ候千葉県内務部長ヨリ別紙ノ通り酒造改良発展上ノ件ニ付、去ル十九日各酒造組合長及聯合会長ヘ夫々通牒相成候

右及申報候也

本県ニ於ケル酒類ノ産額ハ夷ニ三百余万円ノ多キニ達シ、其ノ盛衰ハ県下経済ノ消長ニ関シ著シキ影響ヲ与フヘキモノニシテ、之カ改善ハ須臾モ忽諸ニ付スヘカラサル儀ニ有之候、是レ積年累ニ於テモ其ノ勸奨督励ヲ怠ラサル所以ニシテ、当業者モ亦克ク其ノ旨趣ヲ体シ奮勵儘マス年々品評会、講習会等ヲ開催シテ常ニ其ノ向上ニ力ヲ尽シ、漸次斯業ノ発達ヲ見ルニ至リタルハ洵ニ欣フヘキ現象ニ有之候、殊ニ過般開催セラレタル一府四県東京酒類品評会ニ於テ多數優逸ナル賞格ヲ得ルニ至リタルハ、全ク去ル五月本県カ開設シタル共進会ニ出品セシカ為メ各当業者競フテ前年ニ

於ケル醸造時季ニ於テ醸造法其ノ他ノ点ニ付特ニ研究注意ヲ払ヒタル結果ニ出テタルモノニシテ、右ノ好成績ヲ挙げルニ至リタルハ決シテ偶然ニアラサルヘク、而シテ該成績ノ発表ハ著シク世ノ耳目ヲ引キ將來其ノ声価ヲ挙げヘキ一新紀元タルト共ニ、益々之レカ改良進歩ヲ図ラサルヘカラサル当業者ノ責務ハ実ニ輕カラサルコト、存セラレ候、又來ルヘキ十月ニ於テハ醸造協会ノ主催ニ係ル第三回清酒品評会開催ノ幸モ有之、就テハ再ヒ前回ニ凌駕スルノ成績ヲ挙げ愈々其ノ声価ヲ永久ニ持続セサルヘカラス、然ルニ万一不幸ニシテ反對ノ結果ヲ得ンカ、道般拳ケ得タル成績ハ那邊ニ基ケルモノナリシヤヲ疑ハシムルニ至リ甚タ遺憾ノ次第ニ付キ、当業者ハ前回ノ資格ニ甘ンセス更ニ此際一層ノ奮勵努力ヲ要スヘキ儼ト存セラレ候、今ヤ醸造ノ時期ニ際シ特ニ注意ヲ喚起セシムヘキ点多カルヘキニ付キ、夫々適當ノ措置ヲ講シ指導奨励相成度、此ノ段特ニ及通牒候也

明治四十四年九月十九日

千葉県内務部長夏秋十郎

千葉県酒造組合聯合会長

県下各酒造組會長

宛

(昭56 東京 2170)

123

[明治44年9月]

酒類製造検査簿中の用紙記載方の件

間第九二七号

税務署

本月八日付訓甲第三四号ヲ以テ酒類製造検査簿中「酒類仕込及臨時検査」ノ部ヲ改正シタル結果、一枚ノ用紙ニ一仕込ヲ記載スヘキ等ニ相成居候処、濁酒及焼酎原料醪ノ如キ仕込個數多クシテ多數ノ用紙ヲ要スルモノニ限り、用紙ニ余白アル場合ハ數仕込ヲ区分記載スルモ妨ケナキ義ニ有之候為念
右通牒ス

[明治四十四年九月二十七日受付]

(昭56 東京 2170)